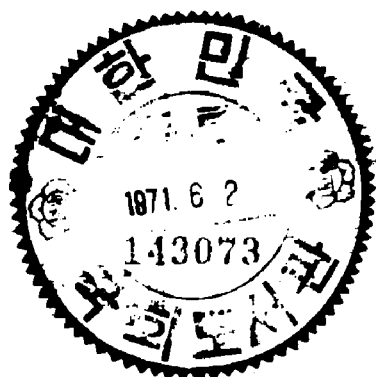


GOVP3198023003

325.3153051×542×

朝鮮施政ノ方針及實績

朝鮮總督府



## 緒言

朝鮮治化ノ宏謨ハ洵ニ崇高遠大ニシテ半島ノ安寧ヲ維持シ其ノ生民ノ福利ヲ増進スルト共ニ帝國ノ丕基ヲ固ウシ東洋ノ平和ヲ永久ニ保障スルニ在リ新政實施以還茲ニ五星霜ヲ閱シ諸般ノ施設畧其ノ緒ニ就キ殖産興業ノ發展モ亦稍觀ルヘキモノアリ仍テ始政五年ノ記念トシテ朝鮮物産共進會ヲ開催シ普ク全土ノ物産ヲ蒐集シ其ノ改善ノ實績ヲ示スト共ニ之カ比較研究ニ依リ益産業ノ發達ヲ鼓舞セムコトヲ期セリ此ノ機會ニ於テ本書ヲ編纂シ朝鮮施政ノ方針及實績ヲ叙述シ本府職員執務ノ便ニ資シ兼ネテ大方ノ參考ニ供セムトス願フニ荒廢ノ邦土ヲ開拓シテ富源ノ利用ヲ全ウシ困憊ノ民衆ヲ提擲シテ名實共ニ帝國臣民タルノ地位ニ進メ以テ融合同化ノ實ヲ舉ケムトスルハ固ヨリ容易ノ業ニ非ス今

日ノ進境ハ纔ニ諸般經營ノ基礎ヲ作リタルニ過キサルカ故ニ當局職員  
ニ於テ將來一層ノ奮勵努力ヲ以テ斯土ノ改善斯民ノ扶導ニ盡瘁セサル  
ヘカラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ

大正四年十月

朝鮮總督府



# 朝鮮施政ノ方針及實績目次

## 總 說

### 第一章 李王家及貴族

第一節 李王職ノ設置 …………… 三六

第二節 各種事業ノ經營 …………… 四一

第三節 公族及貴族ノ待遇 …………… 四三

### 第二章 中央及地方行政

第一節 總督府ノ設置 …………… 四五

第二節 職員任用ノ方法 …………… 四八

第三節 行政區域ノ整理及職員ノ配置 …………… 五一

第四節 面ノ整理 …………… 五四

第五節 新府制ノ施行 …………… 五八

第六節 地方費 …………… 六〇

第七節 臨時恩賜金事業 …………… 六三

第八節	學校組合	六六
第九節	水利組合	六七
第十節	社還米	六八
第十一節	勤儉貯蓄ノ獎勵	七〇
<b>第三章 警察</b>		
第一節	警務機關	七二
第二節	地方騷擾ノ鎮撫	七八
第三節	刑事警察	八〇
第四節	犯罪即決	八三
第五節	民事爭訟調停及執達吏事務	八四
第六節	消防	八七
第七節	營業其ノ他ノ取締	八八
<b>第四章 衛生</b>		
第一節	醫療機關	九一
第二節	衛生行政	九七





第一節	通貨	.....	二〇九
第二節	金融機關	.....	二一五
第三節	朝鮮銀行	.....	二二三
第四節	普通銀行	.....	二二六
第五節	農工銀行	.....	二二九
第六節	東洋拓殖株式會社	.....	二三三
第七節	地方金融組合	.....	二三四
<b>第十二章 紅蔘專賣及製鹽</b>			
第一節	紅蔘專賣	.....	二四〇
第二節	製鹽	.....	二四三
<b>第十三章 農業</b>			
第一節	米、麥及大豆	.....	二四七
第二節	粟、甘藷及馬鈴薯	.....	二五五
第三節	棉	.....	二五七
第四節	其ノ他ノ普通作物及特用作物	.....	二六二

第五節 果樹及蔬菜 ..... 二六八

第六節 蠶業 ..... 二七二

第七節 畜産 ..... 二七五

第八節 農家ノ副業 ..... 二八七

第九節 獸疫及病蟲害ノ驅除豫防 ..... 二八八

第十節 肥料 ..... 二九〇

第十一節 農具 ..... 二九一

第十二節 國有未墾地ノ利用 ..... 二九二

### 第十四章 商工業

第一節 會社令ノ施行 ..... 二九五

第二節 工業 ..... 二九九

第三節 商業 ..... 三〇八

第四節 商工業ニ關スル共益團體 ..... 三一五

第五節 商品陳列館 ..... 三二〇

第六節 博覽會及共進會 ..... 三三一



第三節	漁具、漁船及漁法ノ改良並水產調査及試験	三六二
第四節	漁業組合及水產組合	三七一
第五節	漁船避難場	三七四
第六節	水產物ノ處理及販賣	三七四
第七節	漁業者ノ副業及貯蓄	三七六
第八節	内地漁業者ノ移住	三七七
第九節	水産業發展ノ狀況	三八〇

## 第十八章 土 木

第一節	道路	三八四
第二節	市區改正	三九〇
第三節	河川	三九一
第四節	港灣	三九一
第五節	水道	三九七
第六節	土木監督行政	四〇〇
第七節	營繕工事	四〇〇



## 第十九章 鐵道

第一節 沿革	四〇九
第二節 運輸及營業	四一一
第三節 工事	四二五
第四節 職員ニ對スル施設	四三〇
第五節 輕便鐵道及軌道	四三一
第六節 將來ノ方針	四三六

## 第二十章 遞信

第一節 通信事業	四三九
第二節 事業ノ施設	四四一
第三節 業務ノ成績	四四七
第四節 事業ノ收支	四四九
第五節 附帶事業	四五一

## 第二十一章 海 事

第一節 施設ノ大要	四五五
-----------	-----



# 朝鮮施政ノ方針及實績

## 總說

凡ソ國家ノ離合ニハ自ラ一定ノ法則アリ地勢相接スルカ人種相同シキカ風俗相均シキカ將タ利害相倚ルカ四者其ノ一アルモ猶合シテ一團ノ國家ヲ構成スルニ足ル況ヤ日鮮間ニ於ケルカ如ク此ノ四者ヲ併有スルニ於テオヤ其ノ當ニ一家タルヘキハ必至ノ勢ナリ但タ往昔ニ在リテハ兩者ノ間ニ内外諸種ノ事情纏綿スルアリ其ノ關係漸ク疎隔ニ赴キシモ近世ニ及ヒ世界ノ大勢ハ兩國ノ永ク分立スルヲ容ササルニ至リ帝國ハ遂ニ舊韓國ニ保護制度ヲ施キ其ノ外交事務ヲ監理指揮スルト同時ニ其ノ内政ノ改良ニ努メ以テ兩國ノ福利ヲ増進セムコトヲ期セリ然ルニ當時韓國綱紀ノ弛廢ハ民衆ノ疲弊ト共ニ既ニ其ノ極度ニ達シ匪徒草賊ハ所在ニ跳梁スルモ政府ハ力克ク之カ鎮壓ニ任スル能ハス之ニ加フルニ宮廷ハ終始陰謀詭計ノ中心トナリ我カ保護制

朝鮮  
本國  
外務  
大臣  
官  
장서

度ニ満足セス或ハ竊ニ求援狀ヲ列強ニ發シ又ハ海牙平和會議ニ密使ヲ派遣スル等益事端ヲ滋カラシノムトセリ若シ荏苒斯カル狀態ヲ放任シテ救治ノ策ヲ執ラサラムカ終ニ不測ノ殃禍ヲ釀スニ至ルヘキハ火ヲ睹ルヨリモ瞭カナリ是ニ於テ帝國ハ單ニ保護制度ニ依リ忠言戒告ヲ與フルヲ以テ時難ヲ拯フニ足ラサルヲ認メ自ラ韓國統治ノ任ニ當リ以テ相互ノ福祉ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ確保スルノ途ヲ講スルコトニ決シ遂ニ韓國ヲ併合スルニ至レリ而シテ其ノ併合タルヤ歐米諸國カ半開又ハ劣等ノ民族ヲ併合シタル場合ト全然其ノ趣ヲ異ニセリ彼ニ在リテハ形式カ將タ實質ニ於テ宗屬ノ關係ヲ存セサルハナク殊ニ地勢隔絶シ國情人種モ亦相同シカラサルカ爲政治上ニ於テモ社交上ニ於テモ到底相渾和スルヲ得サル運命ヲ有セリト雖日鮮ノ關係ハ之ニ反シ啻ニ地勢相接シ利害相倚ルノミナラス同種同文ニシテ風俗モ亦大差ナキカ故ニ一統ノ國家ノ下ニ融合同化スルハ決シテ難事ニ非ス但タ帝國ハ由來四方環海ノ島地ニ位シ内訌アリト雖未タ以テ人心ノ歸嚮ヲ誤ルニ至ラス外患ナキニ非サリシモ國家ノ基礎ニ影響スル所ナク專ラ世界ノ進運ニ伴フテ發達スルヲ得タリ之ニ反シ舊時ノ朝鮮ハ不幸ニシテ外強鄰ノ壓迫ヲ

受ケ内徒ラニ政争ヲ事トシ遂ニ疲弊困憊ノ極ニ陥レリ是レ今日ニ於テ其ノ間自ラ先覺後進ノ別アル所以ナリ是ニ於テ施政當面ノ急務ハ此ノ荒廢ノ疆土ヲ開拓シテ富源ヲ興スト共ニ疲憊ノ民衆ヲ誘掖シ之ヲ推シテ忠良ナル帝國臣民タル地位ニ進ムルニ在リ是レ即チ韓國併合ノ本旨ニシテ他國ノ事例ト同シカラサル所以ナリ

韓國併合ノ當時先ツ最慎重ノ考量ヲ要シタルモノハ帝國憲法ト朝鮮統治トノ關係ヲ定ムルニ在リ蓋シ帝國憲法ノ制定セラルルニ方リ將來ニ於ケル帝國版圖ノ擴張ヲ豫想セシヤ否ヤハ姑ク之ヲ擱キ既ニ明文ニ於テ憲法カ大日本帝國ニ施行セラルルコトヲ規定シ而シテ朝鮮カ帝國ノ版圖ニ歸シタル以上ハ理論上此ノ地ニ憲法ノ及フヘキハ當然ノ事ニ屬スト雖朝鮮ノ事情ハ自ラ内地ト異ル所アリ今遽ニ帝國憲法ノ全部ヲ實施シ朝鮮人ノ權利義務ヲ規定スルニ悉ク法律ヲ以テスルカ如キハ到底實行シ得ヘカラサル所ナリ是ヲ以テ帝國政府ハ明治四十三年七月十二日ノ閣議ニ於テ韓國併合ノ後ハ帝國憲法ハ當然此ノ新領土ニ施行セラルルモノト解釋スルモ事實上新領土ニ對シテハ憲法ノ各條章ヲ施行セサルヲ適當ト認メ憲法ノ範圍内ニ於テ除外法

規ヲ制定スルコトトシ大體左ノ通決定シ爾後此ノ決定ニ基キ必要ノ措置ヲ執レリ

一 總督ハ天皇ニ直隸シ朝鮮ニ於ケル一切ノ政務ヲ統轄スルノ權限ヲ有スルコト

二 總督ニハ法律事項ニ關スル命令ヲ發スルノ權限ヲ與フルコト但シ本命令ハ別ニ適當ノ名稱ヲ附スルコト

三 朝鮮ノ政治ハ努メテ簡易ヲ旨トシ政治機關モ亦此ノ主旨ニ依リ改廢スルコト

四 總督府ノ會計ハ特別會計ト爲スコト

五 總督府ノ政費ハ朝鮮ノ歲入ヲ以テ之ニ充ツルヲ原則トスルモ當分ノ内一定ノ金額ヲ定メ本國政府ヨリ補充スルコト

六 鐵道及通信ニ關スル豫算ハ總督府ノ所管ニ組入ルルコト

七 關稅ハ當分ノ内現行ノ儘ニ据ヘ置クコトトシ關稅收入ハ總督府ノ特別會計ニ屬セシムルコト

八 朝鮮ニ於ケル官吏ニハ其ノ階級ニ依リ成ルヘク多數ノ朝鮮人ヲ採用

スル方針ヲ採ルコト

帝國政府ハ併合ト同時ニ朝鮮總督府ヲ設置セリト雖當時直ニ職員任命ノ手續ヲ爲スノ暇ナカリシヲ以テ先ツ勅令ヲ以テ當分ノ間統監府及其ノ所屬官署ヲ存置シ朝鮮總督ノ職務ハ統監ヲシテ之ヲ行ハシメ而シテ總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ一切ノ政務ヲ統轄スルコトトシ尋テ明治四十二年九月總督府官制ニ依リ總督ハ陸海軍大將ヲ以テ之ニ充ツルコトニ定メラレタリ蓋シ總督ハ朝鮮ニ於ケル一切ノ政務ヲ統轄スルノ外委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ朝鮮ノ治安及防備ノ事ヲ掌リ且憲兵及警察ヲ統一合同セル警務機關ヲ指揮スルノ任務ヲ有スルノミナラス朝鮮ノ如キ嘗テ獨立ノ邦土トシテ文武權ヲ總統セル皇帝ノ下ニ統治セラレタル地方ニ蒞ムニハ宜シク總テノ文武官ノ上ニ立チ以テ民衆ヲシテ歸嚮信賴スル所ヲ知ラシムルヲ要スルカ故ニ陸海軍大將ヲ以テ朝鮮總督ニ充ツルコトニ定メラレタルハ洵ニ妥當ノ措置ナリトス

併合ノ結果舊韓國法令ハ勿論從前朝鮮ニ於テ效力ヲ有シタル帝國法令モ亦官規給與會計等ニ關スルモノヲ除クノ外總テ其ノ效力ヲ失フニ依リ之ニ代

ルヘキ新法令ヲ制定スルハ當然ノ手續ナリト雖改革草創ノ際一朝ニシテ之ヲ實行スルカ如キハ事實不可ナルヲ以テ當分ノ内此等舊法令ノ效力ヲ存續セシメ漸次之カ整理ヲ爲スヲ以テ適當ノ措置ト認メタルニ依リ一時ノ便法トシテ併合ノ當時制令第一號ヲ以テ朝鮮總督府設置ノ際朝鮮ニ於テ其ノ效力ヲ失フヘキ帝國法令及舊韓國法令ハ當分ノ内朝鮮總督ノ發シタル命令トシテ其ノ效力ヲ有スル旨ヲ規定シ又舊韓國ト諸外國間トノ舊國際條約ハ併合ニ依リ總テ消滅ニ歸シ帝國及諸外國間ノ國際條約之ニ代リタルモ舊國際條約ニ基キ設定セラレタル外國人居留地制度ハ直ニ之ヲ撤廢スル能ハサルノ事情アリタルヲ以テ同シク制令第二號ヲ以テ各國居留地及支那專管居留地ノ行政ハ警察事項ヲ除クノ外當分ノ内從前ノ例ニ依ルヘキ旨ヲ規定シ之ト同時ニ新政ノ施行上必要ナル整理ニ着手シ慎重ノ考量ヲ遂ケタル結果舊法令ニシテ政務執行上實際ノ事情ニ適應セサルモノハ漸次之カ改廢ヲ行ヒ民事・刑事ニ關スル一般法規ハ勿論土地・森林・水産・道路・港灣・船舶租稅其ノ他ニ關シテハ已ニ新法規ヲ制定シテ舊法規ニ代ヘ大體ノ整理ヲ遂行スルヲ得タリ然レトモ民籍法・保安法・出版法・新聞紙法・未墾地利用法・水利組合條例・酒稅法



鹽稅法地方費法等ノ如キ重要ナル法規ニシテ今尙舊韓國法令及舊統監府令ニ準據スルモノ尠シトセヌ此等ノ法令ハ諸般施政ノ進行ニ伴ヒ適當ノ時機ニ於テ之カ整理ヲ完了セムトス

韓國併合後ニ於ケル朝鮮人ノ國法上ノ地位ニ付テハ明治四十三年七月八日ノ閣議ニ於テ大體左ノ通決定セラレタリ

一 朝鮮人ハ特ニ法令又ハ條約ヲ以テ別段ノ取扱ヲ爲スコトヲ定メタル場合ノ外全然内地人ト同一ノ地位ヲ有スルコト

二 間島在住者ニ付テハ條約ノ結果トシテ現在ト同様ノ地位ヲ有スルモノト看做スコト

三 外國ニ歸化シ現ニ二重ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ追テ國籍法ノ朝鮮ニ行ハルル迄我國ノ利害關係ニ於テハ日本臣民ト看做スコト

併合後ニ於ケル朝鮮人ノ取扱ニ付テハ一ニ右ノ方針ニ依リ内鮮人間ニ差別ヲ置カサルヲ原則トシ唯特殊ノ事情アル場合ニ於テ除外例ヲ置クコトトシ諸般ノ法規ハ此ノ旨趣ニ依リテ之ヲ制定シタリ

間島ニ於ケル朝鮮人ニ付除外例ヲ設ケタルハ明治四十二年間島ニ關スル日

清協約ニ依リ高阜地外ニ居住スル朝鮮人ハ從來ノ例ニ依リ支那法律ノ管轄ニ服スヘキ旨ヲ規定シテリタルカ故ナリ當時若シ在間島ノ朝鮮人ヲ帝國臣民ト均シク支那ニ於ケル我カ治外法權ノ下ニ立タシムルトキハ權衡上間島外ノ圖們江及鴨綠江沿岸ノ朝鮮人ニモ同様ノ取扱ヲ與ヘサルヘカラス斯クテハ特ニ條約ノ規定ヲ要スルヲ以テ之ヲ他日ノ機會ニ讓ラムトスルノ旨趣ナリ又歸化ニ付テハ舊韓國時代ニ於テ之ニ關スル法令ナキヲ以テ韓國人カ外國ニ歸化スルモ本國ノ國籍ヲ失ハサルニ依リ歸國スルトキハ依然韓國人トシテ取扱フヲ例トセリ元來米國又ハ露領ニ在ル朝鮮人中往往不逞ノ企畫ヲ起シ内外相呼應シテ治安ヲ害スルノ言動ニ出ツル者尠カラサルヲ以テ若シ此等朝鮮人ニシテ歸化ノ手續ヲ爲シタル後本國ニ歸リテモ尙外國人タル權利義務ヲ有スルトキハ其ノ取締上不便尠カラサルヲ以テ他日國籍ニ關スル法規ヲ定ムルノ時機ニ至ル迄總テ朝鮮人ノ外國歸化ヲ認メサルノ舊例ヲ存續スルコトニ定メタリ

併合當時ニ於ケル朝鮮ノ外交關係ニハ幸ニシテ何等繫累ノ伴フモノナカリキ帝國ハ日清日露ノ兩役ニ依リ朝鮮ヲシテ全然鄰強ノ羈絆ヲ脱セシメタル

ノミナラス日英協約ニ依リ帝國ハ朝鮮ニ於テ政事上軍事上及經濟上卓絶ナル利益ヲ有スル旨ヲ宣明シ且明治三十八年十一月ノ日韓協約ヲ以テ朝鮮ノ外交權ヲ我ニ收ムルニ方リ歐米各國ハ直ニ我カ保護權ヲ承認シ京城ヨリ其ノ外交代表者ヲ引掲ケタルヲ以テ併合ノ實行ニ際シテハ外務省ヨリ在東京關係各國代表者ニ對シ又統監府ヨリ在京城各國領事官ニ對シ左ノ宣言書ヲ送付シタル外別段ノ交渉ヲ要セザリキ

明治三十八年日韓協約成リテヨリ茲ニ四年有餘其ノ間日韓兩國政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ從事シタリト雖同國現在ノ統治制度ハ尙未タ十分ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス衆民疑懼ノ念ヲ懷キ適歸スル所ヲ知ラサルノ狀アリ韓國ノ靜謐ヲ維持シ韓民ノ福利ヲ増進シ併セテ韓國ニ於ケル外國人ノ安寧ヲ計ルカ爲ニハ此ノ際現制度ニ對シ根本的ノ改善ヲ加フルノ必要アルコト瞭然タルニ至レリ

日韓兩國政府ハ前記ノ必要ニ應シテ現在ノ事態ヲ改良シ且將來ノ安固ニ對シテ完全ナル保障ヲ與フルノ急務ナルヲ認メ日本皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ承認ヲ經兩國全權委員ヲシテ一ノ條約ヲ締結セシメ全然韓國ヲ日

本帝國ニ併合スルコトト爲セリ該條約ハ八月二十九日ヲ以テ之ヲ公布シ同日ヨリ直ニ之ヲ施行スヘク日本帝國政府ハ同條約ノ結果朝鮮ニ關スル統治ノ全部ヲ擔當スルコトトナレルヲ以テ茲ニ左ノ方針ニ依リ外國人及外國貿易ニ關スル事項ヲ處理スヘキコトヲ表明ス

一 韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限り朝鮮ニ適用セラレヘシ朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限り日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且其ノ適法ナル既得權ノ保護ヲ受ク

日本帝國政府ハ併合條約施行ノ際現ニ朝鮮ニ於ケル外國領事裁判所ニ繫屬スル事件ハ最終ノ決定ニ至ル迄其ノ裁判ヲ續行セシムルコトヲ承諾スヘシ

二 日本帝國政府ハ從來ノ條約ニ關係ナク今後十年間朝鮮ヨリ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船舶ニ對シ現在ト同率ノ輸出入稅及噸稅ヲ課スヘシ

朝鮮ヨリ日本ニ移出シ又ハ日本ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物及朝鮮開

港ニ入ル日本船舶モ亦今後十年間前項ノ貨物及船舶ニ對スルト同率ノ課稅ヲ受クルモノトス

三 日本帝國政府ハ今後十年間日本國トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開港間及朝鮮開港ト日本開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スヘシ

四 從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外舊ニ依リ之ヲ開港ト爲シ更ニ新義州ヲモ開港トシ内外船舶ノ出入及之ニ依ル貨物ノ輸出入ヲ許スヘシ

朝鮮ニ於ケル各國ノ治外法權カ併合ノ結果消滅ニ歸シタルト同時ニ外國居留地制度モ亦當然撤廢スヘキモノナリシモ當時地方制度ノ整理未タ完成セサリシノミナラス此等ノ居留地ニ於ケル外國人ノ既得權ニ關シ當該各國ト協議ヲ遂クルノ必要アリシカ爲暫ク其ノ存續ヲ認メ來リシカ大正二年ニ至リ一般ノ地方制度モ略ホ整理ヲ了シタルニ依リ各國居留地ニ付テハ同年四月ヲ以テ本府當局者ト關係各國領事官トノ間ニ又支那專管居留地ニ付テハ同年十一月ヲ以テ本府當局者ト支那總領事トノ間ニ各議定書ヲ締結シ之ニ依リ外國居留地ヲ我カ地方行政區域ニ編入シ各國居留地會ノ事務及各國領

事館ノ登記事務ヲ我カ當該官廳ニ引繼キ永代借地權ハ借地者ノ希望ニ依リ之ヲ所有權ニ代ヘ否サルモノハ依然永代借地權トシテ之ヲ存續スルモ課稅登記等ニ關シテハ大體ニ於テ内國臣民ト同一ナラシムルコトニ定メ大正三年四月一日ヨリ之ヲ實行シ茲ニ全ク外國ノ司法及行政事務ヲ舉ケテ我ニ回收スルニ至レリ

舊韓國政府ノ財政モ亦絶エテ外國ニ關係ヲ有セサリシハ朝鮮ノ統治上洵ニ幸ナリト謂フヘシ但タ明治十六年清國招商局ヨリ商務興利ノ爲規銀二十一萬兩ヲ又同十九年同國電報局ヨリ郵便電信設備費トシテ庫平銀十萬兩ヲ借入レ其ノ大部分ハ未拂ノ儘殘存セルヲ以テ明治四十二年統監府ハ清國政府ノ請求ニ應シ舊韓國政府ニ勸告シテ之ヲ皆濟セシメタルコトアリ此ノ外ニハ我カ保護制度實施後日本人ヲ舊韓國官吏ニ任用シ施政改善ヲ圖ラムカ爲行政各部ノ擴張裁判所ノ構成等ニ要スル經費ノ不足ヲ填補スル目的ヲ以テ帝國政府ハ明治四十年度ヨリ同四十五年度ニ亘ル六箇年間ニ總計一千九百六十八萬餘圓ヲ限り無利子無期限ニテ舊韓國政府ニ貸與スルコトヲ約シ爾來併合當年迄一千四百二十餘萬圓ヲ交付シタルモノアリシカ此ノ貸借關係

ハ併合ノ結果トシテ當然消滅ニ歸シタルヲ以テ帝國政府カ朝鮮ノ財政ヲ引受クルニ方リ格別ノ困難ヲ感スル所ナカリキ但タ當時朝鮮ノ狀態ハ綱紀弛廢シ積弊纏綿シ百事根本的ノ改善ヲ必要トセルモ從來ノ歲入ヲ以テシテハ到底當面ノ急務ヲモ實行スルヲ得サルカ故ニ毎年一定ノ金額ヲ本國政府ヨリ補充スルコトニ定メラレタリ而シテ其ノ補充額ハ明治四十四年及大正元年度ニ於テ各一千二百三十五萬圓ナリシカ大正二年度ニ於テ之ヲ一千萬圓ニ減シ尙大正三年度ヨリ五箇年間ニ於テ漸次此ノ補充金ヲ遞減スルノ目的ヲ以テ地稅ノ増率竝市街地稅及煙草製造消費稅ノ新設等ニ依リ其ノ財源ヲ求ムルノ計畫ヲ樹テタリ此ノ計畫ニシテ支障ナク進捗スルニ於テハ大正八年度以後ハ帝國一般會計ヨリノ補充金ヲ要セサルニ至ルヘシ

韓國併合ノ當初ニ於テ最モ慎重ナル考量ヲ要シタルモノハ舊韓國皇室及功臣ノ待遇ニシテ舊皇帝太皇帝及皇太子ニ對シテハ特ニ皇族ノ待遇ヲ賜フコトニ決セラレタリ尤其ノ尊稱ハ皇族令ニ依ル親王ト稱スルヲ得サルヲ以テ歐洲ニ於ケル例ニ倣ヒ新ニ太公ノ尊稱ヲ授ケラルルコトニ定メラレシモ當時韓廷ヨリ太公ノ尊稱ハ世界ノ事例ヨリ觀レハ美ナラムモ朝鮮ノ歷史上斯

カル尊稱ナカリシヲ以テ寧ロ古來慣用シタル王號ヲ與ヘラレタシトノ希望ヲ申出タルニ由リ其ノ意ヲ容レ舊皇帝ヲ昌德宮李王舊太皇帝ヲ德壽宮李太王舊皇太子ヲ王世子トシ其ノ儷匹ヲ王妃太王妃及王世子妃トシ舊親王李瑨及李焘ヲ共ニ公トシ其ノ配匹ヲ公妃トシ總テ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用井ルコトヲ許サレタリ舊韓國當時ノ宮内府豫算ハ一百八十萬圓ニシテ其ノ内譯ハ皇室費六十萬圓、宮内府費七十萬圓、親衛府費三十萬圓、皇族費十萬圓、承寧府費十萬圓ナリシカ此ノ外各種ノ不動產及租稅ノ實質ヲ有スル收入一百萬圓内外ヲ算セリ依テ從來ノ皇室收入ニシテ其ノ性質上當然國庫ニ歸屬スヘキモノト李王家ノ所有ト認ムヘキモノトヲ整理シテ其ノ所屬ヲ確定シ李王家ノ經費トシテハ大體舊宮内府豫算ヲ標準トシ其ノ中親衛府廢止ニ依ル三十萬圓ヲ減シ我カ國庫ヨリ毎年一百五十萬圓ヲ支出スルコトニ定メラレタリ尙併合ノ際我カ政府ハ上下一般ノ撫恤及將來ノ開拓事業ニ資スヘキ基礎ヲ作ラムカ爲臨時恩賜公債三千萬圓ヲ發行シ之ヲ以テ義親王以下ノ皇族ニ對シテハ其ノ班位ニ應シ公侯伯ヲ授ケラレタル上從來ノ歲費ノ約五割増ヲ標準トシ此ノ收入ヲ得ヘキ公債證書ヲ下賜セラレ又功勞アル



内閣員以下ノ職員及前在官者ニ對シテハ伯子男ヲ授ケラレタル上伯爵ニハ十萬圓、子爵ニハ五萬圓、男爵ニハ三萬圓ヲ公債證書ヲ以テ下賜セラレ内閣員其ノ他重職ニ在リテ廢官トナリタル者及従前重職ニ在リタル者ハ中樞院顧問又ハ賛議、副賛議ニ任命セラレ以テ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ功勞アリタル者ニ殊遇特典ヲ與ヘ舊德前功ヲ表彰スルノ聖旨ヲ昭カニセラレタリ此等ノ王族、貴族及功勞者ニ對スル恩金合計八百二十四萬六千八百圓ニシテ此ノ外班族儒生ニ對スル尙齒恩金合計三十萬圓、孝子節婦ノ表彰及鰥寡孤獨ノ救恤ニ係ル賜金合計二十三萬五千九百圓ナリ斯ノ惠澤ニ浴シタル者上下舉ツテ感泣セサルハ莫カリシト雖是レ皆一時ノ恩賜撫恤ニ止マレルヲ以テ別ニ全般ノ民衆ヲシテ永遠ニ無限ノ天恩ニ霑被セシメムカ爲一千七百三十九萬八千圓ヲ朝鮮全土三百二十九府郡ニ分與シ之ヲ基金トシテ永久ニ保存シ其ノ利子ヲ以テ府郡所在士民ノ授産教育及備荒ニ關スル資金ニ充テシメタリ斯ノ如クニシテ從來無爲徒食ノ士民ニ相當ノ職業ヲ傳習シ生業ニ就クノ便ヲ與ヘ且從來等閑ニ付セル教育事業ヲ振興シ又凶歉ニ際シ適當ノ救助ヲ與フルノ資源ニ供シタリ爾來此等各種ノ事業ハ政府ノ施設ト相俟チ著

著トシテ其ノ效果ヲ舉ケツツアリ又五十萬圓ヲ以テ孤兒ノ教養、盲啞者ノ教育及精神病者ノ救療、基金ニ充テ二百八十五萬五千八百圓ヲ以テ一般貧民ノ救療、基金トシ尙二十五萬圓ヲ經學院、基金ト爲シテ文廟ノ祭祀、經學ノ講究ヲ繼續セシメ以テ風教ノ維持ニ努メ更ニ二十一萬三千五百圓ヲ以テ行路病者救療、基金ニ充當シタリ

叙上ノ措置ハ上下士民全般ニ對シ海墜ノ聖恩ヲ顯カニシ新政ノ本旨ヲ示ス所以ニシテ特ニ群黎ノ窮苦ヲ拯ヒ其ノ將來ノ幸福ニ資スル所洵ニ多大ナルモノアリ併合ノ大變革カ人心ニ格別ノ刺戟ヲ與ヘス爾來何等紛擾ヲ見ルコトナクシテ今日ニ至レルハ此等ノ措置與ツテ力アリト謂フヘシ然レトモ是レ決シデ一時ノ民情ヲ緩和スルノ目的ニ出ツルモノニ非スシテ之ニ依リ確實ニ永遠ノ福利ヲ増進セムトスル旨趣ニ外ナラサルカ故ニ當局者ニ於テ常ニ此ノ本旨ヲ體シ益各關係事業ノ進捗ヲ圖リ以テ皇化ノ普及ニ盡瘁シツツアルハ勿論ナリ

舊韓國時代ニ於テハ久シク行政、司法ノ區別ヲ存セス一切ノ裁判事務ハ總テ行政官吏ノ兼掌ニ屬セシカ爲積弊ノ赴ク所苟苴又ハ權勢ニ依リ斷獄ヲ左右

シ甚シキハ單ニ金品ヲ貧ルノ目的ヲ以テ無辜ノ良民ヲ捕ヘ又ハ有罪ノ犯人ヲ放ツニ至リ裁判事務ノ紊亂洵ニ名狀スヘカラサルモノアリ明治二十八年始メテ裁判所構成法ヲ制定シテヨリ制度ノ上ニ於テハ各種裁判所ノ名ヲ存セシモ事實上唯漢城裁判所及平理院ヲ特設シタルニ止マリ其ノ審判モ亦實質ニ於テハ毫モ舊態ヲ改ムルニ至ラザリキ明治三十九年保護制度ノ施行セラルルヤ故伊藤統監ハ舊韓國政府ヲシテ法典ノ調査ト共ニ漸次裁判事務ノ改善ヲ行ハシメ尙明治四十年ノ協約ニ依リ特ニ司法行政ヲ分離スヘキ旨ヲ規定シ之ニ基キ舊韓國政府ヲシテ裁判所構成法ヲ改定シテ翌明治四十一年一月以降三審制度ヲ實施セシメ日本人ノ司法官ヲモ任用セシメタリ然ルニ舊韓國政府ハ司法事務ニ關スル經費ヲ負擔スルニ堪ヘサルノミナラス其ノ事務改善ノ目的ヲ達スヘキ實力ニ乏シキコトヲ自覺シ明治四十二年七月司法及監獄事務ヲ舉ケテ之ヲ帝國政府ニ委託シタリ是ニ於テ從來統監府法院及理事廳ニ屬シタル帝國臣民ニ對スル司法事務ヲモ併セテ之ヲ同一制度ノ下ニ置キ以テ其ノ統一完備ヲ見ルニ至レリ尙併合後ニ於テ朝鮮ノ實情ニ鑑ミ慎重ナル調査ヲ遂ケタル結果明治四十五年三月ヲ以テ裁判所令ヲ改定

シ之ト同時ニ民事及刑事ニ關スル實體法及手續法ヲ整理統一シ朝鮮民事令、朝鮮刑事令其ノ他ノ關係法規ヲ制定シタリ又民刑訴訟ノ簡捷ヲ圖リ且民情ニ適應スルノ措置ヲ執ラムカ爲明治四十四年以降輕微ナル事件ニ關シ民事爭訟調停ニ關スル制及犯罪即決令ヲ施行シタリ

教育事務ニ付テハ舊韓國政府ニ於テモ多少施設スル所アリシト雖其ノ制度ハ徒ラニ形式ニ流レ殆ト有名無實ノ狀態ニ在リ蓋シ朝鮮ノ文化ハ新羅ニ創リ高麗ニ興リ李朝ニ入リテ漸ク衰微ニ傾キ其ノ末造ニ至リテハ殆ト廢絶ニ歸セリト云フモ不可ナシ殊ニ李朝ニ於テハ佛教ヲ擯斥シテ專ラ儒學ヲ推獎シ中央ニ成均館ヲ置キ地方ニ鄉校書堂ヲ設ケタルモ或ハ單ニ經史ノ講究ヲ主トシ或ハ纔ニ習字、讀書ヲ教授スルニ過キサリキ日清戰爭後ニ至リ始メテ覺醒スル所アリ諸般制度ノ改革ヲ行フト共ニ大ニ教育機關ノ設備ニ留意シ京城ニ中學校、師範學校、醫學校、外國語學校等ヲ置キ地方ニ少數ノ小學校ヲ設立セリ尋テ保護制度ノ施行セラルルヤ統監府指導ノ下ニ更ニ學制ノ整理ヲ行ヒ普通學校ノ擴張ニ努メタル結果其ノ數ハ併合當時ニ於テ一百校ヲ算シタリ明治四十四年十一月朝鮮教育令ノ公布セララルルヤ朝鮮總督ハ特ニ諭告

ヲ發シ朝鮮ニ於ケル教育モ亦教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ遵奉シ忠良ナル帝國臣民ヲ養成スルヲ目的トシ又能ク時勢及民度ニ適合セムコトヲ期シ殊ニ朝鮮特殊ノ事情ニ照ラシ重ヲ實業教育ニ置キ浮華放逸ノ宿弊ヲ矯メ勤勉力行ノ氣風ヲ涵養スルニ努ムヘキ旨ヲ明示シ以テ一面ニ於テハ内地人ト異ラサル教育ヲ施スト共ニ他方ニ於テハ空理ヲ避ケ實學ヲ尙フノ精神ヲ鼓吹スルヲ主眼トシタリスノ如クニシテ一般教育ニ關スル施設漸ク完成スルニ至レルト共ニ法律・經濟・醫術・工業・農林等ニ關スル專門教育ヲ施ス學校ニ適用スヘキ規定ヲ設クルノ必要ヲ認メ大正四年三月專門學校規則ヲ發布シ朝鮮人ノ子弟ヲシテ高等ノ學術技藝ヲ修得セシメ以テ國家有用ノ人材ヲ養成セムコトヲ期セリ又朝鮮教育令實施ノ當初ニ在リテハ各種ノ私立學校中其ノ教科及課程ニシテ時世ニ適切ナラサルモノ多カリシト雖當時官公立學校其ノ他制規ノ學校尙未タ普及スルニ至ラサリシヲ以テ此等ノ私立學校ニ對シ急劇ノ變化ヲ加フルコトヲ避ケムカ爲暫ク教科及課程ニ關スル規定ヲ設ケス漸ク逐ウテ其ノ改善ヲ圖ラムコトヲ期セリ然ルニ爾來普通教育ヲ施ス學校ハ勿論實業教育及專門教育ヲ施ス學校ノ施設モ亦漸ク整備スルニ至リタル

ヲ以テ專門學校規則ノ公布ト同時ニ私立學校規則ニ改正ヲ加ヘ普通教育實業教育又ハ專門教育ヲ施サムトスル私立學校ヲシテ普通學校高等普通學校女子高等普通學校實業學校又ハ專門學校ニ關スル規定ニ準據シテ各其ノ教科及課程ヲ定メシメ以テ官公立ノ教育機關ト均シク完全ナル教育ヲ實施セシムルノ方針ヲ採レリ然レトモ多數ノ私立學校中ニハ遽ニ改正規則ニ準據シ難キ事情アルヘキヲ念ヒ既設ノ私立學校ニ對シテハ大正四年四月以降十年間教科及課程ニ關スル規則ノ適用ヲ猶豫スルコトニ定メタリ

朝鮮ノ舊時ニ在リテハ病院ノ設備ナク醫師ノ如キモ醫學ノ素養十分ナラス其ノ療法及藥劑ノ不完全ナルコト言ヲ俟タス而カモ此等醫師ノ數ハ全土ヲ通シテ三千餘人ヲ算セルノミ此ノ外ニハ在留日本人ノ爲ニ開設セル少數ノ病院及日本人開業醫師並外國教會所屬病院及醫師アルニ止マリ政府ノ施設トシテハ明治三十二年以降京城ニ廣濟院京城醫學校同附屬病院及韓國赤十字病院ヲ設ケタリト雖何レモ成績ノ見ルヘキモノナカリシカ明治三十九年統監府ノ設立セララルルニ及ヒ伊藤統監ハ夙ニ衛生施設ノ忽ニスヘカラサルコトヲ認メ舊韓國政府ニ勸告シテ特ニ佐藤陸軍軍醫總監ヲ聘セシメ翌四十

年大韓醫院ヲ開設シ茲ニ治療醫育及衛生事務ニ關スル施設ノ端緒ヲ啓クニ至レリ爾後年ト共ニ其ノ設備ヲ整ヘ更ニ地方ニ慈惠醫院ヲ設クルコトトシ併合後ハ一層其ノ擴張完備ヲ圖リタル爲今ヤ中央ニ於ケル朝鮮總督府醫院ノ外各道廳所在地其ノ他ノ地方ニ十八箇所ノ慈惠醫院ヲ設クルニ至リ其ノ效果顯著ナルモノアリ之ト同時ニ種痘除穢傳染病及地方病ノ豫防竝衛生上ノ取締ニ關シ適當ノ施設ヲ爲サシメタリ此等ノ各醫院ニ於ケル診療ハ主トシテ救恤ノ旨趣ニ出ツルモノナルカ故ニ及フ限リ治療ノ範圍ヲ廣クシ併合當年ヨリ大正三年十二月末日ニ至ル成績ニ徵スルニ朝鮮人ノ受診患者中普通患者七萬五千餘人此ノ延人員三十九萬二千餘人ニ對シ治療患者一百萬七千餘人此ノ延人員六百四十五萬三千餘人ノ多ニ上レリ又孤兒ノ教養盲啞者ノ教育精神病者及貧民ノ治療ニ付テハ併合ノ際下賜セラレタル臨時恩賜金中孤兒不具者教養竝精神病者及一般病者治療ノ資金トシテ合計三百三十五萬五千餘圓ヲ配付シ之ヲ基金トシテ濟生院ヲ設ケ明治四十四年八月先ツ私立京城孤兒院ノ事業ヲ繼承シ爾後更ニ朝鮮醫院及濟生院特別會計ヲ開始シ前記ノ基金ヲ之ニ移シ一般病者ノ治療ハ各道慈惠醫院ニ於テ精神病者ノ救

療ハ朝鮮總督府醫院ニ於テ之ニ當ルコトトセリ其ノ他罹災者及窮民ノ賑恤ニ關シテハ併合當時各府郡ニ下賜セラレタル恩賜金ノ利子十分ノ一即チ年額八萬六千餘圓ヲ以テ隨時適宜ノ方法ヲ購シツツアリ

元來朝鮮ノ風土ハ農耕ニ適スルモ民衆ハ只天恵ニ依賴シテ人工ヲ施スヲ知ラス其ノ農作ノ方法ハ極メテ幼稚粗笨ニシテ全人口ノ八割カ農業ニ從事スルニ拘ラス耕地ノ面積ハ半島總面積ノ一割三分ニ過キス之ニ加フルニ樹木濫伐ノ結果水旱ノ慘害ヲ生スルト同時ニ材木燃料等ノ缺乏ヲ來シ民衆ハ益貧弱ニ陥リタリ是ニ於テ統監府設置ノ初先ツ農業ノ改良ヲ以テ焦眉ノ急務ト認メ舊韓國政府ニ勸告シテ勸業模範場道種苗場諸種ノ學校及傳習所等ヲ設立シ且道府郡ニ農業技術員ヲ配置シ以テ農業ニ關スル智識ノ普及ヲ計ルト共ニ各般ノ研究調査ヲ遂ケシメ總督府設置以後ハ一層耕地ノ擴張及改善優良種子ノ普及耕種牧畜方法ノ改良其ノ他ノ指導獎勵ニ努メ普通作物ハ勿論蠶業畜産等各種農産物ノ増加ト其ノ品質ノ向上トヲ圖リ一面ニ於テハ地方金融組合其ノ他ノ金融機關ヲ利用シテ農産物ノ共同販賣ヲ爲サシメ又米棉繭等ノ輸移出稅ヲ撤廢シ麥甘藷馬鈴薯等ノ代用食物ノ栽培ヲ獎勵シテ農



民ノ所得ヲ多カラシムルニ努メタリ其ノ結果現今ニ於テハ農產物ノ價額總計優ニ三億圓ヲ超エ金銀地金ヲ除キタル輸移出品總額三千萬圓中農產物ハ其ノ八割ヲ占ムルニ至レリ然レトモ尙未墾地ノ利用灌漑設備ノ改良等ニ依リ生産力ヲ擴張スルノ餘地少カラス又農法其ノ他ノ改良モ未タ完了セリト謂フヘカラサルヲ以テ將來ニ於テハ益農民經濟ノ發達ヲ圖リ以テ舊來ノ面目ヲ一新セムコトヲ期ス

殖樹保林ノ經營ハ治水ト密接ノ關係アリ且國土ノ保全上緊急ノ必要アルヲ以テ保護制度施行時代ニ於テモ茲ニ留意スル所アリ一般ノ林政及國有林經營ニ關スル規定ヲ設ケ大體ノ方針ヲ定メタリシカ併合後ニ至リテハ一層國有林野ノ整理ヲ完全ニスルト共ニ一般人民ヲシテ森林愛護増殖ノ觀念ヲ涵養セシムル目的ヲ以テ森林令ヲ制定シ又國費地方費及恩賜金ヲ以テ造林計畫ヲ樹テ各道ニ設置シタル苗圃ノ數ハ大正三年ニ於テ三百餘箇所ヲ算シ民設苗圃ノ養苗數亦無慮一億萬本ニ達セムトスルノ盛況ヲ呈スルニ至レリ尙併合後第一回ノ神武天皇祭日ヲトシ各地方官民記念植樹ヲ爲スノ例ヲ開キ爾來毎年一千有餘萬本ヲ植付ケ以テ一般ノ殖林思想ヲ鼓吹セリ

朝鮮ノ沿海ハ魚介海藻ニ富メリト雖從來漁撈ノ方法頗ル幼稚ナルト政府ノ保護獎勵十分ナラサリシトニ依リ其ノ利用ヲ完ウスルニ至ラス依テ法規ヲ制定シテ漁業ノ秩序ヲ維持シ漁民ノ生業ヲ安固ナラシメ進テ當業者ヲ指導啓發スル爲水産ニ關スル各種ノ調査試驗又ハ傳習ヲ行ヒ兼ネテ漁具・漁船ノ改良ヲ獎勵シ一方漁利ヲ永遠ニ維持セムカ爲ニハ魚族蕃殖ノ方法ヲ講スルト共ニ嚴ニ其ノ濫獲ヲ防キ又水産業者ノ共同利益ヲ増進セシムル爲水産組合ヲ設立セシメ漁村ノ維持發達ヲ圖ル爲漁業組合ノ設立ヲ獎勵スル等朝鮮水産業ノ保護ニ勉メタル結果朝鮮人ノ水産業ハ漸次面目ヲ改メ新式ノ漁具・漁法ヲ採用シ又海藻貝類ノ養殖等ヲ試ムル者漸ク多ク加フルト同時ニ内地漁民ノ一時通漁スル者及永久移住スル者モ亦益増加シタルニ依リ朝鮮ノ水産物ハ年ヲ逐ウテ其ノ産額ノ増加ヲ見ルニ至レリ

朝鮮ハ諸種ノ鑛物ニ富ミ就中金鑛最多ク無煙炭・鐵及黑鉛之ニ次ク朝鮮人ハ從來採鑛ノ知識ニ乏シク纔ニ砂金又ハ鑛床露頭部ノ採收ニ從事シタルニ過キス然ルニ明治二十八年以來數年ニ亘リ諸外國爭ウテ鑛山ノ特許ヲ求メ當時ノ韓國政府ハ止ムヲ得スシテ有望ナル金鑛ヲ英・米・獨・佛・伊諸國ノ企業家ニ

分與シタリ統監府設置後鑛業法ヲ制定シタルモ内地及他國ニ於ケル例ニ倣ヒ外國人ノ鑛業權ヲ制限スル能ハサリシハ此等ノ事情ニ由リ又大規模ノ鑛山事業カ大抵外國人ノ經營ニ係ルノ狀況ヲ呈セルモ亦之カ爲ナリ近來ニ至リ内地人ニシテ稍大規模ノ計畫ヲ以テ金鑛鐵鑛亞鉛鐵及石炭ノ採收ニ從事スル者漸ク多ヲ加ヘ成功ノ望アルモノ亦寡シトセス目下鑛產物ハ概ネ内地ニ移出スルヲ常トシ殊ニ金ノ如キハ外國ニ輸出スルモノ絶無ナリ且其ノ事業ニハ多數ノ内鮮人ヲ使役スルヲ以テ鑛山ノ開發ハ其ノ企業者ノ内外人ニ論ナク一般經濟ニ裨益スル所多大ナリト雖探鑛ノ如キ特殊ノ事業ハ世界孰レノ國ト雖無條件ニテ外國人ニ許可セサルヲ例トス殊ニ朝鮮ニ於テハ既ニ重要ナル鑛業權ヲ外國人ニ許與シ此ノ上其ノ投資企業ニ俟ツノ必要ナキカ故ニ之ニ相當ノ制限ヲ加ヘ内鮮人企業者發展ノ餘地ヲ作ルヲ以テ機宜ノ措置ト認メ漸次鑛業法ノ改正ヲ行ハムトス尙明治四十四年度ヨリ全土ノ鑛床調査ニ著手シ之ニ由リテ鑛床賦存ノ狀態ヲ闡明シ以テ鑛業ノ發展ニ資スルト共ニ調査ヲ完了セル地方ニ於テ最有望ト認メタル金鑛及無煙炭鑛床ヲ政府ニ保留シ他日適當ノ方法ヲ以テ之カ開發ヲ圖ラムトス

朝鮮從來ノ工業ハ萎靡振ハス日常ノ生活資料スラ其ノ大部分ヲ輸入品ニ依  
頼スルノ状態ナルヲ以テ必要ナル工業ヲ獎勵スルハ焦眉ノ急務ニ屬セリ是  
ヲ以テ染織・陶窯・金石・木工・應用化學等ニ關スル技術ヲ授ケ又ハ試驗研究ヲ爲  
サシムル爲或ハ中央試驗所・工業傳習所等ヲ設置シ或ハ必要ナル補助ヲ與ヘ  
技術員ヲ派遣シテ指導ニ當ラシメ又恩賜金ヲ基本トセル授産事業トシテハ  
製絲機業・製紙・製麻・製蔴・製炭等ニ關スル傳習ヲ獎勵シタリ近來内地人ニシテ  
整備セル工場組織ニ依リ諸種ノ製造事業ヲ經營スル者多ク之カ爲工藝上ニ  
於テ朝鮮人ノ啓發ニ資スル所亦尠カラズ工業モ亦農林業ノ改良ト相俟ツテ  
漸次進歩ノ域ニ近ケリト謂フヘシ

一般産業ノ發達ヲ圖リ且文化ノ普及ニ資スルニ於テ交通運輸機關ノ重要ナ  
ルハ言ヲ俟タサル所ナリ而シテ道路ノ改修ニ付テハ舊韓國時代ニ於テモ留  
意セサルニ非サリシト雖具體的ノ計畫ヲ樹テタルハ統監府設置ノ翌年即チ  
明治四十年ニシテ初メ六箇年ノ繼續事業トシ主要道路三十線二百五里ヲ選  
定シ約一百五十萬圓ヲ計上シ其ノ後之ヲ四箇年ニ短縮シテ約二百四十萬圓  
ヲ追加セリ然レトモ是レ唯一小部分ノ改修ヲ目的トセルニ過キサリシヲ以

テ總督府設置後ニ至リ朝鮮全土ニ亘リテ道路改修ヲ行フノ方針ヲ以テ道路規則及道路築造標準ヲ制定シ朝鮮全般ノ道路網ヲ規畫シ道路ヲ分チテ一、二、三等及等外道路ノ四種トシ一、二等道路ノ築造及維持修繕ハ國費ヲ以テ之ヲ施行スルヲ原則トシ慣行アルモノハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ地方廳ニ於テ負擔スルコトトシ三等道路ハ地方廳ニ於テ其ノ築造修繕ニ當リ唯其ノ費用ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトアルヘク又等外道路ニ付テハ關係部落ニ於テ之ヲ負擔シ地方廳ヨリ補助ヲ與フルコトニ定メタリ一、二等道路トシテ指定シタルモノ全土ニ亘リ合計九十五線三千餘里ニシテ其ノ中三十五線七百七十里ヲ選定シ明治四十四年度ヨリ大正六年度ニ至ル七箇年繼續費トシテ一千萬圓ヲ計上シ第一期計畫トシテ之カ改修ニ從事シ其ノ中三百九十四里ハ既ニ竣工ヲ告ケタリ尙一、二等道路中從來地方廳ニ於テ假工事ヲ施行シタルモノ七百八十二里又大正三年度ヨリ同五年度ニ亘ル三箇年內ニ國庫ノ補助ニ依リ改修スヘキモノ二百九里ナリ故ニ統監府設置以來此等改修道路ヲ總計スルトキハ大正六年度末ニ於ケル改修總里數ハ一千九百六十七里ニ達スヘシ殘餘一千一百十三里ノ中七百八十五里ハ第二期計畫トシテ大正六

年度ヨリ十箇年繼續費一千萬圓ヲ計上シ之ニ依リ其ノ改修ヲ實行セムトス  
殘部三百二十八里ノ改修ハ急要ナルモノト認メ難キヲ以テ將來地方資力ノ  
充實ニ從ヒ漸次之カ改修ニ及ハムトス又三等道路ハ大正元年各道長官ニ於  
テ總督ノ認可ヲ經テ之ヲ指定セリ其ノ總延長三千四百五十里ニシテ其ノ中  
一千九百二十三里ハ大正三年度迄ニ改修ヲ了シ尙引續キ地方資力ト夫役ト  
ノ許ス限り之カ改修ニ努メツツアリ

鐵道ノ敷設ニ付テハ其ノ事業ノ複雜ニシテ多額ノ資金ヲ要スルカ爲舊韓國  
政府ニ於テハ未タ曾テ自ラ之カ經營ヲ企畫シタルコトナキモ明治二十九年  
米國人「ジ、アール、モールズ」ニ、明治三十四年京釜鐵道株式會社ニ京城仁川間  
及京城釜山間ノ鐵道敷設ヲ特許セリ其ノ後京釜鐵道株式會社ニ於テ京仁鐵  
道ヲ買收セシカ明治三十九年ニ至リ京釜鐵道買收法ニ依リ京釜鐵道株式會  
社ニ屬スル鐵道全部ヲ國有トシ同年新設セラレタル統監府鐵道管理局ニ於  
テ之ヲ管理經營シ次テ陸軍省ノ所管ニ屬セル龍山・新義州線及三浪津馬山線  
ノ引繼ヲ了シタリ明治四十二年統監府鐵道管理局廢止セラレ其ノ事務ハ鐵  
道院ニ移リシモ翌四十二年併合ノ後朝鮮總督府ノ設置セララルルヤ朝鮮ノ鐵

道事務ハ總督府鐵道局ノ所管ニ歸屬セリ釜山新義州間ノ縱貫線ハ明治四十四年十月ヲ以テ竣工セル鴨綠江橋梁ニ依リテ南滿洲鐵道トノ聯絡完備シ釜山長春間ノ直通列車ヲ運轉スルニ至リシヲ以テ本鐵道ハ啻ニ朝鮮内ノ交通機關タルニ止マラス歐亞交通上最重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ尙此ノ縱貫線ト接續スヘキ京元線及湖南線ノ兩鐵道ハ明治四十三年度ヨリ六箇年繼續事業トシテ起工シ湖南線ハ大正三年一月京元線ハ同年八月ヲ以テ全線ノ開通ヲ見ルニ至リ朝鮮鐵道ノ延長ハ咸鏡線一部開通ト共ニ今年ヲ以テ一千六哩ニ達セリ尙將來ノ計畫トシテハ各線ノ改良工事ノ外元山ヨリ咸鏡南北道ヲ縱貫シ會寧ニ至ル所謂咸鏡線ノ急設ヲ要スルモ財政ノ緩急ニ鑑ミ先ツ其ノ第一期計畫トシテ元山永興間及清津會寧間ヲ敷設スルコトニ決シ大正三年度ヨリ其ノ事業ニ著手シ既ニ一部ノ開通ヲ見タリ

道路ノ改修及鐵道ノ敷設ト共ニ緊要ノ事業タル港灣ノ修築ニ關シテハ外國貿易上ノ關係ヨリ保護政治時代ニ於テモ夙ニ注意ヲ拂ヒ之カ修築ノ計畫ヲ樹テ又ハ實行シタル所アリ初メ明治三十九年以降五箇年繼續事業トシテ經費總額三百六十四萬餘圓ヲ以テ稅關改良工事ヲ起セシカ明治四十一年更ニ

之ヲ擴張延期シ經費一百二十五萬圓ヲ増加シ八箇年繼續事業ト爲シ更ニ同四十三年經費五萬餘圓ヲ増シ以テ京城・仁川・平壤・鎮南浦・新義州・大邱・群山・木浦・馬山・釜山・元山・城津及清津ニ於ケル港灣及稅關設備ヲ改良スルコトトシ仁川釜山及鎮南浦ヲ除クノ外ハ明治四十三年度ニ於テ豫定ノ計畫ヲ了リタリ依テ併合後前記繼續事業ノ殘餘ハ同年度ヲ以テ一旦之ヲ打切り新ニ明治四十四年度以降六箇年繼續事業トシテ釜山・仁川・鎮南浦及平壤ノ港灣ヲ改良スル計畫ヲ立テ既定ノ殘餘工事豫算額一百十三萬餘圓ト併セテ總經費八百二十七萬餘圓ヲ以テ之ヲ遂行スルコトトシ平壤ハ大正二年度中既ニ竣工シ鎮南浦モ亦大正三年度中ヲ以テ概ネ其ノ工ヲ竣ヘタリ釜山ハ關釜聯絡船ヲ繋留セシムヘキ第一棧橋及之ニ沿ヘル突堤ノ築造竝突堤上ニ於ケル設備完成シ聯絡船ト汽車トノ接續ヲ全カラシムルニ至レリ尙目下第二棧橋及釜山鎮方面ノ船溜波除堤ノ築造及港口・港内ノ浚渫中ナリ又仁川ハ開船渠築造ノ爲ニ要スル潮止堤及陸上設備ヲ竣リ目下水路ノ浚渫・馴導堤ノ築造及船渠岸壁根掘工事ノ施行中ニ屬ス

舊韓國時代ニ於ケル遞信行政ハ其ノ通信タルト海事タルト將タ電氣タルト



ヲ問ハス何レモ其ノ施設不完全ヲ極メタルハ勿論殊ニ通信行政ノ如キハ其ノ經營宜ヲ得サリシ爲年々尠カラサル缺損ヲ招キ舊韓國政府ノ手ニ依リテハ到底改善擴張ノ望ナキニ至リタルノミナラス當時同一領土内ニ舊韓國政府・帝國遞信省及陸海軍ノ四者相共ニ通信事業ヲ經營シタル爲相互錯綜シテ統一スル所ナク諸般ノ經營上不利不便ヲ感スルコト尠カラサリシカ明治三十八年四月韓國通信機關委託ニ關スル取極書締結ノ結果同年七月舊韓國政府ノ郵政ハ遞信省ノ管理ニ歸シタルヲ以テ從來韓國ニ設置シタル我カ通信機關ト共ニ之ヲ合同整理スルヲ得タリ尙同三十九年保護制度施行後ハ統監府ノ掌裡ニ歸シ其ノ後陸海軍ノ施設ニ係ルモノモ亦統監府ニ繼承シ更ニ併合後ニ至リ朝鮮總督府遞信官署ニ於テ此等事務ノ外船舶海員ノ監督・命令航路・航路標識等ノ海事行政並電氣事業ノ監督及發電水力ノ調査ニ關スル事務ヲモ管掌スルコトトナリ茲ニ遞信行政ノ統一ヲ見ルニ至レリ通信事業ニ付テハ併合後特ニ之カ改善擴張ニ努力シタル結果大正四年三月末ニ於テハ全土ニ亘リ五百九十五箇所ノ通信機關ヲ設置シ交通至難ノ島嶼ヲ除キ各郵便局所所在地ニハ毎日少クトモ一回以上遞送郵便物ノ到著セサル所ナキニ至

リ大正四年三月末ニ於ケル平均一日遞送延里程ハ道路鐵道及水路ヲ合シ約九千七百餘里即チ明治三十八年郵政合同當時ニ比シ約二倍トナリ又其ノ平均一日集配延里程ハ約一萬五千里即チ合同當時ニ比シ約十五倍トナリ電信線及電話線ハ年年主要ナル地點間ニ増設シタル結果其ノ延長ハ合同當時ニ比シ電信線ハ倍加シ電話線ハ二十倍以上ニ達シ尙京城ト東京大坂及下關間元山松江間等ニ直通電信回線ヲ設ケ朝鮮内地間電報ノ疏通敏活ヲ圖リ大ニ其ノ經過時間ヲ短縮スルヲ得タリ又露西亞トノ聯絡ヲ圖リ日露兩政府協定ノ下ニ清津浦潮斯德間ニ日鮮直通電信回線ヲ設ケ大正三年十二月一日ヨリ通信ヲ開始シ同四年度ニ於テハ更ニ之ヲ京城迄延長シテ京城浦潮斯德間ノ直通トシ高速度ノ通信方式ニ依リ一層其ノ通信ノ敏活ヲ圖ラムトス斯ノ如ク機關ノ整備スルニ伴ヒ郵便郵便爲替郵便貯金郵便振替貯金電信及電話等諸般通信業務ノ取扱數累年益増進發達シ殊ニ朝鮮人ノ郵便貯金ノ如キハ併合前年度末ニ於テハ預ケ人員二萬ニ達セス預金額十二萬圓ニ足ラサリシカ大正三年度末ニ於テハ預ケ人員五十四萬餘人預金額一百十三萬餘圓ニ上ルノ盛況ヲ呈セリ而シテ其ノ事業經濟ノ狀況ハ明治四十三年度ニ於テ早ク既

ニ經常收入ヲ以テ經常支出ヲ償ヒ尙巨多ノ餘剩ヲ存スルニ至レリ舊韓國政府時代ニ於テハ海事ニ關スル法規ノ整備統一シタルモノナク隨テ船舶及海員ニ對スル監督十分ナラス航運事業亦不振ノ狀況ニ在リシモ總督府設置後海事諸法規ヲ制定シテ從來ノ缺陷ヲ補足シ命令航路ノ整理ヲ遂ケテ之カ保護獎勵ヲ圖リ又須要ナル地點ニ航路標識ヲ増設シタル結果朝鮮ニ於ケル海路交通ハ漸次發展ノ機運ニ向ヒ船舶海員ノ數亦比年増進ノ趨勢ヲ呈スルニ至レリ而シテ大正三年度ニ於ケル命令航路ハ沿岸十一、河川三、合計十四線路、使用船舶數沿岸航路十七隻、河川航路一百三十六隻、合計一百五十三隻ニシテ又同年度末現在航路標識數ハ二百十七ヲ算シ之ヲ併合當時ニ比スレハ六十六ヲ増加セリ電氣行政ニ關シテハ舊韓國政府時代ニ於テハ何等見ルヘキモノナカリシカ併合後電氣事業取締規則ヲ制定シ電氣事業ノ經營ニ關シテハ許可主義ヲ採ルコトヲ明確ニシ且事業ノ危險防止等ニ關シ精細ナル事項ヲ規定セリ而シテ併合當時ニ於テ電氣事業ヲ開始シタルモノハ僅ニ指テ京城、釜山及仁川ノ三會社ニ屈スルニ過キサリシモ大正四年三月末ニ至リテハ其ノ數十七ニ達セリ又發電水力調査事業ハ明治四十四年四月ヨリ著手シ大正

三年六月ニ至リ外部ノ調査作業ヲ終了シタルヲ以テ近ク其ノ調査書ノ編成ヲ見ルニ至ルヘシ

朝鮮ノ舊時ニ於テハ土地所有權及所有權ヲ目的トスル附隨的權利ヲ明確ナラシムル方法備ハラス二十年毎ニ全國ニ亘リ各耕地ノ調査ヲ行フ制アリシモ是ハ主トシテ課稅臺帳ヲ作ル目的ニ出テ而カモ地稅ハ小作人ヨリ徵收スル規定ナリシカ爲其ノ臺帳ニハ所有者ノ氏名ヲ明記セサル土地少カラス又各土地ヲ計ルニ面積ヲ以テセスシテ地稅負擔額ヲ以テシ租稻一千把ニ當ル租稅ヲ納付スヘキ地域ヲ一結トシ之ヲ數基トシテ算出セルモノナルカ故ニ土地ノ等級ニ從ヒ一結ノ廣サ狹キハ一町步ヨリ廣キハ四町步餘ニ及フアリ斯ノ如クニシテ土地所有權ハ主トシテ文記ト稱スル不完全ナル契約書ヲ以テ證明スルノ外ナク而シテ此等證書ニ用井ル面積モ亦一斗ノ種粃ヲ播下スヘキ地域ヲ一斗落トシ又ハ一人一牛ニテ一日中ニ耕シ得ヘキ地域ヲ一日耕トシ之ヲ數基トシテ算出セルモノナルカ故ニ土地ノ肥瘠及地方ノ習慣ニ依リ一斗落又ハ一日耕ノ廣狹一定セス是ニ於テ不動産中最重要ナル土地ニ關スル權利ノ保護ヲ完ウスル爲ニハ先ツ全土ニ亘リテ完全ナル土地調査ヲ舉

行スルノ必要アルヲ以テ統監府設置後舊韓國政府ニ勸告シ審議ノ結果明治四十三年三月ニ至リ全國ノ宅地及耕地ノ調査ヲ行フ成案ヲ立ツルヲ得タリ併合後ニ至リテ總督府ハ其ノ事業ヲ繼承シ更ニ計畫ノ完全ヲ期シ經費一千九百餘萬圓ヲ以テ同年以後七箇年間ニ終了スルノ見込ヲ立テ從來ノ土地爭議ヲ決定シ實地ニ就キテ各地ノ疆界ヲ明カニシ一般的地籍圖及土地臺帳ヲ調製シ兼ネテ精密ナル地形圖ヲ作り斯ノ如クニシテ土地ニ關スル權利ヲ確定シ地稅ノ負擔ヲ公平ニシ且土地ノ利用ヲ完カラシムトス殊ニ市街地ハ近年其ノ發達著シク土地ニ關スル權利ヲ明確ナラシムルノ必要最切ナルモノアルヲ以テ先ツ主ナル市街地二十九箇所ヲ選定シテ之カ調査及測量ヲ完了シタリ其ノ他大正三年十二月迄ニ調査及測量ヲ了リタルモノ七十一郡ニ及ヘリ

# 第一章 李王家及貴族

## 第一節 李王職ノ設置

舊韓國時代ニ於テハ宮中府中ノ別明カナラス明治二十七年一般制度改革ノ際始メテ宮内府ヲ設ケタル以來幾多ノ變遷ヲ重メ明治三十八年三月ニ至リ舊宮内府全體ニ亘リテ改正ヲ加ヘタレトモ尙大臣官房ノ外經理院、內藏司、尙方司、營繕司、親王府等二十有餘ノ院司雜然併立シ其ノ間事務ノ聯絡ヲ缺キ各財産ヲ分管シ獨立ノ會計ヲ組織セル等殆ト多數小官廳ノ集合體ニ異ラス加フルニ君主ノ直接命令ノ名ノ下ニ宮中ノ權力ハ全ク府中ヲ壓倒シ卑官微職ノ進退ト雖君主之ヲ親ラシ政府ハ殆ト與リ知ラサルノ狀アリ殊ニ國庫ノ支出ニ係ル皇室費ノ存スルニ拘ラス宮廷ハ國家以外恰モ徵稅ノ一主體ヲ爲シ自ラ諸種ノ雜稅ヲ徵收シ或ハ陵園墓等ノ修築費ヲ所在地附近ノ人民ニ賦課シ甚シキニ至リテハ國庫收入ノ資源タル或稅種ヲ宮内府ニ移シテ其ノ收入ノ増加ヲ圖リ或ハ宮中ニ關係ヲ結ハムトスル外國人ト諸種ノ契約ヲ爲シ又ハ之ニ鑛山、電氣、水道等ニ關スル特許ヲ與フルニ至レリ而シテ宮廷ニ在リテ

ハ狹雜ノ徒妄ニ君側ニ近キテ國政ヲ左右スルノミナラス幾千無用ノ冗員其ノ内ニ充滿シ或ハ内廷ノ迷信深キヲ奇貨トシ恣ニ妖言ヲ放チテ除魔禁厭ノ資ヲ貧リ或ハ皇帝ノ虛榮心ヲ迎合シテ種々ナル口實ノ下ニ内帑ヲ濫費シ皇室費ノ大部分ハ殆ト此等雜輩小人ノ私腹ヲ肥スノ料タルニ過キサリキ明治三十九年統監府設置以後ハ表面上外國人ニ關スル宮中ノ專擅ハ漸ク止ミタレトモ尙陰然對外關係ニ干與セムトスルノ狀アリ其ノ間帝國ノ保護ニ慊焉タル民間ノ不平分子ハ暗ニ宮中ト聯絡ヲ通シ種種ノ煩累ヲ生スルアリ是ニ於テ伊藤統監ハ先ツ宮中府中ノ分界ヲ明カニシ政府責任ノ所在ヲ確定シ之ト同時ニ宮中ヲ肅靜シテ雜輩ヲ驅逐シ舊弊ヲ一洗スルノ必要ヲ認メ明治三十九年七月韓皇ニ勸告シテ宮禁令ヲ發布セシメ日本人警察官ヲ宮中各門ニ配置シ舊韓國巡檢及兵士ト共ニ宮門ノ取締ニ任セシメ一定ノ官職ヲ有スル者ノ外宮中ニ出入スルコトヲ禁シ其ノ出入ニハ必ス規定ノ門票ヲ提示セシムルコトト定メタリ尋テ明治四十年七月現李王殿下帝位ヲ繼キ居テ昌德宮ニ移サルルヤ先ツ舊宮内府官制ヲ改正シ無用ノ院司ヲ廢シ皇室ニ關スル一切ノ事務及所屬官吏ノ監督ハ舊宮内府大臣ノ責任ト爲シ以テ名實共ニ一官

改定後  
改定後

廳タルノ體用ヲ完カラシメ尙冗員ノ淘汰ヲ斷行シ翌年三月迄前後五回二分  
チテ約一萬人ノ減員ヲ行ヒタリ又明治四十年七月帝室有財産ト國有財産ト  
ノ區別ヲ明カニシ之ヲ整理セシムル爲メ調査局ヲ設置シ委員ヲ任命シ委員  
會ノ決議ハ閣議ニ附シタル後上奏裁可ヲ經ヘキ制ヲ定メ該調査ノ結果同年  
十一月舊宮内府收租官ヲ廢シ十二月從來舊宮内府ノ所管ニ屬セシ紅蔘專賣  
事業、蔘稅沿江稅、土地附帶ノ諸雜稅、庖稅、銅鐵鑛稅等ヲ國庫ノ收入ニ移シ翌四  
十一年六月驛屯土賭租及賭錢、魚磯、汰稅其ノ他從來舊宮内府ニ於テ徵收セシ  
雜稅ヲ總テ國庫ノ收入ト爲シ又各驛屯土其ノ他舊宮内府所管及舊慶善宮所  
屬不動産中宮殿太廟ノ基址並陵園墓ノ内垓字内ヲ除キタル殘餘ノ全部ヲ國  
有ト爲シ更ニ舊帝室ノ債務ヲ整理シ明治四十二年五月ニ至リ全部ノ仕拂ヲ  
了リ茲ニ舊帝室財産ノ整理ヲ完結セリ以上ノ改革ト同時ニ皇室費額ハ漸次  
之ヲ増加シ明治三十八年七十二萬圓ナリシモノヲ明治四十一年迄ニ一百五  
十萬圓ト爲シ爾後之ヲ以テ永久ノ定額ト爲セリ而シテ整理以前ノ宮廷ノ諸  
經費ハ政府ヨリ受クル皇室費ノ外前記ノ鑛山、人蔘、驛屯土收入、諸種ノ雜稅及  
利權ノ特許、賣官等ニ依リテ獲ル收入ヲ以テ支辨シ年額ニ三百萬圓ニ達シタ



ルカ故ニ一見當時ノ内帑ハ豊富ナリシモノノ如クナルモ其ノ實經理ノ方法確實ナラス冗費夥多ナリシ爲常ニ收支相償ハサルノ状態ニ在リシカ整理以後ニ至リテハ會計經理ノ基礎始メテ確立シ從來有名無實ナリシ舊宮内府豫算モ漸ク其ノ實行ヲ見ルヲ得タリ

明治四十三年八月二十九日韓國併合條約ノ公布セララルヤ同日優詔ヲ下シテ舊韓國皇帝ヲ冊シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シテ其ノ宗祀ヲ奉セシメ舊皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ舊太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其ノ儷匹ヲハ王妃、太王妃又ハ王世子妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用井シメラレ殊ニ李王家ノ歲費ハ帝位ニ在リシ時ト異ル所ナク年年一百五十萬圓ヲ給與セラレ日常ノ供御モ從前ニ比シ何等ノ差異ナク其ノ祭祀典例ノ如キモ亦削減ヲ加ヘスシテ祖宗崇敬ノ道ヲ盡スニ遺憾ナカラシメラレタリ同年十二月皇室令ヲ以テ李王家ノ家政ヲ處理セシムル爲新ニ李王職ヲ設ケテ宮内大臣ノ管理ノ下ニ置キ從來ノ宮内府ノ事務ヲ之ニ移サシメ其ノ事務及職員ノ監督ハ總督ノ所管トセラレタリ依テ同職員ノ詮衡ニ付テハ特ニ慎重ノ注意ヲ加ヘ舊宮内府職員中温

良淳朴ナル人物ヲ選擇シテ之ニ任シタルヲ以テ今ヤ其ノ身邊ニ從前ノ如キ便佞ノ徒ナク李王及李太王殿下ハ國事ノ煩累ヲ免カレ優悠自適最幸福ナル境遇ニ在リ昌德宮及德壽宮ノ內殿及王世子邸ニ關スル經費ハ併合後ニ於テ全部舊ニ依リタルモ其ノ他ノ費目ニ就テハ孰レモ慎重ノ審査ヲ遂ケ取捨増減ヲ加ヘ隨テ王家ノ經濟ハ從前ニ比シ頗ル潤澤ト爲レリ又大正二年三月事務官以下三百餘人ヲ淘汰シテ俸給年額七萬一千餘圓ヲ節約シ同時ニ實行豫算ヲ調製シテ李王職費ヲ減額シ次年度繰越金二十七萬三千餘圓ヲ得タルモ大正三年度ニ於テ李王家近親ノ家政整理ヲ助ケムカ爲合計二十六萬七千圓ヲ臨時支出セリ尋テ大正三年度末ニ於テ事務官以下一百十一名ヲ減員シテ俸給年額二萬八千餘圓ヲ減額シ同時ニ內殿費若宮費李王職費等ノ節約ヲ斷行シタル結果大正四年度豫算ニ於テハ前述臨時支出ノ爲前年度繰越金少額トナリ且李王家基本財産特別會計繰入金五萬圓其ノ他二三ノ新費目ヲ計上シタルニ拘ラス尙二十四萬四千餘圓ノ豫備金ヲ計上スルコトヲ得タリ

大正三年度末ニ於ケル王家ノ資産ハ宮殿其ノ他ノ土地建物概算價額約四百二十餘萬圓、有價證券及特別預金等別途資金ニ屬スルモノ四十八萬三千餘圓

ナリ而シテ右別途資金ハ大正四年度ニ於テ全部李王家基本財産特別會計ニ編入スル見込ナリ

## 第二節 各種事業ノ經營

明治四十一年九月舊宮内府ニ於テ御苑事務局ヲ設ケ昌德宮ニ隣接セル舊昌慶宮構内ニ博物館及動物園ヲ新設シ銳意朝鮮古美術品標本類及動物ノ蒐集ニ勉メ同四十二年十一月ヲ以テ之ヲ公開セラレタリシカ併合後ハ李王職ニ於テ之ヲ管理シ益設備ヲ整ヘ大正三年度末ニ於ケル博物館所藏品ハ一萬五千餘點、動物園飼養禽獸約三百三十種、植物苑培養植物約八百八十種ニ及ハリ又博物館ニ於テハ進テ朝鮮ニ關係アル和漢ノ古器物蒐集ニ努ムルト共ニ現在ノ所藏品ニ對シテモ充分ノ考查研究ヲ爲シツツアリ併合後李王家ノ始祖竝五世ノ祖ニ至ル王及妃ノ陵ニ附屬セル森林全部及他ノ各陵園附屬森林ニ在リテハ舊態ヲ維持シ祭祀ニ必要ト認メラルル範圍内ニ於テ區域ヲ定メ之ヲ王家ノ所屬ト爲シ李王職ヲシテ之カ保護經營ニ著手セシメタリ其ノ主ナルモノハ京畿道水原郡隆健陵附屬花山森林一千八百餘

町歩ヲ始トシ洪陵、祐陵、東九陵、獻仁陵ノ各附屬森林等ヲ併セ約四千三百餘町歩ニシテ就中花山森林ノ如キ老樹多キモノハ林相維持ノ必要上風致及水源涵養ヲ妨ケサル程度ニ於テ大正元年以降毎年輪伐補植ヲ行ヒ相當報酬又ハ賃金ヲ給シテ地元洞民ヲ其ノ伐採製材、運搬等ノ勞役又ハ造林苗圃等ノ作業ニ使役シタルニ其ノ結果森林ノ保護禁養上ニ頗ル良好ノ影響ヲ及ホセリ又一面ニ於テハ同森林内ニ約四町歩ノ苗圃ヲ設ケ大正二年ヨリ伐採跡地ノ植栽ニ著手シ既ニ植樹ヲ了シタル面積五十六町步餘ニ達セリ爾餘ノ森林ハ多ク樹齡未タ伐採期ニ達セサルヲ以テ適宜間伐ヲ行ヒ且無立本地ニ植栽ヲ爲ス等專ラ林相ノ整理ニ努メツツアリ右ノ外李王職ハ大正三年度ニ於テ京畿道開城郡及黃海道金川郡ニ跨レル帝釋山七千五百餘町歩ヲ買入レ且同森林ニ隣接セル國有森林天摩山二千五百餘町歩ノ貸下ヲ受ケ直ニ造林補植ノ準備ニ著手シ尙大正四年度ニ於テ帝釋山籠雞井洞ニ約三町五段歩ノ苗圃ヲ新設スル計畫ナリ今大正元年ヨリ同三年ニ至ル三箇年間ニ於ケル歲費豫算中ヨリ王家所有森林全部ニ關スル實收支額ヲ摘錄スレハ收入額十一萬三千餘圓同支出額五萬五千餘圓此ノ差益金五萬八千餘圓ナリ

### 第三節 公族及貴族ノ待遇

併合ノ際前皇帝、皇太子及太皇帝ニ對シ優遇特典ヲ賜フト同時ニ皇弟義親王、堀及皇伯父興親王、袁ノ兩人ハ特ニ公ト稱シ其ノ配匹ヲ公妃トシ竝待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用井シメラレ尙其ノ地位ヲ保持スルニ充分ナル恩金ヲ下シ給ヘリ大正元年九月九日李袁公殿下薨去シ同月二十日世嗣李竣鎔其ノ跡ヲ襲キ勅許ヲ經テ李竣公ト改名セリ

又李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ヲ優列ニ陞シ以テ寵光ヲ示スノ聖旨ヲ以テ朝鮮貴族令及關係規定ヲ定メラレ之ニ依リ同年十月七日李王ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アル者ニ對シ授爵ノ恩典ヲ與ヘラレタリ其ノ爵位及人員左ノ如シ

侯爵 六人                      伯爵 三人                      子爵 二十二

男爵 四十五人                      計 七十六人

其ノ後爵ヲ返上シタル者男爵六人、有爵者死亡シ其ノ相續人カ相續ノ手續ヲ爲ササリシ爲襲爵ノ特權ヲ失ヒタル者男爵一人、爵ノ返上ヲ命セラレタル者

男爵一人、刑罰ニ依リ爵ヲ失ヒタル者、男爵一人、禮遇ヲ停止セラレタル者、伯爵一人ニシテ現在ノ貴族ハ左ノ如シ

侯爵 六人 伯爵 三人(内一人禮遇停止) 子爵 二十二名

男爵 三十六名 計 六十七名

大正元年十二月此等有爵者ニ對シ叙位ノ宣下アリ元來華族ノ初叙位ハ從五位ナルモ朝鮮貴族ハ功勞アル者老又ハ舊韓國ノ品階高キ者少カラサルヲ以テ特ニ從三位以下從五位以上ニ叙セラレタリ又同三年六月貴族ノ嗣子年齡滿二十歲以上ノ者三十四名ヲ從五位ニ叙シ給ヘリ

此等ノ貴族ハ優渥ナル 聖恩ヲ永遠ニ奉戴セムカ爲苟クモ貴族タルノ體面ヲ汚辱シ品位ヲ失墜シ又ハ忠順ヲ缺クカ如キ行爲ナカラムコトヲ期シ明治四十四年八月侯爵尹澤榮外貴族四名發起者トナリ華族會館ノ例ニ倣ヒ朝鮮貴族會ヲ設立シ貴族相互ノ和親ヲ敦ウシ品性ヲ陶冶シ其ノ體面ヲ維持スルコトニ努メツツアリ

# 第二章 中央及地方行政

## 第一節 總督府ノ設置

舊韓國ノ中央行政制度ハ明治二十七八年改革ノ際日本ノ制ニ倣フテ內閣中樞院及外部・內部・度支部・軍部・法部・學部・農商工部ノ七部ヲ設ケタリト雖要スルニ形式上ノ變更ニ過キスシテ宮中ノ勢力常ニ府中ヲ左右セルト權臣勢家ノ爭鬪寧日ナキトノ爲內閣員ノ交迭依然頻繁ニシテ殆ト朝夕ヲ測ラサルノ狀アリ明治三十八年十一月日韓協約ノ結果帝國政府ニ於テ舊韓國ノ外交事務ヲ監理指揮スルコトナリ統監府ノ開設ト同時ニ外部ヲ廢止シタルモ其ノ他ハ猶舊ニ依リタルカ明治四十年六月ニ至リ伊藤統監ハ舊韓國政府ニ勸告シ內閣官制ヲ改正シ總理大臣ノ權限ヲ明カニシ內閣會議ヲ經ヘキ事項ヲ改定シ以テ國政ノ基礎ヲ確實ナラシメ尋テ同年七月韓國施政ノ改善ニ關スル協約ニ依リ日本人ヲ各部次官以下直接責任ノ地位ニ任用セシメ且各部官制竝地方官制ノ改正ニ依リ行政機關ノ統一ヲ圖ルト共ニ其ノ職守ヲ明確ナラシメタリ同年八月宮廷護衛ノ任ニ當レル親衛隊歩兵一大隊及騎兵一中隊ヲ

除クノ外總テ軍隊ヲ解散シ明治四十二年七月ニ至リ軍部ヲ廢シ新ニ親衛府ヲ置キテ親衛隊ノ事務ヲ掌ラシメタリ又同年七月舊韓國政府ヨリ司法事務ノ委任ヲ受ケタル結果十月ヲ以テ法部ヲ廢シ其ノ事務ヲ統監府司法廳ニ引繼キタリ斯ノ如クニシテ併合當時ニ於ケル舊韓國ノ統治機關ハ中央ニ内閣以下内務度支部農工商部學部中樞院等アルニ過キス又地方ニ道府郡ノ各官廳財務監督局財務署等アリシカ帝國政府ハ別ニ舊韓國政府ノ委託ニ係ル政務ヲ執行シ且在留帝國臣民ヲ管轄スル爲統監府以下理事廳司法廳裁判所警察官署鐵道管理局通信官署特許局等ヲ設置シ統監ハ舊韓國政府ノ指揮監督ヲ爲スト共ニ帝國官署ノ政務ヲ統轄シタリ

明治四十三年八月二十九日併合條約ノ公布ト同時ニ帝國政府ハ臨時ノ措置トシテ勅令ヲ以テ朝鮮總督府ヲ設置シ當分ノ間統監府及其ノ所屬官署ヲ朝鮮總督府ト看做シ統監ヲシテ總督ノ職務ヲ行ハシメ且從來ノ韓國政府及所屬官署ハ内閣及表勳院ヲ除クノ外總テ之ヲ總督府所屬官署ト看做シテ政務ノ執行ニ當ラシメ越エテ十月一日ニ至リ朝鮮總督府及所屬官署官制ヲ施行セリ此ノ官制ニ依リ總督府ハ總督官房及總務內務度支農工商司法ノ五部ヨ



リ成リ所屬官署ハ中樞院取調局地方廳裁判所警察官署監獄鐵道局通信官署  
臨時土地調查局稅關專賣局印刷局營林廠醫院平壤鑛業所勸業模範場工業傳  
習所及各官立學校トシ總督ノ下ニ政務總監ヲ置キ其ノ次ニ各部長官アリ總  
督ヲ補佐シ府務ヲ統理セリ而シテ新官制ノ要旨ハ各種行政機關ヲ統一シ中  
央ニ於テ縮小ヲ加フルト同時ニ地方ニ於テ擴張充實ヲ圖ルニ在リタルヲ以  
テ多數ノ職員ヲ減スル能ハサリシト雖尙整理ノ結果全般ニ亘リ一千四百餘  
人ヲ淘汰シ之カ爲經費ヲ節約セルコト七十六萬五千圓ニ及ヘリ其ノ中中樞  
院ハ主トシテ名望材能アル朝鮮人ヲ以テ之ヲ組織シ以テ總督ノ諮問ニ應ス  
議長ハ政務總監ヲ以テ之ニ充ツ又取調局ハ朝鮮ノ舊慣遺制ヲ攻訖シテ施政  
ノ料ニ供シ歐米諸國ノ殖民地ノ制度ヲ參酌考查シ尙朝鮮辭典ノ編纂ニ著手  
セリ明治四十五年四月更ニ中央行政機關ヲ緊縮シ總務部ヲ廢シテ其ノ事務  
ヲ官房ニ移シ取調局印刷局專賣局各部庶務課及鐵道局並警務總監部ノ印刷  
工場等ヲ廢シテ其ノ事務ヲ他ノ部局ニ分屬シ官房ニ土木局ヲ新設シテ築港  
道路治水營繕等ニ關スル土木行政事務ヲ統一管掌セシメ又各部局ニ分屬セ  
シ衛生事務海港檢疫並輸出牛檢疫事務密漁取締及港則執行事務ヲ警務總監

部ニ移屬シ新ニ中央試験所ヲ設ケテ醸造試験其ノ他工業ニ關スル試験分拆及鑑定事務ヲ管掌セシメ且從來ノ工業傳習所ヲ之ニ附置シ遞信局所管ノ觀測事務ヲ内務ニ度支部所管ノ海事事務ヲ遞信局ニ移屬シタリ爾後三年間ノ經驗ニ徴シ大正四年四月更ニ總督府に所屬官署ノ官制ヲ改正シ總督府ニ在リテハ從來ノ九局中總務、土木及學務ノ三局ヲ存シテ外事、地方、司稅、司計、農林及殖産ノ六局ヲ廢シ從來參事官室ノ取扱ヒタル舊慣及制度調査事務ヲ中樞院ニ移シタリ

## 第二節 職員任用ノ方法

明治四十三年十月朝鮮總督府及所屬官署ニ於テ舊統監府及舊韓國政府ニ屬スル政務ヲ繼承スルニ方リ其ノ職員ヲ按排淘汰シ高等官三百二十六人判任官五百八十二人、雇員約五百人ヲ減少シ次テ明治四十五年四月中央及地方ニ涉リ行政竝司法機關ノ整理統合ヲ行ヒ更ニ高等官二十八人判任官七十人ヲ罷免セリ斯ノ如ク行政上ニ刷新ヲ施スト共ニ職員採用方法ニ關シテモ一定ノ方針ヲ立テ優秀ナル行政官ヲ得ルノ必要ヲ認メタリ從來官吏採用ノ方法

ニ付テハ任用令ニ依ルノ外別ニ何等ノ規定ナク内地人ニ在リテハ考試ノ方法及養成ノ機關ナク朝鮮人ニ在リテモ舊韓國政府時代ニ於ケル官吏ヲ襲用スルノミニシテ新ニ詮衡ノ道ナカリシヲ以テ職員採用ノ根本方針トシテ朝鮮ニ於ケル官吏ハ之ヲ朝鮮ニ於テ養成シ技術官ノ如キ特殊ノ技能ヲ要スル者ノ外ハ總テ之ヲ他ニ求メサルコトトシ以テ朝鮮ノ現狀ト其ノ民度トニ適應スヘキ行政ヲ施行シ得ヘキ官吏ヲ任用スルコトニ努メタリ又特殊ノ場合ヲ除クノ外原則トシテ内地人朝鮮人ノ別ナク奏任官ハ試補判任官ハ見習ヨリ之ヲ採用スルノ制ヲ定メ殊ニ判任官ニ在リテハ毎年四月及十月ニ於テ見習採用試験ヲ行ヒ判任文官タルノ資格ヲ有スル者ニ就キ内地人ニ在リテハ朝鮮語朝鮮人ニ在リテハ國語ヲ必須科目トシテ相當學力ノ試験ヲ行ヒ其ノ合格者ヲ見習ニ採用シテ各官廳ニ配屬シ行政事務ヲ練習セシムルコト一年以上ヲ經テ初メテ之ヲ本官ニ任用スルコトニ定メタリ

郡守ハ併合以後ニ於テモ依然舊職員ヲ存置シ且其ノ選任ニ付テモ一般ノ任用令ニ依ラス舊韓國政府高等官ノ職ニ在リテ相當ノ技能ヲ有シ且國語ヲ解スル者ノ中ヨリ採用スルコトニ定メタリ而シテ郡守ノ良否ハ地方ノ行政上

ニ多大ノ影響ヲ及ホスカ故ニ其ノ選任ニ付特別ノ考量ヲ加ヘ先ツ國語ニ精通シ能ク新政ノ本旨ヲ了解シ且地方行政事務ニ經驗アル人材ヲ登用スル方針ヲ以テ明治四十五年四月以降各道長官ヲシテ毎年一回五級以上ノ地方廳判任官ヨリ郡守候補者ヲ選定シ其ノ人物素行健康狀態地方行政官トシテノ技能他官廳及人民ニ對スル態度資産ノ有無等ヲ調査報告セシメ之ニ依リ郡守補缺ノ選任ヲ定ムルノ制ヲ設ケタリ

舊韓國時代ニ於ケル官吏任用ノ方法ハ科擧ノ制アリシニ過キス此ノ制ト雖牟所ヲ經ルニ隨ヒ有名無實トナリ之ニ應スル者ハ名門ノ出ニ止マレルノミナラス苞苴ノ多寡ニ由リテ採否ヲ決スルノ弊ヲ生セリ然ルニ併合後新ニ制定シタル朝鮮人判任官試驗規則ハ其ノ方法最嚴正ニシテ何人ニテモ其ノ實力ヲ有スル者ノ合格ヲ許スカ故ニ一般ノ歡迎スル所トナリ明治四十四年九月各道ニ於テ施行セシ第一回試驗ノ效果トシテ朝鮮人中官吏タラムトスル者ヲシテ受験ニ必要ナル知識技能ノ修養ニ留意セシムルニ至レリ雇員採用ニ關シテモ新ニ規定ヲ定メ年齡ニ制限ヲ設ケ品行方正ニシテ一定ノ試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用スルコトト爲シ其ノ試驗科目中判任官見習試驗

ト同シク内地人ニ對シテハ朝鮮語朝鮮人ニ對シテハ國語ヲ必須科目ト爲セリ官吏力其ノ服務上心得ヘキ規定ハ擧ケテ官吏服務規律ニ在リト雖朝鮮ノ如キ新領土ニ於ケル官吏ハ一層其ノ規律ヲ嚴肅ニスルノ必要アルヲ認メ明治四十五年四月服務心得ヲ訓示シ官吏新任ノ際ハ必ス服務心得書ニ署名セシメ且毎年政治始ノ日ニ於テ官吏服務規律ト共ニ之カ誦讀式ヲ行ハシムルコトト爲シ尙各官廳監督官ヲ會同スル毎ニ官紀ヲ守リ品位ヲ保ツニ於テ遺漏ナキ旨ヲ反覆訓達セル結果近來官吏ノ風紀頗ル面目ヲ改メ殊ニ朝鮮人官吏ニ於テ從前ノ如キ放逸ノ風ヲ絶ツニ至レリ

### 第三節 行政區域ノ整理及職員ノ配置

明治三十九年保護制度施行當時ノ韓國地方制度ハ全國ヲ分チテ漢城府及十三道トシ更ニ各道ヲ通シ一牧三府及三百四十一郡ニ分チ道ニ觀察使牧ニ牧使府ニ府尹郡ニ郡守ヲ置キ別ニ開港地ニハ監理ヲ置キタリ而シテ此等官吏ノ職務ハ各官制ニ依リテ定メラレタリト雖多クハ空文ニ歸シ勸業教育土木衛生等ノ地方政務ハ一モ實績ノ見ルヘキモノナク中央政府ハ此等官吏ニ對

シテ殆ト何等ノ監督ヲ加ヘス租税ノ賦課徴收ニ關シテモ的確ナル規定ヲ設ケス爲ニ諸種ノ弊害百出スルニ至レリ明治三十九年二月統監府開設後地方弊政ノ改善一日モ緩ウスヘカラサルヲ認メ舊韓國政府ヲシテ地方制度調査委員ヲ設ケシメ日韓兩國官吏ヲ任命シテ調査セシメタル結果同年九月地方官官制及關係法令ヲ發布シ第一回ノ整理ヲ行ヒタリ尋テ翌年七月ノ施政改善ニ關スル日韓協約ニ基キ同年十二月更ニ地方官官制ヲ改定シ觀察使ノ權限中兵事司法收税鑛業度量衡等ノ事業ヲ他ニ移屬シ警察事務ハ特ニ内部ニ警務局ヲ新設シテ之ヲ監督セシムルコトニ定メタリ明治四十二年始メテ地方費法及民籍法ヲ制定シ行政區劃モ亦隨時多少ノ改正ヲ加ヘ併合當時ニ於テハ十三道十二府三百十七郡トナレリ

明治四十三年總督府設置ノ際新ニ地方官官制ヲ制定シ財務監督局及財務署ヲ廢シテ之ヲ道府又ハ郡ノ地方廳ニ併セ又理事廳ノ事務ヲ各關係地方廳ニ分屬シ從來農商工部ニ屬セシ種苗場其ノ他地方產業獎勵ニ關スル事務モ亦地方廳ニ移屬シタリ而シテ十三道長官中七名ハ內地人官吏ヨリ任命シ他ノ六名ハ舊觀察使タリシ朝鮮人ヲ以テ之ニ充テ書記ニハ內鮮人ヲ併用シ且各

道ニ朝鮮人參與官一名參事三名ヲ置キ道長官ノ諮問ニ應セシムルコトトセリ府ハ大抵内地人ノ集團地ニ在ルヲ以テ府尹ニハ從來理事官ノ職ニ在リタル者又ハ内地人高等官ヲ任用シ郡守ニハ總テ舊郡守ノ職ニ在リタル者又ハ學識名望アル朝鮮人ヲ任用シ各府郡共ニ諮問機關トシテ朝鮮人參事二名ヲ置ケリ又同官制中ニハ面及面長ニ關スル規定ヲ設ケ面長ハ判任待遇ト爲シ府尹又ハ郡守ノ指揮監督ヲ受ケ行政事務ヲ補助執行スル下級行政機關タルコトヲ認メタリ而シテ中央ニ於テ緊縮ヲ加フルト同時ニ地方行政機關ノ充實ヲ圖リ各道ヲ通シ事務官内地人二十六人通譯官同一人書記内地人二百四十七人朝鮮人二百四人計三百五十一人技師内地人六人技手同七十二人府郡ヲ通シ事務官内地人三人通譯官同一人書記通譯生内地人八百十一人朝鮮人一千二百十一人計二千二十二二人ヲ配置シタリ尋テ明治四十四年及同四十五年ノ兩回ニ亘リ更ニ地方廳ノ増員ヲ圖リ各道ヲ通シ事務官内地人十三人書記内地人四十三人ヲ増配シ又道技師及技手ハ別ニ定員ヲ設ケス豫算定額内ニ於テ之ヲ置クヲ得ルコトトセリ

從來府郡ノ區域ハ其ノ廣狹ニ甚シキ差異アリテ大ナルモノハ數百方里ニ亘

リ小ナルモノハ數方里ヲ出テス從テ其ノ戶口數モ亦甚シク權衡ヲ失セルヲ以テ交通及經濟上ノ關係ヲ考查シ之ヲ分合整理スル爲併合以來慎重ナル調査ヲ重ネシカ大正三年三月ニ至リ漸ク之ヲ實行スルヲ得其ノ結果郡數ニ於テ九十七ヲ減シ道界ニ於テモ多少ノ變更ヲ加ヘタリ之ト同時ニ地方職員ヲ適當ニ按排シ尙同年四月府制市街地稅令煙草稅令等ノ施行ニ伴フ必要上書記内地人三十六人朝鮮人四十人ヲ増員シテ關係府郡ニ配置シ府事務官ハ明治四十五年四月一旦之ヲ廢止シタレトモ大正三年四月ニ至リ再之ヲ復活シタリ將來ニ於テモ尙地方行政區劃ニ變更ヲ加フル必要ヲ生スヘキモ行政吏員ノ數ハ其ノ事務ノ繁劇ヲ加フルニ隨ヒ漸次之カ増加ヲ見ルニ至ルヘシ尙濟州島及鬱陵島ハ從來郡守ヲシテ管轄セシメタルモ交通上不便多キヲ以テ大正四年四月別ニ島司ヲ置キ郡守及警察署長ノ職務ヲ行ハシムルコトトセリ

#### 第四節 面ノ整理

府郡ノ下ニ在ル面ノ區域ハ併合ノ際總テ舊ニ依ルコトト爲シタルカ是亦大



小不同一シテ最大ナルモノハ面積一百七十餘方里ニ亘リ内地ノ一府縣ヲ超  
エ最小ナルモノハ僅ニ一方里ノ三分ノ一ニ足ラス其ノ戶數ニ就テ見ルモ多  
キハ七千餘戶ニ及ヒ少キハ九十戶ヲ出テス是ヲ以テ府郡ノ分合ヲ行フト同  
時ニ大約戶數八百面積四方里ヲ標準トシテ之ヲ整理シ總數四千三百二十二  
面ノ中一千八百一面ヲ減シテ二千五百二十一面ト爲セリ面吏員ノ整理及監  
督ニ關シテハ併合以來漸次周到ヲ加ヘ從來公錢領收員守直執綱有司領座其  
ノ他地方ニ依リ種種ノ名稱ヲ付シタル吏員アリタレトモ漸次之ヲ廢止シ面  
長・面書記・洞里長・面主人・面下人ノ外ハ止ムヲ得サル場合ノ外之ヲ設クルヲ許  
サス且其ノ給與ノ標準ヲ一定シ面事務ノ指揮監督ニ關スル準則ヲ定メ以テ  
公私混淆ノ弊ヲ除クコトニ努メタリ

面ノ財務ニ關シテハ舊韓國政府時代ニ於テハ何等據ルヘキ規準ナク面職員  
ハ面民ヨリ隨意金品ヲ徵收シ其ノ間弊害少カラサリシヲ以テ併合後ハ無名  
ノ徵收ヲ避ケシムルト共ニ面費ノ節約ヲ圖リ面民ノ負擔ヲ輕減セシムルノ  
方針ヲ採リ府尹郡守ヲシテ道長官ノ認可ヲ經テ面費負擔及支出ノ方法ヲ定  
メシメ更ニ大正二年三月總督府令ヲ以テ面經費負擔方法ヲ定メ面賦課金ト

シテ賦課シ得ヘキ種目ヲ戶別割地稅附加金ノ二トシ戶別割ハ一戶三十錢以內地稅賦課金ハ平安南<sup>ノ</sup>北道咸鏡南<sup>ノ</sup>北道ニ在リテハ本稅一圓ニ付八十錢以內其ノ他ノ各道ニ在リテハ本稅一圓ニ付五十錢以內ヲヘ限課率トシ特別ノ種目ヲ設ケ又ハ制限外賦課ヲ爲サムトスル場合ニハ道長官ノ許可ヲ受ケシムルコトトシ道長官ハ是等ノ許可ヲ與フルニ際シテハ豫メ總督ノ承認ヲ受クヘキコトトシ以テ負擔ノ自然膨大ヲ防止シタリ尙以上ノ制限課率ハ面廢合竝地稅ノ増徴ニ伴ヒ一層緊縮ノ要ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ大正三年三月地稅附課金課率ヲ平安南<sup>ノ</sup>北道咸鏡南<sup>ノ</sup>北道及江原道ニ在リテハ本稅一圓ニ付四十錢以內其ノ他ノ各道ハ二十錢以內ニ改正シ大正三年度ヨリ之ヲ實施セリ又前掲面經費負擔方法ノ制定ト同時ニ面財務取扱心得ヲ發布シ以テ面ノ歲入歲出豫算決算ノ方法ヲ定メ又現金ハ郵便局所若ハ銀行ニ預入レシムルヲ原則トシ特殊ノ事情ノ爲ニ預入ヲ爲シ難キモノハ府尹郡守ノ許可ヲ受ケシメ又出納上備フヘキ帳簿ノ種類ヲ定メテ面經費經理ノ方法ヲ明ニシ尙面經費以外ノ協議費支出ヲ廢止セシメ之ト同時ニ面職員ノ定員竝給與ヲ制限シ歲入歲出相俟ツテ面費ノ節約ヲ期シツツアリ其ノ結果面費ニ關スル負擔

ハ之ヲ併合當時ニ比シ著シク減額セララルルニ至レリ  
面ハ現時單ニ最下級ノ行政區域タルニ止マリ自ラ一般的ニ公共事業ヲ經營  
スルノ能力ヲ有セスト雖其ノ中地方ニ依リテハ舊韓國政府時代ヨリ財産ヲ  
所有スルモノアリ是等ノ財産利用上必要ナル行爲ハ元ヨリ之ヲ認メサルヲ  
得ス又輓近墓地規則ノ如キ法令ニ依リ或ル種類ノ事業ニ限り面ヲシテ經營  
セシムルコトヲ認メタルモノアリ又面ヲシテ地方ニ模範ヲ示サシムルト共  
ニ面財源ノ涵養上小規模ノ殖林ヲ爲サシムルカ爲國有山野無代讓與ノ途ヲ  
開キ既ニ幾多ノ面ニ於テハ其ノ實行ニ著手セルモノアリ其ノ他併合以前ニ  
於テモ共同ノ費用ニ依リ道路橋梁等其ノ地方ノ公共事業ヲ經營セシ慣例ア  
リ又現在ニ於テモ苗圃等ヲ經營セルモノアリ故ニ事實ニ於テハ面モ亦今  
日極メテ狹小ナル目的ノ範圍内ニ於テハ地方團體ニ近キ性質ヲ有セリ故ニ  
將來適當ノ時機ニ於テ其ノ法人格ヲ認メ以テ事業能力ヲ賦與シ地方ノ開發  
ニ資セシメムトス又洞里ニシテ從來財産ヲ所有スルモノ尠カラス然レトモ  
往往ニシテ其ノ管理ノ方法ヲ誤リ又ハ收入ノ費途適當ナラサルモノアリシ  
ヲ以テ其ノ準則ヲ示シ道長官ヲシテ管理ノ方法ヲ定メシムルト共ニ收益ハ

總テ面費ニ收納シ又ハ公共ノ費用ニ充當セシメ以テ其ノ利用ノ増進ヲ圖リ  
ツツアリ

## 第五節 新府制ノ施行

朝鮮ニ於ケル本邦在留民ハ初メ日本人會又ハ居留民會等ヲ組織シ必要ナル  
公共事務ヲ處理シタリシカ明治三十八年居留民團法施行セラルルヤ京城仁  
川・釜山・平壤・鎮南浦・群山・木浦・馬山・元山・大邱及新義州ニ於テハ相次テ居留民團  
ヲ組織シ教育衛生・土木・救助等ノ事務ヲ處理スルコトトナリ其ノ他ノ内地人  
集團地ニ於テモ明治四十二年學校組合令發布以來漸次日本人會ノ組織ヲ學  
校組合ニ改メ教育並衛生事務ヲ處理スルニ至レリ又居留民團ノ外仁川・鎮南  
浦・群山・木浦・馬山及城津ニハ各國居留地アリ仁川・釜山及元山ニハ支那專管居  
留地アリ一定ノ地域ヲ限リ其ノ地域内ノ行政ハ各國居留地ニ在リテハ當該  
地方官各國領事及永代借地人代表者ヨリ成レル居留地會支那居留地ニ在リ  
テハ當該領事官之ヲ執行セリ此等ノ行政機關ハ併合ト同時ニ整理スヘキモ  
ノナリシト雖當時俄ニ之ヲ廢シテ一般ノ地方行政區域ニ編入スルヲ得サル

事情アリシヲ以テ暫ク其ノ存在ヲ認メ各般ノ調査ヲ行フト同時ニ關係諸外國ト協商ヲ遂ケ大正三年四月一日ヨリ此等ノ諸制度ヲ撤廢シテ府制ヲ施行シ内鮮人ハ勿論舊居留地内ニ居住スル外國人ヲモ一般行政ノ下ニ統轄スルニ至レリ

府ノ行政ハ府尹之ヲ擔任シ尙諮問機關トシテ協議會ヲ置キ恒産ヲ有シ府ノ實情ニ通シ常識ニ富ミ名望識見アル人材ヲ舉ケ協議會員ニ選任シ府ノ施設ヲシテ其ノ地方ノ實狀ニ適應セシムルニ於テ遺憾ナカラムコトヲ期シタリ府ノ發達ヲ計リ府住民ノ福利ヲ増進スルニ必要ナル事業ハ皆府ノ經營ニ俟ツヘキヲ以テ府行政ノ將來ハ極メテ多端ナルヘク常ニ民度ト財力トニ鑑ミ緩急宜ヲ制スルヲ要ス目今ニ於ケル府ノ事業ハ公共的施設中水道下水道汚物掃除避病院墓地ノ如キ都市生活ノ安全ヲ期スル上ニ於テ必要缺クヘカラサルモノアリ又市街ノ改良道路ノ改修公園感化救濟等ニ關スル事業モ漸次完成ヲ圖ラサルヘカラス之カ爲ニ多額ノ經費ヲ要スヘキハ勿論ナリ而シテ府ノ經費ハ使用料手數料財産收入等ヲ以テ之ヲ支辨スルヲ本則トシ尙足ラサルトキハ府稅ヲ徵收シテ之ニ充ツルヲ得ルコトトセルモ使用料手數料ノ

如キハ財源トシテ殆ト云フニ足ラス財産其ノ他ノ收入亦豊富ナラサルヲ以テ勢ヒ止ムヲ得ス府税ニ財源ヲ求メ又ハ起債ヲ以テ其ノ急ニ應シツツアリ然レトモ此ノ如キハ永久ノ得策ニ非サルヲ以テ府ノ財政計畫ニ於テハ基本財産ノ造成其ノ他財力ノ充實ヲ圖リ府税ノ賦課ニ付テハ内鮮人ヲ通シ公平ニ且成ルヘク容易ニ徴收シ得ヘキ税種ニ付確實ナル調査ヲ遂ケ以テ各府ノ財力ニ應シ適切ナル税制ヲ定メシメムトス

## 第六節 地方費

舊韓國政府時代ニ於テハ殆ト助長行政ナルモノナク地方ニ於ケル公共事務ハ概ネ閑却セラレタルニ拘ラス種種ナル名目ノ下ニ賦課ヲ爲スノ例アリ地方事業ナクシテ地方税ノミ存スルカ如キ奇觀ヲ呈シタリ明治四十二年統監府ハ舊韓國政府ヲシテ地方費法ヲ制定セシメ從來ノ弊害ヲ矯正セムコトヲ期シタリ併合以後ニ於テモ地方公共事業ヲ舉ゲ政府ノ施設ニ俟タムトスルハ國家財政ノ許ササル所ナルヲ以テ該法ノ存續ヲ認メ従前ノ税目ヲ踏襲シ當分新設又ハ増率ヲ行ハサルノ方針ヲ採リ整理又ハ統一上必要アルモノニ

限り改正ヲ行フニ止メタリ而シテ併合以來改正ヲ行ヒタル重ナルモノヲ舉クレハ從來各道屠場ノ稅率ヲ異ニセルヲ改メ其ノ最高率一圓五十錢ヲ程度トシ低率ナル各道ニ對シテハ特ニ稅率ノ改正ヲ認可シ又大正三年度ヨリ市街地稅令實施ノ結果其ノ施行地域ニ對シテハ市街地稅附加稅ヲ設ケシメ隨テ從來京城府ニ於テノミ其ノ徵收ヲ認メタル土地家屋所有權取得稅及抵當權取得稅ヲ廢止セシメタル等ナリトス

地方費賦課金ハ併合以前ニ在リテハ其ノ收入確實ナラス往往豫定ノ實收ヲ見ル能ハサリシカ併合以來新政ノ普及ト共ニ漸次確實トナリ年年十數萬圓ノ増加ヲ見ルニ至リ併合以前ニ在リテハ其ノ收入總額六十萬圓ニ滿タサリシモノ今ヤ一百萬圓以上ヲ算スルニ至リ之ニ國庫補助金ヲ加フルトキハ全土ヲ通シテ一億四十萬圓ニ上ルヘキモ未タ内地ノ大ナル一府縣ノ歲入額ニモ及ハス之ヲ各道ニ分ツトキハ一道平均僅ニ十數萬圓ニ過キサルヲ以テ緊要ナル施設モ容易ニ之ヲ實施スルヲ得ス地方開發上財源ノ不足ヲ感スルニ依リ一面民力ノ増進ヲ圖ルト共ニ之カ資源ヲ講究スルノ要アリ殊ニ現在歲入額ノ約半額ハ國庫補助金ナレトモ補助金ノ如キハ固ヨリ永久的財源ト見

ルヘカヲサルヲ以テ漸次自給ノ途ヲ講スルト共ニ之カ整理ヲ圖ルコト亦必要ナリトス

併合以來大正三年度ニ至ル四箇年間ニ於テ地方公共事業ノ爲支出セル地方費ノ金額ハ總計八百二萬餘圓(内國庫補助金四百二十三萬四千圓)ニシテ之ヲ細別スレハ勸業費二百一萬四千餘圓(内國庫補助金一百一十一萬圓)土木費三百二十四萬五千餘圓(内國庫補助金一百三十二萬五千圓)教育費二百四十萬五千餘圓(内國庫補助金一百七十八萬三千圓)衛生費三十五萬六千餘圓(内國庫補助金四萬三千圓)ニシテ其ノ金額敢テ多大ナラスト雖其ノ施設ハ地方公共事業ノ各般ニ涉リ效果頗ル見ルヘキモノアリ各事業ノ概要ヲ述フレハ勸業ニ在リテハ普通農事灌漑養蠶畜產水產殖林機業製紙其ノ他地方産業ノ殆ト全般ニ涉リテ其ノ助長ヲ圖リ又道路橋梁及港灣ノ新築修繕ヲ行ヒ夫役ニ依ル道路工事ニ對シテハ上工器具ヲ配付シテ其ノ事業ヲ幫助スル等主トシテ交通運輸ノ便ヲ圖リ河川堤防ヲ修築シテ治水ノ法ヲ講シ尙普通教育ノ普及ヲ圖ルノ外農業又ハ商業ニ關スル實業學校ヲ經營シ更ニ屠畜ノ検査種痘ノ施行飲料水ノ改良下水ノ排除隔離病舎ノ新築等衛生上ノ施設ヲ爲シ地方開發



上ニ貢獻セル所鮮小ニ非サルナリ

## 第七節 臨時恩賜金事業

韓國併合ニ際シ我カ 天皇陛下ハ特ニ國帑一千七百三十九萬八千圓ヲ下賜シ給ヒ之ヲ府郡ニ配與シテ授産教育及凶歉救濟ノ資ニ充テシノ給ヘリ而シテ此ノ恩賜金ノ分配及管理活用ノ方法ニ關シ本府ニ於テ細密ナル講究ヲ遂ケタル結果分配ニ關シテハ京城府ハ恒産ナキ兩班儒生甚多キニ依リ特ニ一百萬圓ヲ配與シ其ノ他ノ府郡ニハ平均五萬圓トシ其ノ内二萬五千圓ハ平均割ヲ以テ殘額二萬五千圓ハ人口割ヲ以テ配與スルコトニ定メ其ノ管理ハ道長官ヲシテ之ニ當ラシメ事業ノ種類及經理ノ方法竝豫算ニ關シテハ本府ノ認可ヲ受クヘキモノトシ資金ノ元本ハ之ヲ費消セス基金トシテ永遠ニ傳ヘ年々利子ヲ以テ事業ヲ施設シ以テ士民ヲシテ恆久ニ至仁ノ皇澤ニ浴セシムルノ方針ヲ採リ利子使用ノ標準ハ授産ニ十分ノ六、教育ニ十分ノ三、凶歉救濟ニ十分ノ一ト定メ地方ノ事情ニ應シ從來素地アル事業若ハ最其ノ地方ニ適應スル事業ヲ選擇シテ專ラ實效ヲ舉クルノ旨趣ヲ以テ明治四十四年度ヨリ

各道共ニ事業ノ實施ヲ見ルニ至レリ各事業ノ經過及將來ノ計劃ヲ舉クレハ  
大要左ノ如シ

(一) 授産事業

授産事業ノ重ナルモノハ養蠶・農業・機業・製炭・製紙・製麻及水産等ニ關ス  
ル傳習實業教師ノ配置・農蠶・林業・畜産・水産及各種工業ニ關スル種苗器  
具材料ノ配付等ニシテ傳習所ノ數ハ各種類ヲ通シ明治四十四年度ニ  
於テ一百八十六箇所其ノ生徒數二千五百十二人・大正元年度ニ於テ一  
百三十八箇所其ノ生徒數二千六百七十一人・大正二年度ニ於テ一百三  
十六箇所其ノ生徒數二千七百五十六人・大正三年度ニ於テ一百三十六  
箇所其ノ生徒數二千二百七十九人以上生徒數通計一萬二百三十八人ニ  
達シ此ノ外短期簡易ノ傳習亦到ル處ニ行ハレ其ノ傳習ヲ受クル者毎  
年數千人ヲ算シ而シテ是等傳習ヲ受ケタル者ハ今ヤ出テテ其ノ履修  
事項ヲ實地ニ應用シ種苗配付等ノ施設ト相俟テ地方産業ヲ改良シ若  
ハ新ニ物産ヲ興セル等顯著ナル效績アルヲ認ム

(二) 教育事業

### (三) 凶歉救濟事業

教育事業ハ主トシテ普通學校ノ設立維持ヲ圖ラシムルヲ以テ方針ト爲シ從來教育ニ充ツヘキ金額ハ已ムヲ得サル事情ニ依リ特ニ私立學校等ニ補助スル必要アルモノノ外總テ之ヲ公立普通學校ノ設立又ハ維持ニ對スル經費ニ補助シツツアリ而シテ現ニ此ノ補助ヲ受クル公立普通學校ハ三百八十校ニ及ヒ又此ノ補助ニ依リ公立普通學校ヲ設立スルニ至リシモノ大正三年度迄ニ二百八十一校ニ達セリ

凶歉救濟ニ關シテハ旱魃又ハ水害等ノ爲救濟ノ必要アル場合ニ於テ種穀ノ給與其ノ他生業ヲ扶助スヘキ方法ヲ採ラシムルト共ニ救助ヲ濫施スル弊ナキヲ期セリ而シテ毎年度凶歉救濟費ニ充ツヘキ金額ハ約八萬七千圓ナルカ既往支出ノ實況ニ依レハ比較的救濟ヲ要スルコト多カリシ年度ニ在リテモ其ノ支出額一萬圓ニ過キスシテ年年其ノ大部分ヲ餘シ大正三年度迄ニ既ニ約三十五萬圓ノ剩餘額ヲ生シタルヲ以テ將來相當ノ時機ニ於テ本費ニ關シテハ府郡別ノ經理ヲ廢シ之ヲ道ニ統一シ 明治天皇及 昭憲皇太后崩御ノ際下賜セラレタル朝

鮮恩賜罹災救助基金ト相俟テ救濟ノ目的ヲ遂クルニ遺憾ナカラシメ  
ムトス

## 第八節 學校組合

從來朝鮮ニ於ケル内地人教育ハ居留民團所在地ニ在リテハ居留民團其ノ他  
ノ地方ニ在リテハ學校組合之ヲ經營シ來リシカ大正三年四月府制ノ施行ニ  
伴ヒ學校組合令ヲ改正シ舊居留民團所在地タル府ノ區域ニ於テモ亦内地人  
教育ニ關スル學校組合ヲ組織セシメ全土ヲ通シテ其ノ制ヲ統一セリ  
内地ヨリ來ル移住民ノ第一ニ要望スル所ハ其ノ子弟ヲ教育スヘキ小學校ノ  
設備ニ在リ學校組合ノ事業ハ少數ノ組合ニ於テ高等女學校及實業學校ヲ經  
營スルモノノ外總テ小學校ノ維持經營ニ在リ而シテ一小學校ノ經費ハ單級  
小學校ニ於テモ尙少クトモ一千圓ヲ下ラサルカ故ニ之ヲ組合ノ獨力ヲ以テ  
經營セシメムトセハ到底組合員負擔力ノ堪フル所ニ非サルヲ以テ從來若干  
ノ設備新營費ノ外一名ノ教員給ニ相當スル額ヲ補助シ來レリ此ノ種ノ補助  
ハ多數ノ組合ニ在リテハ今後ト雖尙缺クヘカラサルモ來住内地人ノ數增加

スルニ從ヒ組合ノ財力増加スヘキヲ以テ教員給ノ如キ經常費ノ補給ハ漸次其ノ必要ヲ見サルニ至ルヘシ只市邑ニ於ケル内地人ノ増加ハ頗ル急速ニシテ負擔力ノ増加之二件ハサルヲ以テ當分ノ間相當ノ補助ヲ與フルハ現時ノ狀況ニ在リテ亦止ムヲ得サル所ナリ

從來學校組合ハ教育事務ノ外附帶事業トシテ衛生事務ヲ處理スル權限ヲ有シタレトモ改正組合令ニ於テハ專ラカヲ教育事業ニ注カシムルノ方針ヲ採リ只從來屠場・水道・火葬場・墓地等ヲ經營シ來リタル組合ニ對シ俄ニ之ヲ廢止ヲ命スルトキハ住民ニ著シキ不便ヲ感セシメムコトヲ慮リ當分其ノ經營ヲ繼續セシメタルモノアリ然レトモ將來之ニ代リ適當ナル經營ヲ爲スヘキモノアルニ至リ又ハ組合財政ニシテ此ノ種事業ノ經營ヲ必要トセサルニ至ラハ直ニ之ヲ廢止セシメムトス

## 第九節 水利組合

從來朝鮮ニ於ケル水利事業ハ概ネ政府直接ノ施設カ又ハ民間有資力者ノ經營ニ係リ利害關係ヲ有スル土地所有者ノ共同經營ニ屬スルモノハ殆ト稀ナ

リシカ明治三十九年水利組合條例ノ發布以來忠清南道全羅北道及慶尙南道地方ニ於テ水利組合ヲ設ケタルモノ八箇所其ノ工費總額一百十八萬二千餘圓灌漑面積合計一萬二千餘町步ニ及ヒ大體ニ於テ好成績ヲ收メツツアルハ産業開發上注目スヘキ現象ナリトス但タ此等組合ノ理事者ハ多クハ未タ公共組合ノ事務ニ熟練セサルヲ以テ事務ノ處理充分ナラサルカ故ニ暫ク政府ノ指導監督ヲ要スルモノアルヲ認ム

## 第十節 社 還 米

社還米ノ制度ハ高句麗朝ニ濫觴シ爾來軍糧ニ供スル目的ヲ以テ官ニ於テ穀物ヲ貯藏シ其ノ一部ヲ人民ニ賑貸セリ高麗朝ニ於テハ人民共同ノ貯穀ヲモ見ルニ至リシカ李朝ニ至リ民穀ニ關スル制度漸次廢絶ニ歸シ官穀ノミトナリ之ヲ還穀ト稱シタリ爾來其ノ貸與上偏頗ニ流レ或ハ回收ノ方法往往苛酷ニ失スルノ弊害ヲ生シタルヲ以テ明治二十八年舊韓國政府ニ於テ現行社還條例ヲ制定シ各道所在ノ還穀ヲ社還ト改稱シ之ヲ各面ニ分置シ面ノ公穀トシテ窮民賑貸ノ用ニ供セシメ其ノ管理運用共ニ面ノ自治ニ任セリ然レトモ

該條例ノ實施モ未タ充分ニ其ノ效果ヲ舉クルニ足ラスシテ從來ノ弊竇ヲ絶ツニ至ラス舊宮内府ノ官吏カ咸鏡北道ノ一部及平安南北兩道ノ各郡ニ於ケル貯穀ヲ收捧シ又間島管理李範允カ日露戰役中擅ニ咸鏡北道數郡ノ貯穀ヲ露軍ニ給與シタルカ如キ貯穀ノ目的ニ反スルノ措置ヲ見ルニ至リ貯穀モ亦著シク其ノ數量ヲ減シ殊ニ韓國併合ノ際明治四十二年以前貸付ノ社還米約五萬石ヲ特免セラレタル結果慶南・黃海・平南・平北・咸北ノ五道ニハ全ク其ノ跡ヲ絶チ又當時ノ三百二十九府郡ノ内之ヲ存スルモノ一百十九府郡ニ過キサ  
ルニ至レリ然レトモ其ノ殘存額ハ全體ヲ通シ米一萬九千一百五十六石・糠一  
千五百三十九石・麥二千五百六十三石・大豆二百四十五石・粟二百八十二石ニ達  
スルニ依リ之カ保全及利用ニ關シ注意ヲ拂フノ必要アルヤ言ヲ俟タス然ル  
ニ社還米ニ關シテハ尙昔日ノ餘弊ヲ存シ特ニ貸付及回收方法不完全ナル爲  
回收不能ノモノヲ生シ且品質年ト共ニ粗惡ニ流ルル傾向アルヲ以テ其ノ貸  
付及回收上特ニ注意スヘキ要項即チ(一)回收ノ見込ナキ者ニハ貸付セサルコ  
ト(二)貸付ノトキハ證書ヲ徴シ且信用アル者二人以上ノ保證人ヲ立テシムル  
コト(三)規定ノ利子ヲ付スルコト(四)一人當貸付制限ヲ定ムルコト(五)回收期限

ハ次期收穫期ヲ超エサルコト(六)回收ノ際ハ品質及數量ヲ嚴査スルコト等ヲ指示シ且同時ニ之ニ對スル監督ノ勵行ヲ促シ以テ其ノ管理ノ確實ヲ期シ又社還米常時貸出ノ必要ナキ地方ニ在リテハ之ヲ賣却シテ金員ト爲シ且其ノ金員ハ必要ニ依リ細民ノ農業資金ニ對シ貸出ヲ爲シ得ルモノトシ以テ其ノ管理及運用ノ便ヲ圖レリ

社還米ノ舊慣ハ之ヲ存續スルモ可ナリト雖凶歉救濟基金及罹災救助基金ノ設置アル今日貯穀賑貸ノ必要ナキニ至レルヲ以テ將來適當ノ時機ニ至リ之ヲ救助基金ニ編入スルカ或ハ直ニ之ヲ面ノ所有ニ移シ其ノ基本財産若ハ有益ナル事業資金ト爲サシメムトス

### 第十一節 勤儉貯蓄ノ獎勵

朝鮮ノ人民ハ古來秕政ノ結果自ラ遊惰放逸ノ弊風ヲ馴致シ相率井テ勤勉力行ノ氣象ヲ失フニ至レルヲ以テ併合後ハ有ラユル機會ヲ利用シ勤儉貯蓄ノ風習ヲ鼓吹スルニ努メタリ司法及警察機關ノ普及ニ伴ヒ一般ニ生命財産ノ安固ヲ得タルト時勢ノ推移ニ從ヒ生計ノ向上ヲ求メムトスル希望ト相俟テ



漸次良好ノ結果ヲ見ルニ至リ常業以外ニ養蠶・養鷄・養蜂・養豚・製紙・機織・果樹栽培其ノ他諸種ノ副業ニ従事スル者續出シ之ト同時ニ收益ノ幾分ヲ貯蓄スル者次第ニ多ク加ヘ大正三年末ニ於ケル貯蓄及副業稷又ハ組合ノ數ハ全土ヲ通シテ六千六百餘其ノ人員八十萬餘人其ノ貯金額八十七萬餘圓ニ上リ又大正三年度末朝鮮人郵便貯金ハ一百十三萬餘圓其ノ人員五十四萬ヲ超エ之ヲ無爲徒食一錢ノ貯蓄ナカリシ昔日ニ較フレハ隔世ノ感アルヘシ依テ將來益此ノ美風ヲ獎勵助長スルト同時ニ貯金ノ保管及利用上遺憾ナキヲ期セムトス

## 第三章 警察

### 第一節 警務機關

舊時ニ於ケル朝鮮警務機關ハ中央ニ左右捕盜廳ノ設置アリシモ地方ニ在リテハ觀察使治安ノ維持ニ膺リタルニ過キス所謂警察制度ト稱スヘキモノハ明治二十七年捕盜廳ヲ廢シテ警務廳ヲ置キ京城府内ニ於ケル警察及監獄ノ事務ヲ掌ラシメ其ノ下ニ五箇所ノ警察署ヲ設ケ又各道觀察廳ニ警察官ヲ置キテ警察事務ヲ擔任セシメ尙各開港場ニ警察署ヲ置キタルニ始レリ爾後屢制度ニ變更ヲ加ヘタルモ其ノ實績ノ觀ルヘキモノナカリシヲ以テ舊韓國政府ハ全土ニ於ケル警務刷新擴張ヲ圖ラムカ爲明治三十八年本邦ヨリ警察顧問ヲ傭聘セリ該顧問ハ明治三十八年二月我外務省ノ仲介ニ依リ舊韓國政府ト傭聘契約ヲ締結シ先ツ日本ヨリ警部七名ヲ聘用シテ之ヲ警務廳及漢城五警務署ニ配置シ專ラ韓國人警察官ヲ指導シ舊來ノ積弊ヲ一洗シ道路衛生等ニ關スル警察ヲ更張シ刑事被告人ノ拷問・罪囚ノ待遇等ヲ改善シ漸次經費ノ許ス範圍内ニ於テ日本人警視警部・巡查ヲ増聘シテ顧問部附トシ其ノ職務ヲ

幫助セシムル傍韓國人警察官ノ教養ニ努メ又地方ニ對シテハ各道觀察府ニ  
警務顧問補佐官ヲ置キ日本警察官吏ヲ配置シテ之ニ充テタリ

統監府設置後明治三十九年六月第一期警察擴張ヲ實行シ各道觀察府所在地  
ニ警務顧問支部ヲ設置シ其ノ下ニ全國ヲ通シテ二十六箇所ノ分遣所ヲ設ケ  
更ニ之ヲ細劃シテ一百二十二箇所ノ分派所ヲ置キ之ニ日本人警視十一人警  
部二十六人・巡查五百二十人ヲ配置スルコトトシ此等日本人警察官ハ各補佐  
官・補佐官・補及補助員ノ名義ヲ以テ全道ノ警察事務ヲ執行シタリ又韓國人警  
察機關ハ全國ヲ通シテ警務署十三箇所・警務分署二十六箇所・分派所一百二十  
二箇所ヲ置キ警務官十三人・總巡二十六人・巡檢二千七百餘人ヲ之ニ配置セリ  
此ノ警務署・警務分署及分派所ハ事實ニ於テ顧問支部分遣所及分派所ト異名  
同體ニシテ相表裏セルモノニ過キス尋テ明治四十年七月新協約ニ依リ日本  
人ヲ舊韓國官吏ニ任用スルコトトナリタルニ依リ前記顧問部員ハ擧ケテ舊  
韓國政府ニ任用セラレ顧問警察制度ハ茲ニ終ヲ告ケタリ此ノ機ニ於テ更ニ  
第二期ノ警務擴張ヲ圖リタル結果同年十月ニ於テハ警察職員數日本人警視  
二十二・人・警部七十八・人・巡查一千二百餘人・韓國人警視以下三千餘人ニ上リタ

リ以上ノ外尙本邦在留民ヲ管轄保護スヘキ舊韓國駐在日本警察官ハ五百餘人ヲ算セシカ彼我警察事務ノ統一普及ヲ圖ラムカ爲日本警察官ヲ廢止シテ舊韓國警察ニ合併シ在韓帝國臣民ニ關スル警察事務モ亦日本人韓國警察官ヲシテ當該上級帝國官憲ノ指揮監督ヲ受ケテ執行セシムルコトト爲セリ尋テ明治四十一年地方官官制ノ一部ヲ改正シ各道ニ警察部ヲ設ケ警察衛生民籍移民ニ關スル事項ヲ管掌セシメタリ但シ漢城府内ノ警察事務ハ事首都ニ係ルカ故ニ特ニ從來ノ警視廳ヲ存シテ之ヲ掌ラシメタリ

是ヨリ先キ帝國政府ハ日清戰役後我カ軍用電信線守備ノ目的ヲ以テ臨時憲兵隊ヲ舊韓國ニ派遣シタリシカ明治三十六年十二月ニ至リ日露ノ國交切迫スルニ及ヒ新ニ韓國駐劄憲兵隊ヲ編成シ駐劄軍司令部ニ屬セシメタリ明治三十七年十月京城ニ駐劄軍司令部ヲ置クニ方リ憲兵隊モ亦其ノ指揮下ニ入りシカ當時一派ノ韓人動モスレハ我カ軍事及外交ヲ阻障セムトスル行動ニ出ツル者アリ之カ防遏ヲ圖ルニハ到底不完全ナル舊韓國警察ニ信賴スル能ハサルヲ以テ當時威鏡道ニ軍政ヲ布ケル外京城及其ノ附近ニ軍事警察ヲ施行スルニ際シ專ラ憲兵ヲシテ其ノ實行ニ當ラシメタリ爾來憲兵隊ハ半島各

地ニ駐屯シ主トシテ電信及鐵道ノ保護ニ當リ且一般ノ警察事務ヲモ執行シ殊ニ暴徒蜂起ノ際ノ如キ全道ノ安寧ハ事實上我カ憲兵隊ニ依テ維持セラレタリト云フモ不可ナシ舊韓國ノ治安維持上憲兵隊ノ效力此ノ如ク大ナリシト雖初ハ其ノ軍司令官ノ指揮下ニ在ル關係ヨリ全然警察トノ聯絡ヲ缺ケル憾アリタルヲ以テ明治三十九年二月勅令ニ依リ舊韓國駐割憲兵ハ軍事警察ノ外行政警察及司法警察ヲ掌リ行政警察及司法警察ニ付テハ統監ノ指揮ヲ受クハキ規定ヲ設ケ又明治四十年十月ノ勅令ニ依リ舊韓國ニ駐割スル憲兵ハ主トシテ治安維持ニ關スル警察ヲ掌リ其ノ職務ノ執行ニ付統監ニ隸シ兼テ舊韓國駐割軍司令官ノ指揮ヲ受ケ軍事警察ヲ掌ルコトトナリ尋テ明治四十一年六月ノ暴徒ノ鎮壓及安寧秩序維持ノ爲前年解散ヲ命シタル舊韓國兵及一般人民中ヨリ憲兵補助員四千人ヲ募集シ八月ヲ以テ其ノ選拔採用ヲ了リタリ此等補助員ハ日本憲兵一人ニ對シ二人乃至三人ヲ配屬シ其ノ指導監督ノ下ニ暴徒ノ搜索民情ノ偵察其ノ他諸般ノ警察事務ニ服セシメタルニ概シテ良好ノ成績ヲ得タリ

斯ノ如ク舊韓國警察ト帝國駐割憲兵隊ト相俱ニ統監ノ下ニ在リテ治安ノ維

持ニ任シタルモ各自其ノ系統ヲ異ニセルヲ以テ共通ノ職務ヲ執行スルニ當リ歩調ノ一致ヲ保ツニ便ナラス往往ニシテ扞格ヲ生スルコトアリ殊ニ匪徒草賊ハ未タ勦滅スルニ至ラス併合ノ議將ニ起ラムトスルノ際一層警務ノ統一敏活ヲ要スルヲ認メ明治四十三年六月舊韓國ノ警察事務ヲ舉ケテ之ヲ帝國政府ニ委託セシメ之ト同時ニ憲兵隊及警察官ヲ合同シ警務總長ニハ憲兵隊司令官タル陸軍將官ヲ各道警務部長ニハ所在憲兵隊長タル憲兵佐官ヲ充テ憲兵警察ヲシテ同一系統ノ下ニ警備ノ任ニ膺ラシムルコトトセリ又新官制ノ實施ニ伴ヒ其ノ配置區劃モ大變革ヲ加ヘ秩序略整頓セル地方殊ニ開港及都市ニハ普通警察官ヲ置キ否サル地方及軍事警察ノ必要アル地方ニハ憲兵ヲ配置シ因テ以テ從來ノ經費ヲ大ニ増加セスシテ警務機關ヲ擴張シ其ノ配置ヲ周密ナラシメタリ明治四十三年十一月末ニ於ケル警備機關ノ配置ハ左ノ如シ

警務機關ノ配置

種別	配	置	警	備	機	關	員	數
----	---	---	---	---	---	---	---	---



斯ノ如ク現在ノ警察官署數ハ警察署憲兵隊署警察分署憲兵分隊及同分遣所ヲ併セ合計二百八十二箇所ニシテ全人口ヲ一千五百萬人トスレハ一警察官署ノ管轄人員ハ平均五萬餘人トナリ之ヲ内地ニ比スレハ尙未タ著シキ逕庭アリ殊ニ内地ニ比シ人口稀薄ナル朝鮮ニ於テハ將來經費ノ許ス限リ益警察機關ヲ完備シ每府郡ニ一警察署又ハ憲兵分隊每面ニ一巡查駐在所又ハ憲兵派遣所ヲ配置スルノ必要アルヲ認ム

又水上警備ニ付テハ明治四十三年警察權委任ノ當時韓國ヨリ承繼シタル警備船ハ石油發動機船十隻ニ過キサリシヲ以テ爾後之カ増加ヲ圖リ現在ニ於テハ汽船九隻石油發動機船十六隻ヲ各地ニ配置シテ海港ノ取締及檢疫漁業ノ保護及取締遭難船ノ救護等ニ當ラシメツツアリ又警備電話線ハ現在亘長八百九十餘里延長一千二百八十餘里ニ及ヘリ此等特種ノ設備ニ付テモ將來益其ノ擴張ヲ圖リ海陸共ニ警備ヲ完カラシメムコトヲ期ス

## 第二節 地方騷擾ノ鎮撫

警察力充分ナラサリシ舊韓國時代ニ於テハ地方民擾ノ頻繁ナル發生ハ殆ト



連年ノ常例タリ就中江原道慶尙北道附近ノ如キハ所謂火賊ノ巢窟ト認メラレ其ノ他ノ各地ニ於テモ無賴不逞ノ徒集團ヲ爲シテ鄉曲ニ横行シ良民ヲ剽掠スルモノ尠カラサリシカ日露戰役後日韓兩國ノ關係漸ク舊態ヲ改ムルニ從ヒ地方ノ儒生兩班等大勢ニ通セサル輩ハ漸次排日ノ氣勢ヲ昂メ中央ニ於ケル政治的陰謀ト氣脈ヲ通シ終ニ明治三十九年五月ニ至リ閔宗植ナル者ヲ首魁トシ忠清南道藍浦ノ郡衙ヲ襲ヒテ郡守ヲ拉去シ更ニ洪州城ヲ占領シ兵器糧食彈藥等ヲ徵發シ勢猖獗ヲ極メタリ是ニ於テ統監ハ軍司令官ニ出兵ヲ命シ步兵二箇中隊及騎兵一箇小隊ヲ派遣シ憲兵及警察官ト協力シテ之ヲ鎮壓セリ更ニ明治四十年七月海牙密使事件ヨリ延イテ韓皇ノ禪讓トナルヤ京城ニ於テ暴動起リ首相李完用ノ邸宅ヲ襲ウテ之ヲ燒キ拂フニ至レリ尋テ新協約ノ締結舊韓國軍隊ノ解散トナルヤ八月一日南大門附近ノ兵營ニ在リタル侍衛隊ノ一部武器ヲ携ヘテ營外ニ逸出シ我カ軍隊ニ抵抗シ步兵二箇中隊及若干ノ工兵ヲ以テ之ヲ鎮撫スルアリ餘波全國ニ及ヒテ竟ニ地方民擾ノ續起ヲ致セリ蓋シ此ノ次ノ暴動ハ排日思想ノ實現ニ兼ヌルニ解散兵丁ノ憤起スルアリ鄉閭不良ノ輩火賊小匪ノ類亦此ノ機ニ乘シテ相呼應スルノ狀アリ

是ニ於テ一方ニ於テハ警察官及憲兵ヲ増加シ且漸次守備隊ノ配置ヲ密ナラシメ他方ニ於テハ銃砲火藥類ノ取締及出版結社ノ取締ヲ嚴ニシ以テ此等騷擾ノ鎮壓ニ努メタル結果明治四十二年ノ終ニ於テハ暴動漸ク其ノ勢ヲ減シ多キモ二十名以上ノ集團ヲ爲セルモノナキニ至リ更ニ明治四十三年七月警務機關ヲ統一シ其ノ行動ヲ敏活ニシ且其ノ配置ヲ周密ナラシメタル後ハ殆ト暴動ノ跡ヲ絶チ明治四十四年中總督暗殺ノ陰謀ヲ企ツルモノアリタルモ何等ノ騷擾ヲ見ルニ至ラスシテ止メリ爾來頑冥不靈ノ徒モ時勢ノ推移ニ從ヒ新政ノ惠澤ヲ看取シテ無謀ノ輕舉ニ出ツル者ナク朝鮮全土悉ク平穩ニ歸シ人民ハ安堵シテ常業ニ就クヲ得ルニ至レリ

### 第三節 刑事警察

凡ソ犯罪ノ増減變遷ハ其ノ時代ノ法制警備力人智ノ程度交通ノ便否等種種ノ社會狀態ニ依リ影響ヲ被ムルコト甚大ナリ朝鮮ニ於ケル犯罪ハ併合後諸般ノ法令制度整備シ警察力普及充實シ且交通ノ便ヲ増スニ從ヒ集團的犯罪ニ屬スル暴徒及政治的犯罪者ノ如キハ殆ト屏息シ強盜ノ如キモ漸次其ノ數

ヲ減スルニ至リタレトモ詐欺恐喝・横領等ノ智能的犯罪著シク増加シ從來朝鮮ニ多ク其ノ例ヲ見サリシ拘摸ノ如キモ近來諸所ニ出沒シ且物貨ノ騰貴ト生活程度ノ向上トニ因リ一般ニ生活困難ニ赴キタルト從來輕微ノ被害ハ之ヲ申告セサルヲ常トセシニ近來ハ進テ申告スルニ至リシ事ノ事情ニ依リ竊盜被害事件ノ數ハ甚シク増加ノ傾向アリ而シテ民風ニ多大ノ關係ヲ有スル賭博罪ノ如キハ取締勵行ノ結果實際ニ於ケル犯行ハ其ノ數ヲ減スルニ至リシモ計數上ニ於テハ却テ増加ヲ示セルヲ見ル今警察權委任ノ翌年明治四十四年ニハ犯罪發生件數四萬五千餘同檢舉件數三萬六千餘人員五萬餘人・大正元年ニハ犯罪發生件數七萬二千餘同檢舉件數六萬二千餘人員七萬三千餘人・大正二年ニハ犯罪發生件數八萬餘同檢舉件數六萬八千餘人員八萬九千餘人・大正三年ニハ犯罪發生件數五萬五千餘同檢舉件數四萬三千餘人員四萬七千餘人ニシテ發生件數ニ對スル檢舉ノ成績ハ概ネ良好ナルヲ認ム而シテ此等犯罪中治安上最注意スヘキハ内亂暴動等高等警察ニ屬スル犯罪ヲ除キテハ強盜ヲ以テ重要ナルモノト爲スコトナリトス往時官憲ノ保護完カラサリシ時

代ニ在リテハ集團セル火賊各所ニ出沒シ人民ハ一方ニ於テ官吏ノ苛斂誅求ニ遭ヒ他方ニ於テ此等兇賊ノ迫害ヲ受ケ生命財産ノ安固ハ得テ期スヘカラサル状態ニ在リタリ是ヲ以テ警察權委任後警察力ノ普及充實スルト共ニ極力集團的火賊ノ掃討檢舉ニ努メタル結果輓近ニ至リテハ全ク其ノ跡ヲ絶チ數人共謀ノ強盜犯モ漸次其ノ數ヲ減シ民心漸ク安堵シ如何ナル僻陬ノ地方ト雖旅客貨物等ノ交通ニ何等危險ヲ感セサルニ至レリ然レトモ朝鮮ニ於ケル強盜事件數ハ他ノ犯罪トノ比較上甚多ク大正二年中強盜以外ノ犯罪ニ因ル檢舉人員一千人ニ對スル強盜檢舉人員歩合八十八人〇九強ニシテ之ヲ内地ニ於ケル明治四十四年中ノ歩合一千人ニ對スル一人四〇弱ニ比スレハ著シキ差異アルヲ見ル又強盜ノ犯罪手段ニ於テモ舊韓國時代ノ遺物タル脅迫狀ヲ以テ財物ヲ奪取セムトスル手段ニ依ルモノ未タ全ク跡ヲ絶ツニ至ラス依テ今後一層警戒ヲ嚴密ニシ檢舉ヲ勵行シ以テ此ノ種犯罪ノ剿滅ヲ圖ラムトス又不良土工ノ恐喝取財「チーハ」賭博貨幣偽造等ノ犯罪ニ關シテモ一層ノ努力ヲ以テ取締ヲ厲行シ且其ノ他ノ犯罪ノ變遷増減ニ注意シ能ク時勢ニ適應シテ刑事警察上好成績ヲ舉ケシムコトヲ期ス

#### 第四節 犯罪即決

犯罪即決ニ付テハ明治四十二年十月公布セル韓國ニ於ケル犯罪即決例ノ規定ニ依リ朝鮮人ニ付テハ管刑(管一百)拘留又ハ三十圓以下ノ罰金刑ニ處スヘキ罪內地人ニ付テハ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ罪ニ對シ警察署長ニ於テ即決處分ヲ爲シ來リシカ明治四十三年十二月改メテ内地人及朝鮮人ヲ通シテ適用シ得ヘキ犯罪即決例ヲ公布シ(一)拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ罪(二)三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪(傷害ニ至ラザル暴行ノ罪)(三)三月以下ノ懲役禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政法規違反ノ罪ハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ行フ憲兵分隊及同分遣所ノ長ニ於テ之カ即決處分ヲ爲スコトトナレリ依テ其ノ執行ノ任ニ當ル警察官ニ對シテハ法律上ノ知識ト處分手續ニ關スル技能ノ教養ニ努ムルト共ニ其ノ運用ニ際シ苛察ニ涉ルヲ避ケ能ク事件ノ内容犯人ノ性行及情狀等ヲ斟酌シテ慎重事ニ膺リ法規ノ適用刑ノ量定ニ關シテハ深ク注意ヲ拂ヒ假令犯罪事實アリトモ處

罰ノ實益ナシト認ムルモノニ付テハ訓戒處分ニ付シ一面ニ於テハ法ノ威嚴ヲ示シ取締ノ目的ヲ達スル爲メ必要ニ應シテハ假借ナク制裁ヲ加フル等寬嚴其ノ宜ヲ得ルニ力メシメツツアリ明治四十四年現行規定施行以來大正三年ニ至ル四箇年間ノ即決事件數ハ總數九萬五千七百十三件ニシテ內正式裁判ヲ請求シタルモノハ一百五十六件裁判ノ結果無罪トナリタルモノハ僅ニ三十七件ナリ斯ノ如クニシテ犯罪即決處分ハ治罪ノ方法簡便ナルト處斷迅速ニシテ時日ヲ要スルコト少ク犯罪ニ對スル社會ノ記憶新ナル間ニ於テ處分ノ結果ヲ明カニスル爲懲罰ノ目的ヲ達スル上ニ於テ頗ル良好ノ成績ヲ收メ一般ニ好感ヲ以テ迎ヘラレツツアルト同時ニ微罪ヲ一一裁判所ニ送致スルノ煩ヲ省キ司法事務ノ敏活ヲ助クルノ利アリ朝鮮ノ現狀ニ於テハ最時宜ニ適シタルモノト認ム

## 第五節 民事爭訟調停及執達吏事務

明治四十三年民事爭訟調停ニ關スル制令ニ依リ裁判所所在地外ノ警察署長又ハ其ノ職務ヲ行フ憲兵分隊及同分遣所ノ長ハ二百圓ヲ超過セサル金錢ノ

債權又ハ價額ニ拘ラス住家其ノ他ノ建物若ハ物品ノ引渡又ハ不動産ノ境界等ニ關スル紛争事件ニ付之カ調停ヲ爲スヲ得セシメタリ舊韓國時代ニ於テハ觀察使郡守等カ贈賄權勢及情實等ニ依リ偏頗ナル裁判ノ判決ヲ爲スノ弊ニ堪ヘス正當ノ權利ヲ有スル者モ之ヲ主張スルヲ避ケタル情勢ト其ノ後保護政治時代ニ至リ漸ク裁判ノ嚴正ヲ知ルニ至リシモ手續ノ煩雜ナルト判決ニ長時日ヲ要スルトノ爲寡少ノ債權又ハ輕微ノ權利ヲ有スル者ニシテ之ヲ拋棄スル者尠カラサリシカ本制度施行ノ後ハ其ノ手續簡略ニシテ取扱迅速ナルノミナラス多額ノ費用ヲ要セサルヲ以テ裁判所ニ出訴スルノ煩ニ堪ヘサルカ如キ少額ノ債權者其ノ他ノ争訟者ニ取リテハ頗ル便宜ナリトシ一般ニ其ノ效果ヲ認メツツアリ而シテ之カ運用ニ付テハ調停ノ際斷シテ強制ニ涉ルヲ避ケ當事者雙方ノ主張ノ内容地方ノ習俗其ノ他事件ノ真相ヲ知ルニ力メ以テ雙方ノ主張ヲ尊重シ專ラ圓滿ナル調停ヲ遂クルノ方針ヲ採ラシメツツアリ其ノ結果トシテ調停後ニ於テ之カ履行ニ關シ強制執行ノ手段ニ依ルカ如キコトハ極メテ稀ニシテ債務者ハ進テ其ノ義務ヲ履行スルノ狀況ナリ近來交通機關ノ完備ニ赴クト朝鮮人ノ權利思想發達スルトニ伴ヒ此ノ方

法ヲ利用シテ爭議ヲ解決セムトスル者益増加シ取扱事件數ハ年年著シク増加シツツアリ明治四十四年本制度施行後大正三年末ニ至ル受理件數ハ總計四萬七百四十九件内調停未濟四百四十六件ヲ除キ調停成立一萬八千九百九件取下一萬一千四百五十七件不成立其ノ他九千九百三十七件ニシテ右不成立其ノ他ノ件數中ニハ申請後調停前當事者間ニ於テ私和ヲ爲シタルモノ多數ヲ占ム本制度ハ少額ノ債權者ヲ保護シ其ノ他ノ爭訟者ニ便宜ヲ與ヘ一般人民ノ警察官憲ニ對スル信賴厚ヲ加フルト共ニ益其ノ利用ヲ増加スヘキヲ以テ其ノ局ニ當ル者ヲシテ之ニ關シ深甚ノ注意ヲ拂ハシメ以テ處理ノ公正ヲ保チ一層其ノ效果ヲ發揮セシメムトス

朝鮮ニ於ケル執達吏事務ハ交通ノ不便又ハ經費若ハ人員配置上ノ都合等ニ依リ從來主トシテ警務機關ニ於テ取扱ヒ來リシカ其ノ取扱ニ關シ内地人ニ對スルモノト朝鮮人ニ對スルモノトハ準據スヘキ法規ヲ異ニセシヲ以テ煩雜ノ嫌アリシカ明治四十五年四月民事令施行後ハ總テ同一法規ノ下ニ同一ノ取扱ヲ爲スコトトナリ從前ノ不便ヲ免レタリ尙該事務ハ前記ノ如ク警察官憲ニ於テ之ヲ取扱ヒ居ルノ外費用ノ關係上專務者ヲ置キ得ヘシト認ムル



箇所ニ於テハ漸次之ヲ設置スルノ方針ニシテ現ニ釜山・馬山統營・大邱・鎮南浦等ニ於テ各一名ノ專務者ヲ設ケ之ヲ取扱ハシメ居レリ

## 第六節 消 防

朝鮮ニ於テハ併合前數年迄ハ消防機關トシテ特設セラレタルモノナク併合當時ニ於テモ京城ニ於ケル舊韓國政府警視廳所屬常設消防隊ノ外全土ヲ通シテ僅ニ三十九ノ消防組ヲ數フルニ過キスシテ而カモ此等消防組ノ多數ハ京城・仁川其ノ他ノ開港地及多數内地人ノ居住地ニ於テ在留日本人ノ組織シタルモノニ係リ其ノ他ハ朝鮮人聯合組織ノモノ九組朝鮮人ノミニテ組織セルモノ七組ニ過キサリシカ爾來各地方ノ發展ニ伴ヒ市街地建造物ノ増加ヲ來シ消防施設ノ必要ヲ促スノミナラス地方部落ニ於テモ從來消防ノ設備ヲ缺キシ爲火災時ニ於ケル慘害甚大ナリシ事例ニ鑑ミ當局官憲ノ獎勵ト相俟テ非常ノ發達ヲ爲スニ至リ大正三年十二月末ニハ六百八組ノ多數ニ上レリ而シテ各消防組ノ經費ハ府制施行地ニ於テハ總テ府費支辨ナルモ其ノ他ノ地方ニ於テハ依然寄附金及協議費等ヲ以テ支辨スルニ依リ將來其ノ維持改

善ニ關シ適當ノ方法ヲ設ケシメ尙漸次必要ノ箇所ニ増設ノ途ヲ講シ消防機關ノ普及ヲ圖ラムトス

山林ノ火災ハ警務機關及林務吏員ニ於テ極力豫防警戒ニ努メツツアルニ拘ラス尙其ノ災害尠カラズ殊ニ大正三年ノ如キハ江原道及咸鏡南北道ニ於ケル大森林ニ大火頻發シ其ノ損害一百三十七萬餘圓ノ多額ニ上リシハ洵ニ遺憾トスル所ナリ山林火災ノ原因中多數ハ火田火入トシテ廣漠ナル區域ニ涉ル林野又ノ不始末ニシテ就中火田火入ヲ多シトス而シテ廣漠ナル區域ニ涉ル林野又ハ深山ニ對シテハ警戒取締ヲ周到ナラシムルコト極メテ困難ナルヨリ火災ノ發見意ノ如クナラス出火ノ報道敏速ヲ缺キ又消防方法モ充分ノ效果ヲ奏スルコト至難ナリ依テ大森林ニ延燒ノ虞アル火田ノ火入ハ成ルヘク之ヲ禁止シ其ノ他ノ原因ニ依ル林火モ山間ノ人民ヲシテ各自之ヲ防壓セシムルニ努ムルト同時ニ經費ノ許ス限り多數ノ山林保護吏ヲ配置シテ豫防ニ當ラシムトス

## 第七節 營業其ノ他ノ取締

質屋及古物商ノ取締ニ關シテハ併合以前其ノ規定ナキニ非サリシモ内地人及朝鮮人ニ對シ區區ノ取扱ヲ爲シ且不備ノ點尠カラサリシカ此等營業者ノ數ハ漸次増加シ來リ明治四十四年末ニ於テハ質屋業者ハ内地人六百餘人朝鮮人五百餘人古物商ハ内地人八百餘人朝鮮人一百餘人ニ上リ其ノ間強盜竊橫領等ニ係ル不正ノ物品ヲ質入授受スル者尠カラサルヲ以テ一層周密ナル取締ヲ加フル必要ヲ認メ明治四十五年四月以降内鮮人ヲ通シ總テ内地人ノ質屋取締法及古物商取締法ヲ準用スルコトトセリ其ノ結果不正品ノ轉賣授受ヲ防キ其ノ發見ヲ容易ナラシメ犯罪捜査上便宜ヲ得タル事實頗ル多ク之ト同時ニ營業者ニ於テモ不正品授受ノ爲不慮ノ損失ヲ被ルコトヲ減少スルニ至レリ

信用告知業ハ商業者力之ヲ活用シ告知業者力忠實ニ業務ヲ行フトキハ實業上有益ナル機關ナリト雖同一ノ土地ニ多數ノ同業者アリ又ハ必要ヲ感セサル地方ニ之ヲ設クルトキハ徒ニ競争ヲ生シ又ハ加入ヲ強制スル虞ナシトセス又從業者ニシテ之ヲ害用シ若ハ極端ニ露骨ノ方法ヲ執ルトキハ其ノ弊害少カラサルヲ以テ明治四十四年七月其ノ取締規則ヲ發布シ人物性行等ニ於

テ適當ト認メラル者ニ限り從業ヲ認可スルコトトシ且印刷物ヲ以テ内報  
スル事項ニ一定ノ制限ヲ加ヘタリ

風紀ノ維持ニ關シテハ從來比較的放漫ニ流レタル點アルヲ認メタルニ依リ  
併合後ハ最嚴密ノ注意ヲ加ヘ必要ノ地方ニ於テハ特種料理店ノ營業區域ヲ  
限定シ賭博類似ノ娛樂興行場其ノ他風俗ニ關係ヲ生スヘキ營業者ニ對シテ  
ハ不斷周到ナル取締ヲ厲行シ且朝鮮人從來ノ迷信及弊習ノ矯正スヘキモノ  
ハ懇切ニ指導教誡ニ努メシメツツアリ其ノ他寄附金募集ノ取締勞働者及浮  
浪者ノ取締不正組合又ハ集團ノ取締不正度量衡ノ取締不正漁業ノ取締爆發  
物・銃器其ノ他ノ危險物ノ取締狩獵ノ取締及害獸ノ驅除交通及建築ニ關スル  
取締等警察官ヲシテ所在地方ノ實情ニ照ラシ各適宜ノ措置ヲ執ラシメツツ  
アリ

# 第四章 衛生

## 第一節 醫療機關

舊韓國ニ於テハ由來衛生上ノ施設殆ト絶無ニシテ僅ニ其ノ末葉ニ於テ内部ニ衛生局ヲ置キ以テ衛生行政ヲ掌ラシムルコトト爲セシモ單ニ種痘ノ普及上多少寄與スル所アリシ外實績ノ見ルヘキモノナシ蓋シ國民一般ニ衛生思想ニ乏シク且醫學ノ素養アル醫師尠クシテ各般ノ衛生機關具備セサリシヲ以テ獨リ行政上ノ設備ヲ以テ其ノ進歩ヲ期スル能ハサルノ狀態ニ在リタリ依テ統監府設立後明治四十年三月ニ至リ京城ニ大韓醫院ヲ設置シ猶其ノ後全州清州及咸興ノ三箇所ニ慈惠醫院ヲ設ケ以テ診療及醫育事務ノ執行ニ當ラシメタリ併合後ニ至リ一層醫療機關ノ完成ヲ圖ラムカ爲大韓醫院ヲ總督府醫院ニ改メ其ノ規模ヲ擴張スルト同時ニ前記三箇所以外ノ道廳所在地ニ各一箇所ノ慈惠醫院ヲ配置シ大正元年度ニ至リ濟州安東楚山江陵及會寧ノ五箇所ニ慈惠醫院ヲ増設スルト共ニ各道醫院ニ巡回醫師ヲ配置シ又警察署憲兵分隊等ニ配置セル警察醫ヲシテ公務ノ傍一般患者ノ治療ニ從事セシメ

以テ僻陬ノ地方ニモ醫療ノ普及セムコトニ努メタリ此等醫療施設ノ效果頗ル顯著ニシテ漸次一般患者ノ信賴ヲ博シ診療ヲ請フ者年々逐ウテ増加シ明治四十三年韓國併合以來大正三年十二月迄ノ取扱患者總數ヲ舉クレハ實ニ一百四十三萬一千餘人ニシテ其ノ治療延人員ハ九百三十二萬一千餘人ノ多ニ達シ其ノ普通患者藥價其ノ他ヲ徵收スルモノハ二百七十八萬一千餘人施療患者ハ六百五十四萬餘人ナリ今各年別ノ患者數ヲ舉クレハ左表ノ如シ

朝鮮總督府醫院

	普通患者		施療患者		計	
	實數	延人員	實數	延人員	實數	延人員
明治四十三年 (自九月 至十二月)	內地人 朝鮮人 外國人 計	四、二六三 一、四一九 一七	九、九 一、七四六	一五、六七七	四、三六二 三、一六五 一七	四八、九九三
同四十四年	內地人	一七、六三七	六、三五	一五、五三二	一八、二七二	四八、九九三
	朝鮮人	四、四七四	一四、五二六		一九、〇〇〇	
外國人	七	一	一五、一六一	三七、二七九	二六〇、七二二	
計	二二、一一八	一三八、一九二				



		普通患者		施療患者		計	
		延人員	實數	延人員	實數	延人員	實數
明治四十三年 (自九月 至十二月)	朝鮮人	五〇四	三八、二四四	三、七四八	三	三、一四一	三
	外國人	三	一	四六、六三四	三	三一四、一五五	
計		八、〇六二	三八、五七二	二五四、三三三			
同四十四年	內地人	三四、七五三	七三七				
	朝鮮人	四、八〇八	一六三、一四八				
	外國人	二〇	一六				
計		三九、五八一	一六三、九〇一	一、〇八四、六七二		二〇三、四八二	一、三九八、三七八
大正元年	內地人	五三、八七四	七〇九				
	朝鮮人	一〇、二三三	一六四、五一八				
	外國人	六五	一一				
計		六四、一七二	一六五、二三八	一、〇六四、九一七		二二九、四一〇	一、五三六、七二二
同二年	內地人	六六、七〇〇	九一五				
	朝鮮人	一三、六四〇	二七五、五六〇				
	外國人	二〇一	九〇				
計		八〇、五四一	二七六、五六五	一、七四〇、五二六		三五七、一〇六	二、二八五、八四六
同三年	內地人	七三、四九八	八八四				
	朝鮮人	一八、三五四	二九〇、九三〇				
	外國人	一七二	二二八一				
計		九二、〇二四	二九一、九八二	一、八二四、九〇一		三八四、〇〇六	二、四〇八、一三三



内地人	二二六、三八〇	三、五七三	二二九、九五三
朝鮮人	四七、五三九	九三二、四〇〇	九七九、九三九
外國人	四六一	二八五	七四六
計	二八四、三八〇	九三六、二五八	一一、二二〇、六三八
計	一、九七三、九〇〇	五、九六九、三三九	七、九四三、二三九

以上患者増加ノ趨勢ヨリ推ストキハ將來一般ノ要求ニ應セムカ爲益醫療機關ノ擴張ヲ圖ルノ必要ナルハ言ヲ俟タサル所ナリ然レトモ斯ノ如キハ財政上速ニ實行シ得ヘカラサル所ナルヲ以テ應急ノ措置トシテ大正三年四月以降公醫規則ヲ施行シ從來ノ囑託警察醫中一百十七人ノ囑託ヲ解キ新ニ一百八十七人ノ公醫ヲ配置シ官憲ノ指揮ヲ受ケテ行政醫務ニ從事スルト同時ニ所在地方ニ於テ醫術ヲ開業セシムルコトトセリ

大正三年十二月末日ニ於ケル病院ハ官立十九公立四私立一百三十八、開業醫師ハ内地人四百六十四人外國人三十三人、限地開業醫師ハ内地人八十二人、朝鮮人一人、外國人八人ニシテ未タ朝鮮全土ニ普及スルニ至ラス依テ從來醫業ニ從事シタル朝鮮人漢方醫ニシテ適當ト認ムル者ハ醫生トシテ醫業ヲ免許スルコトト爲シタリ而シテ大正三年十二月末日ニ於ケル其ノ員數ハ五千八百二十七人ニシテ内無期限免許ノ者五千八百十三人、有期限免許ノ者十四人ナ

總督府醫院附屬醫學講習所ハ元大韓醫院附屬醫學校ノ組織ヲ改メタルモノニシテ鮮人醫師及助産婦看護婦ノ養成ヲ目的トシ開始以來既ニ七箇年ヲ闋シ卒業生ヲ出スコト四回ニ及ヘリ近時醫學ノ眞價漸ク鮮人ノ知ル所トナリ卒業生ノ需要頗ル多ク殊ニ地方ニ開業セルモノノ如キハ一般人民ノ信賴ヲ受ケツツアリ舊韓國時代ニ在リテハ大韓醫院附屬醫學校生徒ハ給費ヲ原則トセルモ醫學講習所ニ於テハ私費生本位トシテ給費生ノ數ヲ限定セルモ尙逐年志願者増加ノ趨勢ヲ示シタルノミナラス近時朝鮮人ニ對スル普通教育ノ普及ニ伴ヒ醫學講習所醫科生徒ノ學力モ大ニ向上シ殆ト内地ノ醫學專門學校ト匹敵セル狀況ナルヲ以テ將來醫學專門學校ニ改メ併セテ内地人ノ生徒ヲモ收容セムトス

助産婦及看護婦ノ養成ハ總督府醫院附屬醫學講習所及道廳所在地ニ於ケル慈惠醫院ニ於テ之ヲ行ヒツツアリ就中助産婦ノ普及ハ焦眉ノ急ナルヲ認メ其ノ需要ニ應セムカ爲特ニ速成科ヲ設置セシムルコトト爲セリ助産婦及看護婦ノ養成ハ專ラ實地ニ熟達セシムルヲ期シ殊ニ速成助産婦科ニ在リテハ

短期間ニ修業セシムルモノナルヲ以テ特ニ此ノ點ニ深ク留意シ且僻陬ノ地ニ産婆ノ普及ヲ圖ルノ目的ヲ以テ主トシテ憲兵(以下士)及巡查ノ家族ヲ收容養成シタルニ其ノ成績極メテ良好ナリ尙卒業生中給費生ニ在リテハ指定地ニ勤務スヘキ義務ヲ附シ自費生ト雖其ノ多クハ地方在勤官吏ノ家族ナルカ故ニ其ノ分布ニ於テハ需要ニ適切ナルヲ得ヘシト信ス大正三年十二月末ニ於ケル産婆員數ハ内地人三百二十一・朝鮮人二人計三百二十三・人外ニ限地産婆内地人七十四人ナリトス

## 第二節 衛生行政

由來朝鮮ニハ除穢事務ナルモノナク之カ爲土地及水質ヲ不潔ナラシメ衛生上多大ノ惡結果ヲ生セシカ明治四十年十二月京城ニ漢城衛生會ヲ設立シ翌年九月其ノ事務ヲ開始シ尋テ仁川釜山其ノ他ノ市街地ニハ特ニ除穢機關ヲ設ケ其ノ他ノ地方ニハ衛生組合ヲ置カシメ又大正三年四月府制實施ト共ニ府ノ所在地ノ除穢事務ヲ府ニ移シ明治四十五年以後ハ一般ニ春秋二季ヲ以テ清潔法ヲ厲行セシメタリ大正三年十二月末衛生組合ハ全土ヲ通シ一千二

百十九ニシテ其ノ中多少ノ基本財産アルモノ一百五十八ナリトス  
 京城・仁川・平壤・鎮南浦・群山・釜山・木浦等ニ於テハ漸次水道ヲ敷設セル爲飲用水  
 ノ不潔ヨリ生スル諸種ノ害毒ヲ除去スルヲ得タレトモ其ノ他ノ地方ニ在リ  
 テハ全ク井水ヲ飲料ニ供シ而カモ其ノ井戸ノ構造不完全ナルカ爲汚水ノ流  
 入スル虞アルヲ以テ明治四十三年以降國庫ヨリ補助ヲ與ヘテ各地ニ模範井  
 戸ヲ掘鑿セシメタルモノ大正三年度迄ニ四百二十四箇所改築ヲ爲シタルモ  
 ノ八十七箇所合計五百一十一箇所ニ及ヘリ尙將來モ經費ノ許ス限り井戸改良  
 ヲ獎勵セムトス

### 第三節 傳染病ノ豫防

朝鮮ニ於ケル傳染病中最猖獗ヲ極メタルハ痘瘡ニシテ之ニ次クテ赤痢及腸  
 窒扶斯トス痘瘡ノ豫防ニ關シテハ舊韓國政府ニ於テモ明治二十八年以來種  
 痘普及ノ施設ニ著手シ中央ニ種痘司ヲ各道ニ種繼所ヲ置キ各府郡ニ種痘認  
 許員ヲ配置シタレトモ其ノ實績ヲ見ルニ至リタルハ明治四十年大韓醫院ノ  
 設立以後ニシテ爾來痘苗ヲ精製シ朝鮮人男女種痘認許員ヲ養成シ其ノ配置

ナ周到ナラシメ且警察機關ヲシテ極力種痘ノ效果ヲ懇諭セシメタル結果漸次迷信ヲ打破シ累年ノ種痘者ハ左表ノ如キ多數ニ上リ明治四十二年ノ如キハ全土ヲ通シテ四千餘人ノ痘瘡患者ヲ發生シ約一千人ノ死亡者ヲ發生セシモ漸ク遞減シテ大正三年中ニハ僅ニ患者朝鮮人一百二十五人内死亡者十餘人ヲ見ルニ止マリ而カモ其ノ大部分ハ支那トノ國境附近ニ發生セルモノニシテ他ノ地方ニ於テハ各道多キモ十人ヲ出テス亦以テ種痘ノ效果ヲト知スルニ足ルヘシ

	明治四十一年	同 四十二年	同 四十三年	同 四十四年	大正元年	大正二年	大正三年
朝鮮人種痘者數	五四四・五九五	六七九・二三五	一一二二・一四六	二、九〇六・八七七	三〇七〇・三一一	二、二八七・三一九	一、七九四・四三八
朝鮮人痘瘡患者數	一、八七八	四二・六〇	二四・二五	三、六五三	一、〇九五	二一四	一二五
同 死亡者數	四七六	九〇二	四四五	五一九	一四六	三三	一〇

虎列拉及「ベスト」ノ豫防ニ關シテハ明治四十年來最嚴密ナル措置ヲ執リ同年十月我カ 皇太子殿下韓國渡御ノ旨仰出サレタル後韓國各地ニ虎列拉患者發生シタル際ノ如キ伊藤統監ハ防疫事務ヲ舉ケテ駐劄軍司令官ニ一任シ日韓兩國官憲中ヨリ委員ヲ任命シ約十萬圓ノ經費豫算ヲ以テ一舉ニ之ヲ撲滅

セリ同四十二年又京城ニ虎列拉病ノ大流行アリ他ノ地方ニ於テモ患者ノ發生尠カラサリシカ之ニ對スル豫防措置ハ前年ニ比シテ益峻嚴ヲ加ヘタレトモ人民一般ニ衛生思想乏シク且從來衛生上ノ施設殆ト皆無ナリシヲ以テ其ノ豫防ノ困難實ニ名狀スヘカラサルモノアリタリ越エテ明治四十三年秋季ヨリ翌年一月ニ亘リ滿洲地方ニ「ベスト」流行ノ報ニ接スルヤ鴨綠江及圖們江ノ沿岸一帶竝支那戎克船ノ出入スル西海岸全線ニ亘リ約一千ノ監視所ヲ設ケ之ニ加フルニ一般鐵道及海港檢疫ヲ厲行シ重要ノ都會ニ於テ鼠族ノ買上ヲ行ヒ其ノ結果朝鮮内ニ於テハ遂ニ一人ノ患者ヲ發生セシテ熄メリ

赤痢及腸窒扶斯ニ關シテハ豫防消毒ノ效果未タ顯著ナラスト雖京城・仁川其ノ他上水道ノ設アル都會ニ於テハ其ノ敷設ノ前後ニ於テ患者ノ發生ニ大差ヲ生セルヲ見ル尙大正四年三月末現在ノ傳染病院及隔離病舎ハ全土ヲ通シテ左表ノ如シ此等ノ施設ハ爾後財政ノ許ス範圍ニ於テ益其ノ完備増設ヲ圖ラムトス

傳染病院	八	一	六	二	六	一	七	二
傳染病舎								
官立								
公立								
私立								
計								

(備考) 衛生組合ノ設立ニ係ルモノハ公立トシテ計上セリ

#### 第四節 墓地ノ取締

古來朝鮮ニ於ケル諸種ノ迷信中墓地ニ關スルモノヲ最甚シトス是レ原ト祖先ヲ崇尊スルノ美風ニ出テタルモノナリト雖漸ク轉シテ迷信トナリ墳墓ノ地位ノ良否ハ即チ子孫ノ盛衰ヲ支配スルモノト爲シ争ウテ其ノ地ヲ選ミ而シテ自家ニ良地ナキ者ハ理想ノ地ヲ探ル爲一族各地ヲ彷徨シ得レハ價ヲ選マスシテ之ヲ求メ若シ之ヲ購フ能ハサルトキハ他人ノ山野田畑タルヲ願ミス埋葬ヲ敢テスルニ至リ爲ニ鬭争ヲ惹起シ又ハ刑事犯罪人トナリ或ハ民事訴訟ヲ起ス等其ノ事例枚舉ニ遑アラス又死因ノ病性ニ依リテハ屍骸ヲ樹木ニ曝シ又ハ道路ニ埋ムル風習アリ而シテ一面ニ於テ貧者ハ理想ノ地ハ措キ

一片埋骨ノ土塚ヲスラ有セシテ屍體ヲ野外ニ遺棄スル者少シトセススカ  
 ル弊風ハ到底等閑ニ附スヘカラサルヲ以テ明治四十五年六月墓地火葬場埋  
 葬及火葬取締規則ヲ發布シ直ニ各地ニ準備ヲ命シ其ノ完了ヲ待テ漸次施行  
 スルコトトセリ該規則ノ主要ナル點ヲ舉クレハ墓地ハ原則トシテ府・面・里・洞  
 其ノ他公共團體ノ設置ニ係ル共同墓地ニ限ルコトトシ特別ノ事情アル場合  
 ニハ私有墓地ヲ許スヘキ例外ヲ設ケ屍體ハ墓地以外ニ埋葬スルコトヲ禁シ  
 尙一面火葬場ノ設置ヲ許シテ火葬ノ風習ヲ喚起シ而シテ從來ノ墳墓ハ其ノ  
 存在ヲ認メ其ノ死者ノ配偶者ノ屍體ニ限り之ヲ合葬スルコトヲ許シ規則施  
 行後一年以内ニ墓籍ノ届出ヲ爲ササルモノハ無縁墳墓ト看做シ必要ニ應ジ  
 テ之ヲ整理セシメ又共同墓地ノ設置ニ付テハ必要アレハ官有ノ森林山野ヲ  
 無償拂下クルコトトセリ斯ノ如クニシテ今後ハ細民ト雖其ノ父母ヲ葬ムル  
 ヲ得サル者ナキニ至ルト同時ニ從來朝鮮全土ニ見ルカ如キ廣大ナル面積ノ  
 土地ヲ空シク墳墓ト化シ了ルカ如キコトナカルヘシ

## 第五節 屠場ノ取締



屠場取締ニ就テハ嘗テ舊韓國政府時代ニ於テ其ノ必要ヲ認メ屠獸規則ヲ發布シ尙内地人ニ對シテハ統監府令ヲ以テ該規則中必要ナル條項ヲ適用スルコトトシ以テ之ヲ施行シ來レルカ由來朝鮮ニ於テハ比較的肉食ノ風盛ニシテ獸畜ヲ屠殺スルモノ少カラス殊ニ犬肉ヲ食用ニ供スルノ習慣アリ規則發布前ハ山野田園又ハ人家ノ内庭ニ於テ獸畜ヲ屠殺セルモノアリシモ規則施行後ハ許可ヲ得タル一定ノ屠場ニ非サレハ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲スヲ得サルコトトナリタルヲ以テ大ニ舊來ノ陋習ヲ一新スルヲ得タリ警察權委任後此ノ取締ハ警察ノ管掌スルコトトナリシモ屠場設立ノ許否ニ付テハ依然道長官ノ權限ニ屬セシヲ以テ府令ヲ以テ規則ノ一部ヲ改正シ之ヲ警務總長警務部長ノ權限ニ移セリ

屠場ハ居留民團學校組合衛生組合面洞里等公共團體及之ニ準スヘキモノニ經營セシムルヲ以テ公衆衛生上其ノ他ノ點ニ於テ利益ナリト認メ明治四十四年八月後ハ專ラ此ノ方針ニ依リ獎勵ヲ加ヘツツアリ爾來是等ノ團體ニ於テ私設屠場ヲ買收セシモノ及新ニ經營セシモノ少カラス大正三年末ニ於ケル屠場數ハ左ノ如シ

屠場數

大正三年	公立	私			立	合計
		内地人經營	朝鮮人經營	外國人經營		
	三五四	二三八	一、二七六	一	六〇	一、八二九

## 第五章 救恤及慈善

併合ノ際下賜セラレタル臨時恩賜金中三百三十五萬五千八百圓ハ之ヲ一般貧民ノ救療精神病者ノ救療孤兒ノ教育及盲啞者ノ教養ニ充ツルコトトシ之ヲ基金トシテ濟生院ヲ設立シタリ然ルニ此等事業中醫院ノ所管ニ屬セシムルヲ便トスルモノアルヲ以テ爾後更ニ朝鮮醫院及濟生院特別會計ヲ創設シ前記ノ濟生院ハ之ヲ財團法人トシテ專ラ基金ノ保管ニ任シ其ノ利子ヲ該特別會計ニ寄附セシメ其ノ事業ハ別ニ朝鮮總督府濟生院ヲ設置シテ之ヲ經營セシメタリシカ其ノ後財團法人濟生院ハ之ヲ解散シ其ノ基金ヲ該特別會計ニ移シ各事業ニ配當スヘキ資金額ヲ定メタリ大正四年三月末現在金額ハ左ノ如シ

一般貧民救療資金

三〇九三、九一九<sup>〃</sup>四五九

癩病院資金

三〇〇、〇〇〇〇〇〇

精神病者救療資金

一五〇、〇〇〇〇〇〇

濟生院資金

三三三、四四六、二七五

計

三、八七七、三六五、七三四

(備考) 前記基金額ハ前記ノ恩賜金ノ外内地濟生會ヨリ配付セラレタルモノ七萬圓喫煙禁止國債報償會積立金ヲ充當セルモノ十一萬餘圓其ノ他ノ寄附金及歲計剩餘ヨリ成ル

即チ前章ニ記述セシ朝鮮總督府醫院及慈惠醫院ニ於ケル一般貧民又ハ精神病者ノ治療ニ要スル經費ハ此ノ資金ノ利子ヲ以テ之ニ充ツルモノナリ癩病院ハ目下創設計畫中ニ屬ス

朝鮮總督府濟生院ハ專ラ孤兒及盲啞生ノ教養ヲ掌ル現在養育部ニ收容セル兒童ハ一百九人ニシテ其ノ多數ハ舊韓國政府時代ヨリ存在シタル私立京城孤兒院ヨリ引繼キタルモノナリ此等孤兒ニ對シテハ家族的教養ヲ爲スル方針ヲ採リ職員ヲシテ院兒日常ノ起居ニ關シ直接教化指導ニ任セシメ孤獨ノ彼等ヲシテ慈親ノ温情ト家庭ノ興趣トヲ併セ得セシメ彼等ニ生シ易キ陰鬱不活潑ノ性情乃至僻心邪念ヲ杜絶セムコトヲ期セリ只幼少ナル哺乳兒ハ養望者アルトキハ之ヲ里預ケト爲スノ方法ヲ採レリ院兒八歳ニ至レハ院内設備ノ普通學校ニ入學セシメ學科教習ノ傍ラ實科ヲ科セリ實科ハ主トシテ手

工及附屬田園ノ耕作ニ從事セシメ以テ懶惰ノ弊習ヲ排シ質實勤勞ノ風ヲ馴致スルニ努メツツアリ斯ノ如クニシテ普通學科ヲ修了シ身體強健ナル者ハ更ニ農場ニ移送シ職員指揮ノ下ニ農業ノ實習ヲ與ヘ將來農民トシテ身ヲ立ツルノ途ヲ開キ體質又ハ本人ノ性情農民トシテ不適當ナル者ハ商工業ノ徒弟又ハ見習トシテ市中ノ商估ニ託シ以テ相當ノ生業ヲ得セシムトス

盲啞部ノ事業ハ大正二年四月ヨリ開始セリ給費生ノ收容定員ハ四十名ニシテ現在自費給費合シテ盲三十一名啞十八名ヲ收容セリ各科ノ區分及修業年限ハ盲速成科一箇年本科三箇年啞本科五箇年トシ學科ハ盲生ニハ按摩「マツサージ」ヲ啞生ニハ裁縫・編物ノ如キ主トシテ手藝ヲ課シ各將來自營シ得ヘキ方便ヲ與フルコトニ留意シ盲生ニハ練習ノ爲市民ノ希望ニ應シテ按摩「マツサージ」ノ施術ヲ爲シ啞生ニハ教授ノ資料トシテ市民ヨリ裁縫材料ヲ借り加工セシム而シテ盲速成科ヲ卒業シタル者ハ大正二年度九名同三年度五名計十四名ニシテ内八名ハ總督府醫院及道慈惠醫院ニ於ケル「マツサージ」技工トシテ雇傭セラレ其ノ他ハ獨立開業ヲ爲シタリシカ其ノ成績何レモ良好ニシテ鮮人盲者ノ自活生計ノ途トシテ充分ナル実績ヲ擧ケツツアリ盲啞部開始

ノ當時自費ノ入學生ハ殆ト豫期セサル所ナリシモ開始以來自費生ハ已ニ十五名ニ達シタル以テ將來自費生ノ勸誘ヲ試ムルト同時ニ一面ニ於テハ相當ノ時機ニ於テ現品給與ノ現制度ヲ學資給與制度ニ改メ官費半官費又ハ自費生ニ區分シ生徒ノ收容力ヲ増加シ朝鮮ニ於ケル是等不具者ノ教育ヲ全カラシムトス

# 第六章 教育

## 第一節 學制

朝鮮ニ於ケル舊來ノ教育ハ讀書習字ヲ主トシ進テ經書ヲ講究スルニ止マリ處世實用ニ適スル科目ヲ教授スルニ至ラサリシカ明治二十八年舊韓國政府ハ内地ノ制度ニ倣ウテ學制ヲ定メタルモ未タ教育機關ノ完成ヲ見ルニ至ラス尋テ明治三十九年統監府ノ設置ト共ニ統監指導ノ下ニ銳意教育ノ刷新ニ努メ學制ノ改革學校ノ新設等漸ク其ノ歩ヲ進メタリ總督府設置後ニ至リ更ニ教育制度ヲ確定セムトシ深ク調査研究ヲ重ネタル結果明治四十四年八月ヲ以テ朝鮮教育令ヲ發布シ朝鮮人教育ノ方針ヲ確立シ其ノ組織系統ヲ明カニセリ尋テ普通學校規則高等普通學校規則女子高等普通學校規則實業學校規則私立學校規則及京城專修學校規程ヲ制定シ同年十一月一日ヨリ之ヲ實施シ專門教育ニ付テハ從來朝鮮ノ民度ニ鑑ミ未タ其ノ施設ノ必要ヲ認メサリシモ漸次時勢ノ進運ニ伴ヒ早晚之カ施設ノ要アルヘキヲ思ヒ大正四年三月專門學校規則ヲ發布セリ又内地人教育ニ在リテハ明治四十五年三月朝鮮

公立小學校規則同高等女學校規則同實業專修學校及簡易實業專修學校規則ヲ制定シテ内地人各學校ノ監督統一ヲ期シ尙從來ノ中學校規則ニ必要ナル改正ヲ加ヘ茲ニ内鮮人教育ノ基礎全ク確立セリ

## 第二節 朝鮮人教育

朝鮮人教育ノ方針ハ朝鮮教育令ノ旨趣ニ從ヒ主トシテ帝國臣民タルニキ能カ品性ヲ涵養シ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トシ從來ノ宿弊タル空論橫議ヲ事トシ遊惰放逸ニ流ルルノ陋習ヲ矯メ勸勉力行ノ氣風ヲ鼓吹シ教育上常ニ實業趣味ノ助長ニ努メ以テ實用ニ適スル人材ヲ養成シ云コトヲ期セリ朝鮮教育令ハ實施以來日尙淺シト雖其ノ制度ノ旨趣能ク朝鮮ノ實狀ニ適セルト教育組織程度簡約ニシテ鮮人生活ノ實際ニ切實ナルトニ依リ其ノ效果顯著ナルモノアリ年年入學志願者ヲ激増シ殊ニ兩班儒生其ノ他所謂上流人士ニシテ從來徒ニ舊慣ヲ墨守シ新教育ヲ喜ハサリシ者モ亦漸ク新制度ノ旨趣ヲ了解シ進シテ其ノ子弟ヲ公立學校ニ入學セシメ或ハ私立學校ヨリ轉學シ來ル者頗ル多キヲ加フルニ至リタル事實ニ徴スルモ亦以テ



一般ノ趨向ヲト知スルニ足ルハシ

普通教育機關ハ現在普通學校高等普通學校女子高等普通學校ノ三種アリ就中最長足ノ進歩ヲ遂ケタルハ公立普通學校ニシテ併合當時僅ニ一百校ヲ數フルニ過キサリシモノ大正四年四月ニ於テ四百校約五萬九千名ノ兒童ヲ有スルニ至レリ而シテ普通學校ノ教育ニ於テハ特ニ實業思想ノ鼓吹ニ重キヲ置ケル結果現在農業ヲ課スルモノ二百七十九校商業ヲ課スルモノ十二校手工ヲ課スルモノ五十九校ニ及ヒ正科トシテ是等ノ實科ヲ課セサルモノト雖何レモ多少ノ實習地又ハ學校林ヲ設備セサルナク女子教育モ亦漸次發達ノ氣運ニ向ヒ普通學校ニシテ女子學級ヲ設クルモノ六十八校ノ多ニ達セリ且公立普通學校ハ一般ニ國語ノ進歩最著シク地方教化ノ中心タル實績ヲ擧ケツツアリ私立普通學校ハ現在二十校ニシテ漸次増設ノ傾向アルモ年年之ヲ公立普通學校ニ變更スルモノ多シ然レトモ普通教育ハ尙未タ全主ニ普及スルニ至ラサル憾アルヲ以テ大正五年度及六年度ニ於テハ毎年二十校宛同七年度以降ハ毎年三十校宛ヲ増設シ十餘年ニシテ一府郡平均三校ヲ有スルニ至ラシメムトス

官立高等普通學校ハ其ノ數ニ於テ漸ク二校ヲ數フルニ過キスト雖從來ノ高等學校外國語學校師範學校等ヲ整理統一シ專ラ内容ノ充實改善ニ力ヲ注キ益遺憾ナキ程度ニ達セムコトヲ期ス本校ニ對スル一般ノ趨向モ甚良好ニシテ大正四年度入學志願者ノ如キ兩校ヲ通シ本科募集定員三百四十名ニ對シ應募者ハ實ニ一千七百四十五名ノ多ニ達シタルニ徴スルモ亦以テ一般ノ風潮ヲ察知スルヲ得ヘシ將來適當ノ時機ニ於テ兩鮮及北鮮ニ各一校ヲ增設シ漸ク逐ウテ他ニ及ホサムトス又規定ニ依リ認可ヲ受ケタル私立高等普通學校ハ京城及咸興ニ各一校アリ基礎確實ニシテ相當成績ヲ擧ケツツアリ官立女子高等普通學校ハ客年度新設ニ係ル平壤女子高等普通學校ヲ合セ二校ニシテ現在入學志願者ノ數甚多カラスト雖思想堅實ナル生徒ヲ收容シ訓育ノ徹底ヲ期シ模範的卒業生ヲ出スニ於テ效果尠シトセス又規定ニ依リ認可ヲ受ケタル私立女子高等普通學校ハ京城ニ二校アリ共ニ財團法人ニシテ相當ノ設備ヲ爲シ成績亦佳良ナリ

實業教育ハ普通教育ト相俟テ最力ヲ致セル所ナリ曩ニ實業學校規則實施ノ狀況ニ鑑ミ更ニ本規則中改正ヲ行ヒ夏季休業ヲ全廢シ或ハ農業學校及簡易

農業學校ノ教授要目ヲ編製シ各學校ヲシテ本要目ニ準據シ且地方勸業方針ニ則リタル教授要目ヲ定メシメ又朝鮮農業ノ實際ニ適合スル教授書十二種ヲ編纂シ以テ有效適切ナル教育ヲ施サシムコトヲ期セリ而シテ農業學校ノ教育ハ實習ニ最重ヲ置ケル爲當初生徒父兄共ニ之ヲ嫌忌スルノ風アリシカ職員率先シテ範ヲ示シ熱心指導ノ結果逐次其ノ蒙ヲ啓キ現在ニ於テハ生徒ハ喜テ之ニ從事シ實習地ノ設備モ亦漸ク完整ノ域ニ近ツキ其ノ生産ニ係ル米麥ノ類ニシテ物産共進會ニ出陳シ一等賞牌ヲ受クルモノヲ出スニ至リ地方人民モ亦一般ニ實業教育ノ必要ナル所以ヲ覺知シ親シク農業學校ヲ參觀シ種苗其ノ他ノ配付ヲ求ムル者モ少カラス兩班儒生ノ子弟ニシテ進テ入學ヲ希望スル者續出シ入學志願者ハ毎年募集定員ニ數倍スルノ狀況ヲ呈シ殊ニ生徒及卒業者ニシテ勤勉力行ノ範ヲ示ス者多ク是等ヲ通シテ直接又ハ間接ニ地方産業ノ開發ニ資スル所多大ナルモノアリ

實業學校ハ總督府設置ノ際農業學校十一・商業學校三・簡易實業學校四ニ過キサリシカ爾來年年必要ニ應シテ増設シ大正四年四月ニ於テ農業學校十五・商業學校三・簡易實業學校六十五トナリ生徒數モ亦約三千餘名ノ多ヲ數フルニ

至リ卒業者ハ大正三年三月現在ニテ農業學校九百二十八人、商業學校二百二十七人、簡易實業學校一千五百五十四人ヲ算シ或ハ官公吏トナリ或ハ實務ニ従事シテ低度ノ實業指導者トナリ或ハ直接農商工業ニ従事スル等實業ノ改善ニ寄與セル所鮮シトセス

專門教育ニ付テハ未タ教育令ニ規定スル專門學校ノ施設ヲ見スト雖前述ノ如ク普通教育ノ普及ヲ見ルニ及ヒ更ニ進テ高等專門ノ學術技藝ヲ修メムトスル者漸ク多カラムトスルノ傾向アルヲ以テ遠カラス法律・醫學・工業・農林等ノ專門學校ヲ設置セムトス而シテ現在專門學校ニ非サルモ主トシテ法制經濟ノ學科ヲ授クルモノニ官立京城專修學校アリ教育令實施ノ際舊法學校ノ組織ヲ變更シタルモノニシテ年年入學志願者増加シ既ニ四回ニ亘リテ八十七名ノ卒業者ヲ出シ概テ官公吏・銀行・會社等ニ就職シ殆ト徒食者ヲ見サルノ狀況ナリ

一般實業學校ノ外ニ勸業模範場附屬ノ農林學校アリ本校ハ明治三十九年舊韓國政府ノ創立ニ係リ元韓國農商工學校ノ農科及私立京城學堂ノ農業速成科ノ生徒ヲ收容シ新ニ林學速成科生徒ヲ募集シ初ハ京城ニ設ケシカ實習上

不便ナルヲ以テ翌四十年京畿道水原勸業模範場ノ隣地ニ移シ明治四十三年十月以降同場ニ附屬セリ科程ハ本科及速成科ニ分チ各種作物ノ栽培養蠶養蜂飼畜酪農造林等ノ實習ヲ爲サシム本校入學志願者モ亦年ト共ニ増加シ創立以來ノ卒業生ハ速成科修業生ヲ合セ二百五十名ニ上レリ

私立各種學校ハ併合當時二千二百二十五校ノ多ヲ數ヘ而モ教養ノ方法頗ル穩健ヲ缺キタルモノ其ノ大部ヲ占ムルノ狀況ナリシカ教育令實施以來專ラ之カ指導監督ニ力メ其ノ教科ヲシテ公立學校ノ規定ニ準セシムルノ方針ヲ採リ之カ整理改善ヲ圖リ就中宗教學校ニ對シテハ學校關係宣教師ヲ勸誘シテ公立學校ニ準シ教科課程準則ヲ編製セシメ之ニ依リテ學則ノ變更ヲ爲シタル結果事實上本府ノ方針ニ準據シ適當ナル教育ヲ施スモノ多ク從來ノ如キ不完全且有害ト認ムヘキモノハ漸次其ノ跡ヲ絶チ國語ノ普及ニ於テモ着着其ノ成績ヲ顯スニ至リ又私立學校設置ニ關スル調査準則ヲ各道長官ニ示シ一定ノ標準ノ下ニ細密ナル調査ヲ遂ケシメタル爲單ニ處理ノ便宜又ハ正確ヲ期シ得ルニ止ラス依テ以テ設置認可ニ對スル大體ノ方針ヲ窺知スルコトヲ得セシメ濫設ノ弊ヲ防止スルト共ニ一面内地人教員ノ採用ヲ勸誘シタ

ルニ依リ現在各校ヲ通シテ一百三十六人ヲ數ヘ國語教授ノ改善上效果鮮シトセス又道主催ノ講習會ニ私立學校教員ノ出席ヲ促シ教授法其ノ他必要學科ノ講習ヲ與ヘ尙毎年一回以上公立普通學校長ヲシテ管内私立學校ヲ視察セシメ之カ指導及聯絡ヲ圖ラシムル等銳意改善整理ニ努メタル結果不完全ニシテ基礎薄弱ナルモノハ自然廢校ノ已ムナキニ至リ現在ニ於テハ其ノ數一千二百六十八校ニ減シ著シク其ノ面目ヲ改ムルニ至レリ斯ノ如ク私立學校ノ狀況ハ從來ニ比シ著シク良傾向ヲ示セリト雖尙一層其ノ内容ヲ改善スルノ必要アルヲ認メ大正四年三月該規則ヲ改正シ普通教育實業教育專門教育ヲ爲ス學校ハ法令ヲ以テ學科課程ヲ規定セル相當學校ノ規則ニ準シ教科課程ヲ定メシムルコトトシ從テ一定ノ學校ニ於テハ宗教教育ヲ施スヲ得サルコトト爲シ又教員タルヘキ者ノ資格ヲ定メ且試驗制度ヲ設ケタリ

書堂ハ各府郡到ル處ニ存在シ且興廢常ナク最近ノ調査ニ依レハ實ニ二萬四百有餘ノ多ヲ數フルモ普通教育機關ノ未タ洽ネカラサル今日ニ在リテハ寧ロ普通學校ノ豫備機關トシテ存置セシムルノ要アルノミナラス別段弊害ノ認ムヘキモノ尠キヲ以テ急劇ニ之カ改廢ヲ企ツルコトヲ戒メ徐ロニ指導啓

發テ加フルノ方針ヲ採リ一面公立普通學校長指導ノ下ニ之ト聯絡ヲ保タシ  
ノ中ニハ國語算術等ノ學科ヲ授クルモノアルニ至レリ

### 第三節 内地人教育

朝鮮ニ於ケル内地人教育ノ方針ハ内地ノ教育方針ト異ル所ナク唯朝鮮ノ實  
狀ニ鑑ミ生徒教養上特ニ注意ヲ要スヘキ點ヲ明示シタルト其ノ設立ヲ居留  
民團及學校組合ニ限定シタルノ外(居留民團ハ大正三年三月限り廢止シタル  
ヲ以テ其ノ教育事務ハ學校組合ニ於テ之ヲ掌ルコトトナレリ)教育ノ本旨修  
業年限教科編制等大體内地ト同一ニシテ彼我同等學校ノ入學轉學ノ關係ニ  
於テモ全然共通トシ相互ノ聯絡ヲ保テリ

公立小學校ハ併合以來遽ニ内地人ノ發展セルニ伴ヒ逐年其ノ數ヲ増加シ明  
治四十三年ニ於テ一百七校ヲ數ヘタリシモノ大正四年四月ニハ二百九十七  
校ノ多ニ達シ尙年年増設ノ傾向ヲ示シ内地人集團地ニシテ學校組合ヲ組織  
シ得ル程度ニ至レハ直ニ小學校ノ設置ヲ見サルナキノ狀態ニシテ舊統監府  
時代ヨリ相當ノ補助金ヲ支給セシカ總督府設置以來更ニ補助金ヲ増額シ以

テ之カ獎勵ニ努メ國民教育ノ普及發達上大ニ利便ヲ感スルニ至レリ然レトモ僻陬ノ地方ニ居住スル者ニシテ小學校ノ設備ナク就學ノ便ヲ得サル者ノ爲ニ特ニ京城平壤木浦群山義州元山會寧等ノ學校組合若ハ教育會ニ補助金ヲ與ヘテ兒童寄宿舎ヲ設ケシノ是等不就學兒童ヲ收容シ附近小學校ニ通學ノ途ヲ開キタルニ入舎ヲ希望スル者少カラス成績佳良ニシテ教育機關缺如ノ一端ヲ補ヘリ依テ遠カラス此ノ種ノ寄宿舎ヲ少クトモ各道一箇所ツツ設ケシノムトス又生徒少キ邊陬ノ地方ニ於テハ別ニ校舎ヲ設ケス教員住宅ヲ以テ之ヲ兼ホシムルコトトシ以テ便宜ノ措置ヲ執ラシメムトス

中學校ハ總督府ノ施設ニシテ京城及釜山ニ各一校アリ京城中學校ハ前年度ニ於テ略設備ノ完成ヲ告ケ大正四年三月現在十五學級六百四十七名ノ生徒ヲ收容セルモ前述ノ如ク内地人ノ發展ト小學校ノ増設トニ伴ヒ入學志願者年年増加シ到底之カ收容ノ餘地ナキニ至レルヲ以テ焦眉ノ急ニ應セムカ爲大正四年四月平壤ニ分教室ヲ置キ第一學年二學級一百名ノ生徒ヲ收容セリ又釜山中學校ハ大正二年四月ノ設置ニ係リ現在三學年六學級二百六十八名ノ生徒ヲ收容セリ尙遠カラス平壤分教室ヲ獨立セシメ且京城ニ中學校一校



ヲ増設セムトス

高等女學校モ亦小學校卒業者ノ激增ト共ニ逐年増設シ現在京城・仁川・釜山・平壤ニ公立高等女學校・鎮南浦・元山及馬山ニ公立實科高等女學校アリ京城及釜山ヲ除クノ外ハ併合後ノ設置ニ係リ各校トモ年年補助金ヲ支給シ之ヲ施設ヲ容易ナラシメムコトヲ期セリ

實業專修學校ハ釜山及仁川ニ各一校、簡易實業專修學校ハ平壤及鎮南浦ニ各一校アリ何レモ毎年國庫補助ヲ受ケ商業ニ關スル科目ヲ教授シ朝鮮ニ於テ實業ニ從事スルニ必要ナル教育ヲ施シツツアリ而シテ其ノ卒業者ノ分布普及ニ依リ直接又ハ間接ニ商業ノ振興ニ資スル所尠カラス

内地人私立學校ハ現在九校アリ其ノ中私立東洋協會專門學校京城分校ハ特ニ殖民地ノ事業ニ從事セムトスル者ヲ養成シ又私立善隣商業學校ハ夙ニ夜學科ヲ設ケ官廳・銀行・會社等ニ就職セル雇員・給仕等晝間就學ノ途ヲキ者ヲ收容シテ教育ヲ施シ尙大正二年度ニ於テハ新ニ甲種程度ノ内地人商業教育ヲ開始セル等兩校トモ相當成績ヲ收メツツアルヲ以テ毎年國庫補助金ヲ交付シ之ヲ獎勵セリ

#### 第四節 教員養成

教育令實施ト共ニ公立普通學校ノ教員養成機關トシテ京城高等普通學校ニ修業年限一箇年ノ教員速成科及修業年限三箇年ノ臨時教員養成所ヲ附設シ又平壤高等普通學校ニ教員速成科ヲ置キ從來ノ師範學校ヲ廢止セリ本施設ハ專ラ朝鮮人タル教員ノ養成機關ニシテ内地人教員ハ内地ヨリ相當ノ學識經驗アル有資格者ヲ選拔採用スルノ方針ヲ採リシモ漸次普通學校ノ増設ニ伴ヒ朝鮮内ニ於テ適當ノ教育ヲ施シタル内地人訓導ヲ養成シ配置補充スルノ必要ヲ認メ大正二年四月新ニ臨時教員養成所ニ第二部ヲ設ケ修業年限ヲ一箇年トシ中學校卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ選拔入學セシメ大正三年三月第一回卒業生三十七名同四年三月第二回卒業生三十三名ヲ出シ各道ニ配置セリ

朝鮮人教員ノ養成ニ付テハ從來ノ實驗ニ鑑ミ更ニ優良ナル教員養成ノ目的ヲ以テ大正二年四月京城高等普通學校ニ師範科ヲ置キ更ニ大正三年度ニ於テハ臨時教員養成所第一部(朝鮮人生徒ノ募集ヲ廢シ且兩教員速成科ヲ廢止

スルト共ニ平壤高等普通學校ニ師範科ヲ又女教員養成ノ爲京城女子高等普通學校ニ師範科ヲ設ケタリ

内地人教育ノ教員養成機關トシテハ明治四十四年四月京城中學校ニ臨時小學校教員養成所ヲ附屬セシメ修業年限ヲ一箇年トシ中學校卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ選拔入學セシメ既ニ一百十六名ノ卒業生ヲ出シ之ヲ各道ニ配置シ尙新設學校若ハ學級増加ニ伴フ要員ノ補充ニ付テハ内地ヨリ相當有資格者ヲ選拔採用セリ

教員養成所出身ノ内地人教員ハ修業年限短期ナル爲素養充分ナリト云フヲ得スト雖何レモ壯年ニシテ活氣ニ富ミ漸次研鑽修養ヲ積ムニ從ヒ良好ノ成績ヲ收ムルニ至ルヘシ

## 第五節 教科用圖書

明治四十三年八月韓國併合ノ結果從來ノ教科書ハ何レモ其ノ教材ト語句トニ不適當ノ點ヲ生シタルニ依リ同年十月教授上ノ注意竝字句ノ訂正ニ關スル印刷物ヲ刊行シ普ク官公私立各學校ニ配付シ教授上遺憾ナカラシメタリ

而シテ之ト同時ニ從來使用セル舊學部編纂普通學校教科書ノ訂正ニ著手シ明治四十四年三月迄ニ之ヲ完了シ同年四月ヨリ全部訂正本ヲ使用セシメ更ニ朝鮮教育令及普通學校規則ニ基キ新ニ普通學校教科書ノ編纂ニ著手シ大正二年四月ヨリ其ノ一部分ヲ使用セシメ其ノ後出版ヲ爲スニ隨ヒ舊教科書ニ代ヘテ使用セシメ大正四年度ニ於テ全部編纂ヲ了ル豫定ナリ新教科書ハ朝鮮語漢文ノ外ハ何レモ國語ヲ以テ記述スルヲ本體トシ而シテ其ノ假名遣ハ表音的トシ最上級ニ於テ歷史的假名遣ノ文章ヲ讀ムニ差支ナカラシムルコトト爲シタルヲ以テ教授上頗ル便益ニシテ國語力ノ増進著シキモノアルヲ認メタリ

高等程度諸學校用教科書ハ舊學部ニ於テ編纂シタルモノ殆ト絶無ニシテ民間出版ノ教科書モ亦適當ナルモノ極メテ稀ナルヲ以テ先ツ高等普通學校用ヲ主トシ且同程度ノ諸學校ニモ使用セシムヘキ教科書ノ編纂ニ著手セリ然ルニ普通學校ノ教科書未タ完成セス彼此聯絡上更ニ考慮ヲ要スヘキモノアルヲ以テ何レモ先ツ稿本トシテ出版シ以テ當面ノ急ニ應スルコトト爲シ明治四十五年度ヨリ其ノ一部分ヲ使用セシメ其ノ後編纂ヲ完成スルニ隨ヒ新

教科書ヲ使用セシメタル上大正五年度中ニハ全部ノ編纂ヲ完結スル豫定ナ  
リ  
實業學校中公立農業學校教科書ノ編纂ハ最急ヲ要スルモノノ一タリ蓋シ朝  
鮮ノ農事ハ自ラ内地ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ此ノ種ノ實業學校  
ニ使用スル教科書ノ内容ハ本府勸業ノ方針竝朝鮮農事ノ實際ト合致セサル  
ヲ得サレハナリ是ニ於テ先ツ本府ニ於テ制定シタル公立農業學校教授要目  
ニ準據シ農業各分科ノ教科書ヨリ始メテ大正二年二月其ノ編纂ニ著手シ同  
四年三月末迄ニ十一種十五冊ノ出版ヲ了シタリ此ノ外水産教科書ノ一部及  
農業理科教科書等ハ大正四年度内ニ商業學校主要教科ノ教科書ハ大正五年  
度内ニ全部出版ヲ了スル見込ナリ又内地人教育ニ於テハ内地ノ國定教科書  
ノ外教材ノ補充若ハ參考トナルヘキ事項ヲ集メ各科ニ涉リテ之ヲ編纂シ大  
正八年度ニ於テ之ヲ完了スル豫定ナリ尙朝鮮教育令ニ依リ朝鮮教育ハ教育  
ニ關スル勅語ノ旨趣ニ依ルヘキ旨規定セラレタルモ其ノ解釋區區ニ涉ルモ  
ノアルヲ以テ之カ標準ヲ示スノ必要ヲ認メ明治四十五年二月教育勅諭衍義  
ヲ出版セリ教授用地圖ハ從來適當ナルモノナク殊ニ併合後日本ノ領土ヲ具

體的ニ示スヘキモノ一モ之ナキヲ以テ大日本帝國全圖及分圖ノ編纂ニ著手シ大正二年八月先ツ朝鮮地方ノ部一軸ヲ出版セリ又國語普及上簡易適切ナル教授書ノ必要ヲ認ノ大正元年八月國語教授法ヲ出版シ各學校ニ配付シタリ

教科用圖書檢定ニ付テハ從來朝鮮ニ於ケル民間著作ノ教科書ハ何レモ其ノ編纂法頗ル幼稚ニシテ内容ノ不適當ナルモノ多カリシヲ以テ刊本又ハ稿本ニ依リ殆ト校閲若ハ改作ニ等シキ勞ヲ取り檢定ヲ與ヘタリシカ本府編纂教科書ノ出版逐次其ノ歩ヲ進メシニ依リ明治四十五年六月總督府令ヲ以テ教科用圖書檢定規程ヲ改正シ稿本檢定ヲ廢シ總テ刊本檢定ト爲シ且同時ニ舊學部時代ニ檢定セシ圖書ハ其ノ有效期限ヲ大正三年三月限トシテ之ヲ整理セリ

教科用圖書認可ニ關シテハ普通學校ニ於ケル教科書ハ普通學校規則ニ依リ必ス本府編纂教科書ヲ用井シムルコトト爲シ普通學校以外ノ官公立竝私立各學校ニ在テハ何レモ當該學校規則ニ依リ本府編纂竝檢定ノ圖書ヲ教科書トシテ使用スル場合ハ届出ニ止ムルモ其ノ他ハ一切本府ノ認可ヲ受ケシム

ルコトトセリ又出版法實施以前ニ朝鮮人ノ發行セシ不良圖書ノ私立學校教科書トシテ使用セラルルモノ尠カラサリシヲ以テ併合當時學務局ニ於テ此等不良教科書ノ内容ヲ審査シ其ノ結果發賣頒布ヲ禁止セシ圖書二十一種アリ此等竝其ノ後發賣頒布ヲ禁止セシ圖書ハ何レノ學校ニテモ教科書トシテ使用スヘカラサルハ勿論參考書トシテモ使用スヘカラサル旨屢通牒ヲ發シ又機會アル毎ニ注意ヲ與ヘ地方官憲ヲシテ充分之力取締ヲ爲サシメ又出版法ニ依リ出版ヲ許可セラルヘキ圖書中教科書類似ノモノハ其ノ出版許可前充分審査ヲ遂ケ以テ萬遺算ナキヲ期セリ其ノ結果諸學校教科書ノ狀況ハ今ヤ其ノ面目ヲ一新シ現時ハ不良教科書ノ使用セラルルモノ全ク其ノ跡ヲ絶テリ

## 第六節 留學生

留學生ニ關シテハ明治四十四年留學生規則ヲ改正發布シ東京ニ留學生監督ヲ置キ之カ保護監督ニ任セシメタリ官費生ハ定員五十名ニシテ官立學校醫學講習所及工業傳習所等ノ卒業生中校長又ハ所長ノ推薦ニ依レル成績優良

ナル者若ハ特ニ留學生監督ノ推薦セル者ノ中ヨリ選抜シテ内地ニ派遣シ各地ノ學校ニ入學セシム此等留學生ハ概シテ實業科ヲ履修スル者多シ私費生ニ至リテハ年年其ノ數ヲ増加シ東京ヲ中心トシ現在約六百名ヲ數フルノ狀況ニシテ中ニハ學生タル本分ヲ忘レ他ノ誘惑ニ遇ヒ學資ヲ浪費シ或ハ危險思想ヲ抱キ不穩ナル言動ヲ敢テスル者アル等之カ監督及取締ハ頗ル困難ナル事業ニシテ曩ニ監督部内ニ寄宿舎ヲ設ケ官私費生ヲ收容シ保護ノ途ヲ講セリト雖其ノ大多數ハ外部ニ在リテ留學生監督ニ信賴接近スルヲ厭ヒ其ノ指導ヲ肯セサル者尠カラズ依テ特ニ在學學校ニ對シ之カ訓育及監督上ニ關シ依囑スルト共ニ一面各道府尹郡守面長等ニ對シ朝鮮ニ於テ教育施設ノ完備セル今日ニ在リテ漫ニ内地留學ヲ爲スノ有害無益ナルコトヲ周知セシムルニ努メタリ歸還留學生ノ就職ニ關シテハ官私費生ヲ問ハス之カ周旋ニ努メ無爲徒食ノ遊民ヲ作ラサルコトニ苦心セリト雖實業學校・高等普通學校・專修學校卒業生等ノ比較的一般ノ歡迎ヲ受ケ就職ノ容易ナルニ反シ私費留學生中朝鮮ノ實狀ニ適合セサル教育ヲ受ケタルモノハ徒ニ意氣驕リ就職ノ難ヲ訴フル者多ク最近調査スル所ニ依ルモ約一百八十名ノ不就業者ヲ見ルカ



如キハ頗ル遺憾ノコトナリトス

## 第七節 經學院

經學院ハ經學ヲ講シ文廟ヲ祀リ風教德化ヲ裨補スルヲ以テ目的トシ明治四十四年六月經學院規程ヲ發布シ舊成均館ノ組織ヲ變更シテ之ヲ京城ニ設置セリ成均館ハ其ノ創立頗ル古ク尊聖慕賢ノ靈廟トシテ將タ養士育英ノ最高學府トシテ歷朝深ク之ヲ尊崇シ幸學謁聖ノコト屢行ハレ時ニ世子ヲシテ此ニ學ハシムル等實ニ儒生ノ中樞機關タリシト雖時勢ノ變遷ニ件ヒ新學興リ漸ク不振ノ狀態ニ陥リ殊ニ一定ノ學制ノ下ニ朝鮮ノ時勢ト民度ニ適ヘル教育施設ヲ見タル今日ニ在リテハ最早教育機關トシテノ成均館ハ全ク其ノ必要ヲ認メサルニ至レリト雖李朝五百年間ニ於テ專ラ國民ノ風教ヲ維持シ深ク民心ヲ支配セル儒教ノ力ハ半トシテ拔クヘカラサルモノアリ而カモ古來ノ慣行ヲ重シ良風美俗ヲ保存シ以テ風教德化ノ助長普及ヲ圖ルハ更ニ一層切實ナルモノアルヲ認メ之ヲ經學院ト改メ臨時恩賜金二十五萬圓ヲ基金ニ充テ大提學副提學祭酒司成直員等ノ職員ヲ置キ院務ヲ處理セシムルト共ニ

各道ヨリ高德篤行ノ耆宿ヲ選ミテ講士ニ舉ケ毎年春秋ノ釋奠ニ列セシメ經學ヲ講セシムル等儒林ヲ尊ヒ碩學ヲ重スルノ美風ヲ推獎シ更ニ進テ彛倫ノ扶持ト人心ノ啓發ニ資スルノ機關タラシメ尙本院ノ事業トシテ月次經典ノ講究ヲ爲シ或ハ講士ヲ地方ニ派シテ巡回講演ヲ爲シ或ハ院誌ヲ發刊スル等能ク施政ノ方針ニ獎順シテ民衆ノ儀表タラシメムトシ職員講士等亦其ノ趣旨ヲ體シ本院設立ノ目的ニ副ハムコトニ勉メツツアリ

## 第八節 郷校財産

郷校ハ往時地方各府郡ニ於ケル教育機關ニシテ大成殿ニ文廟ヲ祀リ明倫堂ニ儒學ヲ講スル慕聖育英ノ府タリシモ明治二十七年科擧ノ制廢止セララルト共ニ著シク衰頽ニ赴キ自ラ教育機關タルノ實ヲ失ヒ今ヤ僅ニ文廟ノ享祀ニ舊態ヲ留ムルニ過キス而シテ郷校財産ハ夙ニ之カ維持ニ充ツル目的ヲ以テ附屬セシメタル特種ノ財團ナルモ年所漸ク久シキニ及ヒテ該財産ヲ以テ單ニ地方儒林ノ私的共有ニ屬スルモノト誤認スルニ至レリ依テ之カ散逸耗盡ヲ防カムカ爲明治四十三年舊學部令ヲ以テ郷校財産管理規程ヲ發布シ之

ヲ府尹郡守ノ管理ニ屬セシメ其ノ收益ハ主トシテ地方公立學校ノ經費ニ充テ必要アルトキハ文廟ノ享祀費及修理費ニ使用スルコトヲ得セシメタリ爾來該財産ノ整理ニ力メシ結果年年收益ヲ増加シ當初ノ收益僅ニ七萬六千餘圓ニ過キサリシモノ大正三年度ニハ約二十萬圓ノ巨額ニ達シ學校經費使用額ノ如キ亦十二萬七千餘圓ヲ算スルニ至リ公立普通學校維持ノ有力ナル財源ヲ爲セリ尙將來之カ管理ノ手數ヲ省略シ且其ノ收益ヲシテ益多カラシメムカ爲適當ノ方法ヲ講スルノ必要ヲ認メ目下調査中ナリ

## 第七章 觀測

朝鮮ニ於ケル氣象觀測事業ハ日露戰役中軍事上ノ目的ノ爲ニ創立セラレタルモノナリシ力平和克復後其ノ施設ヲ舉ケテ舊韓國政府ニ引繼キ産業土木衛生交通ノ事業ニ資セシムルコトトナリ總督府設置後モ此ノ方針ノ下ニ仁川ニ觀測所ヲ置キ釜山木浦元山龍巖浦城津ノ臨時觀測所ヲ附屬測候所ト改メ更ニ京城平壤大邱江陵雄基中江鎭等漸次各地ニ測候所ヲ増設セリ然リト雖廣袤一萬餘方里ヲ有シ且ツ凸凹極リナキ朝鮮ニ在リテハ僅少ナル測候所ノ觀測ノミヲ以テ其ノ全斑ヲ窺フコト固ヨリ不可能ナルヲ以テ燈臺衛戍病院農場等ヲシテ簡易觀測ヲ施行セシメ更ニ大正三年度及大正四年度ニ於テ府郡五十箇所ヲ指定シ之ヲ開始セリ而シテ是等諸所ノ觀測成績ハ悉ク之ヲ仁川觀測所ニ蒐集整理シ月報年報又ハ臨時報告トシテ内外官公署及實業家ノ重ナルモノニ頒布シ尙之ニ基キ調査研究シタル結果ヲ臨時刊行物トシテ内外ニ發表シ以テ各種事業ノ經營ニ資シ且學界ニ貢獻スル所鮮シトセス又中央氣象臺其ノ他内地臺灣關東州及香港馬尼刺浦潮斯德等ノ測候所ト氣象

電報ヲ交換シ之ニ依リテ天氣圖ヲ作成シ天氣豫報暴風警報ヲ發布シ之カ普及方法トシテ信號所十五箇所ヲ設ケ其ノ設置ナキ地方ニ對シテハ警務機關ヲ通シテ警報普及ノ途ヲ講シ尙特ニ必要ト認ムル官公署團體等ニハ測候所ヨリ直接通報セシメツツアリ然レトモ目下觀測地點ノ僅少ナルカ爲氣象調査ノ材料充分ナラス天氣豫報及暴風警報確實ヲ缺クノ憾アルヲ以テ將來ニ於テ漸次必要ノ地點ニ測候所二十五箇所及簡易觀測所七十五箇所ヲ増設シテ測候機關ノ充實ヲ圖リ一面高層氣象觀測ヲ開始シ兩者相俟テ資料ノ充實ト天氣豫報ノ確實ヲ期シ以テ益產業交通衛生等ノ諸事業ニ貢獻セシメムトス又仁川觀測所ニ於テハ地動ノ觀測ヲ爲シ其ノ成績ヲ萬國地震協會及臨時震災豫防調查會ニ報告シ資料ヲ提供スルト共ニ内外官公署團體等ニ報告シテ其ノ參考ニ供セリ又時刻ノ測定ニ依リテ時辰儀ノ誤差ヲ正シ毎日仁川郵便局ヲ通シテ正確ナル時刻ヲ通報シ時刻ノ正確ト統一トヲ保持セシメツツアリ以上ノ外仁川觀測所ニ於テ朝鮮民曆ヲ編製シテ内地ト同一ノ標準時ヲ用井又大正元年十二月以降治安ニ妨害アル支那曆ノ輸入ヲ禁止シ毎年民曆ノ印刷冊數ヲ増加シ本年度ハ五十萬冊ニ達スルニ至レリ又朝鮮ニ於ケル古

今ノ天文氣象ニ關スル史實ヲ調査研究シ統計ヲ作り學者・專業家ノ參考ニ資シタルモノ尠カラス

# 第八章 司法

## 第一節 司法制度ノ整理

明治三十九年保護制度ノ施行セラルルヤ故伊藤統監ハ司法制度ノ改善ヲ以テ最先ノ急務ナリトシ當時ノ主要ナル裁判所ニ内地人ノ補佐官各一人ヲ傭聘セシメ尋テ明治四十年七月締結ノ日韓協約ニ依リ司法事務ヲ全然行政事務ヨリ分離セシメ明治四十一年八月ヨリ三審制度ノ裁判所ヲ開設シ内地人ヲ主要ナル判事檢事書記ニ任命セシメタリ斯ノ如クシテ漸ク改善ノ端ヲ啓キタリト雖更ニ進テ民衆ノ生命財産ノ安固ヲ確實ナラシムムニハ益司法制度ノ整備ヲ圖ルノ必要アリ然ルニ舊韓國政府ハ其ノ財政狀態ニ鑑ミ到底所期ノ改善ヲ遂行スル能ハサルヲ以テ明治四十二年七月司法及監獄ノ事務ヲ舉ケテ之ヲ帝國政府ニ委託セリ依テ帝國政府ハ舊韓國司法事務ヲ繼承スルト同時ニ從來統監府法務院及理事廳ニ屬シタル帝國居留民ニ對スル司法事務ヲ併セテ之ヲ統一スルノ必要ヲ認メ同年十月公布ノ勅令ニ依リ統監府司法廳官制及統監府裁判所令ヲ定メ之ニ依リ統監府司法廳及統監府裁判所ヲ

設置シ同年十一月一日ヨリ其ノ事務ヲ開始セリ  
越エテ明治四十三年八月二十九日韓國併合ノ結果同年十月一日朝鮮總督府  
官制實施ト同時ニ統監府司法廳ヲ廢止シ其ノ事務ハ本府ノ司法部ニ於テ之  
ヲ承繼シ又從前ノ統監府裁判所令ヲ以テ朝鮮總督府裁判所令ト爲シ裁判所  
ノ組織ハ從前ノ制ヲ蹈襲シ其ノ種類及權限等ハ範ヲ内地ノ制ニ採リテ三審  
制度ヲ確立シ區裁判所地方裁判所控訴院及高等法院ニ區分シ裁判所ハ朝鮮  
總督ニ直屬シ朝鮮ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌リ  
區裁判所ハ單獨審理ノ制ト爲シ地方裁判所及控訴院ハ三人高等法院ハ五人  
ノ判事ヲ以テ組織セル合議審理ノ制ヲ採用セリ又朝鮮總督府判事檢事ノ任  
用ニ關シテハ裁判所構成法ニ依リ判事檢事又ハ司法官試補タル資格ヲ有ス  
ル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルヲ原則トシ内地人又ハ朝鮮人ニシテ新制度施行  
ノ際統監府判事又ハ檢事タル者ハ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得又朝鮮人ニシ  
テ帝國大學官立專門學校又ハ朝鮮總督ノ指定シタル學校ニ於テ三年以上法  
律學ヲ修メ卒業シタル者ハ文官高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用ス  
ルコトヲ得ルモ朝鮮人タル判事檢事ニハ民事ニ在リテ原告被告共ニ朝鮮人



タル場合刑事ニ在リテハ被告人カ朝鮮人タル場合ニ限り其ノ職ヲ行ハシムルコトト定メタリ尙同年十月一日高等法院一控訴院三地方裁判所八地方裁判所支部十二區裁判所六十八ヲ設置シ裁判所ノ職員ハ判事二百六十一人檢事六十三人書記長四人通譯官四人書記及通譯生四百二十九人ヲ以テ定員ト爲セリ

朝鮮人ニ對スル司法ニ關スル法規ノ適用ニ付テハ原則トシテ内地法ヲ適用スルコトト爲シタルモ多年生活ノ規準トシテ其ノ違行ニ慣熟セル舊韓國ノ法規及慣習ヲ遽ニ無視スルヲ得サル事情アルヲ以テ同法權委任時代ニ於ケルト同シク明治四十二年勅令第二百三十八號朝鮮人ニ係ル司法ニ關スル制ニ依リ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮人ニ對シテハ舊韓國法規ヲ適用シ朝鮮人ト朝鮮人ニ非サル者トノ間ノ民事事件ニ付テハ一二ノ變更ヲ以テ内地法ヲ適用スルコトト爲シタリ

舊統監府判事ニ對シテハ法規上身分ニ付特別ノ保障ナク一般文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタリシカ明治四十四年制令第四號ヲ以テ朝鮮總督府裁判所令ニ改正ヲ加ヘ朝鮮總督府判事ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ懲戒ノ處分ニ依

ル場合ヲ除クノ外其ノ意ニ反シテ其ノ官ヲ失フコトナキ旨ヲ規定シ以テ終身官タルノ保障ヲ與ヘタリ又判事ノ懲戒ニ付テハ同年制令第五號ヲ以テ朝鮮總督府判事懲戒令ヲ制定シ一般官吏ニ對スル懲戒ノ場合ト其ノ手續ヲ異ニシ特ニ判事ヲ以テ組織シタル判事懲戒委員會ノ決議ニ依リ懲戒ヲ加フルコトト爲シタルカ爲裁判官ノ地位ハ從前ニ比シ大ニ安固ヲ加ヘタリ辨護士ニ關スル制度ハ舊韓國時代ニ在リテハ內地人ハ內地ニ於テ辨護士ノ資格ヲ有スル者ノ外訴訟事務ニ相當ノ經驗アル者ハ統監府理事廳理事官ノ許可ヲ得テ之ニ從事スルコトヲ得タリシカ明治四十三年制令第十二號ヲ以テ辨護士規則ヲ改正シ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ辨護士ノ業務ニ從事スルコトヲ得ル者ヲ内地ノ辨護士法ニ依リ其ノ資格ヲ有スル者ニ限レル結果從來理事官ノ許可ヲ得テ訴訟事務ニ從事シタル者ハ爾後其ノ業務ニ從事スルコトヲ得サルコトトナリタルモ其ノ後明治四十四年制令第八號ヲ以テ當分ノ内其ノ理事廳ノ在リタル地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ニ於テノミ訴訟代理ノ業ヲ爲スコトヲ得セシムルニ至レリ又朝鮮人ニ對シテハ辨護士規則ニ依リ其ノ爲特ニ設ケタル辨護士試驗ニ合格シタル者又ハ舊韓國裁判所

舊統監府裁判所朝鮮總督府裁判所ノ判事檢事若ハ舊韓國ノ辯護士タリシ者ニ限リ辯護士タルノ資格ヲ有セシムルコトト爲セリ  
以上ハ韓國併合當時ヨリ明治四十五年三月迄ノ間ニ於ケル司法制度ノ綱要ニシテ爾來之ニ依リテ司法ノ公正ヲ發揮シ大ニ内外ノ信用ヲ博シ得タリト雖最高裁判所ノ下ニ三種ノ裁判所ヲ置キ一審二審ノ裁判共ニ二種ノ裁判所ニ分屬シ裁判所ノ種類夥多ニシテ其ノ權限亦相錯綜シ加之單獨判事ノ裁判權ハ區裁判所ノ權限ニ屬スル輕易ノ事件ニ限ラレ其ノ他ノ事件ハ總テ合議裁判ノ手續ヲ用井サルヲ得ス此ノ如キハ百般ノ事簡捷ヲ必要トスル朝鮮ノ現狀ニ適セサルヲ以テ之カ組織改善ノ必要アルヲ認メ明治四十五年制令第四號ヲ以テ朝鮮總督府裁判所令ヲ改正シテ從來ノ區裁判所地方裁判所及控訴院ヲ廢シ裁判所ノ種類ヲ減シテ之ヲ地方法院覆審法院及高等法院ノ三階級ニ區分シ尙必要ニ從ヒ地方法院ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲地方法院ノ支廳ヲ設置スルコトヲ得ルコトトシ第一審ノ裁判ハ總テ地方法院ニ於テ第二審ノ裁判ハ總テ覆審法院ニ於テ又第三審及特別ノ事件ノ裁判ハ高等法院ニ於テ各之ヲ行ハシメ以テ其ノ權限ヲ明確ニシ且事務ノ簡捷ヲ期スルカ

爲第一審ニ於テハ單獨判事ヲシテ裁判ヲ爲サシムルヲ原則トシ特ニ重要ナル事件ニ限り合議裁判ノ制ヲ採リ一層裁判事務ヲ敏活ナラシメ以テ朝鮮ノ現狀ニ適應セシムコトヲ期シタリ而シテ改正裁判所令實施後ニ於ケル裁判所ノ數ハ高等法院一、覆審法院三、地方法院八、地方法院支廳六十二シテ之ヲ從前ノ裁判所數ニ比シ二十ヲ減シタリ又裁判所職員ノ定員ハ判事二百十六人、檢事六十人、書記長四人、通譯官四人、書記及通譯生三百九十一人ニシテ之ヲ從前ノ定員ニ比スレハ判事四十五人、檢事三人、書記及通譯生三十八人ヲ減シタリ尋テ大正三年四月ニ至リ交通機關ノ整備ニ伴ヒ強テ之ヲ存置セサルモ人民ニ多大ノ不便ヲ感セシムル虞ナシト認メタル地方法院支廳五箇所ヲ廢シテ其ノ數ヲ五十五ニ減シ又同年五月制令第二十號ヲ以テ地方法院管内ニ其ノ出張所ヲ設置シ裁判所書記ヲシテ登記及公證ノ事務ヲ取扱ハシムルノ制ヲ定メ同月一日ヨリ三箇所ノ出張所ヲ設置シ而シテ之ニ伴ヒ定員令ヲ改正シ判事十四人、檢事一人ヲ減シ書記及通譯生六人ヲ増員シタリ又大正二年四月制令第四號ヲ以テ朝鮮總督府裁判所令ヲ改正シ新ニ司法官試補及豫備判事竝豫備檢事ノ制ヲ設ケ之ト同時ニ制令第五號ヲ以テ判事檢事ノ任用ニ

關スル制ヲ改メ朝鮮總督府司法官試補ハ裁判所構成法ニ依リ司法官試補タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ命シ朝鮮總督府判事及檢事ハ裁判所構成法ニ依リ判事若ハ檢事タル資格ヲ有スル者又ハ朝鮮總督府司法官試補トシテ一年六月以上實務ノ修習ヲ爲シ試験ニ合格シタル者ノ内ヨリ之ヲ任用スルコトト爲シ裁判所構成法ニ依リ司法官試補タル資格ヲ有スル者ヲシテ實務ノ修習ヲ爲サシメス直ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルノ制ヲ廢セリ而シテ朝鮮總督府司法官試補ヨリ新ニ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用シタル者ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ其ノ闕位アル迄豫備判事又ハ豫備檢事トシテ地方法院地方法院支廳又ハ其ノ檢事局ニ勤務セシムルコトト爲シ以テ現今ニ及ヘリ又明治四十五年制令第五號ヲ以テ辯護士規則ヲ改正シ内地人ノ辯護士資格ヲ擴張シテ舊韓國裁判所舊統監府裁判所若ハ朝鮮總督府裁判所ノ判事檢事タリシ者ヲモ辯護士タルコトヲ得セシメタリ

朝鮮ニ於ケル民事刑事ニ關スル從來ノ法規ハ概ネ舊韓國時代ノ制定ニ係リ内地人及外國人ニ對スルモノト朝鮮人ニ對スルモノト二箇全然別種ノ法系ヲ存シタルヲ以テ其ノ關係彼此錯綜シ實際ノ適用上非常ニ困難ナルノミナ

ラス往往時勢ノ要求ニ適セサルモノアリタルヲ以テ之カ整理統一ヲ圖ラム  
カ爲明治四十五年三月制令及府令ヲ以テ新ニ法令ヲ發布シ同年四月一日ヨ  
リ之ヲ施行シ内地人朝鮮人及外國人ノ別ナク之ヲ適用スルコトト爲セリ即  
チ民事ニ在リテハ朝鮮民事令朝鮮不動產證明令朝鮮不動產登記令及其ノ施  
行上必要ナル規定ヲ設ケ民法商法民事訴訟法其ノ他内地ノ現行法ニ依ルヘ  
キコトヲ原則トセリ然レトモ朝鮮ノ現狀ニ鑑ミ遽ニ是等ノ内地法ニ依ルコ  
トヲ得サルモノ又ハ之ニ依ルヲ以テ不便ナリト認メタルモノニ付テハ特ニ  
相當ナル除外例ヲ設ケ又ハ從來ノ例ニ依ラシムルコトト爲セリ今此等例外  
規定ノ主ナルモノヲ列擧スレハ朝鮮人相互間ノ法律行爲ニ付公ノ秩序ニ關  
スルモノノ外ハ其ノ慣習ニ依リ民法中能力親族及相續ニ關スル規定ハ之ヲ  
朝鮮人ニ適用セスシテ從來ノ慣習ニ依ルコトト爲シ又不動產ニ關スル物權  
ノ種類及效力ニ付テハ民法ニ定メタル物權ヲ除クノ外慣習ニ依ルコトニ定  
メ朝鮮人ニ關スル人事訴訟ニ付テハ人事訴訟手續法中失踪ニ關スル手續ヲ  
除クノ外之ヲ適用セサルコトトシ又其ノ他ノ裁判手續ニ付テモ朝鮮ノ現狀  
ニ照ラシ多クノ點ニ於テ例外規定ヲ設ケ手續ノ簡易ヲ圖レリ而シテ民事令

ニ於テ民法商法等ニ定メタル公證人ノ職務ハ裁判所書記之ヲ行フコトニ規定セリト雖一般公正證書ノ作成ニ付テハ何等ノ規定ナカリシカ故ニ大正二年三月發布ノ制令ヲ以テ朝鮮公證令ヲ定メ公正證書ノ作成ニ關スル規定ヲ設ケ朝鮮ノ現狀ニ鑑ミ當分ノ内專務ノ公證人ヲ置カス地方法院ヲシテ公證人ノ職務ヲ行ハシムルコトト爲シ同年五月一日ヨリ之ヲ施行シタリ又朝鮮不動産登記令ハ土地臺帳ノ備ハラサルカ爲施行スルニ至ラサリシカ市街地二十九箇所ハ土地調査結了シタルヲ以テ關係法令ノ一部ニ改正ヲ加ヘ大正三年五月一日ヨリ之ヲ右地域ニ施行シ且各國居留地制度ノ撤廢ニ件ヒ永代借地ノ登記ニ關スル法令ヲ定メ同時ニ之ヲ施行シ尋テ船舶令ノ施行ニ因リ船舶登記規則ヲ定メ同年六月一日ヨリ之ヲ施行シ以テ不動産及船舶ニ關スル權利ノ保障ヲ的確ナラシメタリ

刑事ニ關シテハ朝鮮民事令ト同時ニ朝鮮刑事令ヲ制定シ刑法刑事訴訟法等實體法手續法共ニ内地ノ現行法ニ依ルヘキコトト爲セリ然レトモ朝鮮ニハ殺人強盜等ノ犯罪殊ニ多ク其ノ犯狀亦極メテ殘忍ナルモノ少カラサルヲ以テ朝鮮人ノ此等ノ犯罪ニ付直ニ内地法ヲ適用スルハ治安ノ保持上事情ニ適

セサルモノト認メ朝鮮人ニ對シテハ殺人強盜等ノ犯罪ニ限り當分ノ内刑法大典ノ效力ヲ有セシムルコトト爲シタリ又裁判手續ニ付テハ民事ニ於ケルト同シク多クノ點ニ於テ例外規定ヲ設ケ手續ヲ簡易ニシ朝鮮特殊ノ現狀ニ適セシムコトヲ圖レリ

又笞刑ハ朝鮮固有ノ刑ニシテ執行ノ方法宜ヲ得ハ微罪ニ對スル制裁トシテハ却テ短期ノ自由刑又ハ少額ノ財産刑ニ比シ其ノ效力多ク且執行ノ方法極メテ簡易ナルニ依リ此ノ制ヲ存シ朝鮮人ニ對シテノミ適用スルコトトシ明治四十五年制令第十三號ヲ以テ朝鮮笞刑令ヲ制定シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行セリ而シテ本令ハ從前ノ制度ニ幾多ノ改良ヲ加ヘ適用ノ範圍ヲ擴メタルモ老幼婦女子ハ之ヲ除外シ又其ノ執行ニ付テハ可及的人道ヲ重ニスル趣旨ヲ以テ特ニ精細ナル手續ヲ規定セリ

以上列舉セルカ如ク朝鮮ニ於ケル司法制度ハ初メ舊韓國政府ノ施設ニ依リ改善ノ端ヲ啓キ其ノ後司法事務ノ委任及韓國ノ併合ニ伴ヒ前後二回ノ改正ヲ施シ爾後更ニ幾多ノ改善ヲ經タルモノニシテ之ニ依リ司法事務ハ年ヲ逐ウテ健全ナル發達ヲ遂ケ其ノ成績益良好ニ向ヒ人民ノ信賴愈深厚ヲ加ヘツ



ツアルノミナラス數回ノ改善ニ因リ多額ノ費用ヲ節約スルコトヲ得タルモノニシテ朝鮮現時ノ財政狀態ニ鑑ミ特ニ適切ナル制度タルヲ疑ハス

## 第二節 裁判事務

韓國併合以來裁判所ニ於ケル民事・刑事ニ關スル事件ハ逐年増加ノ趨向ヲ呈セリ即チ明治四十三年ヨリ大正三年ニ至ル四箇年間ニ於ケル民事訴訟事件ヲ舉クレハ左ノ如シ

年	新 受 件			計
	第一審事件	第二審事件	第三審事件	
明治四十三年	二四、二六五	一、五〇七	二〇六	二五、九七八
同 四十四年	二九、六三八	二、一三三	二四四	三二、〇一五
大 正 元年	三四、七四一	二、二二七	二二七	三七、一九五
同 二年	三五、三二七	二、八五二	三六〇	三八、五三九
同 三年	三三、四三六	二、六九一	五五六	三六、六八三

大正元年迄ハ毎年其ノ總數ニ於テ約二割乃至三割ノ増加ヲ示セルカ大正二年ニ至リ其ノ増加率稍減少シ大正三年ニ至リ著シク件數ノ減少ヲ見タルハ

簡易ナル督促手續ニ依ルモノ激增シタル結果ナルヘシ又同期間ニ於ケル督促事件並其ノ他ノ民事雜事件ハ左ノ如シ

年	新 受 件		計
	督 促 事 件	其ノ他ノ民事雜事件	
明治四十三年	一、六六六	九、〇〇六	一〇、六七二
同 四 十 四 年	二、二六二	一〇、六八四	一二、九四六
大 正 元 年	一〇、〇三三	一七、六七〇	二七、六九二
同 二 年	二九、一六三	二三、三七九	五二、五四二
同 三 年	四五、二二二	七三、四七一	一二八、五九二

之ニ依レハ毎年非常ノ増加ヲ示シ就中督促事件ハ大正元年以後ニ於テ著シク増加セリ是レ明治四十五年四月朝鮮民事令ヲ實施シ朝鮮人モ亦内地人同様ノ督促手續ニ依ルコトヲ得ルニ至レル結果ナリ

以上ノ現象ハ時運ノ進展ト一般人民ノ權利思想ノ發達ニ因ルハ言テ俟タサル所ナリト雖曩ニ帝國政府カ保護政治施行以來銳意司法制度ノ改善ニ努メタル結果年ヲ遂ウテ健全ナル發達ヲ遂ケ生命財産ノ安固ヲ加フルニ至リ裁判ノ公明嚴正ナル毫モ當事者ノ貴賤ト情實ノ如何ニ依リ是非曲直ヲ顛倒ス

ルカ如キコトナキヲ視テ大ニ一般ノ信賴スル所トナリ日ヲ逐ウテ其ノ程度益深厚ヲ加ヘ進テ裁判所ノ保護ヲ求ムル者愈多ヲ致セルニ職由セスンハ非ス

又大正二年五月一日公證令實施後同年十二月迄ノ八箇月間及大正三年中ニ取扱ヒタル件數ハ左ノ如シ

大正二年自五月 至十二月 間	公正證書作成	拒絕證書作成	私署證書作成	執行文付與	正本付與	總計
三三二	二〇〇	二	一九	二九	一九一	四四二
三	三三二	一	四八	六一	三六一	七九二

公證ノ件數未タ多シト謂フコトヲ得ス且其ノ當事者ハ多ク内地人ニシテ朝鮮人ハ甚タ稀ナリ是レ朝鮮人カ未タ公證ノ利便實益ヲ周知セサルニ因ルナルヘシ然レトモ今後社會事物ノ發達ニ件ヒ諸般取引ノ頻繁ヲ加フルニ從ヒ内鮮人トモ公證ノ必要ヲ認識シ證書ノ作成ヲ求ムル者漸次増加スヘキハ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ

明治四十三年ヨリ大正三年ニ至ル四箇年間ニ於ケル刑事事件ハ左ノ如クニシテ毎年其ノ總數ニ於テ約二割乃至三割ノ増加ヲ示セリ

新	新				受
	第一審事件	第二審事件	第三審事件	計	
件數	件數	件數	件數	件數	件數
明治四十三年	六、八三八	九、四九五	九二〇	一、二二五	一六三
同 四十四年	九、四四二	一、〇四七	一、四四〇	一七三	一九九
大 正 元 年	一一、三二一	一、〇四七	一、四四一	一六五	二一九
同 二 年	一五、四七〇	二〇、一七二	一、七一六	一三七	二〇八
同 三 年	一六、三四九	二一、四五二	一、六七三	一四三	一七、八二五
同 三 年					一七、八一四
同 三 年					二二、〇六七
同 三 年					二二、三二一〇
同 三 年					一〇、九一九
同 三 年					一四、二六〇
同 三 年					一七、八二五
同 三 年					二二、〇六七
同 三 年					二二、三二一〇

又同上期間ニ於ケル檢事搜查事件ハ左ノ如クニシテ是亦毎年其ノ件數及人員ニ於テ約三割ノ増加ヲ示セリ

新	新				受
	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同 二 年	
件數	件數	件數	件數	件數	
一四、二五〇	一九、一三四	二四、九三七	三一、二八一	三四、八三三	
二二、一三六	二九、四三二	三七、一三三	四六、五二〇	五二、六九四	
同 三 年	同 三 年	同 三 年	同 三 年	同 三 年	

斯ノ如ク刑事事件及檢事搜查事件ノ増加スルハ主トシテ警務機關ノ完備ニ件ヒ犯罪ノ搜查漸次細密周到ニ趨キ從テ檢舉數多ヲ加ヘタル力故ナリト雖前述べノ如ク一般人民ノ裁判所ヲ信賴スルノ念倍深厚ヲ致セル結果進テ當該官憲ニ犯罪ノ申告ヲ爲ス者著シク増加シタルニ基因セルコトモ亦爭フヘカ

ラサル事實ナリトス而シテ漸次強盜略人等ノ如キ蠻的性質ヲ帶ヒタル犯罪ヲ減シ詐欺・橫領・文書偽造等知能的犯罪ノ數ヲ増加シ且犯罪ノ手段又漸次巧妙ヲ加フルニ至レル傾向アリ是レ社會的物事ノ進步スルト共ニ人智モ亦發達シ之ニ隨伴シテ起ル所ノ自然ノ現象ナリトス

### 第三節 領事裁判權ノ消滅及其ノ影響

舊韓國ニ於ケル領事裁判制度ハ各國トノ條約ニ依リ設定シタルモノニシテ司法事務ノ不完全ナル時代ニ在リテ止ムヲ得サル事情ニ因レリ然ルニ帝國政府ハ保護政治施行以來舊韓國ノ司法制度ヲ改善シ主トシテ民衆ノ生命財產ノ保護ヲ確實ナラシメムコトヲ期シ殊ニ明治四十年八月以降ハ司法事務ヲ全然行政事務ヨリ獨立セシメ三審制度ニ基キ文明的裁判所ヲ新設シ内地人ヲ主要ナル判事・檢事及書記ニ任用シ且法官養成所ヲ設立シテ朝鮮人法官ノ養成ニ努メ又一面法典調查局ヲ設置シテ法典ノ編纂ニ銳意シ以テ司法制度ノ改善ヲ遂成シ領事裁判權撤去ノ準備ヲ全ウセムコトヲ企圖シタリト雖法官ノ養成ト法典ノ編纂トハ共ニ至難ノ事業ニ屬シ短時日ニシテ其ノ目的

ヲ達シ得ヘキニ非サルノミナラス舊韓國政府ノ財政ハ到底司法制度ノ改善ヲ遂行スルニ堪ヘサル事情アリシヲ以テ司法制度ノ整備ニ關シテハ既ニ諸外國ノ信用ヲ有スル帝國政府ニ其ノ司法權ヲ委任スルノ寧ロ至當ナルヲ認メ明治四十二年七月舊韓國政府ハ司法及監獄ニ關スル事務ヲ舉ケテ帝國政府ニ委託スルニ至レリ仍テ帝國政府ハ同年十一月一日新ニ統監府司法廳及統監府裁判所ヲ設置シテ韓國ニ於ケル司法事務ヲ開始シタリ爾來司法制度ハ益改善ノ實ヲ舉ケ裁判事務ハ顯著ナル發達ヲ遂ケ之ヲ文明國ニ於ケル司法制度ニ比スルニ殆ト遜色ナキノ域ニ達シ著シク内外人ノ信賴ヲ收ムルニ至リ治外法權撤去ノ機運ハ茲ニ漸ク熟シタリ而シテ明治四十三年八月二十九日韓國併合ノ結果朝鮮ニ於ケル領事裁判權ハ當然消滅ニ歸シ居留外國人ハ總テ我カ司法權ニ服スルコトトナリ爾來外國人ノ我カ司法ニ對スル信賴ノ念ハ日ニ倍深厚ヲ加ヘ今ヤ安シテ其ノ保護ヲ受クルニ至レリ試ニ明治四十四年以後大正三年ニ至ル外國人關係ノ民事及刑事事件ヲ舉クレハ左ノ如シ

第四節 三審制度維持ノ理由

合 計	新			受			合 計
	第一審事件 件數	第二審事件 件數	第三審事件 件數	第一審事件 件數	第二審事件 件數	第三審事件 件數	
明治四十四年	二三九	四〇五	二八	五八	三	二七〇	四六八
大正元年	二二九	三三五	一五	一七	三	二四七	三五五
同 二 年	二七〇	三一九	二三	三一	三	二九六	三五五
同 三 年	二八九	四〇四	一九	二三	二	三一〇	四二九
合 計	一、〇二七	一、四六三	八五	一二九	一一	一、一三五	一、六〇七

合 計	新			受			合 計
	第一審事件 件數	第二審事件 件數	第三審事件 件數	第一審事件 件數	第二審事件 件數	第三審事件 件數	
外國人	七	一	三	九	一	四	三三
内地人ト朝鮮人ト外國人間	五	四	一	三	一	一	二一五
内地人ト外國人間	一八	八	一	五	一	一	五三三
朝鮮人ト外國人間	一七六	一二七	二四七	二四七	二三五	七八五	七八五
合 計	一七六	一二七	二四七	二四七	二三五	七八五	七八五

朝鮮ニ於ケル司法制度ハ從來數度ノ改革ヲ見其ノ變遷尠シトセサルモ草創過渡ノ際ニ於テハ改善ノ方法トシテ是亦已ムヲ得サル所ナリトス而シテ現行ノ司法制度ハ朝鮮ノ實情ニ適應セル最善ノ制度ナルヲ以テ今後特異ノ事情發生セサル限ハ努メテ其ノ變革ヲ避ケ長ク之ヲ持續スルノ方針ナリ然ルニ世或ハ二審制度ノ採用ヲ唱道スル者ナキニ非サルモ三審制度ハ事實ノ認定及法律ノ適用ニ違算過誤ナキヲ期スルノ目的ニ出テ彼ノ畏ルヘキ誤判ヲ避ケ司法ノ公平ト適正トヲ保維スルニ最適當ノ途ナリト謂フヘク今ニ於テ之ヲ二審制度ニ變更セハ啻ニ世運ノ進展ニ逆行シ人民ノ保護ヲ輕ニスルノ嫌アルノミナラス同一ノ法令ヲ施行スル地域ニ於テハ最高裁判所ハ法令解釋ノ統一上唯一無ニタラシメサルヘカラサルカ故ニ高等法院ヲ廢スルノ外現在ノ三覆審法院中二院ヲ廢セサルヘカラサルニ至ルヘシ惟フニ現制度ニ於テ地方法院ハ内地ノ地方裁判所ノ如ク區裁判所ノ裁判ニ對スル上訴事件ヲモ取扱フモノト異リ單ニ第一審事件ノミヲ取扱フニ過キスシテ第二審事件ハ總テ覆審法院ノ管轄ニ屬スルヲ以テ今日ニ於テモ寧ロ少キニ失スルノ憾アル第二審裁判所ノ數ヲ更ニ減少シテ一箇ト爲スカ如キハ土地廣ク人口



多ク訴訟事件ハ逐年増加ヲ示シ且交通機關ノ未タ完備セサル朝鮮ニ於テ官民ノ共ニ堪ヘ得ル所ニ非サルナリ加之三審制度ノ廢止ハ領事裁判權消滅前後ノ事情ニ照シ最不可ナルモノアリ抑朝鮮ニ於ケル領事裁判權ノ消滅ニ關シ諸外國カ何等異議ヲ挾マサリシハ是レ全ク帝國政府カ保護政治施行以來銳意朝鮮ニ於ケル司法制度ノ改善ニ努メ範ヲ内地ノ制ニ採リ三審制度ヲ確立シ裁判ノ公正適實ヲ致シ大ニ内外ノ信賴ヲ博シタルカ爲ニ外ナラス當時帝國政府ハ諸外國ニ對シ長ク現制度ヲ存續シ之カ變更ヲ爲ササルヘキヲ聲明シタルコト内外ノ耳目ニ新ナル所ナリ今ニシテ三審制度ヲ改ムルカ如キコトアラムカ爲ニ帝國政府ハ信ヲ列國ニ失ヒ國際上ノ情誼ヲ傷クルニ至ルノミナラス司法權信賴ノ度ヲ減シ延イテ生命財產ノ保護ニ疑悞ノ念ヲ懷カシムルニ至ルヘシ是レ永ク現制ヲ存シ漫ニ之カ變革ヲ容ササル所以ナリ

## 第五節 監獄制度ニ關スル方針及施設

朝鮮ニ於ケル監獄ハ初メ舊韓國政府内部ノ所管ニ屬シ警察署ニ附設セラレタリシカ明治四十一年一月各部改正官制施行ト同時ニ監獄官制ヲ實施シテ

之ヲ法部ノ所管ニ移シ監獄及監獄分監ヲ設置シタリ然ルニ當時韓國ニ於ケル獄舎ノ設備ハ甚不完全ニシテ監獄事務亦甚シク紊亂セルヲ以テ司法事務ト共ニ銳意其ノ改善ヲ企圖セルモ舊韓國政府當時ノ財政狀態ヲ以テシテハ到底所期ノ改善ヲ施スコト能ハサル事情アリシヲ以テ明治四十二年七月舊韓國政府ハ司法事務ト共ニ之ヲ帝國政府ニ委託スルニ至レリ仍テ帝國政府ハ同年十月勅令第二百四十三號ヲ以テ統監府監獄官制ヲ公布シ之ニ基キ從來ノ監獄及分監ハ理事廳監獄ト共ニ統監府監獄ニ變更シ同年十一月一日ヨリ其ノ事務ヲ開始セリ

越エテ明治四十三年八月韓國併合ノ結果同年十月一日朝鮮總督府新官制實施ト同時ニ統監府監獄官制ハ之ヲ朝鮮總督府監獄官制ニ改メ監獄ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ其ノ設置及廢止ハ朝鮮總督之ヲ定メ且總督ハ必要ニ應シテ分監ヲ設置スルコトヲ得ルコトト爲シ典獄ハ朝鮮總督及控訴院檢事長ノ指揮監督ヲ承ケ監獄事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督スルコトト爲シタリ又監獄事務ノ取扱ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百三十九號ニ依リ司法大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行ヒ笞刑ノ執行ニ付テハ舊韓國法規ニ依ル等若

干ノ例外ヲ除クノ外内地監獄ノ例ニ依ルコトトセリ而シテ朝鮮總督ハ同年十月一日日本監八分監十三ヲ設置シ監獄職員ノ定員ヲ典獄八人看守長及通譯生六十一人監獄醫十三人教誨師四人教師四人藥劑師四人看守七百人女監取締四人ト定メタリ

然ルニ從來ノ制度ハ往往朝鮮ノ現狀ニ適應セサルモノアルニ依リ之カ改善ノ必要ヲ認メ明治四十五年三月制令及府令ヲ以テ新ニ朝鮮監獄令同施行規則及假出獄取締規則ヲ制定シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行シ且各監獄答刑執行ノ統一ヲ期スルカ爲其ノ執行心得ヲ定メタリ而シテ以上ノ法規ニ於テ内地ノ監獄ニ於ケルモノト著シク異レル所ハ在監者一般ニ對シテ糧食ノ自辨及差入ヲ許スノ途ヲ開キ又受刑者ノ監外作業ニ付制限の規定ヲ設ケス出役者ノ選擇ヲ全ク典獄ノ裁量ニ委シ其ノ他檢束ノ確保ヲ期スルカ爲特種ノ戒具ヲ設ケタル等ノ點ニシテ其ノ實施以來行刑ノ方法ヲシテ克ク朝鮮ノ事情ニ適セシメ遇囚上ニ將タ作業ノ施行上ニ多大ノ便益ヲ得ルニ至レリ朝鮮ニ於テ指紋ノ徵取ヲ創始シタルハ明治四十三年八月ニシテ爾來幾多ノ研究改良ヲ加ヘ大正元年四月訓令第四十七號ヲ以テ指紋取扱規程ヲ定メ一層其ノ

取扱ノ敏活正確ヲ期セリ又監獄ノ數ハ大正元年九月本監一箇所ヲ増設シタル外從前ト異ルコトナク又監獄職員ハ監獄ノ増設及在監人ノ増加ニ伴ヒ且作業醫務及教務ノ周到ヲ圖ルカ爲必要ナル増員ヲ行ヒ現在ニ於ケル定員ハ典獄九人看守長技手通譯生九十六人監獄醫十七人教誨師十二人教師六人藥劑師十人看守一千一百二十二女人監取締三十三人トナレリ以上ハ韓國併合當時ヨリ現今ニ至ル監獄制度ノ大要ニシテ爾來獄舍ノ新營ヲ行ヒ拘禁戒護作業給養衛生教誨及教育等獄務ノ全般ニ涉リテ改善ノ歩ヲ進メ且其ノ周到ヲ圖リタル結果今ヤ著シク其ノ面目ヲ改メ殆ト昔日ノ觀ヲ留ムル所ナキニ至レリ

## 第六節 監獄事務及囚情ノ變遷

監獄ニ於ケル在監人員ハ逐年増加ノ趨勢ヲ呈シ數度ノ大赦・特赦・減刑等ノ赦典ニ因リテ多數ノ出獄者アリタルニ拘ラス大正三年十二月末日現在人員ハ猶九千四百七十四人ニ達シ明治四十二年十月末日即チ帝國政府カ舊韓國政府ヨリ委託ヲ受ケ監獄事務ヲ開始シタル當時ノ在監人員六千二百十一人ニ

比スレハ實ニ三千二百六十三人ノ増加ナリトス今明治四十三年以降大正三年ニ至ル迄ノ各年十二月末日現在在監人員及其ノ増減ヲ擧クレハ左ノ如シ

在監人員	明治四十三年末	同四十四年末	大正元年末	同二年末	同三年末
七〇二	九八九〇	九、五七二	九、五七二	九、五七二	九、四七四
九九五	二、五六二	〇	三二八	〇	四一六
減	増	減	増	減	増
各前年比較					

明治四十三年ニ於テハ同年勅令第三百二十五號大赦令ノ施行ニ因リ既未決囚合計一千七百十一人ノ出獄者アリシニ拘ラス同年十二月末日現在ノ在監人員ハ前年同期ノ在監人員ニ比シ猶九百九十五人ノ増加ヲ示シ在監者ノ減少ヲ見ルニ至ラサリシカ大正元年ニ於テハ九月以降大赦特赦又ハ減刑ノ結果出獄者多カリシカ爲前記四箇年間ニ於テ唯同年十二月末日ノ現在人員カ前年末ニ比シ漸ク十人ノ減少ヲ見タルノミ而カモ明治四十三年十二月末日ノ在監人員ニ比スレハ其ノ多キコト二千五百二十二人ナルヲ見レハ在監人員ノ如何ニ著シク増加シタルカヲ知ルニ足ルヘシ

以上ノ如ク年年著シク在監人員ノ増加ヲ見ルニ拘ラス從來朝鮮ニ於ケル監

獄ノ設備ハ甚不完全ニシテ收容力入監人員ノ増率ニ伴ハス到底拘禁及行刑ノ適實ヲ期スル能ハサルヲ以テ其ノ改善ハ監獄行政上最緊要ナル事項ナルコトヲ認メタルニ依リ爾來年年財政ノ容ス限リ極力獄舎ノ新築若ハ改築ニ努メタル結果今ヤ大ニ舊觀ヲ改メ面目ヲ一新シテ其ノ收容力ヲ増大シ且戒護上ノ安固ヲ加フルニ至リタリト雖尙獄舎中舊來ノ建物ヲ襲用セルモノアリ其ノ新築ニ係ルモノ亦必スシモ完全ト謂フヘカラス而シテ他方ニ於テ囚徒ハ益増加ノ傾向アリテ大正三年十二月末日ニ於ケル拘禁狀態ハ平均一坪ノ收容人員四人七分一人ノ占居面積二合一勺ニシテ未タ各監獄ニ於ケル拘禁狀態ヲシテ十分ニ緩和セシムルコトヲ得ス爲ニ在監人ノ種類性格罪質犯數・年齡等ヲ斟酌シテ所定ノ分類別異法ヲ十分ニ實行スルヲ得ルニ至ラサルハ頗ル遺憾トスル所ナリ

又監獄事務受託當時ニ於ケル監獄ノ作業ハ頗ル不振ノ狀況ナリシカ銳意其ノ普及擴張ニ努メタル結果逐年就業者ノ數ヲ増加スルニ至レリ即チ明治四十三年以降大正三年ニ至ル五年間ニ於ケル各十二月末日現在就業人員及受刑者一百人ニ對スル就業歩合ヲ舉クルハ左ノ如シ

就 業 人 員 受刑者百人ニ對スル就業歩合	明治四十三年	二、五七三	同四十四年	五、七六九	大正元年	六、五五二	同二年	八、〇四二	同三年	七、九七三
		四一		六五		七三		八八		九一

大正三年ト明治四十三年トノ狀況ヲ比較スレハ其ノ就業者實ニ二倍以上ニ達シ現今ニ於テハ病者事故者ヲ除クノ外ハ殆ト全部就業ヲ見ルニ至レリ  
 監獄作業ノ主要ナルモノヲ舉クレハ土管工・煉瓦工・指物工・裁縫工・機工・網工・鋳力工・鍛治工・彫刻工・靴工・下駄及草履工・疊工・藁工・編笠工・行李工・耕耘等ニシテ近時殖産興業ノ發達ニ伴ヒ漸次有利ナル業種ヲ見ルニ至レリ而シテ監獄作業中最有望ナルモノヲ永登浦土管工場及麻浦煉瓦工場ニ於ケル土管及煉瓦ノ製作ナリトス兩工場ハ元當府ノ直營トシテ土木局ノ監理ニ屬シ多數ノ職工ヲ使役シ製品ハ主トシテ官廳用ニ充テ傍ラ民間ノ需用ニ應シタリシカ明治四十五年四月以降職工ヲ廢シ專ラ受刑者ヲシテ之ニ當ラシムルコト爲シタルカ爲其ノ監理ヲ司法部ニ移シ尋テ大正二年四月一日ヨリ京城監獄ノ所屬ニ移シ同監獄ノ受刑者ヲシテ之ニ從事セシメツツアリ大正二年度及三年度ニ於ケル兩工場ノ製作總收入ハ十三萬四千餘圓ニ達シ其ノ製作品ハ民間

ノ需用多シ

囚徒ノ教誨ニ關シテハ明治四十三年以降漸次教誨師ノ數ヲ増加シテ各本分監ニ配置シ以テ其ノ普及ニ努メ又明治四十三年ヨリ教育ヲ開始シ最初ハ比較的多數ノ未成年者ヲ收容セル京城監獄(現今ノ西大門監獄)ニ於テ簡單ナル國語及數學ヲ教授セシカ爾來教師ヲ増員シテ其ノ普及ヲ圖リ現今ニ至リテハ各監トモ教師及教誨師ヲシテ未成年者其ノ他特ニ必要ト認メタル者ニ對シ其ノ教育程度ニ應シ所定ノ學科ヲ教授シ又一般在監者ニ對ジテハ其ノ性格經歷職業及將來ノ志望等ニ應シ適當ナル文書圖畫ノ閱讀ヲ獎勵シ以テ智能ノ啓發ニ努メツツアリ其ノ他給養獄內及に房ノ衛生的設備竝在監人ノ保健診療等ハ監獄改良着手以來特ニ留意セシ所ニシテ現今在監人ノ衛生狀態ハ頗ル良好ナリトス

各監獄ニ於テハ從來銳意經費ノ節約ヲ圖リ漸次其ノ效績ヲ舉ケツツアリ即チ近年ニ於ケル米麥薪炭等必需品ノ騰貴ハ在監人ノ給養其ノ他監獄ノ經理上ニ非常ナル影響ヲ及ホシ而モ一方豫算ノ増額ハ之二件ハサルヲ以テ努メテ冗費ヲ節約シテ實際ノ必要ト豫算トヲ調節スルノ方針ヲ採リ其ノ方法ト



シテ在監人ノ食費及薪炭費ノ節約ヲ圖ルカ爲ニ主食物ノ種類ニ適宜ノ變更ヲ加ヘ大豆又ハ粟ヲ以テ麥ニ代用シ或ハ粟大豆若ハ蜀黍ノミヲ混炊給與シ又ハ米麥混炊ノ歩合ヲ變更スル等種種ノ方法ヲ講スルト共ニ副食物ハ成ルヘク監獄ニ於テ栽培セル蔬菜ヲ用井ルコトニ努メ薪炭ハ概ネ分量ヲ一定シテ渡切トシ以テ濫費ヲ避ケ其ノ他竈ヲ改造シテ燃料ノ節約ヲ圖リ又ハ石炭ノ燃屑ヨリ「コークス」ヲ採取利用スル等諸種ノ方法ニ依リ節約ヲ施セリ又監獄專用品ノ自作ニ努メ看守被服ノ裁縫在監人被服ノ染織其ノ他諸般ノ器具類ニ至ル迄成ルヘク監獄ニ於テ調製シ以テ經費節約ノ目的ヲ達スルコトヲ期セリ

從來朝鮮ニ於ケル在監者ハ不紀律無節制ヲ極メ囚情亦極メテ險惡ナリシカ帝國政府力監獄事務受託以來銳意在監者ノ處遇方法ヲ改善シ殊ニ給養及衛生ノ設施ニ付テハ細心ノ注意ヲ加ヘ且教誨及教育ノ普及ニ努メタルノミナラス特ニ韓國併合ニ際シ大赦ノ詔勅ニ基キ重大ナル罪犯ヲ除クノ外殆ト總テノ罪犯及國事犯竝各種ノ舊韓國法規ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ニ對シ總テ赦免ノ恩典ヲ與ヘラレ又大正元年九月十三日ノ詔書ノ趣旨ニ基キ多數ノ

在監者ニ對シ恩赦ヲ施シ更ニ大正三年五月二十四日ノ勅令ヲ以テ減刑ヲ施行セラレタル結果著シク囚情ニ良好ナル影響ヲ及ホシ在監者概ネ悅服ノ狀ヲ呈シ克ク紀律ヲ守リ靜肅ヲ保チ囚情倍平穩ニ趨キ舊韓國時代ニ類出セル多數共謀ニ係ル不穩ノ事故ノ如キハ全ク其ノ跡ヲ絶チ逃走ヲ企ツル者ノ數モ近來著シク減少シ監内ニ於ケル違則行爲ノ如キモ暴行或ハ抗命等不從順ノ行爲ニ屬スルモノハ殆ト絶無ニシテ其ノ多クハ輕微ナルモノニ止マリ嚴罰ヲ科セラルルカ如キ者ナキニ至レリ囚徒ノ狀態既ニ斯ノ如ク隨テ遷善改悟ノ徵候アル者續出シ大正三年十二月末日ニ至リテハ受監者平均一百人中賞表ヲ有スル者五人弱ヲ算スルニ至レリ之ト同時ニ假出獄ヲ許可セラルル者亦多ク加ヘ試ニ既往數年間ニ於ケル同出獄者ヲ舉クレハ明治四十二年三月ヨリ同四十三年十二月迄ノ間ニ於ケル者四十一人同四十四年中ニ於ケル者九十九人・大正元年中ニ於ケル者一百六十三人・大正二年中ニ於ケル者一百九人・大正三年中ニ於ケル者一百八十五人ニシテ彼等出獄後ニ於ケル成績ハ極メテ良好ナリ

## 第七節 出獄人保護事業

出獄人保護ニ關スル事業ハ刑事政策上最重要ナル事項ノ一ニシテ其ノ消長興廢ハ延イテ社會ノ公安ニ影響スル所鮮少ナラサルヲ以テ從來該事業ノ普及擴張ニ付テハ關係職員ニ對シ熱心ニ力獎勵ヲ爲シ大正二年五月内訓第五號ヲ以テ免囚保護事業補助金下附手續ヲ制定シ以テ其ノ發達ヲ促セシ結果裁判所監獄職員其ノ他官民有志ノ協力ニ依リ續續保護團體ノ設立セララルアリ監獄及同分監ノ所在地ニ於テハ一モ其ノ設立ヲ見サルナキニ至リ該手續ニ依リ大正二年中補助金ヲ下付セシモノ團體數十一金額四千餘圓ニ達シ大正三年中ニハ團體數十八金額五千圓ニ達セリ而シ此等團體ニ於ケル事業ハ職業ノ紹介衣類旅費竝療養費ノ給與職業資本ノ補助等ニシテ何レモ俱設日淺々資産十分ナラス設備亦完全ナラサルヲ以テ未タ成績ノ見ルヘキモノナシト雖年月ヲ經ルニ從ヒ其ノ基礎益鞏固ヲ致シ保護ノ實績ヲ舉グルコトヲ得ム

# 第九章 財政

## 第一節 併合前ノ狀況

舊韓國時代ニ在リテハ百度皆弛廢セサルハナカリシモ就中財政ニ至リテハ最紊亂ヲ極メ宮中府中ノ別ナク混沌トシテ分類スヘカラス毎年歲計ノ豫算ナキニ非サリシモ是レ唯一片ノ形式ニ止マリ毫モ權威ナク各官廳ハ任意ニ支拂命令ヲ發シテ其ノ支出ヲ要求シ又收入ニ付テ之ヲ見ルモ稅制ハ複雜シテ統一ヲ缺キ地稅ノ如キ其ノ賦課ノ基本タルヘキ結數ハ三百餘年前ノ調査ニ係リ而カモ其ノ當時ハ一百四十五萬餘結ナリシモノ其ノ後所謂隱結ト稱シ官民相率井テ結數ヲ欺隱スルノ弊行ハレシ結果漸次減少シテ終ニ表面上ノ課稅地ハ一百万結ヲ下ルニ至レリ而シテ他ノ一面ニ於テハ暴官貪吏無名ノ誅求ヲ恣ニスルノ弊少カラス加之幣政亦紊亂シ私鑄僞造盛ニ行ハレ市場物價ノ變動常ナキノ狀況ナリキ之ヲ要スルニ當時ニ於ケル財政ノ經理ハ收入支出トモ何等拘束スル所ナク其ノ亂雜名狀スヘカラサル狀態ナリシカ明治三十七年十月財政顧問ノ設置ニ依リ之カ整理ノ端ヲ啓キ會計法ノ厲行、

稅機關ノ統一・貨幣ノ整理・金融機關ノ設備及宮中府中ノ別ヲ明カニスル等銳意刷新ヲ圖リ著著整理ノ緒ニ就キシモ歲計ノ的確ナル計數ヲ得ルニ至リタルハ實ニ明治三十九年統監府設置以後ナリトス今茲ニ明治三十九年光武十年度以降同四十三年(隆熙四年)度迄ノ舊韓國政府歲入出ヲ示セハ左ノ如シ

歲 經 計	歲 經 計	明治三十九年 (光武十年度)		同四十一年 (隆熙元年度)		同四十二年 (隆熙三年度)		同四十三年 (隆熙四年度)	
		入	出	入	出	入	出	入	出
臨時部	臨時部	七、四八四、七四四 <sup>四</sup>	七、四八四、七四四 <sup>四</sup>	九、九一六、三三二 <sup>四</sup>	六、五四二、四三八	一、三、四一〇、三四七 <sup>四</sup>	九、八六二、八八九	一、五、一七八、九〇三 <sup>四</sup>	一、四、七八七、三三二 <sup>四</sup>
經常部	經常部	六、三二四、三三八	一、六四三、〇五〇	一〇、一九三、二七六	七、一八二、六七五	一、四、七一四、九三四	一、八、六三七、九二三	一、八、二六三、八五二	一、五、三九五、二八〇
計	計	七、九六七、三八八	七、九六七、三八八	一七、三七五、九五二	一七、三七五、九五二	二、三、三五一、八五七	二、三、三五一、八五七	二、九、二二七、五四九	二、三、七六五、五九四

(備考) 舊韓國ノ會計年度ハ曆年ニ同シ

而シテ明治四十年ニ於テハ日韓協約ノ結果ニ依ル行政各部ノ擴張裁判所ノ構成並產業上ノ施設及土木營繕等各種事業ノ發展ニ伴ヒ明治三十九年度ノ

歳出總額ニ比シ倍額以上ニ膨脹シ爾後逐年遞次増加スルノ傾向アリ他方ニ於テ諸般制度ノ革新ニ件ヒ朝鮮ノ歳入モ亦遞増ノ趨勢ヲ示セシト雖尙此ノミニ依リテハ頭底其ノ支出ヲ支辨シ難キヲ以テ帝國政府ハ明治四十年度以降同四十五年度ニ至ル六箇年度内ニ總計一九、六八二、六二三圓ヲ無利子無期限ニテ舊韓國政府ニ立替ヘムコトヲ約定セリ今之ニ基キ明治四十三年度以前四箇年度間ニ帝國政府ヨリ立替ヘタル金額及年度ヲ示セハ左ノ如シ

明治四十年度	一、七六九、五〇三
同 四十一年度	五、二五九、五八〇
同 四十二年度	四、六五三、五四〇
同 四十三年度	二、六〇〇、〇〇〇
合 計	一四、二八二、六二三

## 第二節 歲 計

### 第一 併合後財政發達ノ狀況

朝鮮財政ノ改善ニ對シテ帝國政府カ韓國保護ノ任ニ當リシ以來深ク意ヲ用

井シコトハ前節ニ述フル所ノ如シ而シテ併合後本府カ舊韓國政府一切ノ政務ヲ承繼スルニ當リテハ從來ノ復雜ナル行政組織ヲ緊縮シ部局ノ廢合冗員ノ淘汰等銳意行政ノ整理ヲ爲シ尙引續キ苟モ整理ノ餘地アレハ之カ決行ヲ怠ラス以テ經費ノ節約ヲ圖リタルト共ニ他方ニ於テ財源ノ涵養ヲ旨トシテ諸稅率ノ如キハ概ネ舊韓國政府時代ノ制ニ依リ專ラ稅制ヲ整理シ賦課ノ公平ト收入ノ確實ヲ期スルニ止メタリ而シテ之ト同時ニ新領土ノ開發ニ對シテハ交通機關ノ完備及產業ノ獎勵等極力諸般ノ施設ヲ爲シタリシヲ以テ爾來著著其ノ實績ヲ示スニ至リ從テ財政モ亦益進歩改善ノ實ヲ舉クルニ至リタリ今併合後歲計發展ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

明治四十四年度以降歲入歳出豫算比較對照表

歲入	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
經常部	二四〇六七、五八三	二六、七三二、三三二	三〇、一〇六、一六三	三七七、二四〇、二七
臨時部	二四、六七四、一九九	二六、一五九、八七七	二四、三三〇、三〇九	二一、六八八、九三九
計	(一) 二、三五〇、〇〇〇 四八、七四一、七八二	(一) 二、三五〇、〇〇〇 五二、八九二、二〇九	(一) 〇、〇〇〇、〇〇〇 五四、四二六、四七二	(九、〇〇〇、〇〇〇) 五九、四二二、九六六
內(一般會計補充金)				

歲	部	出	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
臨時	部	出	二七、八六一、六三二 <sup>四</sup>	三〇、三五一、七八八 <sup>四</sup>	三三、二八七、二二七 <sup>四</sup>	三五、六〇六、六六〇 <sup>四</sup>
臨時	部	出	二〇、八七九、一五〇	二二、五四〇、四二一	二一、一三九、二四五	二三、八〇六、三〇六
計	部	出	四八、七四一、七八二	五二、八九二、二〇九	五四、四二六、四七二	五九、四一二、九六六

(備考) 明治四十三年度即チ併合當年ノ歳入歳出ハ一方舊韓國政府側ノ歳計ト他方帝國政府側ノ襲用會計及豫算外支出等アリ甚紛雜セルヲ以テ本表中ヨリ之ヲ除外セリ

今四十四年度ヲ一百分シ百分比例ニ依リ之ヲ示セハ左ノ如シ

歲	部	入	明治四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
臨時	部	入	一〇〇	一一一	一二五	一五六
臨時	部	入	一〇〇	一〇六	九八	八七
計	部	入	二〇〇	二〇〇	二二〇	二四三
臨時	部	出	一〇〇	一〇八	一一一	一二二
臨時	部	出	一〇〇	一〇八	一一九	一二七
計	部	出	二〇〇	二一七	二三〇	二五四



計

一〇〇

〇八

一一一

一一三

前掲ノ如ク歳入出ニ於テ明治四十四年度以降四箇年度間ニ一千六十二萬餘圓約二割一分ノ膨脹ヲ爲シ歳入狀況モ漸次好調ヲ來タシ前年度迄常ニ經常歳出ヨリ少額ナリシ經常歳入ハ大正三年度ニ於テ之ヲ償ウテ餘アル順調ヲ示スニ至リタリ之ヲ詳言スレハ同期間ニ於ケル經常歳出ノ増加ハ七百七十三萬餘圓即チ約二割七分ナルニ拘ラス經常歳入ノ増加ハ一千三百六十五萬餘圓即チ約五割六分ニ達シ又臨時歳出ノ増加ハ二百八十八萬餘圓即チ約一割三分ナルニ拘ラス臨時歳入ハ却テ三百三萬餘圓即チ約一割三分ノ減少ヲ示シ之ト同時ニ一般會計補充金ハ明治四十四年度ニ於テハ歲計總額ノ約二割六分ニ達シタリシモ大正三年度ハ降テ約一割五分ニ止マルニ至リ財政ノ基礎ハ逐日鞏固ヲ加フルノ實ヲ證明セリ

## 第二 行政整理ノ実績

### 一 經費節約ノ狀況

財政基礎ノ鞏固ヲ確保セムトセハ常ニ冗費ヲ省キ節約ヲ旨トシ以テ緩急ニ

應シ塩梅其ノ宜ヲ制スル準備ナカルヘカラス故ニ本府ハ併合以來行政整理及經費節減ノ企畫ヲ怠ラス併合ニ際シテハ舊韓國政府及帝國政府ノ諸官廳ヲ統合シ新ニ總督府ヲ設置シ行政組織ヲ統一シ繁ヲ避ケ冗ヲ省キタルヲ以テ之ニ依リ整理節約ヲ爲シタル金額モ亦鮮少ナラス官吏俸給ノミニ付テ之ヲ見ルモ實ニ七十六萬五千餘圓ニ達セリ然レトモ是レ新政肇創萬事一新ノ際ニ屬スルヲ以テ比較對照シ難キニ依リ暫ク之ヲ別問題トスルモ爾來連年引繼キ整理節減シタル金額及事業費ノ繰延額ヲ示セハ左表ノ如シ

		明治四十五年度	大正二年度	同三年	計
節減額		四七八、六六〇	一、八三二、六九八	三〇三、三二四	二、六一四、六八〇
事業費繰延額		一、七三〇、一三八	四、〇六〇、一五五	四、三六三、四七七	五、七九〇、五九五
計		四七八、六六〇	三、五六三、一三八	八、四〇五、二七五	

斯ノ如ク整理節減及經費ノ繰延ヲ施シタル金額鮮少ナラス而シテ之カ決行ニ當リテハ少カラサル考量ヲ加ヘタル所ニシテ朝鮮ニ於ケル諸般ノ施設ハ概ネ創始ノ事項ニ屬シ開發上一日モ緩ウスヘカラサルモノ多キヲ以テ之カ經營ニ支障ナカラシムムカ爲各回ノ整理ヲ通シ俸給其ノ他各種給與ノ率ヲ

引下ケ或ハ廳費旅費等ニ於テ屢減額ヲ加ヘタル等專ラ行政費ニ於テ忍フヘカラサル節約ヲ爲シ又深ク事業ノ緩急ヲ查覈シ以テ事業費ノ繰延ヲ實行セリ

## 二 節約ノ效果

前掲ノ如ク數回ニ互ル整理ノ結果得タル金額ハ或ハ母國財政ノ整理ニ應シテ一般會計補充金ノ減額ニ充テ又ハ輪移出稅撤廢其ノ他產業上ノ施設ニ投シタルヲ以テ之カ爲恒久的ニ或ハ一時的ニ財政ノ塩梅ヲ資ケ又ハ產業ノ開發ニ貢獻セルコト鮮少ナラサルハ多言ヲ要セサル所ナリ尙試ニ之カ經理上ニ及ホセル影響ヲ檢スルニ元來豫算ハ經費ノ見積ニ外ナラス實行上過不足ナキヲ以テ理想ト爲ス然レトモ從來ハ事草創ノ際ニ屬スルモノ多ク且豫算款項ノ區分尙十分ナラサリシ等ノ爲歲出決算上不用ノ金額ヲ生スルコト多額ニ失スルノ嫌ナキニ非サリシモ引續キ整理ノ結果ハ豫算額ト決算額トノ逕庭漸次相接近シ從テ亂費ノ弊ヲ絶チタルノ效果尠少ナラサルヲ信ス今其ノ比較表ヲ示セハ左ノ如シ

年度	臨時部		經常部		計	豫算額ニ對スル比率
	臨時部	經常部	臨時部	經常部		
明治四十三年度	二、七八六、四二〇	七八三、九一六	四、一五八、一三五	一六六、八八七	四、九四四、五五五	二八・一
同四十四年度	二七、八九一、四三七	一、八四三、四九四	二〇、八五〇、三四五	四七五、五二二	二二、三一九、〇一七	一三・七
	四八、七四一、七八二	一、七二四、五〇六	三〇、二三二、四九〇	一四七、六八五	四八、七四一、七八二	六・六
大正元年度	二二、六五九、七一九	一、八七二、一九一	五二、八九二、二〇九	一、四九九、〇三五	二、三一九、〇一七	二・三
	三三、一五四、七五六	七四、九七六	二四、三二九、二六二	一、五三四、〇一一	三三、一五四、七五六	四・八
同二年度	五七、四八四、〇一九	二・七				三・五
						四・四
計						三・三
計						二・七

(備考) 本表豫算額中ニハ前年度ヨリノ繰越額ヲモ統合計上セリ

而シテ大正二年度不用額中ニハ事業ノ消長ニ伴ヒ之カ經理ヲ要スル事業廳  
 豫算ノ不用額ヲ含ムコト鮮少ナラス故ニ大正二年度ニ於ケル整理後ノ行政  
 費用額ハ殆ト計算上ノ端數ニ過キスト稱スルモ過言ニ非ス

第三 豫算款項ノ整理

豫算ノ編成上款項ノ區分ハ最重要ナル問題ニシテ豫算監督ノ實ヲ失ハス而カモ會計經理ノ苦痛ヲ感セシメス寬嚴其ノ宜ヲ制スルハ容易ナリトセス是ヲ以テ數度ノ行政整理ニ伴ヒ之カ研究ヲ怠ラス其ノ結果左表ニ示スカ如ク明治四十四年度ト大正三年度トヲ比較スレハ款ニ於テ約四分ノ一ヲ減シ項ニ於テ約三分ノ一ヲ減シ目ニ於テハ約半數ヲ減セリ

豫算科目數比較調			明治四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
計	臨時部		一九	一七	一七	一七
	目	款				
計	經常部		一一一	八一	七六	六〇
	目	款				
計	臨時部		一一一	一一一	一一一	一一一
	目	款				
計	經常部		一一一	一一一	一一一	一一一
	目	款				
七三五	一八〇	四一	二二〇	六九	二二	五二五
四六一	一四〇	四二	一五六	五九	二五	三〇五
四〇〇	一二七	三五	一三五	五一	一八	二六五
三八三	一一一	三三	一四三	五一	一六	二四〇

第九章 財政  
第四 財政獨立計畫

本府特別會計設置ノ主旨ハ朝鮮ノ財政ヲシテ漸次獨立自營ノ域ニ達セシムトスルニ在リ而シテ之カ實現ヲ速カナラシムトセハ積年疲弊セル一般經濟ヲ改善シ民力ヲ充實シ以テ徐ロニ財源ノ涵養ヲ圖ラサルヘカラサルカ故ニ本府ハ併合以來銳意新領土ノ開發上諸般ノ施設ヲ企畫シ一般福祉ノ増進ニ努メタリシカ爾來既ニ數星霜ヲ閱シ各般ノ施設著著其ノ實績ヲ舉クルニ至リ交通機關ノ普及ニ伴フ需要供給ノ調節ハ物價ノ均衡ヲ齎ラシ產業ノ助長獎勵ハ各種生產ノ増進ヲ促シ一般經濟事情ハ全ク其ノ面目ヲ一新シ又昔日ノ觀ナキニ至リタリシヲ以テ大正三年度以降ノ財政計畫ヲ立テ財政獨立ノ實ヲ舉ケ以テ特別會計設置ノ主旨ニ副フコトニ決定セリ

該計畫ノ骨子ハ一般經濟力ノ増進ニ伴ヒ其ノ負擔力ヲ精査考量シテ地稅ノ増徴市街地稅ノ賦課及一二消費稅ヲ新ニ施行スルト同時ニ一般會計補充金ハ毎年一百万圓乃至二百万圓ツツヲ遞減シテ今後五箇年ヲ期シ全ク之ヲ辭退セムトスルモノナリ

### 第三節 公債及借入金

往時舊韓國ニ於テハ國債ナルモノナカリシカ財政顧問就職ノ翌年即チ明治三十八年六月國債證券ヲ發行セシヲ以テ國債ノ嚆矢ト爲ス今其ノ併合當時ニ於ケル現在額ヲ舉クレハ左ノ如シ

種 類	發行又ハ借入額	利 率	起 債 年 月	據 置 年 限	償 還 期 限
第一起業資金債	五、〇〇〇、〇〇〇 <sup>m</sup>	六分五厘	明治三十九年三月	五箇年	十箇年
第二起業資金債	一一、九六三、九二〇	六分五厘	同 四十一年十二月	十箇年	二十五箇年
起 業 公 債	一、〇〇〇、〇〇〇	六分	同 四十一年十二月	五箇年	十五箇年
尊掌賜金公債	一、一六八、二五五	五分	同 四十三年六月	六箇年	二十箇年
貨幣整理資金債	三、〇〇〇、〇〇〇	六分	同 三十八年六月	六箇年	十箇年
貨幣整理資金借越	八、七二六、七三八	六分	自明治四十一年五月 至同四十三年八月	六箇年	十箇年
帝國政府借入金	一三、一八二、六三三	六分	明治三十八年十二月	六箇年	七箇年
金融資金債	一、五〇〇、〇〇〇	六分	明治三十八年十二月	六箇年	七箇年
總 計	四五、五九〇、一〇六	六分	—	—	—

前記ノ中帝國政府借入金及同シク帝國政府ヨリ借入レタル金融資金債ハ併合ノ結果消滅シタレトモ其ノ他ハ總テ朝鮮總督府特別會計ノ負擔ニ屬スル債務トナレリ尋テ明治四十四年三月朝鮮事業公債法發布セラレ同年度以降六箇年ニ亘ル繼續事業トシテ道路修築海關工事竝鐵道建設及改良等ニ要ス

ル經費約五千六百萬圓ヲ公債又ハ借入金ニ依ルコトト爲シ明治四十四年及大正元年ニ於テ朝鮮銀行ヨリ合計一千二百五十萬圓ヲ借入レ更ニ大正二年三月大藏省預金部ヨリ一千二百四十萬圓ヲ借入レ以テ大正元年度ニ於ケル事業費ヲ支辨シタリシカ大正二年四月朝鮮事業費國庫債券三千萬圓發行セラレタルニ依リ右募入金ヲ以テ朝鮮銀行ヨリノ借入金一千二百五十萬圓ノ内五百萬圓及大藏省預金部借入金一千二百四十萬圓ヲ返還シ又大正三年十月五百萬圓・大正四年三月二百六十四萬餘圓ヲ大藏省預金部ヨリ一時繰替借入ヲ爲セリ而シテ明治四十四年三月貨幣整理資金ニ屬スル債務ハ帝國貨幣整理部ニ移屬償還濟トナリ大正二年三月導掌資金公債十一萬餘圓・大正三年五月第一起業資金債五百萬圓ノ内一百五十萬圓ヲ償還シ起業公債一百萬圓ヲ第一回四分利公債一百五萬餘圓ト振替償還シ大正四年三月末ニ於ケル公債及借入金總計六千二百六十五萬餘圓ナリ

朝鮮財政獨立計畫ノ確立ト共ニ公債ノ償還ニ關シテハ歲計剩餘金ヲ以テ之ニ充ツルノ方針ヲ決定セリ從テ將來財政上異常ノ變化ナキ限八年年二三百萬圓宛公債ヲ償還スルノ方針ナリ



#### 第四節 稅務

舊韓國時代ニ於ケル朝鮮ノ財政ハ紊亂其ノ極ニ達シ收拾スヘカラサルノ狀況ニ在リシコト已ニ前節ニ述ヘシ所ノ如シ是ヲ以テ帝國政府舊韓國財政ノ整理ニ著手スルヤ特ニ稅制ノ改善ヲ急務トシ之ニ對シ適應セル諸般ノ施設ヲ爲セリ而シテ其ノ施設ノ主旨トスル所ハ不法ノ徵收ヲ禁止シ人民ノ負擔ヲ公平ニシ徵稅機關ヲ革新シ下級徵稅機關ノ監督ヲ嚴肅ニシ又同時ニ徵稅ノ方法ヲ改良シ以テ公金取扱上ノ便宜ヲ圖ルト共ニ從來官吏其ノ他徵稅關係者間ニ盛ニ行ハレシ公金費消ノ宿弊ヲ掃蕩セムトスルニ在リ之カ爲ニハ稅務ニ關スル諸種ノ法令ヲ改廢シ不法徵收ノ最行ハレ易キ雜稅ノ整理ヲ斷行シ從來脫漏セル課稅物件ヲ查出スルト共ニ過重ノ課稅ヲ負擔シタルモノヲ匡正スル等專ラ負擔ノ均衡ヲ得セシムルコトヲ謀リ又一時地方官ノ徵稅ヲ停メ之ヲ特別徵稅機關ノ手ニ移シ或ハ國庫機關ヲ擴張シテ遞信官署ニ於テモ公金ノ出納ヲ取扱ハシムルコトトスル等ノ方法ヲ採リ以テ稅務全般ノ整理ヲ圖レリ而シテ併合後ニ於テモ引續キ右施設ノ方針ヲ踏襲シ其ノ整理

ヲ行ヒ殆ト其ノ一段落ヲ告クルニ至レリ今各税ニ付施設整理セシ大要ヲ舉  
クレハ左ノ如シ

### 第一 地 税

從來舊韓國ニ於テハ各郡ニ地税賦課ノ臺帳(量案ト謂フ)アリタリト雖其ノ異  
動整理ヲ爲ササルカ爲實際賦課ノ用ヲ爲サス隨テ作佚ト稱シ毎年徵税ノ時  
期ニ方リ各人ノ納税額及納税義務者ヲ調査スルノ制度行ハレタルカ右作佚  
制度ノ結果結數ノ増減變更ハ全ク作佚從事員ノ欲スル所ニ任シ爲ニ課税ノ  
基礎確實ナラサリシヲ以テ茲ニ作佚ノ制ヲ廢シ府郡及面ニ結數連名簿ヲ備  
ヘテ之ニ土地ノ所在、地目、面積、結數及所有者ノ住所、氏名等ヲ登錄シ尋テ課税  
地見取圖ヲ完成シ以テ課税ノ基礎ヲ明確ナラシムルコトヲ期セリ此ノ結果  
漸次結數ノ増加ヲ來シ明治三十八年ニ於テ九十六萬一千餘結ニ過キサリシ  
モノ大正三年三月末日ニ於テハ其ノ總數一百七萬四千餘結ニ達スルニ至レ  
リ

併合以來地税ニ關シ整理セシ事項竝其ノ成績ヲ畧述スレハ左ノ如シ

一 結數連名簿ノ整理

府郡ニ備付ノ結數連名簿ハ地稅ノ賦課及徵收ヲ爲スニ頗ル重要ナル帳簿ナレトモ從來之ニ關シテ何等ノ規定ナカリシヲ以テ明治四十四年十一月結數連名簿規則ヲ制定シテ其ノ様式及登錄事項ヲ明示シ府郡及面ニハ必ス該簿ヲ設備シ土地ノ異動及所有者ノ變更アリタル場合ニハ遲滞ナク申告セシムルコトトセリ尋テ大正元年ヨリ翌二年ニ至リ全道各面ノ課稅地見取圖ヲ完成シタルヲ以テ之ト結數連名簿ノ記載事項トヲ對照シ以テ其ノ内容ノ的確ヲ期セリ是ニ於テ大正二年八月結數連名簿規則ヲ改正シテ結數連名簿ニ登錄シタル土地所有者ノ異動ハ不動產證明令ニ依リ土地所有權移轉ノ證明ヲ經タルモノニ非サレハ之ヲ訂正セサルコトトシ結數連名簿記名者ノ整理ヲ確實ニシ尙之ト同時ニ地稅ハ結數連名簿ニ土地所有者トシテ登錄シタル者ヨリ徵收スル旨ヲ規定シ以テ結數連名簿ノ課稅臺帳タルノ地位ヲ明瞭ナラシメタリ從テ土地ニ關スル證明ヲ申請スル際ハ結數連名簿ノ謄本ヲ添附セシメ之ニ依テ土地ノ所在地番地積及所有權者等ヲ證明シ得ヘキコトトセリ故ニ現今ニ於テハ結數連名簿ハ實ニ徵稅臺帳タルニ止マラス土地ニ關スル唯一ノ公簿トナルニ至レリ

## 二 課稅地見取圖ノ調製

由來朝鮮ニ於テハ地圖ノ設備ヲ缺キ膏ニ結數連名簿ニ登錄シタル土地ノ所在ヲ確認スルニ由ナキノミナラス課稅漏ノ土地アルモ之ヲ確ムルヲ得ス其ノ他土地證明等ノ際不便尠カラサリシヲ以テ明治四十五年三月之二關スル規定ヲ發布シ各面ノ課稅地見取圖ノ作成ヲ命シ同年ヨリ翌大正二年ニ亘リ各道全部ノ完成ヲ見タリ其ノ結果土地ノ所在ヲ明カニシ課稅上ノ便宜ヲ加ヘ且土地所有權ノ保障ヲ確實ニシタルハ論ナク之カ爲課稅漏地ヲ發見シ結數ヲ増加スルコト實ニ二萬四千六百七十結ニ及ヘリ

## 三 結價及結數ノ整理

地稅ノ結及結價ハ制定以來年ヲ經ルコト久シク交通機關ノ改善經濟狀態ノ變遷等ニ因リ今日ニ至リテハ各地間頗ル不公平ナルモノアリ之カ全般ノ整理ハ土地調査完了ノ時期ヲ俟タサルヘカラスト雖就中續田・火田等ノ名稱ヲ附シ比較的下級ノ結價ヲ附シタルモノニシテ地味既ニ成熟シ高級ノ結價ヲ附セル他ノ土地ト何等優劣ナキモノ又ハ行政區劃ノ變更ニ依リ一小區域内ノ土地ノ結價カ其ノ府郡内ニ於ケル類地ノ結價ト權衡ヲ失シ負擔ノ公平ヲ

得サルモノ鮮少ナラス此等地稅負擔ノ不均衡特ニ顯然タルモノニ在リテハ成ルヘク速ニ之カ整理ヲ要スルヲ以テ右等ノ土地ニ對シテハ地味・收穫及地積等ヲ調査シ適當ノ結價若ハ結數ニ更正スルコトトシ大正二年中ニ於テ之カ調査ヲ遂行セリ其ノ結果全道ニ於テ十三萬九千餘圓ノ地稅ヲ増加セリ

#### 四 地主納稅ノ實施

從來朝鮮ニ於ケル地稅ハ小作人ニ於テ納稅スルヲ慣例ト爲セリ然レトモ地稅ハ元來地主ニ於テ納稅スヘキモノナルノミナラス小作人ハ其ノ異動頻繁且資力薄弱ニシテ徵收上不便尠カラサルヲ以テ明治四十一年六月法律第十號ヲ以テ地稅ハ土地所有者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ規定シ但タ地方ノ習慣又ハ契約ニ依リ小作人其ノ他使用者ニ於テ納稅スヘキ場合ニ在リテハ先ツ小作人又ハ土地使用者ヲシテ納稅セシメ其ノ不納ノ場合ニ於テ地主ヨリ徵收スルノ例外ヲ認メタリ然ルニ右ノ制度亦官民相互ニ不便トスル所ナリシニ依リ茲ニ全然地主納稅ニ改ムルノ方針ヲ立テ其ノ前提トシテ明治四十四年九月訓令第七十四號ヲ以テ同年分地稅ヨリ地主納稅勸誘方ヲ懲慫セリ該勸誘ノ結果地主ニ於テ納稅スルモノ漸次増加シ大正元年末ニ在リテハ殆ト

小作人ニ於テ納税スルモノナキニ至リタルヲ以テ大正二年八月府令第八十二號ヲ以テ地稅ハ結數連名簿ニ土地所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ徵收スルコトニ規定シ以テ名實共ニ地主納税ノ實施ヲ見ルニ至レリ

##### 五 地稅ノ增徴並地稅令ノ制定

從來租稅ニ付テハ專ラ負擔ノ公平及徵收ノ確實ヲ期スルヲ以テ主眼トシ負擔ノ增加ヲ圖ルコトハ努メテ之ヲ避ケタリト雖前節ニ述ヘタルカ如ク大正三年度以降漸次一般會計ヨリ補給額ヲ遞減シテ朝鮮財政ノ獨立ヲ圖ルコトト爲シタル結果右財政上ノ需要及人民ノ負擔力ヲ考覈シテ大正三年分ヨリ地稅ノ增徴並市街地稅・煙草製造稅及消費稅ノ新設ヲ爲セリ而シテ市街地稅及煙草消費稅ヲ新設シタル理由ハ姑ク之ヲ後段ニ讓リ茲ニ地稅ヲ增徴シタル理由ヲ述フレハ從來地稅ハ其ノ負擔極メテ輕微ニシテ殊ニ輓近地方經濟ノ發達ニ加フルニ朝鮮輸移出稅及内地ニ於ケル朝鮮產米及粳移入稅ノ撤廢等ニ因リ漸次穀價騰貴シソノ結果土地ノ價格ヲ昂進シ土地所有者ノ利益ヲ增加シタルコト顯著ナルヲ以テ此ノ際地稅ノ增徴ハ人民ニ於テ決シテ其ノ負擔ニ苦マサルノミナラス經濟上亦却テ良好ノ結果ヲ收メ得ヘシト認メタ

ルニ由ルモノナリ其ノ増徴ノ方法ハ從來一結ノ稅率八圓ヨリ二十錢ニ至ル十三級ニ區分セラレタルヲ十一圓ヨリ二圓迄ノ七級ニ改メ之ニ依リ約四割ヲ増徴スルコトトセリ而シテ又從來地稅ニ關シテハ明文ノ規定ヲ缺キ賦課徵收ノ取扱多クハ慣習ニ依リ定マレルヲ以テ往往人民ニ於テ法規ノ根據ヲ疑ヒ納稅ニ異議ヲ唱フル者アルノ狀況ナルニ依リ之ヲ明文ニ規定スルノ必要アリ依テ地稅増徴ノ機會ニ於テ地稅令ヲ發布シ以テ地稅賦課ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタリ

## 第二 市街地稅

市街地稅ハ集團戶數一千戸以上ヲ有シ市況殷賑ナル市街地ヲ指定シ其ノ區域内ニ在ル土地ニ對シ課稅スルモノナリ從來是等ノ市街地ハ地稅ヲ負擔セス偶之ヲ負擔スルモノト雖其ノ稅額極メテ輕微ニシテ市街地外ノ土地ト負擔ノ權衡ヲ得ス殊ニ右等ノ市街地ハ地方經濟及交通機關ノ發達竝諸種ノ施設ニ伴ヒ輓近長足ノ進歩發達ヲ示シ其ノ地域内ノ土地所有者ハ坐ナカラニシテ地價騰貴ノ利益ヲ占メ且地代ノ收入ヲ増加スルニ至レリ故ニ之ニ對シ適當ニ課稅シ以テ市街地内外ニ於ケル負擔ノ權衡ヲ期シ一ハ歲入ノ増加ヲ

圖ラムカ爲大正三年地稅增徴ト同時ニ市街地稅ヲ賦課スルコトト爲セリ而シテ本稅ヲ課スヘキ市街地ニ對シテハ其ノ準備トシテ先ツ土地調査ヲ施行シ各筆ノ疆界面積地價等ヲ調査シ其ノ結果ニ依リ土地臺帳及地籍圖ヲ作成シ之ニ依リ課稅スルコトト爲セリ

本稅ヲ賦課スル市街地ハ稅令施行ノ際左ノ二十六箇所ヲ指定セリ

京畿道 京城府、仁川府、水原郡水原面、開城郡松都面

忠清北道 清州郡清州面

忠清南道 公州郡公州面、大田郡大田面、論山郡江景面

全羅北道 群山府、全州郡全州面

全羅南道 木浦府、光州郡光州面、羅州郡羅州面

慶尙北道 大邱府、金泉郡金泉面

慶尙南道 釜山府、馬山府、晉州郡晉州面

黃海道 海州郡海州面

平安南道 平壤府、鎮南浦府

平安北道 新義州府、義州郡義州面



咸鏡南道 元山府、咸興郡咸興面

咸鏡北道 清津府

### 第三 戶稅及家屋稅

#### 一 戶 稅

戶稅ハ舊來ノ慣例ニ依リ一戶ヲ構フル者ニ對シ賦課徵收シ來リタルカ戶籍制度ノ闕如其ノ他ノ原因ニ由リ脫漏セル戶數少カラス明治三十八年ニ於ケル戶稅賦課戶數ハ僅僅五十一萬三千餘戶ニ過キサリシカ爾來民籍ノ調査竝課稅戶數ノ查出等ニ由リ大正三年九月一日現在ニ於テハ課稅戶數實ニ二百六十一萬一千餘戶ニ上リ殆ト脫稅者ナキニ至レリ但シ他人ノ救助ヲ受ケ生活スルカ如キ極貧者ニ對シテハ之ヲ免稅セリ

#### 二 家屋稅

郡廳所在稅等ノ市街地ニ居住スル者ハ從來戶稅ヲ負擔セサルノ慣行アリ是レ一面ニ於テ此等市街地ニ居住スル者ハ諸種ノ名義ヲ以テ之ニ代ル負擔ヲ爲シ來リシ理由ニ基クモノナリト雖今日ニ於テハ其ノ理由既ニ消滅シタルヲ以テ市街地外ノ者ト均シク戶稅ヲ課スルヲ至當トス然レトモ市街地ニ於

テハ寧ロ家屋ノ大小ヲ標準トシテ課稅ヲ爲スノ適當ナルヲ認メ明治四十二年二月家屋稅法ヲ發布シ同年分ヨリ之ヲ賦課セリ而シテ其ノ稅率ハ戶稅トノ比較ヲ取り極メテ輕微ニシテ課稅標準モ簡易ヲ主トシ家屋ノ構造ニ依リ甲乙二種ニ分チ更ニ建坪ノ大小ニ依リ各種四等級ニ區分スルニ過キス而シテ居留地制度撤廢ノ結果大正三年度以降舊居留地・雜居地等ノ市街地ニ對シテモ亦本稅ヲ賦課スルコトトナレリ

#### 第四 酒稅及煙草稅

##### 一 酒 稅

由來朝鮮ノ租稅ハ直接稅ノ一方ニ偏シ消費稅ノ如キ間接稅ニ一般ノ負擔トナルヘキ稅種ナカリシヲ以テ負擔ノ偏倚ヲ免ルル能ハサルノミナラス酒稅又ハ煙草稅ハ將來有望ナル財源タルト又當時財政上ノ必要アリタルトニ由リ明治四十二年ヨリ煙草稅ト共ニ本稅ヲ賦課セリ然レトモ此等間接稅ニ屬スル徵稅ハ朝鮮ニ於テハ新稅ニ屬スルノミナラス朝鮮内ニ於ケル酒及煙草製造業ハ多クハ自家用的ノ幼稚ナル狀態ニ在リテ未タ産業的發達ノ域ニ達セサルニ依リ當初ヨリ多大ノ課稅ハ到底其ノ負擔ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ其

ノ稅率ハ極メテ之ヲ輕易ニシ以テ間接稅ノ基礎ヲ確立スルヲ主眼トスルト共ニ一方斯業ノ改良發達ヲ促スノ方策ヲ講シテ財源ノ涵養ヲ圖レリ本稅ノ稅額ハ稅法實施ノ初年ニ於テハ十九萬七千餘圓ヲ算スルニ過キサルノ狀況ナリシカ爾後稅法ノ實施ヲ勵行シタル結果漸次其ノ收入ヲ増加シ今ヤ大正三年度調定額ニ依レハ四十七萬八千餘圓ニ上リ本稅ノ發達頗ル見ルヘキモノアリ

## 二 煙草稅

煙草稅ハ酒稅ト共ニ明治四十二年ヨリ始メテ之ヲ賦課セリ而シテ本稅ハ煙草耕作稅及煙草販賣稅ノ二種ニ大別シ前者ハ植付株數九百未滿ト九百以上トニ後者ハ之ヲ卸賣ト小賣トニ區別シ夫夫稅額ニ等差ヲ附シ課稅シ來リシカ大正三年度ニ於テ財政ノ必要ニ基キ煙草稅ノ增收ヲ圖ルカ爲從來ノ稅目以外ニ新ニ製造煙草ノ消費稅竝製造稅ノ二稅目ヲ賦課スルコトトシ同年七月一日ヨリ之ヲ實施セリ而シテ右二稅目ヲ增加賦課スルニ至リタルハ製造煙草ハ最能ク課稅ニ適スルノミナラス輓近朝鮮ニ於テハ製造煙草ノ消費著シク増加シ之ニ伴ヒ煙草製造業亦遽ニ發達シ來リタル事情ニ基クモノナリ

## 第五 登録税

現行ノ登録税ハ明治四十五年三月發布ノ登録税令ニ依リ之ヲ賦課ス即チ不動産ノ登記又ハ證明船舶ノ登記又ハ登録會社其ノ他法人ノ登記等ニ對シ事項毎ニ税率ヲ設ケ賦課スルモノニシテ其ノ收入額ハ累年増加シ大正元年度ニ於テハ三十八萬三千餘圓ニ過キサリシモ大正二年度ニ於テハ六十三萬餘圓大正三年度ニ於テハ八十五萬二千餘圓ニ上リ將來亦極メテ有望ノ税目ニ屬ス

## 第六 居留地ノ撤廢ニ伴フ税權ノ擴張

仁川鎮南浦群山木浦馬山及城津ノ各國居留地ハ從來治外法權ノ當然ノ結果トシテ其ノ地域ニ對シ租税ノ賦課ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ舊韓國政府以來地稅家屋稅酒稅等總テ之ヲ内地人並外國人ニ對シ賦課スルコトナカリシカ併合ノ結果大正三年四月ヨリ居留地制度ヲ廢止シ其ノ區域ハ地方區域ニ編入シ地方行政ノ下ニ統轄スルコトトナリシヲ以テ内地人ハ勿論外國人所  
有ノ土地家屋等ニ對シテモ均シク課税スルヲ得ルニ至リタルハ稅務整理上  
ノ一時期ヲ劃シタルモノトス

## 第七 租稅其ノ他ノ徵收

舊韓國時代ニ於ケル租稅徵收上ノ弊竇ハ最甚シク其ノ徵收ノ任ニ當リシ地方官吏及之ニ從屬セル多數ノ吏員ニ至ル迄課稅物件ノ數量ヲ隱匿シ又ハ其ノ收入シタル公金ヲ私消シ恬然トシテ敢テ怪マサルノ惡習滔滔トシテ風ヲ成セリ是ヲ以テ曩ニ帝國政府カ舊韓國ノ財政ヲ監督スルニ及フヤ夙ニ此ニ著眼シ地方官中ノ非行者ヲ免黜シ銳意官紀ノ振肅ニ努メ其ノ補任ヲ慎重ニシ又他ノ一面ニ於テハ徵收方法及徵稅機關ノ改善ヲ圖ル等專ラ陋習ノ蕩滌ニ力ヲ致シ幸ニ逐年漸次改良ノ途ニ就キタルモ積年ノ痼弊ハ容易ニ脱却シ難ク併合當時ニ於テ諸種ノ弊竇尙未タ之ヲ芟除スルヲ得サルモノアリ就中下級徵稅機關タル面長以下ノ吏員カ其ノ徵收シタル公金ヲ國庫ニ納付セスシテ私事ニ流用シ結局之ヲ費消シ國庫ノ缺損ニ歸スルカ如キ又ハ内地人若ハ外國人カ舊韓國法規ノ適用ノ及ハサルヲ奇貨トシ該法規ニ基キ賦課スル稅金ノ納付ヲ怠ルカ如キ其ノ他面長以下執務ニ慣熟セサル爲徵收事務ノ執行往往違式ニ涉リ事務ノ紊亂ヲ釀シ延イテ不當ノ徵收ヲ爲スカ如キ弊習最多カリキ依テ這般ノ弊習ヲ一掃シ以テ徵收事務ヲ改善セムコトヲ期シ之ニ

處スルノ施設ヲ講シ明治四十四年中國稅徵收令ヲ發布シ其ノ內地人タルト朝鮮人タルト將タ外國人タルトヲ問ハス一體ニ此ノ制令ノ下ニ支配スルコトトシ從來朝鮮人以外ニ國稅徵收ノ法規ヲ適用スルコト能ハサリシ不便ヲ除キ尋テ國稅以外ノ公課ノ滯納ニ付テモ亦本令ヲ準用スルコトトセリ而シテ本令施行ノ結果從來內地人又ハ外國人問ニ於ケル鑛稅滯納ノ弊ノ如キ頓ニ之ヲ矯正スルコトヲ得一般人民ニ對シテハ徵收法規ノ新ナル印象ヲ與ヘ自然ニ納稅觀念ヲ會得セシメ國庫收入上ニ好影響ヲ及ホシタルノミナラス面費賦課金ノ徵收ノ如キモ從來極メテ困難ナリシカ本令準用ノ結果大ニ其ノ徵收成績ヲ良好ナラシムルコトヲ得タリ又面長以下面吏員ノ選任ヲ慎ミ其ノ黜陟ヲ嚴ニシ適任者ヲ得ルニ努メ面事務ノ指導監督ニ付テハ或ハ面長以下面吏員ノ事務講習會ヲ開催シ專ラ實務ノ練習ヲ爲サシメ或ハ面徵收事務監督規程ヲ制定シ是ニ基キ各道府郡ヲシテ時時官吏ヲ派シ面ニ於ケル事務ノ實地監督ニ從事セシムル等諸般ノ方法ヲ講シ指導監督ニ勗メタル結果面ニ於ケル徵收事務ハ漸次舊來ノ面目ヲ改メ帳簿書類ノ整頓ヲ見タルノミナラス公金費消不法徵收等ノ弊殆ト其ノ迹ヲ絶タムトス

今左ニ租稅驛屯賄收入ノ累年比較表ヲ掲ケ徵收事務進歩ノ趨向ヲ見ルノ一端ニ供ス

租稅及驛屯賄收入實收額累年比較

地 戶 家 屋 稅	地 稅	戶 稅	家 屋 稅	蛋 稅	煙 草 稅	緞 稅	雜 稅	合 計	驛 屯 賄 收 入	總 計	租稅及驛屯賄收入實收額累年比較				
											明治四十二年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
六、三三七、二八一	六七二、〇一九	一一九、九〇二	一九七、一三三	一九八、六一六	六五、七九一	一〇〇、八三九	七、六九一、五七一	一、一六一、一四七	八、八五二、七一八	六、三三七、二八一	六、六四八、四九〇	六、六九七、六九三	六、九七二、二九六	一〇〇、四四四、九二三	
六九九、一八七	一三九、六三三	二六〇、〇三四	二九一、六四七	一九〇、二一八	四八、一六二	八、二七七、三七一	一、二〇一、二一六	九、四七六、五八七	九、四七六、五八七	六九九、一八七	七三〇、一九四	一四六、一三八	三三三、〇四〇	四四四、六三七	
七三〇、一九四	一四六、一三八	三三三、〇四〇	三四三、四七五	一九〇、三三六	四五、五七八	八、五三六、四五四	一、二五〇、六五一	九、七八七、一〇五	九、七八七、一〇五	七三〇、一九四	七六〇、九三六	一五五、八八〇	四四四、六三七	七三九、五七四	
六、九七二、二九六	七六〇、九三六	一五五、八八〇	四四四、六三七	三四三、四七五	二四八、三五九	八、九九九、八二三	一、一六四、六八一	一〇、一六四、五〇四	一〇、一六四、五〇四	六、九七二、二九六	七六〇、九三六	一五五、八八〇	四四四、六三七	七三九、五七四	
一〇〇、四四四、九二三	七八〇、八八五	二〇七、八三二	四七六、〇八〇	七三四、〇九一	三四四、七八一	一二、六一七、七三六	一、五三三、六七九	一四、一五一、四二五	一四、一五一、四二五	一〇〇、四四四、九二三	七八〇、八八五	二〇七、八三二	四七六、〇八〇	七三四、〇九一	

(備考)

一 明治四十三年度ハ明治四十三年十月ヨリ明治四十四年三月迄六箇





- 一 地稅ノ大正三年度ニ於テ一時ニ増加シタルハ地稅ノ増徴市街地稅ノ賦課アリタルニ由ル
- 二 家屋稅ノ大正三年度ニ於テ一時ニ増加シタルハ居留地制度ノ撤廢ニ依リ從來家屋稅ノ賦課ヲ爲ササリシ居留地・雜居地ノ家屋ニ對シテ課稅スルコトトナリタルニ由ル
- 三 酒稅・煙草稅ノ他ノ各稅ニ對シ比較的逐年多額ノ增收ヲ得タルハ課稅物件ノ檢査監督ヲ漸次嚴密ニ厲行シタルニ由ル特ニ煙草稅ノ大正三年度ニ於ケル一時ノ増加ハ新ニ消費稅製造稅ヲ賦課シタルニ由ル
- 四 鑛稅ノ他ノ各稅ニ對シ著シク増加シタルハ主トシテ鑛業ノ發達ト滯納ノ弊ノ矯正セラレタルニ由ル
- 五 雜稅ノ漸次減少セシハ從來此ノ種ノ稅目ハ其ノ數極メテ多カリシカ併合後之ヲ廢止シ又ハ他ノ收入科目ニ組替ヘタルニ由ル
- 六 驛屯賭收入ノ大正三年度ニ於ケル一時ノ増加ハ小作料ノ改定ニ基キ大正二年度ニ於テ前年度ニ比シ減少ヲ示セルハ東洋拓殖株式會社

ニ出資地トシテ引渡シタルモノアル結果ナリ

#### 第八 大正三年度増稅實施ノ成績

大正三年度ニ於テハ財政計畫ノ必要上地稅ヲ増徴シ市街地稅及煙草消費稅ヲ新設シ又驛屯土小作料ノ増率ヲ行ヒタルコト既ニ敘述セシ所ノ如シ其ノ計畫ハ地稅二百六十四萬餘圓市街地稅二十九萬五千餘圓煙草稅四十五萬七千餘圓驛屯賭收入四十六萬餘圓合計三百八十五萬二千餘圓ヲ增收セムトスルニ在リ而シテ右増徴ノ實施ニ付テハ豫メ一般人民ニ其ノ理由ヲ周知セシムルノ必要ヲ認メ本府ハ之ニ關スル諭告ヲ公布シ又道長官以下地方官吏ヲシテ一般ニ懇示シ政府方針ノ趣旨ヲ諒解セシムルコトヲ努メタリ然ルニ當年幸ニシテ禾穀ノ豐穰ヲ見タリシモ經濟界ノ不振ニ依リ穀價著シク低落シ農民經濟上ノ大打撃トナリ金融逼迫ノ聲喧シク一時納稅ノ成績ヲ憂慮セシモ懇篤説明ノ結果人民容易ニ之ヲ會得シ又官廳ノ施設セル金融緩和ノ策ハ相應ニ效果ヲ奏シ租稅其ノ他ノ徵收ハ意外ニ圓滿ナル進捗ヲ示シ前年度ノ好成績ニ比シ敢テ遜色ヲ見サルコト本節第七ニ掲表スル數字ニ照シテ明カナリ

## 第九 驛屯土

驛屯土舊韓國各宮庄土等驛屯土ニ準シ取扱フ土地ヲ包括ス以下同シハ主トシテ田畚等收益ヲ生スル土地ヨリ成ル國有財産ニシテ各道ニ分布シ其ノ面積頗ル廣大ナリ従前舊韓國時代ニ於テハ宮内府之ヲ管理シ宮中收入ノ一財源ト爲セシカ當時宮内府ハ單ニ其ノ收入ヲ舉クルヲ以テ唯一ノ目的トシ年年一定ノ收入ニ甘ンセシカ故ニ毎年各道小作料ノ徵收ヲ擔任セル收租官ハ殆ト請負的ニ其ノ徵收納付ヲ約セシカ如キ有様ニシテ各道ニ於ケル小作料ハ其ノ小作人ニ對シテハ歲ノ豐凶ニ依リ適宜決定シテ之ヲ收納シ其ノ收納シタル小作料中ヨリ宮内府ヘ一定ノ額ヲ納付シ差益ハ收租官ノ收入ト爲セシ慣例ナリキ而シテ其ノ收租ニ當リテハ收租官ハ各府郡別ニ都舍音ナル者ヲ置キ更ニ其ノ下ニ數人ノ舍音ヲ使用シ受持區域ヲ定メ區域内ノ小作料ヲ取立テシメ此等收租官都舍音及舍音間ニ於テモ亦請負的ノ約ヲ成シテ小作料ヲ收納セシカ如キ取扱ニシテ土地其ノモノノ管理ニ至テハ全然願ミサルノ状態ナリシヲ以テ永久ノ間自然土地ノ所在ヲ失シ面積ヲ逸スルモノアリ收租關係者又ハ小作人ハ管理緩慢ノ虛ニ乘シテ公土ヲ冒認私賣シ又ハ肥沃ナル公土ヲ瘠薄ナル私土ト交換

スル等ノ奸曲ヲ行ヒ其ノ他收租關係者ノ偏私ニ依リ小作人ノ變更小作料ノ増減隨意ニ行ハレ小作人ノ不安ヲ招キ土地ヲ荒廢シ小作料負擔ノ公平ヲ缺ク等諸種ノ弊害簇起スルニ至レリ明治四十一年帝室有國有財産整理ノ結果驛屯土カ國有二歸屬シ宮内府ヨリ其ノ引繼ヲ受クルニ及ヒ舊韓國政府ハ漸次其ノ管理方法ノ改善ヲ圖リ先ツ驛屯土ノ實地調査ヲ行ヒ其ノ小作料ヲ改定スルヲ急務トシ明治四十二三兩年ニ亘リ之カ事業ヲ遂行シ殆ト其ノ全部ヲ完成セリ適併合ノ事アルニ際シ明治四十三年度ニ於テハ改定小作料ヲ實施スルニ及ハサリシヲ以テ本府ハ其ノ事業ヲ繼承シ驛屯土臺帳ノ整理ヲ完全ニシ土地ノ所在面積ヲ知ルト共ニ其ノ管理ノ確實ヲ期シ從來名義上小作人トナリ更ニ其ノ土地ヲ轉貸シ政府ト實際ノ小作人トノ間ニ立チテ利益ヲ獲シ者ヲ排除シ實際ノ小作人ニ對シ國有地小作人タルコトヲ認許シ従前小作期間ノ定ナカリシ爲小作人ハ常ニ不安ノ思ヲ爲シ自然土地ヲ濫耕スルノ弊アリシヲ以テ五箇年間ノ小作期間ヲ約シ小作料ノ不納土地ノ轉貸等一定ノ契約事項違反ノ行爲アリタル場合ノ外濫ニ小作權ヲ引上クルコトナキヲ保障シ以テ小作權ヲ安固ナラシムルト共ニ土地ノ荒廢ヲ防止シ他面ニ於テ

ハ小作人共同ノ利益ヲ増進シ間接ニ驛屯土ノ利用ヲ進メムカ爲國有地小作人組合ヲ設立セシメ國庫ヨリ補助金ヲ與ヘ以テ其ノ保護獎勵ニ勵メ改定小作料ノ實施ニ依リ從來不公平ナリシ負擔ヲ均衡ナラシメ同時ニ國庫收入ノ増加ヲ圖レリ又從前小作料ハ主トシテ物品ヲ以テ收納スルノ例ナリシカ其ノ收納保管及賣却ニ付煩雜ナル手數ヲ費シ且多額ノ費用ヲ要セシヲ以テ之ヲ改メテ總テ金納ノ制ト爲セリ斯クテ明治四十四年分ヨリ右改正ヲ實施シタル結果ニ鑑ミルニ當初小作料ノ改定ヲ爲スノ際明治三十九年以降三箇年間ノ平均穀價ニ依リ小作料率ヲ定メシヲ以テ併合後累年穀價騰貴スルニ伴ヒ驛屯土小作料ハ漸次低廉トナリ物納ヲ以テ普通トセル民間小作料ニ比シ著シキ權衡ヲ失シ驛屯土小作料ノ低廉ハ一般經濟上却テ惡影響ヲ及ホスノミナラス其ノ小作料ノ低廉ナルカ爲私ニ小作權ヲ賣買スルノ弊起リ曩ニ小作料改定ノ際一旦排除セシ名義上ノ小作人ヲ再現セシムルニ至レリ依テ太正三年度財政計畫ノ必要ニ基キ收入ノ財源ヲ求ムルニ當リ驛屯土小作料ノ四割ヲ増率スルコトトシ同年ニ於テ其ノ改定ヲ行ヒタリ而シテ驛屯土小作料ハ民間小作料ニ比シ低廉ナルコトハ一般ノ首肯スル所ナルヲ以テ其ノ施

行上ニ關シ格別ノ故障ナカリシナリ

之ヲ要スルニ驛屯土ハ管理ヲ確實ニシ私賣冒認ノ弊ヲ防キ小作料ノ公平ヲ維持シ小作人ヲ保護獎勵シテ其ノ利益ヲ圖ルト共ニ驛屯土ノ利用ヲ勸メ奸黠ナル名義上小作人ノ利益壟斷ヲ杜絶シ政府ノ收入ヲ増加スルヲ以テ方針トシテ管理シ來レリ幸ニ既往ノ施設經營所期ノ目的ヲ達シ小作料徵收ノ如キモ年々圓滿ニ其ノ成績ヲ舉ケツツアリ

驛屯土中ニハ堤堰淤洞等ノ工事ヲ施シ永久保存ノ方法ヲ講シ益其ノ利用ヲ大ナラシムルノ途ヲ立ツルヲ必要トスルモノアリ本府財政ノ多端ナル年々僅僅タル驛屯土管理費ノ支出ヲ爲スニ止マリ此等施設ニ應スル十分ノ經費ヲ供給スルコト能ハスシテ未タ其ノ施行ヲ見ルニ至ラサルモ驛屯土カ國有地トシテ現狀ノ儘管理セララルニ於テハ近キ將來ニ於テ若干ノ國費ヲ投シ相當施設ヲ爲スハ極メテ緊要ノ事項ナリトス

## 第五節 關稅行政

韓國併合ニ當リ關稅其ノ他外國貿易ニ關スル事項ハ明治四十三年制令第四

號ニ依リ暫ラク從來ノ例ニ依リ之ヲ處理スルコトトナレルモ元是レ一時的法規ニシテ久シク從來ノ例ニ依ルヲ許ササルノ事情アリ蓋シ舊韓國政府時代ノ開港及外國貿易ニ關スル法規ハ主トシテ韓國ト諸外國トノ條約並附屬章程ニ基クモノナルヲ以テ自然規定ノ統一ヲ缺キ其ノ施設亦消極ニ偏シ課稅其ノ他取扱ノ公正敏活ヲ期スルヲ得ス特ニ犯則ノ調査及處分ニ關シ當該官吏ノ職權確立セス且朝鮮人ノ犯則ニ對シテハ全然適用スヘキ規定ナキ等運用上ノ不便少カラサルモノアリ仍テ關稅制度ヲ整理統一シテ之カ根本的改革ヲ爲シ以テ收入ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト同時ニ産業及貿易ノ發展ニ資スルノ必要最切ナルモノアリ又開港場ノ如キモ進ンテ之ヲ設置スルコトナキハ勿論條約ニ基キ開港ト爲シタル場所ニ於テモ何等設備ノ見ルヘキモノナク交通貿易上甚不便ナリシヲ以テ統監府設置後舊韓國政府ニ勸告シテ開港ヲ増設シ且各開港ノ修築及稅關諸設備ニ關シテハ明治三十九年以後繼續事業トシテ之カ計畫ヲ爲サシメタルカ併合後ニ至リ關稅制度ノ整理統一ヲ期シ且産業及貿易ノ發達ニ資スルカ爲實施シタル事項中主要ナルモノハ左ノ如シ

一 明治四十四年三月稅關貨物取扱人ニ關スル法規ヲ制定シ貨主ノ爲ニ稅關手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ニ對スル營業免許・身元保證及所轄稅關長ノ監督等ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケテ一般貨主ノ利便ト通關手續ノ正確及敏活ヲ期シ同年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ

二 明治四十五年三月朝鮮關稅令・朝鮮關稅定率令・朝鮮噸稅令及附屬諸法規ヲ制定シ關稅及噸稅ノ賦課徵收・船舶及貨物ノ取扱・稅關官吏ノ職權異議及訴願罰則及犯則事件ノ調査處分等ニ關スル規定ヲ確立シ尙關稅率及噸稅率ハ併合ノ際ニ於ケル宣言ノ趣旨ニ則リ從來ト同一ノ率ニ依ルモ從來ノ稅率ハ各國條約ノ規定ヲ比較對照シ其ノ低キニ依ルカ爲特ニ關稅率ニ在リテハ之カ決定ニ當リ往往疑惑ヲ生スルノ不便アルヲ以テ新ニ各國條約ノ規定ニ就キ精密ナル調査ヲ遂ケ稅目及稅率ヲ一定シテ輸出入稅表ヲ編成シ且免稅品及禁制品ニ關スル從來ノ規定及慣例ハ之ヲ明確ナル規定ノ下ニ整理統一シ以テ課稅其ノ他取扱ノ公正及敏活ヲ期セリ又之ト同時ニ輸移出品ニ對シテハ貿易及產業獎勵ノ目的ヲ以テ小麥・大豆・小豆・荏胡麻子・生牛・牛皮・石炭及鐵礦ノ八種物品ヲ除クノ外悉ク輸移出稅ヲ撤廢スルコトトシ各法規ハ同年四月



一日ヨリ之ヲ實施セリ

又同年同月朝鮮保稅倉庫令及附屬法規ヲ制定シ官設保稅倉庫ニ關スル從來ノ規定ヲ整理統一スルト同時ニ新ニ私設保稅倉庫ノ設置ヲ認メ以テ貿易上ノ利便ヲ圖ルコトトナシ前掲關稅法規ト同時ニ之ヲ實施セリ

三 大正二年三月朝鮮陸接國境關稅令及附屬諸法規ヲ制定シ從來關稅法規ノ施行ナキ鴨綠江上流及圖們江流域陸接國境ニ於テ新政普及ニ伴フ交通ノ發達及經濟狀態ノ變遷ニ鑑ミ之ニ適應スヘキ關稅制度ヲ新設シ以テ該地方貿易貨物ト開港貿易貨物トノ間ニ負擔ノ權衡ヲ保持シ且該地方ニ於ケル貿易ノ秩序的發展ニ資セムコトヲ期シ同年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ

四 大正二年十月輸出向加工業及製造業獎勵ノ目的ヲ以テ朝鮮關稅定率令中ニ規定ヲ追加シ材料品ノ輸移入ニ對スル關稅免除ノ制ヲ設ケ之カ施行ニ關スル細則ト共ニ同年十月十五日ヨリ之ヲ實施セリ

五 大正二年十一月陸接國境輸入物品ニ對スル課稅ノ正確及事務ノ簡捷ヲ期スル爲朝鮮陸接國境關稅令第四條ニ依リ輸入物品從量稅目ヲ制定シ大正三年一月一日ヨリ之ヲ實施セリ

以上列擧シタル事項中一般關稅法規ノ制定ハ關稅制度革新ノ骨子ニシテ大體ニ於テ内地ノ關稅制度ニ準據スルヲ原則トセルモ尙朝鮮ニ於ケル特種ノ事情ト併合ノ際ニ於ケル宣言ノ趣旨トニ鑑ミ幾多ノ例外ヲ設ケタルモノナリ而シテ之カ實施ニ當リテハ從來法規ノ不備ナル爲積年馴致シタル諸般ノ弊習ヲ矯正スルノ必要アルヲ以テ特ニ一般貿易業者ニ對スル新令ノ周知當務官吏ノ訓練及稅關貨物取扱人ノ指導監督ニ力ヲ致シタル結果關稅事務ハ漸次改善セラレ官民相互ノ利便ヲ増進シ且輸移出稅ノ撤廢其ノ他產業及貿易獎勵ノ目的ヲ以テ實施シタル事項ハ孰レモ時宜ニ適シ所期ノ效果ヲ收ムルコトヲ得タリ是ニ於テ關稅收入ハ輸移出稅ノ撤廢ニ拘ラス外國貿易ノ増進ト課稅ノ正確トニ因リ逐年増加シ併合ノ當時即チ明治四十三年ニ於ケル關稅噸稅其ノ他諸收入三百四十四萬圓餘ニ過キサリシモノ大正二年ニ於テハ其ノ額五百二十五萬餘圓ノ收入ヲ見ルニ至レリ

次ニ陸接國境ニ於ケル關稅法規ノ施行ハ從來經驗ナキ事項ナルノミナラス當務官吏ハ比較的重要ナル交通地點ヲ除クノ外ハ憲兵ニ稅關官吏ヲ兼任セシメテ之ニ配置シタルモ諸般ノ措置宜ヲ得テ圓滑ニ施行スルヲ得タリ而シ

テ之カ施行ニ因リ開港貿易貨物ニ對スル負擔ノ不權衡ニ基ク諸般ノ弊竇ヲ除去スルト同時ニ當該地方ニ於ケル物資供給其ノ他經濟上支邦商人ニ對スル鮮人及内地人ノ勢力ハ漸次増加ノ傾向ヲ生シ其ノ實施後ニ於ケル貿易及收入ノ成績モ亦頗ル良好ニシテ貿易ハ漸次秩序的發展ヲ遂クルニ至ルヘシ又開港設備ノ完全ヲ期シ交通及貿易ノ發達ニ鑑ミ行ヒタル施設ノ主要ナルモノハ左ノ如シ

一 開港ハ併合ノ際ニ於ケル宣言ノ趣旨ニ基キ從來ノ開港ノ外更ニ新義州ヲ開港トシ從來ノ開港中馬山浦ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ閉鎖スルコトトセルモ内地トノ交通ニ關シテハ馬山ニ於ケル貿易ノ狀況及鎮海軍港設備ノ進捗ニ鑑ミ馬山及鎮海ニ特殊ノ施設ヲ爲スノ必要ヲ認メ明治四十三年十二月勅令ヲ以テ内地臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ハ稅關ノ特許ヲ受ケ慶尙南道馬山浦及行巖灣ニ出入スルコトヲ得ルノ件公布セラレ馬山浦開港閉鎖ト同時ニ之ヲ實施セラレタルヲ以テ馬山稅關支署ハ依然之ヲ存置シ更ニ鎮海ニハ翌明治四十五年一月新ニ稅關支署ヲ設置セリ

二 開港ノ修築其ノ他外國貿易上ノ諸設備ハ舊韓國政府ノ計畫シタル事業

ヲ繼續施行スルノ外尙併合後ニ於ケル交通及貿易ノ情況竝國際的鐵道聯絡ノ將來ニ鑑ミ一層海陸聯絡ノ簡易敏速ヲ期シ且其ノ他貨物ノ安全及附帶費用ノ輕減ヲ圖リ以テ貿易發達ノ氣運ヲ助長スルノ必要ヲ認メ更ニ釜山仁川鎮南浦及平壤ニ於ケル海陸聯絡設備ヲ擴張大成スルノ計畫ヲ立テ明治四十四年度以後繼續事業トシテ之ヲ施行セリ其ノ內釜山港海陸聯絡設備ノ一部ニ屬スル釜山第一棧橋ハ明治四十五年六月落成シタルヲ以テ同稅關ニ棧橋長ヲ置キ棧橋使用規則ヲ制定シテ同月十五日ヨリ之ヲ使用ヲ許シ主トシテ關釜聯絡船ノ緊留ニ充當セリ又平壤ニ於ケル水陸聯絡設備ハ大正二年度中鎮南浦港ノ修築ハ大正三年度末ヲ以テ孰レモ竣工シ既ニ之ヲ利用ヲ見タリ若シ夫レ爾餘ノ諸港ニ至リテハ之ヲ修築ノ急ヲ要スルモノ少カラスト雖財政ノ狀況ハ之ヲ根本的築港ニ着手スルノ時期ニ達セス從來極メテ小規模ノ修築ヲ施セシニ過キササルモ相當ノ利用ヲ見他ノ諸原因ト相俟テ一層交通及貿易ノ發達ヲ促進スルニ至リタリ

三 明治四十四年十一月鮮滿鐵道聯絡輸送ノ利便ヲ開ク爲國境列車直通運轉ニ關スル日支協約成立シタルヲ以テ安東停車場ニ稅關官吏ヲ派出シ鮮滿

鐵道聯絡輸送貨物通關手續ヲ規定シ聯絡貨物ニ對スル通關事務ノ取扱ヲ開  
始セリ

# 第十章 貿易

前章ニ記述セル税關行政ニ關スル諸般ノ施設並交通機關ノ擴張及一般經濟界ノ振興ノ結果トシテ朝鮮ノ貿易ハ近年著シク發展シ殊ニ併合後ニ於テハ一段ノ生色ヲ現ハシ増進ノ跡歷然タルモノアリ今明治四十二年以降ニ於ケル各年ノ貿易額ヲ見ルニ

年	輸 移 出		輸 移 入		合 計	輸 移 入 越 過
	千兩	兩	千兩	兩		
明治四十二年	二二,六一七	二八,九二六	三六,六五五	五九,二七二	一四,〇三七	
同 四十二年	二七,九九一	二八,九二六	三九,七九二	六八,七一八	一〇,八六六	
同 四十三年	二七,九九一	二七,九九一	五四,一一〇	八二,一一一	二六,一二九	
同 四十四年	三〇,一五九	二七,九九一	六七,二二〇	九七,三七九	三七,〇六一	
大正元年	四〇,八六五	四〇,八六五	七一,六六九	一一,五三四	三〇,八〇三	
同 二年	四四,〇六四	四四,〇六四	六三,二九六	一〇七,三六〇	一九,二三三	
同 三年						

(備考) 本表ハ金銀地金ヲ含ム

ニシテ試ニ明治四十二年ノ各貿易額ヲ一千トシ爾後各年ニ於ケル貿易増進ノ割合ヲ比較スレハ左ノ如シ

明治	同	同	大正	同	同	輸	輸	輸	計
四十二年	四十三年	四十四年	元	二年	三年	出	移	入	合
年	年	年	年	年	年				
一、〇〇〇	一、二七九	一、二三八	一、三三三	一、八〇六	一、九四八			一、〇〇〇	一、〇〇〇
								一、〇八六	一、一五九
								一、四七六	一、三八五
								一、八三四	一、六四三
								一、九五六	一、八九九
								一、七二七	一、八一

即チ併合後ニ於ケル貿易ノ發展ハ頗ル顯著ニシテ大正三年ノ貿易額ヲ以テ併合ノ前年即チ明治四十二年ノ貿易額ニ比スレハ殆ト其ノ二倍ニ膨大セルヲ見ルヘシ

今輸移出貿易ノ狀況ヲ觀察スルニ農産物ニ在テハ年年耕地面積及二毛作反別ノ増加耕作法ノ進歩種子ノ改良水利灌漑施設ノ發達見ルヘキモノアリテ重要作物タル米・麥・大豆・棉花・人蔘等何レモ産額増加シ養蠶業ノ普及亦著シク水産業ニ於テハ内地人出漁者ノ増加鮮人漁業者漁撈法ノ進歩水産物ノ保護養殖密漁者ノ取締等ニ因リ漁獲ノ増進ヲ促シ從來ノ輸出品タル魚類・魚肥・鯨等ノ輸出増加シタルハ勿論濫獲ノ結果一時悲境ニ沈淪セシ貝類ノ生産亦既

ニ恢復ノ狀況ヲ呈シ殊ニ大正二年七月以降輸移出海藻検査規則實施ニ依リ從來ノ粗惡品ハ面目ヲ一新シ貿易上ノ價值ヲ昂上シタルコト尠少ナラス其ノ他明太魚卵・鼈ノ如キ近來内地ニ於ケル販路大ニ擴張セラレ貿易品トシテ見ルヘキモノアリ鑛業ニ在テハ官營タル石炭ヲ初メ外國人ノ經營ニ係ル金鑛等孰レモ採掘精練設備ノ完備ニ伴ヒ愈産額ヲ増進シタルノミナラス從來民間ニ於ケル各種鑛業ハ外人經營ノモノヲ除ケハ概ネ鮮人ノ個人的企業ニ屬シ姑息ナル舊式方法ニ依リ稼行セラレタルカ近年内地ノ有力ナル鑛業家ニシテ半島ノ斯界ニ著目スル者漸次多ヲ加ヘ新鑛區ノ發見採掘許可出願等相踵クノ狀態ニテ金石炭鐵鑛・黑鉛等ノミナラス亞鉛鑛・硅砂等新ニ産出ヲ見ルニ至リ鑛業界亦堅實ナル發展ヲ示セリ轉シテ製造工業ニ至テハ由來朝鮮ニ於テ最幼稚ナル産業ニシテ從來輸移出製造品中民間ノ製造ニ係ルモノハ紙ヲ除ケハ他ニ殆ト見ルヘキモノナカリシカ併合後政府ノ獎勵保護内地人ノ増加等ニ依リ斯業發展ノ機運ヲ促進シ併合前ヨリ既ニ萌芽セシ紙卷煙草清酒醬油等ノ製造漸次發達セシノミナラス製革・罐詰・寒天・肥料・バルブ等ノ朝鮮ニ於テ原料豊富ナルモノニ付製造業ノ發現ヲ見ルニ至リ以上孰レモ輸出



貿易品トシテ囑望スヘキモノニ屬ス如上説述スル所ハ併合後輸出ノ異常ナル増進ヲ誘致シタル直接ノ原因ニシテ尙其ノ他交通上ニ於テハ鐵道ノ敷設道路港灣ノ修築沿岸航路ノ發展鐵道運賃ノ低減等ニ依リ邊陲ヲ開キ出入物品ノ集散ヲ容易ナラシメ或ハ朝鮮ニ於ケル輸移出稅及內地ニ於ケル鮮米移入稅ノ撤廢セラレタル等朝鮮貿易ノ發展ヲ助長シタルコト蓋シ尠少ナリトセス

次ニ輸入貿易ニ在テハ併合後鐵道ノ敷設港灣ノ修築市區改正等ヲ初メ諸建築工事ノ勃興竝各種產業ノ發展ニ伴ヒ軌條諸機械類木材鐵道車輛船舶「セメント」石炭鐵材爆發物等企業材料ノ輸移入著シク増加シ又一面ニ於テハ農產物價格ノ騰貴企業ニ伴フ勞銀ノ撤布恩賜金ノ下賜地價ノ騰貴等ニ因リ鮮人ノ購買力大ニ増進シタルノミナラス生活程度ノ向上内地人移住者ノ増加等ニ因リ衣服食料其ノ他一般生活資料ノ消費力ヲ增大ナラシメ輸入貿易増進シタルコト敢テ輸出貿易ニ讓ラス唯大正三年ニ於テハ時局ノ影響ヲ受ケ一頓挫ヲ來シ大正二年ニ比シ著シキ減退ヲ示シタリト雖尙明治四十二年ニ比スレハ七割以上ノ増加ナリ殊ニ食料品ニ關シ注目スヘキハ外國米滿洲粟等

低廉ナル代用品ノ大輸入ヲ見ルニ至レルコトニシテ畢竟朝鮮ニ於ケル米價騰貴ニ原因シタルモノナリ

上述ノ如ク朝鮮ノ貿易ハ産業上ノ施設企畫ニ基キ近年材料品機械等ノ異常ナル増入ヲ示シ爲ニ一時輸入超過ハ顯著ナル額ニ達シタリト雖産業ノ改善進歩ハ翻テ生産ノ増進ト爲リ輸出ノ増進ヲ促スニ至リ從テ輸出入ハ漸ク平衡ノ傾向ヲ呈シ大正二年以來入超額ハ毎年著シキ減退ヲ告ケ尙此ノ傾向カ將來ニ於テ顯著ナルヘキコトハ輸出ノ異常ナル増進ニ徴シ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ

# 第十一章 金 融

## 第一節 通 貨

一 併合前ノ狀況

舊韓國ニ於テハ古來一定ノ幣制ナク數百年來所謂葉錢ノミヲ使用セシカ朝治十七年ニ至リ日本造幣局ニ倣ヒテ典圖局ヲ設立シ明治二十七年勅ヲ銀本位制ノ新式貨幣發行章程ヲ發布セシト雖本位貨幣ノ鑄造ハ甚僅少ニシテ唯鑄造利益ノ多キ白銅貨ヲ鑄造シ或ハ特許料ヲ徴シテ之カ私鑄ヲ許シ加クルニ坊間之ヲ僞造スルモノ續出シ新令發布後幾年ナラヌシテ白銅貨ノ流通ハ全國ノ半ニ及ヒ此等ノ地方ニ於テハ全ク葉錢ヲ驅逐スルニ至リ他ノ地方ニ於テハ依然葉錢ハ流通スルモ其ノ容積徒ニ大ニシテ運搬ノ不便甚シク多額ノ取引ニ適セサリキ

明治三十四年再幣制ヲ改メ金貨本位制ノ日本帝國貨幣法ニ則リ實幣條例ヲ發布シタルモ只少許ノ補助貨ヲ鑄造シタルノミニシテ未タ之ヲ發行セズ當時財政窮乏ノ餘リ舊章程ニ依ル白銅貨ヲ濫造發行シ私鑄僞造亦盛ニ行ハレ

シヨリ貨幣ノ信用ハ全ク地ニ墜チ物價ノ變動常ナク其ノ財政經濟ニ及ホシタル影響ハ實ニ深刻ヲ極メタリ明治三十七年財政顧問ノ就職スルヤ幣制ノ整理ハ最急務ニシテ一日モ忽ニスヘカラサルヲ認メ大様左記ノ方針ニ從ツテ之カ整理ニ著手シタリ

(一) 日本ノ幣制ニ倣ツテ貨幣ノ本位及通用貨幣ヲ確定スルコト

(二) 白銅貨ノ通用ヲ廢止シテ之ニ代ルヘキ補助貨ヲ發行スルコト

(三) 葉錢ノ通用額ヲ適當ノ分量ニ收縮シ其ノ粗惡ナルモノヲ引上クルコト

右幣制ノ確定ニ關シテハ未タ實施スルニ至ラザリシ貨幣條例ニ多少ノ改正ヲ加ヘテ日本ノ制度ト同一ナラシメ明治三十八年七月ヨリ之ヲ實施スヘキ旨ヲ表明シ日本貨幣ノ流通ヲ認メ幣制紊亂ノ根元ヲ爲シタル典圖局ヲ廢止シ新貨ノ鑄造ニ關シテハ日本政府ト協議シ之ヲ大阪ノ造幣局ニ委託セリ而シテ貨幣整理ノ事務ハ中央銀行業務トシテ國庫金ノ取扱ト共ニ之ヲ株式會社第一銀行ニ取扱ハシムルコトトシ明治三十八年一月同行トノ間ニ貨幣整理事務取扱ニ關スル諸般ノ契約ヲ締結シ同行ノ發行スル銀行券ハ無制限ニ通用スヘキコトヲ公認シタリ此ノ契約ニ基キ第一銀行ヨリ金三百萬圓ヲ借

入レ之ヲ貨幣整理資金トシテ同行貨幣整理部ニ交付シ同年七月ヨリ舊白銅貨及葉錢ノ引上ヲ開始シ漸次引上ノ結果貨幣ノ價格ハ平調ニ復シ積弊ヲ一掃スルニ至リシニ依リ明治四十一年十一月白銅貨ノ流通ヲ禁止シ猶一年間公納ニノミ使用スルコトヲ許シ四十二年十二月迄ニ殆ト全部ノ回セ

リ  
葉錢ハ舊韓國在來ノ通貨ニシテ民度未タ高カラサル地方ニ於テハ尙補助貨トシテ當分流通セシムル必要アルヲ以テ急激ノ回收ヲ避ケ國庫ノ收納ニ依リテ還收スルノ方針ヲ採リシモ偶銅相場ノ昂騰ニ遭ヒ國外ニ流出スルモノ夥シク爲ニ公定價格ヲ一枚一厘五毛ニ改メシモ國庫ノ收納トナルモノ寡少ナリシニ因リ明治四十一年公定價格ヲ一枚二厘ニ改メ一圓ニ限り法貨トシテ流通セシムルコトトシタリ

斯クテ市價ハ次第ニ公定價格ニ一致スルニ至リ國庫收納ニ依ル還收額モ漸次増加シテ遂ニ當初ノ目的ノ如ク準補助貨トシテ相當額ヲ市場ニ流通セシムルヲ得ルニ至レリ

其ノ間貨幣條例ニ依リ鑄造シタル金貨補助貨幣及第一銀行券ハ舊白銅貨葉

錢ノ引上ニ伴ヒ漸次其ノ流通高ヲ増加スルニ至レリ而シテ明治四十二年韓  
國銀行ノ創設ニ依リ貨幣整理其ノ他中央銀行業務ハ總テ之ヲ第一銀行ヨリ  
承繼セシメタリ

## 二 併合後ノ狀況

明治四十三年八月日韓併合就ルヤ舊韓國貨幣條例ニ依ル貨幣ノ鑄造ヲ廢止  
シ舊白銅貨及葉錢ノ引上ハ既ニ一段落ヲ告ケタルニ依リ明治四十四年二月  
貨幣整理部ヲ閉鎖シ朝鮮ノ貨幣ハ之ヲ帝國貨幣ニ統一スルノ必要上舊韓國  
ノ貨幣ハ漸次引上ノ手段トシテ金庫ニ收納シタルモノハ再拂出ヲ爲サス之  
ヲ大阪造幣局ニ送付シ鑄造處分ヲ爲シ其ノ流通額ノ減少ヲ俟ツテ舊韓國貨  
幣條例ヲ廢止シ帝國貨幣法ヲ朝鮮ニ施行スル方針ナリ而シテ舊韓國貨幣ノ  
減少ニ伴ヒ地方補助貨ノ缺乏ヲ來スカ故ニ補助貨普及資金トシテ國庫金五  
十萬圓ヲ日本銀行ヲ經テ朝鮮銀行ニ預入シ之ヲ農工銀行及地方金融組合ニ  
交付シ專ラ補助貨散布ニ努メシメタリ其ノ結果帝國貨幣ノ流通額ハ併合ノ  
年即チ明治四十三年末僅ニ四十一萬七千餘圓ナリシカ大正三年末ニ於テハ  
三百五十六萬二千餘圓トナリ實ニ三百十四萬四千餘圓ノ増加ヲ示シ舊韓國

貨幣ノ流通額ハ約三百萬圓舊韓國舊貨ノ引揚未濟高ヲ含ムニ過キスシテ最早幣制統一ノ時期ニ近キタルモノト謂フヲ得ヘシ

第一銀行券ハ明治三十四年以來韓國ニ於テ發行シ開港場附近ニ流通セシカ貨幣整理事務ノ取扱ト同時ニ無制限ノ通用ヲ公認セラレ漸次其ノ發行額ヲ増加セリ而シテ明治四十二年(隆熙三年)韓國銀行設立セラルルヤ第一銀行ニ於ケル銀行券發行ノ特權ハ其ノ發行高ト共ニ同行ニ承繼シ次テ明治四十四年朝鮮銀行ト改稱スルヤ從來第一銀行及韓國銀行ノ發行ニ係ル銀行券ハ之ヲ同行ヨリ發行シタルモノト看做シ更ニ大正三年ニ至リ同行ハ百圓朝鮮銀行券ヲ發行シ引續キ壹圓券五圓券拾圓券ヲ發行スル筈ニシテ大正三年末ニ於ケル銀行券流通高ハ一千七百九十餘萬圓(發行高二千一百八十五萬圓內金庫有高ヲ除ク)ナリトス朝鮮ニ於ケル貨幣流通高及舊白銅貨葉錢及舊韓國貨幣ノ引上高等ハ左表ノ如シ

通貨流通高	
内地各通貨	朝鮮銀行券
四一七、五六四 <small>圓</small>	一七、二七三、三五八 <small>圓</small>
舊韓國硬貨	葉
八、一八一、三〇一 <small>圓</small>	二、四三四、六七六 <small>圓</small>
錢	計
	二八、三〇六、八九九 <small>圓</small>





計	一、二、四、五、九、二、五	八、九、二、七、六、九、三	二、三、一、八、一、三、二
---	---------------	---------------	---------------

舊貨幣

計	五兩銀貨	半兩銀貨	一兩銀貨	白銅貨	赤銅貨	黃銅貨	葉銅貨	鑄造高			引揚未濟高			
								總	造	高	引	揚	未	濟
計								一七、四〇八、七三〇	一八、〇三〇、九七六	一八、〇三〇、九七六	一、四七六、三三〇	八、五四〇、九四〇		
								七、九二八、四〇三	七、五五五、九四一	七、五五五、九四一				三、七二二、四六二
								二、五五〇	九八	九八				二、四五二
								四九〇、八一六	一〇五、二九四	一〇五、二九四				三、八五、五二二
								六二、九八〇	六二、九八〇	六二、九八〇				一
								八、三七一、七六一	九、八四八、一〇一	九、八四八、一〇一				(一、四七六、三三〇)
								八四、五九一	一、〇七九	一、〇七九				八三、五二二
								四五七、六六八	四五七、四七三	四五七、四七三				一九五
								九、九六一	一〇	一〇				九、九五二

(備考) 本表白銅貨ニ於テ却テ引揚高ノ鑄造高ニ超過セルハ引揚白銅貨中  
偽造貨ノ多カリシ結果ナリ

第二節 金融機關

朝鮮ニ於ケル金融機關ノ濫觴ハ明治十一年第一銀行カ釜山ニ支店ヲ設置シタルニ始マル當時韓國ニ於ケル貿易港ハ釜山港ノミナリシカ其ノ後元山及仁川ノ開港ニ伴ヒ同銀行ハ出張所ヲ設ケ專ラ爲替荷爲替貸付等ノ業務ヲ營ミ傍各港海關稅ノ取扱ニ從事シ尋テ長崎十八銀行亦仁川及元山ニ支店ヲ設クルニ至レリ日清戰役後第一銀行ハ新ニ京城ニ支店ヲ設ケ各新開港地ニ出張所ヲ置キ漸次其ノ業務ヲ擴張セシカ其ノ後十八銀行及大阪五十八銀行(今ノ百三十銀行)亦各地ニ支店ヲ設置シ之ト同時ニ朝鮮側ニ於テモ始メテ大韓天一銀行(今ノ朝鮮商業銀行)及漢城銀行ノ設立ヲ見ルニ至レリ當時韓國ノ經濟狀態ハ極メテ幼稚ニシテ確實ナル信用機關ナク僅ニ外割ト名付クル制度ニ基キ公金ヲ融通シテ中央ト地方トノ間ニ資金ノ授受ヲ爲シ於音ト稱スル極メテ不完全ナル約束手形ニ依リテ商取引行ハレタリシモ此等ニ伴フ弊害甚シク明治三十七八年ノ交於音ノ濫發ト白銅貨ノ濫造トハ經濟界ニ一大恐慌ヲ惹起スルニ至リタリ斯クテ財政顧問ノ就職スルヤ此等ノ宿弊ヲ一掃シ財政ノ基礎ヲ確立スル爲第一銀行ヲシテ中央銀行業務ヲ取扱ハシムルト共ニ幣制ノ整理ニ着手シ一方徵稅制度ノ統一ヲ圖リ外割制度ヲ全廢シ之ニ依

リテ生スヘキ地方金融ノ梗塞ヲ緩和スル目的ヲ以テ全道樞要ノ地ニ政府倉庫ヲ設ケ以テ動産ニ對スル融通ノ途ヲ開キタリ而シテ恐慌ノ爲經營困難ニ陥リタル天一漢城ノ兩銀行ニ對シテ資金ノ援助ヲ爲スト共ニ漢城共同倉庫會社ヲ興シ動産ヲ保管シテ之ニ資金ノ融通ヲ爲スノ外不動産擔保貸出ヲ爲サシメ又於音ヲ撲滅シテ完全ナル商業手形ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ各地ニ手形組合ヲ設ケタリ其ノ後人心ノ漸ク靜平トナルニ及ヒ地方ノ金融ヲ疏通シ産業ノ振興ヲ企圖スル爲明治三十九年農工銀行條例ヲ發布シ直ニ其ノ設立ニ着手セシメ政府ニ於テ株式ヲ引受ケ又ハ無利子貸下金ヲ爲シテ其ノ成立ヲ援助シ全國樞要ノ地ニ十一ノ農工銀行ヲ設置シ(後之ヲ合併シテ六行ト爲ス)地方政府倉庫ノ貸出ヲ廢止セリ是等ノ施設ハ中流者以上ノ農工業者ニ對スル金融ニ便益ヲ與ヘタリト雖最多數ノ小農民ニ在リテハ金融ヲ得ルノ途ナキニ依リ明治四十年地方金融組合規則ヲ發布シ各地ニ地方金融組合ヲ設置シ政府ヨリ資金ヲ交付シテ小農民ノ金融ヲ疏通シ傍農事ノ改良ヲ勸獎セシメ以テ其ノ經濟力ノ發達ヲ圖ラシメタリ

斯クテ地方經濟ノ發達ハ次第ニ各種金融機關ノ増設ヲ促シ韓一銀行密陽銀

行及周防銀行支店等相踵テ普通銀行ノ設置ヲ見明治四十一年拓殖移民ノ機關タル東洋拓殖株式會社起リ翌明治四十二年金融ノ中樞機關トシテ舊韓國銀行ヲ創設シ國庫金ノ出納銀行券ノ發行其ノ他中央銀行タルノ業務ハ總テ第一銀行ヨリ之ヲ承繼シ第一銀行ハ京城及釜山ニ於テ單ニ普通銀行業務ノミヲ營ムコトトナレリ

明治四十三年韓國併合ノ後諸般ノ施設著シク其ノ步ヲ進メ經濟界ノ面目亦一新スルニ至リ漢城共同倉庫會社及手形組合ノ如キハ特ニ之ヲ存置スルノ必要ヲ認メサルニ至リシヨリ前者ハ朝鮮商業銀行後者ハ各農工銀行ニ合併シ舊韓國銀行ハ之ヲ朝鮮銀行ニ改メ其ノ業務ノ發展ニ努力セシムルト同時ニ農工銀行及地方金融組合ハ倍其ノ機能ヲ充實セシメテ產業界ニ貢獻セシムコトヲ期シ大正三年農工銀行令及地方金融組合令ヲ發布シテ其ノ業務ノ範圍ヲ整理シタリ而シテ普通銀行ハ内地人側ノ設立ニ係ルモノト鮮人側ノモノトニ分レ各其ノ監督法規ヲ異ニシタリシカ近年ニ至リ內鮮人經濟關係ノ密邇ヲ加フルニ從ヒ合同經營ノモノヲ生シ其ノ適用上支障ヲ生シタルニ由リ之カ準據ヲ劃一スルノ必要ヲ認メ大正元年銀行令ヲ發布シタリ斯ノ

如クニシテ朝鮮ニ於ケル金融機關ハ稍完備スルニ至リ併合當時ニ於テハ各種銀行本店十一箇所支店六十一箇所地方金融組合一百十七箇所ナリシモ大正三年末ニ於テハ銀行ノ本店十八支店八十三ノ多キニ達シ地方金融組合亦實ニ二百三十ヲ算スルニ至レリ

今各種金融機關ニ付其ノ經營ノ概況ヲ示セハ併合ノ年即チ明治四十三年末ニ於ケル總運轉資金ハ六千三百六十六萬圓ナリシモ大正三年末ニ於テハ一億五百二十一萬圓トナリ差引四千一百五十五萬圓ノ激増ヲ來シ諸預金ニ於テ一千五百十二萬圓農工及拓殖資金其ノ他ノ諸貸出ニ於テ三千六百二十萬圓ヲ増加セリ以テ經濟界發達ノ一斑ヲ窺知スルヲ得ヘシ其ノ連年內譯ハ別表ノ如シ

朝鮮金融機關總況連年比較 各年十二月末日現在

(一) 運轉資金	
明治四十三年	七、九二一、三七六 <small>圓</small>
同四十四年	二、八九六、三七六 <small>圓</small>
大正元年	三、二二一、六七 <small>圓</small>
同二年	三、〇五五、五九六 <small>圓</small>
同三年	三、〇二七、五五六 <small>圓</small>

合 計	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同 二 年	同 三 年
	八、六八九、二〇〇 積立金及繰越金 五四〇、六七九 銀行券發行高 二〇、一六三、九〇〇 農工債券發行高 九六〇、〇〇〇 諸 預 金 一八、八四五、八〇五 借入金及爲替尻 二、六七二、五五四 雜 勘 定 三、八七一、二六四 六三、六六四、六九八	一四、〇一七、五九七 六五一、五四九 二五、〇〇六、五四〇 一、八七〇、〇〇〇 二〇、六二二、四六一 四、五五四、〇二六 二、二三一、二九九 七、一八四九、八四八	一九、八二一、八二七 一、一〇二、八三九 二五、五五〇、四〇〇 一、七八〇、〇〇〇 二八、七六二、九二九 七、六〇六、〇二三 三、七八〇、三二六 九一、六二六、〇一〇	二二、八六九、一九五 一、五七八、五一六 二五、六九三、二六〇 二、九九〇、〇〇〇 三六、五八七、八一八 七、六六三、五六七 五、四四七、五五七 一〇五、八八五、五〇九	二五、八二六、一〇三 二、〇〇七、七三〇 二一、八五〇、三七〇 二、九一〇、〇〇〇 三三、九七二、三六二 一〇、二六二、三三一 五、三五九、〇八九 一〇五、二一五、五三一

(二) 資 金 運 轉

政 府 債 上 金 銀行券償却資金貸付其ノ他 銀行券發行正貨準備 農工及拓殖資金貸付 諸 貨 出 金 所 有 物 預々金及爲替尻	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同 二 年	同 三 年
	一〇、三九三、三五五 七、五九二、一八六 七、〇二五、七五〇 二、二三〇、三七七 二四、〇六三、七四〇 五、九〇九、〇七七 三、三七八、三三七	四、五九四、六七七 七、一九九、一八六 八、八三六、九九〇 四、六〇二、六二九 三〇、三五三、一八一 一〇、八八四、七一〇 二、二六〇、九〇〇	一〇、〇九四、六七七 六、九二四、一八六 八、七六六、六二〇 六、九一〇、七九三 四〇、五二〇、四九〇 一、二二〇、六三三 二、九三七、七九五	七、五〇〇、〇〇〇 六、五二三、六六七 八、九二二、九五〇 一、〇三三、二四 五〇、八七五、七〇〇 一四、八七六、七七二 二、〇三五、一六六	七、五〇〇、〇〇〇 六、一一一、三六七 七、四五三、三〇〇 一三、九〇一、〇八五 四八、五九六、一〇九 一五、五四八、四三〇 二、六二二、一六一

朝鮮金融機關狀況 大正三年十二月末日現在

地 金 銀	手 許 有 高	雜 勘 定	合 計
一一六、九七〇	二、七九九、五六四	二一九、三四二	六三、六六四、六九八
七六、六一三	二、九二五、三八〇	二二五、五八二	七一、八四九、八四八
八二、二四三	三、〇六七、三七二	一一五、五〇二	九一、六二六、〇一〇
一一五、四八七	三、三七一、八四七	六二八、七九六	一〇五、八八五、五〇九
一七〇、九二三	二、六二〇、八四三	六八一、三二三	一〇五、二一五、五三一

(一) 運 轉 資 金

政 府 貨 下 金	朝 鮮 銀 行	普 通 銀 行	農 工 銀 行	地 方 金 融 組 合	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 (金 融 部)
一、二〇〇、〇〇〇	三六七、五七六	一、四九九、八〇〇	二、一三三六、二一三	五、〇〇〇、〇〇〇	
一〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇三〇、〇〇〇	一、四六九、八九〇	四九一、二八九		
三二八、二五八	五九二、九五三	五九五、二三〇			
二一、八五〇、三七〇					
農 工 債 券 發 行 高			二、九一〇、〇〇〇		
農 債 預 金	一七、五九八、五〇四	一、五四六、五一七	四、七一八、八二〇	一〇八、五二一	
借 入 及 爲 替 尻	五、三六二、七一九	二、〇九二、四七六	二、三四一、八五五	四六五、二七一	
雜 勘 定	九八〇、六一二	一、一一九、五七四	二〇五、八九〇	五四三、三六九	二、五〇九、六四四
合 計	五七、三三〇、四六三	二二、七三九、〇九六	一三、七〇一、六六五	三、九四四、六六三	七、五〇九、六四四

(二) 資 金 運 轉

政 府 貸 上 金	七、五〇〇、〇〇〇	朝鮮銀行	七、五〇〇、〇〇〇	東洋拓殖株式會社 (金) 融 部	七、五〇九、六四四
銀行券償却資金、貸付其ノ他	六、二二一、三六七	普通銀行	一七、八三〇、九七八		
銀行券發行正貨準備	七、四五三、三〇〇	農工銀行	四、二四四、一六三		七、五〇九、六四四
農工及拓殖資金貸付	二二、四五四、六四六	地方金融組合	七、三一〇、四八五		
諸 貸 出 金	一〇、一四九、九九三		一、三六二、〇七七		
所 有 物	一、〇七一、七五六		三七一、四五八		
預 金 及 爲 替 尻	一七〇、九二三		七三、〇九九		
地 金	三四、五五三		三四〇、三八三		
雜 勘 定	一、三六三、九二五		三、九四四、六六三		
手 許 有 高	五七、三二〇、四六三		一五四、九五三		
合 計			二二、七三九、〇九六		七、五〇九、六四四

朝鮮金融機關預金貸出金

各年末現在高

朝鮮銀行	五、九六〇、六五一	明治四十三年	同 四十四年	大正元年	同 二年	同 三年
普通銀行	九、六七九、七六六					
農工銀行	三、二〇五、三八八					
地方金融組合						
朝鮮銀行	六、九七八、二八一					
普通銀行	九、五四四、〇八一					
農工銀行	四、一〇〇、〇九九					
地方金融組合						
朝鮮銀行	一四、一六九、八七八					
普通銀行	一〇、二二三、三九八					
農工銀行	四、四六九、六五三					
地方金融組合						
朝鮮銀行	二〇、八〇一、八三一					
普通銀行	一一、一八六、〇六二					
農工銀行	四、五九九、九二五					
地方金融組合						
朝鮮銀行	一七、五九八、五〇四					
普通銀行	一一、五四六、五一七					
農工銀行	四、七一八、八二〇					
地方金融組合	一〇八、五二一					



金 出 貨		計				
計	朝鮮銀行 普通銀行 農工銀行 地方金融組合 東洋拓殖株式會社 (金) 融	朝鮮銀行 普通銀行 農工銀行 地方金融組合 東洋拓殖株式會社 (金) 融	朝鮮銀行 普通銀行 農工銀行 地方金融組合 東洋拓殖株式會社 (金) 融	朝鮮銀行 普通銀行 農工銀行 地方金融組合 東洋拓殖株式會社 (金) 融	朝鮮銀行 普通銀行 農工銀行 地方金融組合 東洋拓殖株式會社 (金) 融	計
一八、八四五、八〇五	二二、一九三、〇五四	二二、八九七、六一〇	三三、五〇六、三九一	三七、五三三、六五七	三七、〇七六、〇一三	一八、八四五、八〇五
二〇、六二二、四六一	一四、五三三、七四五	一三、二六三、〇一七	一六、六八一、一三五	一八、五四九、〇五八	一七、八三〇、九七八	二〇、六二二、四六一
二八、七六二、九二九	六、三四四、七二三	八、五〇九、四五五	一〇、四五六、七五九	一一、五八三、六二二	一一、五五四、六四八	二八、七六二、九二九
三六、五八七、八一八	七六二、八一六	一、一八二、九三二	一、七二五、二四四	二、一五八、一九二	二、一四七、二七八	三六、五八七、八一八
三三、九七二、三六二	三七九、三二〇	一、七九六、六五九	三、〇八〇、六一七	六、一一四、九六二	七、五〇九、六四四	三三、九七二、三六二
四四、二一五、六五八	四六、六四九、六七三	六四、四五〇、一四六	七五、九三四、四九一	七六、一一八、五六一	七六、一一八、五六一	四四、二一五、六五八

### 第三節 朝鮮銀行

舊韓國ニ於ケル中央金融機關ノ業務ハ明治三十八年株式會社第一銀行ト舊韓國政府トノ間ニ國庫金ノ取扱其ノ他貨幣整理事務ニ關スル契約ヲ締結シテヨリ同行京城支店ヲ舊韓國ノ總支店トシテ其ノ衝ニ當ラシメシカ爾來財政ノ膨脹經濟ノ發展ニ伴ヒ政府ハ中央金融機關特設ノ必要ヲ認メ明治四十二年十月舊韓國銀行ヲ設立シ其ノ業務ヲ第一銀行ヨリ繼承セシメ同年十一月ヨリ業務ヲ開始シ明治四十四年朝鮮銀行法ニ依リ朝鮮銀行ト改稱セリ本銀行ハ資本金一千萬圓ヲ以テ國庫金ノ取扱ヲ爲シ銀行券ヲ發行スルノ外左

ノ業務ヲ營ム

- 一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引
- 二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形金ノ取立
- 三 爲替及荷爲替
- 四 確實ナル擔保アル貸付
- 五 諸預リ金及當座貸越勘定
- 六 金銀貨貴金屬及諸證券ノ保護預リ
- 七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換
- 八 政府ノ認可ヲ受ケテ爲ス公共團體ニ對スル無擔保貸付竝他銀行ノ業務代理

九 國債證券地方債證券又ハ朝鮮總督ノ指定スル確實ナル有價證券ノ買入  
 朝鮮銀行ハ其ノ本店ヲ京城ニ置キ朝鮮內樞要ノ地點竝内地及滿洲ニ亘リテ  
 六箇所ノ支店ト十二箇所ノ出張所トヲ設ケ其ノ營業成績ハ極メテ良好ニシ  
 テ政府補給金モ既ニ明治四十四年上半期限リ之ヲ支給スルノ要ナキニ至リ  
 克ク政府財政ノ運用ヲ援ケ金融調節ノ職責ヲ謬ラス朝鮮開發ニ貢獻スル所

多大ナリトス今同行營業概況ヲ示セハ明治四十三年末ニ於ケル運轉資金ハ三千五百五十三萬圓ナリシカ大正三年末ニ於テハ五千七百三十二萬圓トナリ二千一百七十八萬圓ヲ増加セリ其ノ連年ニ於ケル内譯左表ノ如シ

朝鮮銀行總況連年比較 各年十二月末日現在

		(一) 運轉資金				
		明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
政府貸下金		六、二二〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇
拂込資金		二、五〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
積立金及繰越金		二、六五〇	一六、一五〇	六三、三四八	一四六、九三七	三二八、二五八
銀行券發行高		二〇、一六三、九〇〇	二五、〇〇六、五四〇	二五、五五〇、四〇〇	二五、六九三、二六〇	二一、八五〇、三七〇
諸預り金		五、九六〇、六五一	六、九七八、二八一	一四、一六九、八七八	二〇、八〇一、八三一	一七、五九八、五〇四
借入金及爲替尻		一	二、〇六八、二六六	三、一四〇、六九〇	一三、〇九五、八五四	五、三六二、七一九
雜勘定		六九〇、七七四	七一五、四七七	五八五、一二三	六九六、三四七	九八〇、六一二
合計		三五、五三七、九七五	四〇、九九四、七一四	五二、二〇九、四三九	五九、一三四、二二九	五七、三二〇、四六三

(二) 資金運轉

政 府 貨 上 金 銀行券償却資金貸付其ノ他 銀行券發行正貨準備 諸 貨 出 金 所 有 物 預ケ金及爲替尻 雜 勘 定 地 金 銀 手 許 有 高	合 計				
	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
	七、三二九、三五五 <small>圓</small>	四、五九四、六七七 <small>圓</small>	一〇、〇九四、六七七 <small>圓</small>	七、五〇〇、〇〇〇 <small>圓</small>	七、五〇〇、〇〇〇 <small>圓</small>
	七、五九二、一八六	七、一九九、一八六	六、九二四、一八六	六、五二三、六六七	六、一一一、三六七
	七、〇二五、七五〇	八、八三六、九九〇	八、七六六、六二〇	八、九二二、九五〇	七、四五三、三〇〇
	七、二七一、五一三	一〇、一〇三、七四七	一五、四八七、五二八	二二、五〇八、九九〇	二二、四五四、六四六
	三、八一五、五四七	七、九二六、六六〇	七、九九七、七三九	九、八九六、六八六	一〇、一四九、九九三
	一、四二七、三七五	一、〇一八、一六四	一、五八八、八五九	一、〇五七、五一五	一、〇七一、七五六
	一、一六、九七〇	三二、八八〇	二六、五二九	三三、一七七	三四、五五三
	九五九、二七九	七六、六一三	八二、二四三	一一五、四八七	一七〇、九二三
	三五、五三七、九七五	四〇、九九四、七一四	五二、一〇九、四三九	五九、一三四、二二九	五七、三二〇、四六三

### 第四節 普通銀行

朝鮮ニ於ケル内地側普通銀行ハ明治十一年第一銀行力釜山ニ支店ヲ設ケタルヲ嚆矢トス爾來長崎十八銀行・大坂百三十銀行・山口周防銀行ハ各地ニ支店出張所ヲ置キ更ニ密陽・七星・京城ノ諸銀行ノ設立ヲ見タリ

朝鮮人ノ設立ニ係ルモノハ明治二十八年大韓天一銀行(明治四十四年朝鮮商

業銀行ト改稱ス。明治三十二年漢城銀行ノ設立ヲ見タリシモ明治三十七年ノ恐慌ニ際シ經營困難ノ狀態ニ陥リ漸ク政府ノ援助ニ依リテ營業ヲ繼續シ來リシカ其ノ後經濟界ノ好況ニ赴クニ伴フテ次第ニ順潮ニ向ヒ尋テ韓一湖西兩銀行ノ設立ヲ見タリ

尙近時内鮮人間ノ經濟的關係漸ク密接トナリ其ノ合同經營ニ係ル大邱鮮南(元鮮南商業銀行ト稱ス)慶南(元龜浦銀行ト稱ス)及釜山商業ノ四銀行ノ設立ヲ見ルニ至レリ

普通銀行ハ由來民間ノ遊金ヲ吸集シテ之ヲ有利ニ運轉スルモノナルカ故ニ資本小額ニシテ信用薄弱ナルトキハ預金者ニ危害ヲ與フルノ虞アルノミナラス延イテハ經濟界ノ紛亂ヲ釀成スルナキヲ保セス故ニ政府ハ資本金三十萬圓以上ノ株式會社一非レハ銀行ノ設立ヲ許可セサルノ方針ヲ採リ之カ濫設ヲ防止セリ

今普通銀行ノ概況ニ就キ明治四十三年末ト大正三年末トヲ稽フルニ本店四支店出張所二十八本店十一支店出張所二十八ト爲リ其ノ運轉資金亦一千八百十一萬圓ヨリ二千二百七十三萬圓ニ躍進セリ其ノ累年内譯ハ左表ノ如シ

普通銀行總況連年比較 各年十二月末日現在

		(一) 運轉資金							
政府貸下金	五六六六九六	同四十四年	五五一、六九六	大正元年	五四一、六九六	同二年	三八五、六一六	同三年	三六七、五七六
拂込資金	四、〇八四、五五〇		四、八八二、三六三		六、〇〇二、五〇〇		六、八二一、二五〇		七、〇二〇、〇〇〇
積立金及繰越金	三〇二、七五四		二四九、九九五		三一七、八六〇		五〇一、五七四		五九二、九五三
儲預金	九、六七九、七六六		九、五四四、〇八一		一〇、一二三、三九八		一一、一八六、〇六二		一一、五四六、五一七
借入金及爲替戻金	五五二、四七四		六六四、五九三		一、七〇三、八三八		二、〇一五、二二九		二、〇九二、四七六
雜勘定	二、九二八、〇四九		一、二二三、三七四		二、七九二、六八八		二、八一〇、二九二		一、一一九、五七四
合計	一八、一四、二八九		一七、一一六、一〇二		二一、四八一、九八〇		二三、七二〇、〇二三		二三、七三九、〇九六

		(二) 資金運轉				
政府貸上金	三、〇〇〇、〇〇〇	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
諸貸出金	一一、五三五、七四五		一三、二六三、〇一七	一六、六八一、一三五	一八、五四五、〇五八	一七、八三〇、九七八
所有物、土地、建物、什器、有價證券	一、五七三、七二五		二、三二六、八〇六	三、二九八、二二七	三、七四二、八二〇	三、六七四、七五二
預々金及爲替戻	一、〇八七、三五四		五四二、九九三	四五八、五三五	二六七、三〇五	四五〇、六四七

手許	勘定	有	高	計
一八、一四、二八二	二、三、一八三	八、九四、二八二	六八、一、三三三	一七、一、一六、一〇二
九一五、〇五四	七、七二七	一、〇三六、三五六	一九、九七三	二二、四八一、九八〇
一、一四四、八六七	七六一、五八二	二、三、七二〇、〇三三	二二、七三九、〇九六	二二、七三九、〇九六
合	計	一八、一四、二八九	一七、一、一六、一〇二	二二、四八一、九八〇

## 第五節 農工銀行

明治三十八年舊韓國財政整理ノ一端トシテ外割制度ヲ廢止シタル結果之ニ因リテ起ルヘキ地方金融ノ梗塞ヲ救済セムカ爲各地方重要地點ニ政府倉庫ヲ置キ資金ノ貸出ヲ爲セシカ更ニ産業ノ興起・金融ノ調和ニ關スル根本的方策ヲ確立スルカ爲明治三十九年三月農工銀行條例ヲ發布シ政府ノ保護監督ノ下ニ樞要地ニ農工銀行ヲ設置セシメ農工資金散布ノ傍商業資金ノ融通ヲ圖レリ爾來內地人ノ移住増加・新事業ノ勃興等朝鮮經濟界ノ發展ニ伴ヒ資金ノ充實ヲ圖ル爲或ハ農工債券ヲ發行セシメ或ハ同一經濟圈内ニ在ル銀行ノ合併ヲ行ヒ未拂込株金ノ拂込ヲ斷行シ朝鮮銀行及東洋拓殖株式會社ト聯絡ヲ保チ以テ緩急相補ハシメタル結果地方農工業ノ隆興ヲ促シ農工業資金増加ノ趨勢ハ最顯著ニシテ明治四十三年末ニ於テハ之カ貸出金總計僅ニ一百

八萬八千餘圓ニ過キサリシカ大正三年十二月末ニ於テハ四百二十四萬四千餘圓ニ上ルニ至レリ

斯ク業務ノ繁榮ニ赴クト共ニ法規ヲ改正シ之カ機能ヲ充實スルノ必要ヲ認メ大正三年五月農工銀行令ヲ發布シ其ノ業務ヲ次ノ如ク限定シタリ

一 二十年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル不動産ヲ抵當トスル貸付

二 五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル不動産ヲ抵當トスル貸付

三 農業者又ハ工業者二十人以上連帶シテ債務ヲ負フモノニ對スル五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付

四 公共團體ニ對スル第一號又ハ第二號ノ方法ニ依ル無擔保貸付

五 地方金融組合漁業組合其ノ他營利ヲ目的トセサル産業ニ關スル法人ニ對スル第一號又ハ第二號ノ方法ニ依ル無擔保貸付

六 朝鮮ノ產物ヲ擔保トスル貸付

七 朝鮮ノ產物ノ貯藏ヲ主タル目的トスル倉庫業者カ發行スル預證券質入證券若ハ倉荷證券ニ對スル貸付又ハ地方金融組合ノ發行スル倉荷證券ニ

對スル貸付



八 朝鮮ニ於テ農業又ハ工業ヲ營ムコトヲ主タル目的トスル株式會社株券  
又ハ社債券ニ對スル貸付

九 爲替及荷爲替

十 手形ノ割引但シ第六號乃至第八號ノ產物又ハ證券ヲ擔保トスル場合ニ  
限ル

右第一號乃至第三號貸付ハ其ノ資金ヲ開墾排水灌溉耕地土質ノ改良殖林牧  
畜其ノ他農工業ノ改良ニ使用スルモノニ限レリ

農工銀行ハ右ノ外普通銀行業務ヲ兼營シ本店六箇所支店ハ明治四十三年末  
ヨリ十箇所ヲ増加シ三十七箇所トナリ大正三年末ニ於テハ總預金四百七十  
一萬圓農工資金貸付及諸貸出金ヲ合セテ貸出總額金一千一百五十五萬圓ヲ  
算シ地方金融ノ疏通ニ關シ貢獻スル所甚大ナリトス

今農工銀行ノ營業狀況ヲ明治四十三年末ト大正三年末トヲ對比スルニ運轉  
資金總額七百九十五萬圓ヨリ一千三百七十萬一千餘圓トナリ五百七十四萬  
圓ノ増加ヲ示セリ其ノ連年内譯ハ左表ノ如シ

農工銀行總況連年比較 各年十二月末日現在



手許	有	高	計	合
六四七、一八五	五三八、八八七	五九五、五四四	四七〇、四二四	三四〇、三八三
七、九五三、五〇三	九七八五、五八〇	一一、一三九、四八五	一三、四五七、一三七	一三、七〇一、六六五

## 第六節 東洋拓殖株式會社

本會社ハ明治四十一年東洋拓殖株式會社法ニ基キ朝鮮ノ富源開發ノ目的ヲ以テ設立セラレ政府保護ノ下ニ朝鮮ニ於テ農業及拓殖事業ニ從事スルト共ニ資本金及社債券發行高ノ半額ヲ限リ拓殖上必要ナル資金ノ貸付ヲ爲ス其ノ貸付ノ範圍左ノ如シ

- 一 移住民ニ對シテ二十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル移住費ノ貸付
- 二 移住民及朝鮮農業者ニ對シ十五年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ在鮮不動産ヲ擔保トスル貸付
- 三 移住民及朝鮮農業者ノ生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保トスル貸付
- 四 在鮮不動産ヲ擔保トスル三年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付
- 五 在鮮公共團體ニ對シ二十年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付

六 移住民及朝鮮農業者ニシテ二十人以上連帶シテ債務ヲ負フモノニ對スル五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付

七 朝鮮農工銀行發行ニ係ル農工債券ノ引受

而シテ大正三年末ニ於ケル貸出金ハ七百五十萬九千餘圓ニ達シ拓殖事業ニ資スル所鮮少ナラス今同會社金融部貸付金ヲ併合後各年別ニ依リ表示スレハ左ノ如シ

明治四十三年末

三七九、三二〇

同 四十四年末

一、七九六、六五九

大正元年末

三、〇八〇、六一七

同 二年末

六、一一四、九六二

同 三年末

七、五〇九、六四四

## 第七節 地方金融組合

朝鮮ハ古來農ヲ以テ立國ノ基トシ農作ノ豊凶ハ以テ其ノ經濟財政ヲ左右スルノ標準タリ然ルニ階級制度顯著ニシテ官憲ノ誅求ト地主ノ橫暴トハ中農

階級ヲ殄滅セシト共ニ下層農民ノ慘狀殆ト之ニ堪ヘサルモノアリ即チ其ノ大分ハ小作ニ從事シ收穫ノ一半ハ地主ノ歛ムル所トナリ且租稅公課亦皆小作人ノ負擔ニ歸シ彼等ノ生計ハ漸ク高利貸ニ頼リテ維持スル狀態ニシテ孜孜汲汲勤勉ノ結果ハ徒ニ地主ト債主トノ奪フ所トナリ農民ハ其ノ業ニ安スルコトヲ得ス農村ノ風紀ハ廢頽シ勤儉ノ美風ハ地ヲ拂フニ至レリ政府ハ爰ニ顧ル所アリ地方小農民ノ金融ヲ緩和シ傍農事ノ改良發達ヲ促シ之ニ産ヲ與ヘテ恒心ヲ涵養セシメ以テ地方ノ振興ヲ圖ラムカ爲明治四十年以來地方金融組合ヲ創設スルニ至レリ

各組合ニハ創立ノ際基本金トシテ一萬圓ヲ下付シ且相當經費ノ補助ヲ與ヘ毎年二三十箇所ヲ増設シ併合當時ニ於テ九十九箇所ヲ算セリ爾後愈之カ増設ヲ促シ大正四年三月末ニハ其ノ數二百三十ヲ算シ組合員數六萬三百二十二人貸出金總額二百十四萬圓積立金及繰越金約五十萬圓ニ達スルノ盛況ヲ呈シ地方産業開發上裨益スル所尠カラス而シテ從來組合ハ主トシテ低利資金ヲ貸付ケ勗メテ農事ノ改良進歩ニ力ヲ用井タリシカ時勢ノ進運ニ伴ヒ一層組合ノ基礎ヲ鞏固ニシテ資金ノ充實ヲ圖リ貯蓄獎勵ノ方法ヲ完備セシメ

ムカ爲大正三年五月地方金融組合令ヲ發布シ同年九月ヨリ實施セリ之ニ依リテ從來組合員ハ朝鮮人農業者ニ限ラレシモノヲ内地人農業者ヲモ包含セシムルヲ許シ且組合員ノ貯蓄ヲ行ハシメ特ニ基礎鞏固ナルモノニ於テハ組合員外ノ預金ヲモ取扱フコトヲ得セシム又創設當時ハ小農民ノ經濟狀態ニ鑑ミ唯少許ノ加入金ヲ課シタルニ過キサリシモ時運ノ進展ト組合ノ本質トニ由リ組合員ニ有限責任一口十圓ノ出資義務ヲ負ハシムルト共ニ之カ剩餘金配當ヲモ認メテ以テ團體ノ結合ヲ確實ナラシメ組合員本位ノ實ヲ舉タルノ方針ヲ採リ地方有力者ヲ組合長トシ内地人理事ヲ置キ之ト共同シテ組合ヲ代表セシメ評議員・監事ヲシテ之ヲ助ケシム

左ニ組合業務ノ範圍ヲ示サム

一 組合員ニ農事資金ノ貸付

二 組合員ノ爲預リ金及特ニ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ノ預リ金ヲ爲スコト

三 組合員ノ爲ニ農業材料ノ購入・分配及貸付

四 組合員ノ爲ニ其ノ生産物ノ委託販賣

五 組合員ノ爲ニ其ノ生産物ノ倉庫保管及倉荷證券ノ發行  
六 組合員共同ノ利益ノ爲ニ農事ノ必要ノ施設ヲ爲スコト  
右ノ外地方金融ノ調節上必要ナル業務ハ朝鮮總督ノ命令ニ依リテ營ムモノ  
トス又組合相互ノ聯絡ヲ取リテ充分發達ヲ遂ケシムル爲中央機關ノ設置ハ  
必要ナルモ差當リ農工銀行業務ヲ幫助スルト共ニ農工銀行ヲシテ資金ノ融  
通ヲ爲サシムル必要ヲ認メ農業資金ノ貸付及定期預リ金小口預リ金等ノ業  
務ヲ代理シ媒介スルコトヲ得セシメタリ

今ヤ組合創設以來既ニ八星霜地方農事ノ改良發達地方金利ノ下落民度ノ向  
上ニ盡シタルコト尠少ナラス且同化誘掖上亦甚有效ナリシヲ以テ政府ハ其  
ノ財政ノ許ス限リ之カ普及ヲ圖リ將來益之ヲ増設シ平均一郡ニ二組合ヲ置  
クノ方針ナリ而シテ一般農民ニ於テ漸次組合ノ必要ヲ感シタル結果明治四  
十三年末ニ於テハ農民戶數一萬ニ對スル組合員數一百八十七人ニ過キサリ  
シカ大正三年末ニ於テハ二百三十三人トナリ又組合運轉資金總額ハ一百六  
十七萬圓ヨリ三百九十四萬圓トナリ二百二十六萬圓ヲ増加セリ其ノ連年内  
譯左ノ如シ

地方金融組合總況連年比較 各年度末現在

		(一) 運轉資金			
拂込出資金	明治四十三年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
	一、一七〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇	一、八九〇、〇〇〇	二、〇八〇、〇〇〇	七、一、二二三
組合基本金	五九、七八五	一五九、〇四四	二七五、九五六	三九六、三二五	四九一、二八九
	二七九、〇九一	三四五、四八〇	四〇六、〇〇〇	四四一、四六五	四六五、二七一
積立金及繰越金	一七〇、七三五	一三二、二六九	一四二、五三三	五四一、三六八	一〇八、五二一
	一、六七九、六一一	二、一五六、七九三	二、七一四、四八九	三、四九九、一五八	三、九四四、六六三
合計					

		(二) 資金運轉			
貸付金	明治四十三年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
	七六二、八一六	一、一八二、九三二	一、七二五、二四四	二、一五八、一九二	二、一四七、二七八
所有物	六一、五六〇	九八、一三五	一五〇、一三四	二六六、六四八	三六一、六〇八
	四九七、二七七	五六六、三五七	六三六、二〇八	四三五、八一九	七二八、三〇〇
預金	五九、一四〇	四三、七二七	八、四八九	四一七、七〇〇	五五二、五二四



第十一章 金 融

手 許 有 高	二九八、八一八	二六五、六四二	一九四、四一四	一八〇、七九九	一五四、九五三
合 計	一、六七九、六一一	二、一五六、七九三	二、七一四、四八九	三、四九九、一五八	三、九四四、六六三

## 第十二章 紅蔘專賣及製鹽

### 第一節 紅蔘專賣

朝鮮開城附近ニ生産スル人蔘ハ高麗蔘ト稱シ古來特殊ノ信用ヲ有シ殊ニ支那ニ於テハ高麗紅蔘ヲ以テ唯一ノ神藥トシテ珍重シ高價ヲ以テ之ヲ賣買セリ明治三十二年以來舊韓國宮内府ハ紅蔘專賣ヲ同府ノ所管事業ト爲セシカ  
明治四十年ニ至リ舊韓國政府ハ之ヲ度支部ニ移屬シ明治四十一年七月紅蔘專賣法ヲ制定シ京畿道及黃海道ニ屬スル八郡ヲ以テ人蔘耕作特別區域ト爲シ以テ紅蔘原料ヲ耕作スヘキ蔘圃ヲ定メ之ヨリ産出スル人蔘ヲ以テ紅蔘ヲ製造セリ明治四十三年八月朝鮮總督府設置後專賣局所管ト爲シ四十五年四月專賣局ヲ廢シ度支部所管トシ依然舊法ヲ踏襲シテ今日ニ及ヘリ  
舊宮内府所管ノ當時ハ人蔘耕作業ハ最衰退ヲ來シタリ其ノ原因一ニシテ足ラスト雖韓廷ノ官吏カ私利ヲ營ミ專横ヲ事トシ或ハ蔘圃ノ強竊盜アルモ公力ノ之ヲ保護スル機關ナク或ハ病蟲ノ慘害ヲ受クルモ何等防止ノ方策ヲ講スルナク自然ニ放任シタル等ハ其ノ最大ノ原因ナリ蔘政事務ヲ政府ノ所管

ニ移シ紅蔘專賣法ヲ制定シタル以來專ラ日本人ヲ以テ施設經營セシメ爾後復官吏橫暴ノ事ナク請願巡查ヲ普ク蔘圃ニ配置シ蔘賊跡ヲ絶チ病蟲害ニ付テハ専門大家ヲシテ研究セシメ之カ豫防驅除ニ努メ優良ノ耕作者ヲ褒賞シテ之ヲ獎勵シ蔘業組合ヲ設ケテ共同ノ利益ヲ助長シ節制統一セシメ低利資金供給ノ途ヲ講シ或ハ水蔘賠償金先交ノ規定ヲ設ケテ資金ノ圓滑ヲ圖ラシムル等極力保護獎勵ノ途ヲ講シタリ其ノ結果ハ大正二年ニ至リテ效果ヲ顯ハシ漸次昔日ノ隆盛ヲ見品質ヲ優良ナラシムルニ至リタリ而シテ保護獎勵ノ結果ハ漸次蔘圃ノ所在ヲ擴大シ其ノ產出優良ニシテ紅蔘原料ニ適當ナルモノヲ生スルニ至リタルヲ以テ大正二年八月特別耕作區域ヲ擴張シ京畿・黃海・平安南道ノ三道ニ亘リ十一郡府郡廢合ノ結果九郡トナルヲ以テ特別耕作區域ト爲セリ而シテ既往七年間ノ人蔘耕作ノ消長ヲ舉クレハ左ノ如シ

累年人蔘耕作間數

	明治四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
耕作間數	一四〇、六九一 <sup>(四)</sup>	一九七、三五七 <sup>(四)</sup>	四二七、八七四 <sup>(四)</sup>	八三七、九〇六 <sup>(四)</sup>	一四二、九六〇 <sup>(四)</sup>	一四五、三二八 <sup>(四)</sup>	一三二、七五二 <sup>(四)</sup>

紅蔘ノ需要ハ無限ノモノニ非サルニヨリ支那市場ニ於ケル需要狀況ニ鑑ミ毎年ノ供給ヲ三萬斤乃至四萬斤ヲ限度トシ以テ價格ヲ維持スルヲ得策ナリト認メ此ノ方針ヲ以テ毎年新設ノ苗圃ヲ三萬五千間ト限定シ品質ノ上進ヲ圖レリ最近數年ニ於ケル紅蔘ノ製造高ヲ舉クレハ左ノ如シ

累年紅蔘製造高

紅蔘製造高	明治四十一年	同	四十二年	同	四十三年	同	四十四年	大正元年	同	二年	同	三年	同	四年以降毎年 (豫定)
	四、一七三斤		二、三九四斤		八九四斤		二、二九七斤	五、八八六斤		一七、二二二斤		一七、七〇〇斤		三〇、〇〇〇斤

紅蔘ハ三井物産株式會社ニ拂下ケ同社ハ上海ニ輸送シテ之ヲ分配販賣ス之カ販路ハ寧波・廈門・汕頭・廣東等南支那各都會並香港、シンガポール及南洋諸島ニ及ヒ北京・天津等北支那方面ニモ需要ナキニ非サルモ其ノ數極メテ少シ支那ニ於テ需要スル紅蔘ハ高麗紅蔘ノ外支那奉天省内ニ生産スルモノ・日本及米國ヨリ輸入スルモノアリト雖何レモ價格低廉ニシテ高麗紅蔘ハ他ノ紅蔘ニ比シ常ニ幾十倍ノ價格ヲ保持シ高價ノモノニ至リテハ一斤數百圓ヲ以テ取引セラル是レ高麗紅蔘ハ其ノ形態品質ノ最優良ニシテ特殊ノ信用アル

二因ル

## 第二節 製 鹽

朝鮮ニ於ケル鹽業ハ從前自國ニ産スル煎熬鹽ノミヲ以テ需要ヲ充シタリシカ往年支那密漁船支那天日製鹽ヲ積載シ西北岸ニ密輸入ヲ爲シタルコトアリテ其ノ價格煎熬鹽ニ比シ頗ル安價ナリシヨリ盛ニ鮮人ノ需要ヲ喚起シ逐年其ノ輸入ヲ増加セリ最近ノ統計ニ據レハ其ノ輸入高明治三十八年ニハ二千六百萬斤ナリシニ翌三十九年ニハ四千萬斤ニ上リ爾後多少ノ消長アリシモ毎年凡二千萬斤内外ヲ累加シ大正二年ニ於テハ一億五千一百萬斤ニ上リタリ斯クテ朝鮮ニ輸移入スル鹽ハ日本鹽臺灣鹽關東州鹽等アルモ其ノ約五割迄ハ支那鹽ニシテ近年密漁密貿易ノ取締普及ト俱ニ支那鹽ハ純粹ノ貿易品トシテ輸入スルニ至リ年年其ノ輸入ヲ増加シ全ク朝鮮ノ鹽業ヲ壓倒セスムハ止マサルノ勢アリテ之カ防遏策ヲ講スルハ産業政策及財政經濟上焦眉ノ急務タリ

舊韓國政府ノ臨時財源調査局ヲ置キテ財源ノ調査涵養ニ從事スルヤ鹽ニ付

テハ朱安ニ天日製鹽ノ試驗ヲ爲シタルニ極メテ良好ノ成績ヲ得朝鮮ニ於テ天日製鹽ノ成功スヘキ確信ヲ得タリ是ニ於テ舊韓國政府ハ累年増進スル輸入鹽ヲ防遏シテ正貨ノ流出ヲ防キ安價ノ鹽ヲ國民ニ供給シ且製造ノ利益ヲ收メテ國庫ノ財政ヲ資ケ以テ財政上及經濟上ノ一助タラシムトノ計畫ヲ以テ天日製鹽官營ノ案ヲ立テタリ當時ノ計畫ニ於テハ朝鮮ニ於ケル一箇年ノ需要量約三億斤トシ朱安ニ於ケル實驗ニ基キ鹽田一町歩十二萬斤ヲ生産シ得ヘキモノト假定シ全面積二千五百町歩ヲ築造シ以テ朝鮮ノ全需要ニ應セムトスルモノニシテ之ヲ二期ニ區分シ第一期事業トシテ鹽田一千町歩ヲ平安南道廣梁灣ニ於テ明治四十二年ヨリ四十四年迄三箇年ノ繼續事業トシ諸建築費一切ヲ合セ金一百六十萬圓ノ豫算ヲ以テ築造シ第二期事業ノ一千五百町歩ハ第一期工事ノ完成ヲ俟チテ更ニ豫算及設計ヲ確定シテ築造スルノ案ヲ以テ天日製鹽官營ノ議ヲ確定シタリ

第一期工事ハ豫定ノ如ク明治四十二年五月ヲ以テ起工シ朝鮮總督府設置後モ之ヲ踏襲シ工事ヲ繼續進行シタルカ明治四十五年稀有ノ大暴風雨ト高潮激浪ニ遭遇シ一部分破壊ノ慘害ヲ受ケタルモ之カ復舊ニ努力シ大正二年ニ

至リ全ク完成シ現ニ

廣 梁 灣

面積 九百三十三町步

朱 安

同 九十八町步

合 計

一千三十一町步

ノ鹽田ヲ有スルニ至リ大正三年ヨリ全面積ニ亘リ鹽ヲ生産シ年ヲ經ルニ隨

テ産額ヲ増加セムトス

試驗鹽田築造當時ヨリ生産シタル官鹽ノ數量ヲ舉クレハ

明治四十年 度

六、九九七斤

同 四十一年 度

一、三二、七五三

同 四十二年 度

二〇二、〇四九

同 四十三年 度

九、九六、二二三

同 四十四年 度

四、五一〇、四二五

大正元 年 度

一、四、八三一、一二九

同 二 年 度

四一、五七九、六九一

同 三 年 度

四八、七三八、六四六

## 同 四年度豫定

六六、九四七、八三〇<sub>斤</sub>

ニシテ鹽田地盤ノ老熟ニ件ヒ數年内ニ一億斤以上ヲ產出スヘキ豫定ナリ前記ノ如ク第一期ノ工事ハ既ニ完成シ著著成績ヲ舉ケツツアルニ依リ進ンテ既定計畫タル第二期工事ヲ設計完成セシムトス

現ニ朝鮮ニ於テ販賣セララル鹽ハ朝鮮煎熬鹽日本煎熬鹽關東州天日鹽及煎熬鹽膠州灣天日鹽支那天日鹽再製鹽官營天日鹽及粉粹鹽アリ又價格ノ關係上臺灣天日鹽ノ移入セララルコトアリ斯ノ如ク多種多樣ノ鹽ハ各市場ニ競爭シ價格ハ一高一低常ナラスト雖若シ將來全朝鮮ニ供給スルニ足ルヘキ官鹽ノ產出ヲ見ル曉ニ於テハ外鹽ヲ驅逐シ價格ヲ統一スルコトヲ得ルハ勿論ナリトス



# 第十三章 農業

## 第一節 米・麥及大豆

農業ハ朝鮮産業中最重要ナルモノニシテ之ニ從事スル者總人口一千五百萬人中八割ノ多ニ達シ其ノ生産物ノ價格ハ優ニ三億圓ヲ超エ貿易ノ消長ハ一ニ農産物ノ豊凶ニ依ルノ實況ナルヲ以テ農業ノ改良發達ヲ圖ルハ朝鮮ノ富力増進上最緊要ノコトニ屬シ其ノ財政ノ獨立上ニモ重大ノ關係アリ先年來農業ノ改良ニ付テハ他ノ産業ニ比シ割合ニ多額ノ經費ヲ投シ各般ノ施設殆ト遺憾ナク之ヲ實行スルニ努メ以テ農産ノ改良増殖ヲ企圖セル結果近時朝鮮ノ農業ハ舊來ニ比シ頗ル面目ヲ改メタリ將來ニ於テモ依然今日ノ方針ヲ繼續シ益耕作地ノ擴張及農産物ノ改良増殖ヲ圖ラムトス

米ハ國內ノ需用品トシテ又輸出品トシテ農産物中最重要ナルモノナルヲ以テ極力之カ生産ノ増加ト品質ノ改良トヲ圖リ其ノ方法トシテハ主トシテ優良種ノ普及・乾燥調製ノ改良灌漑水ノ供給並水田面積ノ擴張及施肥ノ獎勵ノ四點ニ力ヲ盡シタリ而シテ米種ノ改良ニ付テハ先ツ勸業模範場・道種苗場ヲ

シテ優良種ノ選擇ニ關スル試驗研究ヲ行ハシメ水稻ニ在リテハ概ネ日ノ出  
ハ北部ニ早神力石白多摩錦ハ中部ニ穀良都高千穂ハ南部ニ又陸稻ニ在リテ  
ハ各地ヲ通シテオイランノ成績優良ナルヲ確メ水陸稻共ニ模範トナルヘキ  
番朝鮮ニ於テハ水田ヲ番畑ヲ田下稱ス田ヲ設置シ或ハ品評會ヲ開催シ以テ  
農民ニ優良米種栽培ノ利益ヲ目撃セシメ又ハ採種番田ヲ設ケ成ルヘク多量  
ノ優良種子ヲ育成シテ之ヲ配付シ又ハ品評會開催ノ機ヲ利用シ或ハ特ニ種  
子交換會ヲ開催シ民間ニ於テ育成セル優良米種ト在來米種トノ交換ヲ獎勵  
シ以テ優良米種ノ普及ニ勉メタリ

乾燥調製法ノ改良ニ付テハ稻扱器・糶摺器・唐箕製莖器等ノ配付ヲ行フト共ニ  
稻扱傳習會・莖織傳習等ヲ開催シ是等器具ノ使用法又ハ製造法ヲ習得セシメ  
收穫ハ成ルヘク適期ニ之ヲ行ハシメ調製上ニハ莖及稻扱器ノ使用ヲ獎勵シ  
テ朝鮮米ノ最大缺點タル石ノ除却ニ力ヲ用井シメ稻ノ收穫ニ際シテハ平乾  
ヲ行ヒ糶ノ乾燥ニハ莖ヲ用井シメ特ニ輸移出米產地ニ對シテハ乾燥調製改  
良ノ速カナラムコトヲ期セリ施肥ノ獎勵ニ付テハ農家各自ノ力ニ依テ製造  
シ得ヘキ厩肥・堆肥・綠肥等ノ類ヲ努メテ多量ニ製造施用セシメ尙販賣肥料ニ

關シテハ先ツ大豆大豆粕荏柏等ノ如キ使用容易ナルモノヨリ漸次獎勵セリ  
灌漑水ノ供給及畝面積ノ擴張ニ付テハ堤堰及汎ノ修築ヲ獎勵シ國有未墾地  
ノ利用ヲ進メ個人地主ノ共同水利組合ニ於テ企業セル水利事業ヲ監督シ灌  
漑水不足ノ畝ニ灌漑水ヲ豊カナラシムルト共ニ畝面積ノ擴張ヲ圖レリ

右ノ外稗・赤米ノ混浴ハ朝鮮米ノ聲價ヲ損スルコト大ナルノミナラス收量ニ  
モ影響スルコト少カラサルヲ以テ稗ノ除却ハ苗代及木畝ニ於ケル稗拔ニ依  
リ赤米ノ除却ハ選穗ニ依ラシムルコトトシ又稻作ニ對スル病蟲害ノ豫防驅  
除ニ就テハ他ノ作物ト同シク不斷農民ノ注意ヲ喚起シ苟モ損害ヲ被ラシメ  
サルコトニ勉メタリ

上述施設ノ結果優良米種ノ作付反別ハ年年數倍ツツ増加シ乾燥調製ノ改良  
漸次進ミ稗拔ノ效果亦顯ハレ朝鮮米ノ品質漸ク向上シ綠肥ノ栽培堆肥ノ製  
造ヲ行フ者次第ニ多ヲ加フルニ至レリ左ニ關係統計ヲ表示ス

優良米種栽培成績 (一) 水稻

優	其		種	在	來		種
	作付反別	收穫高			作付反別	收穫高	
明治四十四年	六、九二二 <sup>町</sup> 五	一三五八三 <sup>石</sup> 六	一石九六二	九四二、八二〇 <sup>町</sup> 〇	九七四五、〇〇〇 <sup>石</sup>	一石〇三四	
大正元年	三五、三四五 <sup>町</sup> 六	四九二、五二四	一・三九四	九三四、三八〇 <sup>町</sup> 三	八、四〇〇、七〇四	〇・八九九	
同 二 年	九八、八四六 <sup>町</sup> 八	一、四六五、六三六	一・四八三	九三二、九九四 <sup>町</sup> 五	八、五三五、九五二	〇・九一五	

同 栽培成績 (二) 陸稻

優	其		種	在	來		種
	作付反別	收穫高			作付反別	收穫高	
大正元年	二二四 <sup>町</sup> 六	二、三一九 <sup>石</sup>	一・〇八一	一一二、〇〇二 <sup>町</sup> 六	八六、四五三 <sup>石</sup>	〇・七二〇	
同 二 年	五〇八 <sup>町</sup> 六	三、七八七	〇・七四五	一三、六九七 <sup>町</sup> 二	八九、二七一	〇・六二三	

稻拔器普及狀況 大正三年

彎形稻拔器	官廳ノ配付セル數		農家ノ購入セル數	計
	平形稻拔器	計		
八、七五四	一、〇〇三	九、七五七	四七、九〇〇 <sup>町</sup> 三	五六、六五四 <sup>町</sup> 六
二八、八九四	七六、七九四	二八、八九四	二八、八九四	二九、八九七
九、七五七	七六、七九四	九、七五七	七六、七九四	八六、五五一

蕪製造高(自大正二年十二月一箇年間至同三年十二月一箇年間)

自家用  
販賣用

計

一、〇四三、二二七  
二六二、二五二  
一、三〇五、四七九

米作付反別及收穫高增加狀況

年	作付反別	明治四十三年チ 百トシ每年作付反別指數		明治四十三年チ 百トシ每年收穫高指數		備考
		別指數	收穫高	別指數	收穫高	
同 四十四年	八二五、六八六・九	一〇〇	七、九一七、六二二	一〇〇		
同 四十四年	九六二、四八六・三	一一六	九、九七二、七二二	一一六		
大 正 元 年	九八一、九四三・一	一一九	八、九八二、〇〇〇	一一三	大正元年ニハ早穂及早霜ノ害アリ	
同 二 年	一、〇四六、〇四七・一	一二七	一〇、〇九〇、六四五	一二六	大正二年ニハ早穂ノ害アリタリ	
同 三 年	一、〇七九、三四一・二	一三一	一一、一五九、一六七	一五四		

米輸移出額

年	數 量	明治四十三年チ 每年數量指數		明治四十三年チ 每年價額指數	
		每年數量指數	價	每年價額指數	額
明 治 四 十 三 年	八五四、〇二七	一〇〇	六、二二七、七五二	一〇〇	
同 四 十 四 年	五四四、〇六三	六四	五、二八三、七七二	八五	
大 正 元 年	五四三、三九七	六四	七、五二四、八七九	一一一	

年	數	量	明治四十三年ヲ一百トシ	
			毎年數量指數	價
大正二年	八七二、八〇六	一〇二	一四、四九三、五七七	二二三
同 三年	一、三六七、四四九	一六〇	一七、〇九八、五八三	二七五

(備考) 數量ハ玄米ヲ以テ示ス

麥ハ農家ノ食料品トシテ重要ナルモノナルヲ以テ南鮮地方ニ於テハ灌溉水充分ナル畚ノ裏作トシテ獎勵シ又雨期前ニ收穫シ得ヘキヲ以テ洪水ノ浸害アル土地ヲ利用シテ之ヲ耕作セシメ其ノ作付反別ノ擴張ヲ圖ルト共ニ勸業模範場及道種苗場ヲシテ品種ノ選擇ヲ行ハシメ成績ノ優良ナルモノ(大麥ニ在リテハ「ゴールデンメロン、マシムウト」小麥ニ在リテハ「ハマーチンスマムバ、ブルツ、カリフラルニヤ」)ノ採種及配付ヲ行ヒ又施肥ノ獎勵病蟲害驅除豫防ノ督勵等栽培上ノ指導ニ勉メタリ其ノ結果作付反別及收穫高ハ左ノ如ク年ト共ニ追増ノ趨勢ヲ呈セリ

年	作付反別		收穫高	
	△印ハ番裏作(合計中ニ含マル)	明治四十三年ヲ一百トシ 毎年作付反別指數	△印ハ番裏作(合計中ニ含マル)	明治四十三年ヲ一百トシ 毎年收穫高指數
明治四十三年	四四一、六六三、〇〇〇	一〇〇	三、五四八、四四一	一〇〇
同 四十四年	五三一、五一二、〇〇〇	一一〇	五、一五三、二〇七	一四五

同	同	大	正	元	年
三	二	年	年	年	年
△一七〇、九七三・五	△一〇五、七九七・〇	△七八、六六七・七	△七八、六六七・七	△七八、六六七・七	△七八、六六七・七
一五三	一四六	一三三	一三三	一三三	一三三
△一、〇二二、〇三九	△一、一八〇、九六五	△六、七五八、七九〇	△六、七五八、七九〇	△五、五八〇、八四七	△七九〇、三三四七
一六九	一九〇	一五七	一五七	一五七	一五七

朝鮮ノ大豆ハ品質頗ル優良ニシテ輸移出品トシテ重要ノ地位ヲ占ムルモ從來品種混淆セルト調製法ノ粗糲ナルトニ依リ商品トシテノ價值ヲ損スルノミナラス品種ノ混淆ハ收量ニ及ホス影響少カラサルカ故ニ先ツ種子用大豆ヲ粒選セシムルコトニ重キ置キ傍優良品種ノ普及ニ勉メ一面金融組合ヲ利用シ或ハ契ヲ設立セシメ調製俵裝ノ改良共同販賣等ヲ行ハシメタリ

右ノ結果粒選ヲ行フ者漸次多キヲ加ヘ優良品種ノ作付反別モ亦漸次増加スルニ至レリ左ニ關係統計ヲ表示ス

大正三年ニ於ケル大豆粒選實施成績

粒選セル種子數

九〇、四四四

同 作付反別

一五三、四八五・一

同 收穫高

九七八、三一六

第十三章 農業

同 反當平均收量  
 粒選ヲ行ハスシテ作付シタルモノノ平均收量  
 ○六三七<sup>五</sup>  
 ○五四七<sup>五</sup>

大豆作付反別及收穫高累年増加狀況

年	作付反別	收穫高	明治四十三年チ一百トシ 毎年作付反別指數	明治四十三年チ一百トシ 毎年收穫高指數
明治四十三年	三〇五、一九八 <sup>町</sup> ・四	一、八一六、五八二 <sup>五</sup>	一〇〇	一〇〇
同 四十四年	三四二、七六三・八	二、〇九七、三九一	一一二	一一五
大 正 元 年	三七五、三四〇・一	二、四五二、二〇三	一一三	一三五
同 二 年	四〇五、七〇三・七	二、四一五、三八五	一三三	一三三
同 三 年	四二五、四五五・〇	二、四六四、六一三	一三九	一三六

大豆輸出

年	數量	價額	明治四十三年チ一百トシ 毎年數量指數	明治四十三年チ一百トシ 毎年價額指數
明治四十三年	七八八、九〇八 <sup>五</sup>	五、二一七、二四六 <sup>四</sup>	一〇〇	一〇〇
同 四十四年	六七八、四〇九	四、三六一、八三七	八五	八四
大 正 元 年	七六五、六九七	五、〇〇〇、七二一	九七	九六
同 二 年	七五〇、九七〇	五、五三六、〇八四	九五	一〇六
同 三 年	五三六、七三七	三、八一九、二八〇	六八	七三



## 第二節 粟・甘藷及馬鈴薯

粟ハ北部地方ニ於ケル主食物ナレトモ他ノ作物トノ關係上未タ其ノ作付反別擴張ノ獎勵ヲ爲スニ至ラス專ラ勸業模範場及道種苗場等ヲシテ地方ノ風土ニ適セル優良種ノ選擇及其ノ配付ヲ行ハシムルト同時ニ栽培上ノ指導ヲ爲サシメ又一方ニ於テハ農家ヲシテ種子用ノ選穗ヲ行ハシメ從來ヨリモ一層多量ノ收穫ヲ得ルコトヲ指導シツツアリ左ニ作付反別及收穫高増加ノ狀況ヲ表示ス

年	作付反別	明治四十三年ヲ一百分シ	
		每年作付反別指數	每年收穫高指數
明治四十三年	三九二、九八四・八	一〇〇	二、六四六、八九〇
同 四十四年	四三五、八三四・二	一一一	二、九七八、〇三三
大正元年	四〇三、四四四・四	一〇三	三、一一八、五一〇
同 二年	四六四、六五〇・一	一一八	三、七〇七、八三〇
同 三年	四七三、〇八一・六	一二〇	三、二二二、四六四

甘藷及馬鈴薯ハ朝鮮ノ風土ニ適シ且農民ノ嗜好ニモ適スルヲ以テ從來之カ栽培ヲ獎勵シ以テ食料ヲ補充セシムルト共ニ一面重要輸移出品タル米及大

豆ノ消費高ヲ減少セシムルニ勉メタリ從來甘藷ハ南鮮地方ニ於テ極メテ劣等ナル品種ヲ栽培スル者アルニ過キサリシカ優良品種ヲ選定シテ之カ栽培ヲ試ミタルニ能ク南鮮地方ノ風土ニ適スルヲ以テ種苗場ニ於テ其ノ苗ヲ養成シ農民ヲシテ苗ノ仕立方ニ就テ實地見聞セシムルト共ニ養成シタル苗ノ配付ヲ行ヒ栽培貯藏莖葉食用等ノ方法ヲ指導シ極力其ノ普及ニ勉メタルニ農民競ウテ之カ栽培ヲ爲シ其ノ栽培面積著シク増加セリ左ニ作付反別及收穫高増加ノ狀況ヲ表示ス

明治四十四年	作付反別	明治四十四年ヲ一百分シ 毎年作付反別指數		明治四十四年ヲ一百分シ 毎年收穫高指數	
		面積	收穫	面積	收穫
大正元年	六一・〇六	一〇〇	一、二三三、一七八	一〇〇	一、七〇〇
同 二年	一、二八四・一	二一〇	二、一〇一、三〇三	一七〇	一、七〇〇
同 三年	二、三四八・〇	三八四	五、五〇五、一〇九	四四七	一、七〇〇
同 四年	三、四九七・五	五六七	八、六二七、〇〇〇	七〇一	一、七〇〇

(備考) 明治四十三年ハ調査ヲ缺ク

馬鈴薯ハ從來北鮮地方ニ於テ多ク栽培セラレタルモ其ノ品種ニ就テハ改良ノ餘地少カラサルヲ以テ品種ノ改良及栽培ノ指導ヲ行フト共ニ一方之カ栽培

培ノ普及ヲ計リタルニ其ノ效果頗ル顯著ナルヲ見ル今其ノ作付反別及收穫高増加ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

年	作付反別		收穫高	
	明治四十四年 作付反別指數	明治四十四年 收穫高指數	明治四十四年 作付反別指數	明治四十四年 收穫高指數
明治四十四年	一一、三〇九・七	一一〇〇	一一、三〇九・七	一一〇〇
大正元年	一六、五九一・五	一四七	二八、八六〇、五〇九	一一六
同 二 年	二四、三四二・二	二一五	四六、一四五、八四四	二〇二
同 三 年	二八、一〇七・三	二四六	五三、四二五、五六六	二二三

(備考) 明治四十三年ハ調査ヲ缺ク

### 第三節 棉

從來棉花ハ朝鮮人被服ノ原料トシテ多ク消費セラレ其ノ風土モ亦之カ栽培ニ適セルヲ以テ咸鏡北道ヲ除クノ外多少栽培セサルハナシ就中全羅南道ハ主産地トシテ其ノ生産品ヲ朝鮮全土ニ供給シ來レリ然ルニ其ノ品質優良ナラス且栽培法幼稚ナルヲ以テ之カ改良ノ必要ヲ認メ明治三十九年以來米棉即チ陸地棉ノ試作ニ着手セシニ其ノ成績良好ニシテ收穫・繰綿歩合共ニ多ク

而シテ其ノ品質優良ニシテ纖維ノ細長ナル紡績原料トシテ遂ニ在來棉ニ卓越セルヲ確メタルヲ以テ明治四十一年三月之カ特設機關タル臨時棉花栽培所(明治四十三年勸業模範場木浦支場ト改稱ス)ヲ設置シ陸地棉栽培ノ實地指導ヲ爲シ一面栽培反別ノ擴張ヲ圖ル爲獎勵金ヲ支出スルト同時ニ毎年無償ニテ陸地棉種子ヲ配布セリ而シテ是等獎勵ノ結果作付反別年年増加セルヲ以テ指導監督ノ便ヲ圖ラムカ爲大正二年度ヨリ其ノ栽培獎勵ニ關スル業務ヲ關係各道廳ノ所管ニ移シ勸業模範場木浦支場ニ於テハ棉作ニ就テハ試驗調査ノ外主トシテ米國ヨリ輸入種子ノ馴化ニ勉メ兩者相俟テ陸地棉ノ普及改良ニ努力セシムルコトト爲セリ是レ原產地ヨリ新規輸入セル陸地棉ノ種子ヲ直ニ農家ニ栽培セシムルトキハ其ノ種子ノ朝鮮風土ニ馴レサル爲棉木ノ發育旺盛ニ過キ蒞ノ開絮セサルモノ多ク爲ニ收穫ヲ減シ栽培ノ利益少キヲ以テナリ斯ノ如ク同支場ヲシテ純良ナル種子ノ供給ヲ爲サシムルト同時ニ陸地棉ヲ作付セル農家ヲシテ其ノ收穫期ニ於テ實棉ノ善良ナルモノハ自ラ繰線シテ自家播種用ノ種子ヲ保存セシメ新規栽培者ニハ繰綿工場ヨリ購入ノ種子又ハ勸業模範場木浦支場ニ於テ馴化セシメタル種子ヲ無償供給シ

ツツアリ

又陸地棉栽培獎勵ノ一方法トシテ該棉栽培地ニハ一組合五百名内外ヲ限度トシテ棉作組合ヲ組織セシメ組合員ヲシテ純良ナル陸地棉ノ種子ヲ保存セシメ或ハ低利ナル耕作資金ノ融通ヲ圖ラシメ或ハ棉花ノ共同販賣ヲ爲サシムル等棉作者ノ利益ヲ圖ラシムルト同時ニ陸地棉ノ栽培普及ヲ容易ナラシメツツアリ又其ノ栽培ニ熱心ナル者ニハ農具ヲ給與シテ之ヲ表彰シ或ハ陸地棉ノ生産尠キ爲其ノ販路ニ困難ナル地方ノ生産品ニ對シテハ木浦其ノ他ノ市場迄ノ運賃ヲ補助シ或ハ棉作組合ニ補助金ヲ交付スル等各地方ノ狀況ニ應シ適切ナル獎勵ヲ爲シツツアリ

陸地棉ノ栽培事業ハ今ヤ試作時代ヲ經テ普及時代ニ及ヒ其ノ栽培希望者益多ク逐年栽培區域ヲ増加スルニ至レリ而シテ其ノ品種ハ勸業模範場木浦支場ノ成績ニ基キ「キンクスイムブルー」ノ一種ニ限定セリ該種ハ開絮早ク從テ霜害ヲ被ルコト少キニ依ル今木浦支場ニ於ケル該種ト在來棉トノ八箇年間ノ比較試驗ニ徵スルニ在來棉ハ一反步當平均收量一百八十一斤其ノ繰綿歩合二割五分ナルニ陸地棉ハ一反步當平均收量二百七十二斤餘其ノ繰

綿歩合三割五分ヲ示シ反當收量及繰綿歩合共ニ遙ニ在來棉ヲ凌駕セリ又棉花ノ主產地タル全羅南道木浦光州等ニ於ケル棉作ト他ノ田作物トノ收支計算ニ依ルトキハ該地方ニ於テハ今日田作物ノ收益中陸地棉ノ右ニ出ツルモノナキコトヲ示シ從テ一般農民ノ栽培希望者年年著シク増加セリ左ニ朝鮮ニ於ケル明治三十九年以來ノ陸地棉作付反別及收穫高並作人數ヲ掲ク

年	作付反別	明治三十九年ヲ 一百トシ毎年作 付反別指數	實棉收穫高	明治三十九年實 棉收穫高指數	作人數	明治三十九年ヲ 一百トシ毎年作 人數指數
明治三十九年	四五・二	一〇〇	二四、九七九	一〇〇	二四七	一〇〇
同 四十年	六五・三	一四四	七九、一八八	三一七	九二一	三七三
同 四十一年	一九六・九	四三五	一四一、二六五	五六六	四、四七五	一、八一
同 四十二年	四一・一	九一〇	四五〇、一六〇	一、八〇二	八、三三六	三、三七五
同 四十三年	一、一二三・〇	二、四八〇	八四五、三四一	三、三八四	二〇、九八七	八、四九七
同 四十四年	二、六八三・六	五、九二七	二、七三七、〇五〇	一〇、九五七	四三、一八五	一七、四八四
大正元年	六、四三九・八	一四、二二二	七、二一六、一三三	二八、八八九	七七、七九三	三一、四九五
同 二年	一三、九六七・〇	三〇、八四六	一三、四四五、二八二	五三、八二六	一二〇、五四九	四八、八〇五
同 三年	二一、〇五〇・九	四六、五七三	一七、四七一、四五二	六九、九四五	一八七、三八二	七五、八六三

(備考) 在來棉ハ大正三年ニ於テ作付反別四萬五百二十一町五反歩實棉收穫高一千八百六十五萬二千七十八斤ナリ

陸地棉收穫高ノ年年増加セルハ前表ニ示スカ如クナルヲ以テ朝鮮ヨリ内地へ移出スル陸地棉増加ノ歩合ハ極メテ多大ナルコト疑ヲ容レス今最近六箇年間ニ於テ輸移出シタル實棉及繰棉ノ數量・價額ヲ表示スレハ左ノ如シ

年	實		繰		棉		合計價額	明治四十二年ノ 一百トシ毎年ノ 輸移出價額指數
	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
明治四十二年	二五、二〇一	一四一、三一六	七、六九八	一三一、七七九	二七三、〇九五	一〇〇		
同 四十三年	一四五、五五	七九、八七三	一〇、九九三	二二四、九九一	三〇四、八六四	一一一		
同 四十四年	二、七一三	一五、六五四	一、二二三	二二六、六五五	二五二、三〇九	九二		
大正 元年	一一、四九九	九五、〇四一	一三、三二六	三四、〇五五七	四三五、五九八	一六〇		
同 二年	八、七五一	七六、五一六	二六、六五〇	八四八、四二九	九二四、九四五	三三九		
同 三年	一、一三八	九二、二二五	四二、九五〇	一、〇九八、七二八	一、一〇七、九五三	四〇六		

(備考) 明治四十四年ノ輸移出價額明治四十三年ニ劣レルハ棉花相場ノ下落セルト賣惜ノ結果輸移出數量減少セルトニ依ル

將來ニ於テハ從來ノ方針ヲ踏襲シ全羅南北道慶尙南北道忠清南北道ノ如キ温暖ノ地方ニ於テハ速ニ品種ノ改良ヲ圖リ在來棉作地ニ陸地棉ヲ作付セシムルハ勿論尙陸地棉ノ新規作付ヲ擴張スルコトニ勉メ北方陸地棉ニ適セサル地方ニ於テハ在來棉ノ栽培改良ニ留意セムトス

### 第四節 其ノ他ノ普通作物及特用作物

上記以外ノ普通作物及特用作物中主ナルモノハ小豆稗黍蜀黍玉蜀黍燕麥蕎麥大麻苧麻荏莞草等トス是等ニ付テハ主トシテ各地方ノ實情ニ應シ品種ノ改良栽培ノ指導等ニ勉メ作付反別ノ擴張ニ對シテハ他ノ獎勵作物ノ作付反別擴張ノ必要上特ニ獎勵ヲ加ヘサルコトトセリ其ノ結果大體ニ於テ收穫高ノ増加生産品ノ向上ヲ示シツツアルモ其ノ作付反別ハ多少減少セルモノナキニ非ス左ニ是等農作物ノ作付反別及收穫高増減ノ狀況ヲ表示ス

		小 豆	
年 次	作 付 反 別	每 年 作 付 反 別 指 數	每 年 收 穫 高 指 數
明 治 四 十 三 年	一六〇、五二五・四	一〇〇	一〇〇
同 四 十 四 年	一六七、五七四・五	一〇四	一〇七
大 正 元 年	一六五、五九一・一	一〇三	一二七
同 二 年	一七〇、七〇八・八	一〇六	一二〇
同 三 年	一七八、四六〇・八	一一一	一二六



蜀 黍		黍		稗					
年	作付反別	明治四十三年ヲ一百分ニシテ 毎年作付反別指數	收 穫 高	明治四十三年ヲ一百分ニシテ 毎年收穫高指數	年	作付反別	明治四十三年ヲ一百分ニシテ 毎年作付反別指數	收 穫 高	明治四十三年ヲ一百分ニシテ 毎年收穫高指數
同 三 年	一〇、八四五・七	七二	六八、七二一	七六	同 三 年	八四、七五六・五	八七	七一三、五二五	九八
同 二 年	一〇、四六四・八	七〇	七三、一八六	八一	同 二 年	八四、六六六・〇	八七	八四一、二四六	一一六
大 正 元 年	一四、五四五・三	九七	一〇九、〇六一	一一〇	大 正 元 年	八八、三三二・二	九一	八七九、六九八	一一一
同 四 十 四 年	一三、六三八・七	九一	一〇〇、三八〇	一一一	同 四 十 四 年	八四、二九四・五	八六	八一二、〇五一	一一二
明 治 四 十 三 年	一四、九九五・八	一〇〇	九〇、〇三六	一〇〇	明 治 四 十 三 年	九七、五一八・五	一〇〇	七二四、九八一	一〇〇





大正三年	作付反別	明治四十三年チ一百トシ 毎年作付反別指数	收	種高	明治四十三年チ一百トシ 毎年收穫高指数
	一六、三八四・七 <sup>町</sup>	一一〇		二、四二一・四七 <sup>町</sup>	二〇一

苧麻

明治四十三年	作付反別	明治四十三年チ一百トシ 毎年作付反別指数	收	種高	明治四十三年チ一百トシ 毎年收穫高指数
同 四十三年	六九二・九 <sup>町</sup>	一〇〇		四三、八〇〇 <sup>町</sup>	一〇〇
同 四十四年	七四一・七	一〇七		五九、三九五	一三六
大正元年	一、一九八・一	一七三		八八、七九四	二〇三
同 二年	一、二四〇・二	一七九		一〇一、三一一	二三四
同 三年	一、二一六・六	一七六		一一五、八四八	二六四

苧

明治四十三年	作付反別	明治四十三年チ一百トシ 毎年作付反別指数	收	種高	明治四十三年チ一百トシ 毎年收穫高指数
同 四十三年	八、五一六・九 <sup>町</sup>	一〇〇		三五、一一六 <sup>町</sup>	一〇〇
同 四十四年	八、六〇九・六	一〇一		五一、一八一	一四六
大正元年	九、〇一一・二	一〇六		五六、八四一	一六二
同 二年	九、一九三・一	一〇八		四八、六三三	一三八
同 三年	九、三一五・二	一一〇		四六、五一七	一三二

莞 草

年	作付反別	大正元年ヲ一百分シ毎年 作付反別指數	收 穫 高	大正元年ヲ一百分シ毎年 收穫高指數
大 正 元 年	一、九〇九 <sup>町</sup> ・九	一〇〇	五七一・六七 <sup>町</sup>	一〇〇
同 二 年	一、三九一・六	七三	四〇五・〇六二	七一
同 三 年	一、四九二・五	七八	五〇五・〇四一	八八

(備考) 明治四十三年及同四十四年ハ調査ヲ缺ク

前表ニ依レハ稗黍等ハ已ニ作付反別減少ノ趨勢ヲ示セリ是等ノ作付反別ハ將來ニ於テモ尙他ノ獎勵作物ノ作付反別擴張ノ結果自然減少ヲ示スニ至ラム而シテ燕麥ハ北部山間ニ於ケル農民ノ食料トシテ重要ナルヲ以テ將來若干ノ作付反別擴張ヲ圖ラムトス莞草ハ現今ニ在リテハ水稻作ノ有利ナル結果水稻作ニ變更スルモノアル爲其ノ作付反別減少ノ傾向アルモ之カ利用ノ増進ニ就テハ目下調査中ニ在ルヲ以テ幸ニ其ノ途開クルニ於テハ作付ノ増加ヲ見ルニ至ルヘシ其ノ他小豆蜀黍玉蜀黍蕎麥大麻苧麻荏荏等ノ作付反別ハ大體ニ於テ現状ヲ維持シ著シキ變化ナカルベシ

尙明治四十四年以來勸業模範場木浦支場其ノ他數箇所ニ於テ罌粟ノ栽培試

作ヲ行ヒ之ヨリ採集シタル阿片ノ「モルヒネ」含量其ノ他ノ調査ヲ遂ケタルニ結果不良ナリシヲ以テ朝鮮ニ於ケル罌粟ノ栽培ハ今日ニ於テハ見込ナキモノト認メ大正二年ヨリ試作ヲ中止セリ

甜菜ニ就テハ先年來廣ク各地ニ亘リ試作ヲ行ヒタルニ北鮮十方ニ於ケル成績優良ナルヲ以テ大正三年來專ラ平安南道平壤及黃海道黃州ノ地方ニ於テ試作ヲ繼續セリ其ノ結果ニ依レハ其ノ栽培ハ概シテ有望ナリト雖病蟲害ノ被害甚シキコトアルカ爲年年ノ反當收量及含糖歩合ニ少カラサル相違アルノミナラス他ノ農作物トノ比較上未タ必スシモ有利ナリト斷言シ得サルカ故ニ北鮮地方ニ於テ製糖事業ヲ企畫スルノ可否ニ就テハ目下講究中ナリ今後數年ヲ出テスシテ之カ決定ヲ見ルヲ得ム

## 第五節 果樹及蔬菜

朝鮮ノ風土ハ各種果樹ノ栽培ニ適シ特ニ優良品種ノ結果力強大ナルコトハ到底内地ノ及フ所ニ非ス又各種ノ蔬菜就中葉菜類・蒴類等ノ栽培ニモ適セラルヲ以テ夙ニ勸業模範場・蘆島支場ヲ置キ園藝ニ關スル調査試驗・模範栽培苗

木ノ育成配布栽培ノ指導等ヲ行ハシメ更ニ大正三年度ヨリ同目的ヲ以テ德源支場ヲ増置セリ又一面道種苗場ヲシテ優良品種ノ種苗育成配付並栽培法ノ指導ヲ行ハシメ且病蟲害ノ驅除豫防ニ關シ其ノ指導獎勵ニ勉メ果實及蔬菜ノ生産ヲ増進シ以テ年年多額ニ上レル輸移入ヲ防遏シ更ニ外國及内地ニ輸移出ヲ試ミムコトヲ企圖セリ

殊ニ苹果ハ朝鮮全土ヲ通シテ其ノ栽培ニ適セルト輸移出品トシテ有望ナルヲ以テ國光紅玉柳玉倭錦旭ノ如キ優良品種ヲ選定シテ之カ栽植ヲ獎勵シ生産セル果實ノ貯藏方法ヲ指導シ又其ノ販路ニ付テハ先ツ哈爾賓及香港等ノ地方ニ就キ調査ヲ爲シ大正二年秋及大正三年春右兩地ニ試賣ヲ行ヒ輸出品トシテ前途頗ル有望ナルヲ知り得タリ今大正三年ノ苹果生産狀況ヲ示セハ左ノ如シ

栽培反別

一、六一〇<sup>キ</sup>・八

(二、二〇八、一二九)<sup>キ</sup>

收穫高

七八一・四七三<sup>キ</sup>

(平均一本ニ付〇・六四七)<sup>キ</sup>

備考、一本當リ平均收量ノ少キハ栽植後未タ年數ヲ經サルカ故ナリ  
葡萄モ亦朝鮮全土ヲ通シ其ノ栽培ニ適セサル地ナク殊ニ兩鮮地方ハ最之ニ

適セルモ其ノ生果ノ保存及輸送ニハ大ナル困難アリ又醸造乾果ニ關シテハ調査研究中ニシテ大體ニ於テ乾果製造ハ氣象ノ關係上望少キニ反シ醸造ハ頗ル有望ナルモノト認メラルモ未タ確然タル數字の斷案ヲ得ス故ニ從來ハ主トシテ朝鮮内ニ於ケル生食用トシテ其ノ栽培ヲ獎勵シ來レリ今大正三年ニ於ケル生産狀況ヲ示セハ左ノ如シ

## 栽培反別

一三九<sup>ア</sup>・八 (四一九、三九六)<sup>ホ</sup>

## 收穫高

一五四、九〇二<sup>ア</sup> (平均一本ニ付〇、三六九)<sup>ホ</sup>

將來ニ於テハ葡萄酒釀造試験ノ成績ニ鑑ミ更ニ釀造用葡萄栽培ノ獎勵ニ着手セムトス

洋梨ハ内地梨ト同シク頗ル優良ナルモノヲ容易ニ生産シ得ルヲ以テ輸移出品トシテ甚有望ナリ然レトモ貯藏及輸送ノ點ニ於テ攻究スヘキモノアルヲ以テ是等ニ關シ研究調査ヲ進メツツアリ

柿ハ京畿以南ノ地方ニ桃ハ北鮮ノ北部ヲ除キタル地方ニ栗ハ朝鮮全土ヲ通シ能ク其ノ風土ニ適シ從來ノ産額モ少カラスト雖柿及桃ハ何レモ貯藏及輸送ニ困難ニシテ輸移出ノ望少シ栗ハ多少輸移出ノ望アルモ尙調査中ニ屬ス



現今ニ於テハ是等果樹ハ孰レモ主トシテ朝鮮内ノ需要ニ充ツルヲ目的トシ  
 優良品種ノ普及ト其ノ栽培ノ指導ヲ行ヘリ柿ニ付テハ白柿製造ノ有利ナル  
 ヲ確メ之カ製造ヲ獎勵セリ今大正三年ニ於ケル上記果樹ノ生産狀況ヲ示セ  
 ハ左ノ如シ

栽 培 樹 數	栗		梨		柿		桃	
	收 穫	高	收 穫	高	收 穫	高	收 穫	高
	二、一四〇、二四一 <sup>上</sup>		一、一三八、六七〇 <sup>上</sup>		六、二三五、五一〇 <sup>本</sup>		一、二四九、〇二一 <sup>本</sup>	
	三、六二七、七九七 <sup>下</sup>		一、三五〇、三三二 <sup>下</sup>		三、八一五、七四三 <sup>下</sup>		一、三七八、〇六二 <sup>下</sup>	

將來ニ於テモ當分ノ内從來ノ方針ヲ踏襲シ品種ノ改良ニ重ヲ置キ傾斜地等  
 ヲ利用シ以テ朝鮮内ノ需要ニ應セシメ農家經濟ノ一助タラシメムトス

白菜ハ品質ノ優良ナル點ニ於テ且其ノ生産額ノ多量ナル點ニ於テ朝鮮蔬菜  
 類中最重要ナルモノナリ故ニ一面芝罘白菜等ノ種子ヲ輸入シテ益其ノ品質  
 ノ向上生産ノ増殖ヲ圖ルト共ニ近時内地人ノ増加ニ伴ヒ各季生菜トシテノ  
 需要増加セルヲ以テ之カ貯藏法ノ指導ニ努メ其ノ結果簡易貯藏庫ヲ設クル  
 者優良種ヲ栽培スル者漸ク多ヲ加フルニ至レリ

白菜ノ外朝鮮在來ノ蔬菜類中主ナルモノハ蘿蔔・甜瓜・南瓜・胡瓜・茄子・蕃椒・蒜・葱

水芹等ナルカ其ノ品質概ネ劣等ニシテ改良ノ餘地尠カラス殊ニ蘿蔔及葱ノ如キハ内地種ニ比シ其ノ收量品質遙ニ及ハサルヲ以テ從來内地ノ良種ヲ移入シ其ノ普及ヲ圖レリ又内地人ノ移住増加朝鮮人生活程度ノ向上等ニ伴ヒ前記蔬菜ノ外牛蒡胡蘿蔔里芋葱頭蕪菁薯蕷菠薐草野蜀葵西瓜豌豆菜豆蕃茄等各種蔬菜類ノ需要増加シ内地ヨリノ供給ヲ仰クモノ少カラサル狀況ナルヲ以テ是等ノ蔬菜類ニ就テモ先年來優良ナル品種ヲ選ヒテ種苗ノ配付ヲ行ヒ一面栽培貯藏ノ方法ニ關シ指導獎勵ニ勉メタル結果各地ニ於テ優良種ノ生産セラルルモノ次第ニ増加シ簡易貯藏ノ設備モ亦漸次見ルヘキモノアルニ至レリ

將來ニ於テモ從來ノ方針ヲ踏襲シテ一般蔬菜類ノ品質ノ向上生産ノ増加及貯藏設備ノ普及ヲ圖リ近ク蔬菜類ノ移入ヲ全然防遏スルノ外更ニ葱頭及甘藍ノ如キハ生菜トシテ外國ニ輸出ヲ試ミムトス

## 第六節 蠶業

朝鮮ノ風土ハ能ク蠶兒ノ發育及桑樹ノ栽培ニ適シ蠶業ハ農家ノ副業トシテ

最有利ナルモノトス依テ河川流域ノ未墾地田ノ畦畔又ハ宅地ノ周圍ヲ利用シテ桑樹ヲ栽培セシメ居宅ヲ蠶室ニ充テ各地ニ於テ得易キ材料ニテ蠶具ヲ作り縱令少量ツツナリトモ優良蠶種ヲ進歩セル技術ニ依リ汎ク飼育セシムルトキハ農産中主要ナル位置ヲ占メ一般經濟ノ發達ニ資スル所少カラサルヲ認メ從來蠶業上主要ナル地方ニ技術官ヲ配置シ蠶業ニ關スル指導獎勵ノ任ニ當ラシムルト同時ニ勸業模範場ヲシテ蠶業ノ講習桑苗蠶種ノ生産配付ヲ行ハシメ一面ニハ補助金ヲ交付シテ各地ニ蠶業傳習所稚蠶共同飼育所模範桑園及桑苗圃ノ設置ヲ獎勵シ來リシカ大正元年ニハ特ニ訓令ヲ發シテ蠶業獎勵上ノ方針ヲ示スト同時ニ產繭ノ統一ヲ圖ラム爲勸業模範場ニ原蠶種製造所ヲ設ケテ原蠶種ノ製造配付ニ著手シ或ハ繭ノ輸移出ヲ獎勵セム爲繭ニ對スル關稅ヲ撤廢シ大正三年ニハ更ニ其ノ步ヲ進メ補助金ヲ交付シテ優良蠶種ノ製造ヲ獎ムル等極力斯業ノ改良發達ニ勉メタル結果優良桑ノ栽培優良蠶種ノ飼育ハ到ル處ニ行ハレ著シク繭產額ノ増加ヲ見ルニ至レルノミナラス栽桑育蠶ノ技術大ニ進歩シ產繭ノ品質ヲ向上セシメタルコト頗ル大ナリトス是等產繭中優良繭ハ各道幹旋ノ下ニ内地移出ヲ獎勵セルニ其ノ増



## 第七節 畜 産

畜牛ハ朝鮮ノ農業上缺クヘカラサル要素ナルト同時ニ輸移出品中重要ナル位置ヲ占ムルヲ以テ其ノ改良増殖ノ方法ニ關シテハ特ニ訓令ヲ發シテ嚮フ處ヲ指示シ朝鮮種ヲ本位トシテ改良スルノ方針ヲ定メ北部産ノ優良牡牛ヲ購入シテ中部及南鮮地方ニ移シ之ヲ篤農家ニ貸付シ又ハ道ニ於テ飼養シ以テ民間牝牛ニ交配セシメ或ハ種牡牛購入費ヲ補助シテ其ノ購入ニ便セシメ或ハ民有ノ牡牛ニシテ體格優秀ナルモノハ其ノ所有者ニ若干ノ補助ヲ與ヘテ一定ノ期間之ヲ其ノ地ニ保留シテ種付ニ供セシメ以テ畜牛ノ改良ヲ圖レリ今種牡牛ノ頭數及種付數ヲ舉クレハ左ノ如シ

年 度	道 有		種 牡 牛 年平均種付數	保 設		種 牡 牛 年平均種付數
	種 牡 牛 數	種 付 數		種 牡 牛 數	種 付 數	
明治四十四年度	一五七	四、三七八	二七・九	五八三	五、九八三	一〇・三
大正元年度	三三〇	一〇、九七二	三四・三	一、四三八	二八、七二〇	二〇・一
同 二 年 度	四二五	一九、一九七	四五・二	一、九七五	五一、三五四	二六・〇
同 三 年 度	五三七	二七、〇六七	五五・四	二、四二二	七一、三七三	三三・三

本表ノ如ク種牝牛數竝其ノ種付數ハ逐年増加シ成績頗ル良好ナリ將來ニ於テハ益種牝牛ノ増加ヲ圖リ成牝牛八十頭ニ付一頭ヲ配置スルニ至ラシメムコトヲ期ス

又大正元年度以降牝牛ヲ購入シテ未タ畜牛ヲ所有セサル農民ニ貸與シ以テ蕃殖ノ用ニ供セシメタリ其ノ成績ハ左表ノ如シ

成 牛 牝	大 正 元 年 度			同 二 年 度		
	貸與牝牛數	同上繰數	産 犢 數	貸與牝牛數	同上繰數	産 犢 數
一	九九八	一七五	三八九	一、〇五六	二六四	六七四
				四二五	四	五二三
						二

(備考) 産犢頭數ハ其ノ年度内ノ出産數・妊牛數ハ其ノ年度末現在數ニシテ

大正二年度貸與牝牛數ハ前年度ヨリノ累計數ナリ

貸與牝牛ハ一定年限ヲ經過スレハ其ノ飼養ニ條件ヲ附シ無償ニテ付與シ其ノ付與以前ニ於ケル産犢ハ或ハ道ニ納付セシメ或ハ貸與者ニ付與ス將來ハ道ヲシテ更ニ牝牛ヲ購入セシメ之ヲ農民ニ貸付セムトス

畜牛ノ飼料中野草ハ其ノ大部分ヲ占ムルヲ以テ之カ缺乏ハ畜牛ノ飼養ヲ困

難ナラシメ延イテ畜牛數ノ減少ヲ來スヘシ然ルニ從來野草ノ保護ヲ等閑ニ附シタル爲牧野ハ漸次荒廢ニ歸セムトスルノ狀況ナルヲ以テ之カ保護ヲ講シ又クローバー、ルーサン等ノ牧草ノ栽培ヲ獎勵シ之ヲ畦畔、山野、堤堰、河川沿岸、墓地等ノ荒蕪地ニ播種セシメタルモ牧野ノ保護及牧草ノ栽培ニ付テハ尙僅ニ端緒ヲ開キタルニ過キス又朝鮮ニ於テハ冬季飼料缺乏ノ爲畜牛ヲシテ營養不良ニ陥ラシメ甚シキハ飼料不足ノ故ヲ以テ之ヲ賣却シテ顧ミサルノ風アルニ依リ夏季青草ヲ刈取リ乾燥ノ上貯藏セシメ冬季ノ飼料ニ充ツルコトヲ獎勵シツツアリ大正二年中貯藏シタル乾草量ハ三百十七萬五千五百六十七貫ナリ又從來畜牛ヲ放牧又ハ繫飼シタル土地ニシテ近年出番又ハ山林ニ變化スルモノ多ク畜牛飼料供給ノ地積益縮小スルニ依リ將來之ニ對スル方法トシテ共同牧野ヲ設定シ又ハ從來國有林野ヲ牧畜ノ爲使用セル慣行アルモノハ森林令ニ依リ其ノ入會區域ヲ決定スル等ノ方法ニ依リ必要ナル牧野ヲ設置シ且之ニ牧牛ヲ放牧、繫飼スル時期ヲ定メ或ハ野草刈取時期ヲ一定シ或ハ輪換放牧ヲ爲シテ草生ヲ保護シ一面ニ於テハ牧草ヲ栽培シテ漸次野草ト代ヘシメムトス而シテ牧草栽培ニ就テハ各道種苗場ニ牧草採種圃ヲ

設ケ其ノ生産種子ヲ各府郡ニ配付セシムトス又乾草貯藏ノ獎勵ニ關シテハ乾草貯藏庫ヲ各畜産組合ニ一箇所ツツ設置セシメ組合技術員指導ノ下ニ野草ノ刈取乾燥及其ノ貯藏ヲ勵行シテ模範ヲ示シ以テ各農家ヲシテ之ヲ實行セシムトス

朝鮮ニ於テハ牝牛ハ絶エス妊孕シ隨テ分娩スレハ隨テ受胎スルノ實況ナルカ故ニ妊牛ノ屠殺ハ成ルヘク之ヲ避ケシメ其ノ屠殺ヲ延期シ以テ畜牛ノ蕃殖率ヲ増加スルニ努メ又犢ヲ屠殺スルモノアルモ牝犢ハ務メテ之ヲ育成シ蕃殖用ニ供セシムルコトトセシニ近來漸次其ノ弊ヲ矯ムルヲ得ルニ至レリ即チ大正元年以降成牛及犢ノ屠殺數ヲ示セハ左表ノ如シ

大正元年	成牛 頭數		犢 頭數	
	大正元年ヲ一百分シ毎年指數	大正元年ヲ一百分シ毎年指數	大正元年ヲ一百分シ毎年指數	大正元年ヲ一百分シ毎年指數
同 二 年	二二四・五五七	一〇〇	二〇、一九三	一〇〇
同 三 年	二二二・八三一	一〇四	一一、一九二	六〇
同 三 年	二六八・四三八	二二五	二、七四〇	一四

從來朝鮮牛ハ主トシテ耕牛ノ目的ヲ以テ内地ニ移出セラレタルカ明治四十年以降大正三年ニ至ル迄ノ移出數ハ左ノ如シ



顯數	明治四十年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年
明治四十年ヲ一百トシ毎年指數	一九、七八七 <sup>原</sup>	一八、〇六〇 <sup>原</sup>	二、四九三 <sup>原</sup>	一、三一九 <sup>原</sup>	二、一八九 <sup>原</sup>	三、八八〇 <sup>原</sup>	八、二九〇 <sup>原</sup>	一一、五一七 <sup>原</sup>	五八
	一〇〇	九一	一三	七	一一	二〇	四二		

前表ノ如ク明治四十年及同四十一年ニハ移出甚盛ナリシモ明治四十一年七月内地ニ於テ牛疫傳播シ其ノ原因ヲ朝鮮牛ニ歸セシ以來移出ハ頓ニ減少シ終ニ朝鮮牛移入禁止ノ議起ルニ至リシヲ以テ舊韓國政府ハ帝國政府ト協定シ明治四十二年ヨリ移出牛ノ檢疫ヲ施行スルコトト爲リ釜山ニ檢疫所ヲ設置セリ爾來内地ニ移出スル朝鮮牛ハ釜山港ト内地移入港トノ二箇所ニ於テ九日間宛檢疫ヲ行フヲ以テ朝鮮牛ハ牛疫傳播ノ危険ナキニ拘ラス内地ニ於テハ往年ノ慘禍ニ懲リ朝鮮牛ノ需要ヲ減シタリシカ近年ニ至リ朝鮮ニハは疫ノ常在セサルコト及之カ豫防方法ノ嚴行セラルルコトヲ知得シ再其ノ需要ヲ増加セリ明治四十二年以降移出牛檢疫數ハ左表ノ如シ

顯數	明治四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
明治四十二年ヲ一百トシ毎年指數	六六九 <sup>原</sup>	一、二九九 <sup>原</sup>	二、一五八 <sup>原</sup>	三、九〇四 <sup>原</sup>	八、五二三 <sup>原</sup>	一一、一五二 <sup>原</sup>
	一〇〇	一九四	三三三	五八四	一二七四	一、六六七

(備考) 前表移出表ト本表検査數ト符合セサルハ移出表ハ食用ノ目的ヲ以テ内地ニ移入スルモノニシテ移出ノ際検査ヲ要セサル畜牛ヲ含有スルニ依リ又明治四十二年ノ符合セサルハ検査開始以前ニ移出シタルモノアルニ依ル

検査開始以來發見シタル獸疫ノ種類ハ左表ノ如シ

合計	炭疽		氣腫		明治四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年	同四十二年
	症	症	症	症						
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	1	2	1	2	2	1	2	2	1	2
2	1	2	1	2	2	1	2	2	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	3	1	3	1	4	3	1	4	3	1
4	4	1	4	1	4	4	1	4	4	1

前記ノ如ク移出牛ニ對シ二重ノ検査ヲ施行スルハ頗ル繁雜ナルヲ以テ釜山及馬山ヨリ移出スルモノハ釜山ニ於テ十八日乃至二十日間検査ヲ行ヒ移入港ニ於テハ單ニ船内検査ニ止ムルコトト爲セリ  
又從來食用トシテ露支兩國殊ニ露領沿海州ニ輸出セル朝鮮牛ハ頗ル多數ニ上リ其ノ頭數ハ左表ノ如シ



ツアリ又朝鮮牛ニハ鞍傷多ク之カ爲皮質ヲ損スルヲ以テ其ノ豫防方法トシテ牛鞍ノ改良ニ付目下調査中ナレハ之カ改良ト共ニ鞍傷ヲ減スルニ至ルヘシ其ノ他在來牛皮ノ乾燥及梱包方法ノ缺點竝鍼痕烙鐵等皆牛皮ノ價格ヲ低廉ナラシムル原因ナルヲ以テ當該吏員ヲシテ此等諸缺點ノ矯正ニ努メシメ或ハ講話講習會ヲ開催シテ牛皮改良ノ要項ヲ指示シ或ハ共同乾燥場ヲ設ケシメ或ハ牛皮改良組合ヲ設立セシムル等之カ改善ニ努メ漸次品質ノ改良ヲ見ルニ至レリ

牛乳ハ從來其ノ利用ヲ見サリシモ近來ハ各都市ニ於テ内地人ノ搾乳業ヲ營ム者アリ大正元年以降乳用牛數及搾乳高等ヲ示セハ左表ノ如シ

年	搾乳場數	乳用牛頭數	搾乳高	價額
大正元年	六五	五五三 <small>頭</small>	三、〇〇八 <small>元</small>	一四八、二九七 <small>圓</small>
同二年	六三	四〇八	三、一三六	一五四、九六〇
同三年	六八	四五六	三、一八一	一五八、四八六

(備考) 本表大正二年乳用牛數ノ大正元年ニ比シ減少セルハ主トシテ朝鮮

牛ノ搾乳ヲ廢シ洋種又ハ雜種ヲ以テ之ニ更ヘタルニ依ル

乳用牛ノ種類ハ概シテ大規模營業者ニ在リテハ洋種又ハ雜種小規模營業者ニ在リテハ朝鮮種トス大正三年十二月末日ノ調査ニ依レハ外國種三十八頭同雜種四百三十一頭朝鮮種二百九頭ニシテ外國種及雜種牛中「ホルスタイン」種最多ク「エーアシャー」種之ニ亞ケリ斯ノ如ク洋種又ハ雜種ヲ移入シ搾乳ニ供用セルニ依リ人畜結核病豫防ノ爲此等移入乳用牛ニ對シ取締ヲ行フ必要ヲ認メ大正二年八月以來之カ検査ヲ施行シツツアリ將來ハ勸業模範場ノ試驗成績ヲ俟テ乳用牛種ヲ選定シ其ノ飼養ヲ獎勵シ尙牛酪其ノ他ノ乳製品ニ付テモ同場ノ試驗成績ニ鑑ミ獎勵スル所アラムトス

畜産獎勵ノ一方法トシテ明治四十四年度慶尙南道ニ補助金ヲ交付シ二箇所ノ畜牛組合ヲ設立セシメシニ其ノ成績良好ナリシニ依リ爾來獎勵ノ結果左表ノ如ク各地ニ其ノ設立ヲ見ルニ至レリ

組 合 員 數		明 治 四 十 四 年 度	大 正 元 年 度	同 二 年 度	同 三 年 度
組 合 員 數	二	七五三八	一、二	七、一七二	二、四
組 合 員 數	二	七五三八	一、二	七、一七二	二、四

畜産組合ノ地區ハ概シテ一郡ヲ範圍トシ其ノ地區内ニ居住シ畜牛ヲ所有又

ハ管理スル者ヲ組合員ト爲スノ組織ニシテ多クハ組合費ヲ徴收セスシテ國費及地方費補助ヲ以テ技術員ヲ置キ業務ニ膺ラシム而シテ組合業務ノ主ナルモノハ(一)種牡牛ノ配置及種付(二)畜牛ノ貸付(三)畜牛ノ飼養管理及蕃殖方法ノ改良(四)牧草ノ栽培乾草ノ貯藏及草生地ノ保護(五)種豚種鶏及種卵ノ配布(六)畜産講話及講習會並品評會開催(七)牛市經營(八)牛籍調査(九)牛皮改良(九)病畜治療及獸疫豫防(十一)畜産ニ關スル調査及統計等ニシテ其ノ成績逐年良好ナリ將來ハ益之カ設立ヲ獎勵シ二郡毎ニ一組合ヲ設立スルニ至ラシメムトス馬匹ニ關シテハ從來何等ノ施設ナキモ近年都會地ニ於テハ運般用トシテ馬匹ヲ使用スルコト多ク又道路ノ開通ト共ニ交通ノ便ヲ來シ物資ノ運搬上馬匹ノ需要ハ漸次増加セムトスル傾向ヲ來セリ然ルニ朝鮮馬ハ體格矮少ニシテ輓曳ニ適セサルカ故ニ或ハ内地ヨリ馬匹ヲ輸入シ或ハ軍馬ノ廢役トナリシモノヲ輓馬トシテ使用シツツアリ依テ將來馬匹ノ改良蕃殖ノ爲種産場ノ一事業トシテ朝鮮ノ風土ニ適應スル馬種ヲ産出スルノ計畫ヲ立テムトス養豚ハ農家ノ副業トシテ普ク各地ニ行ハレ其ノ飼養數尠カラス且逐年増殖ノ狀況ヲ呈セリ即チ左ノ如シ

頭 明治四十三年 年指数	數	明治四十三年	同	四十四年	大正元年	同	二年	同	三年	
	數	五五五、七五七 <sup>頭</sup>	一〇〇	五七二、八四〇 <sup>頭</sup>	一〇一	六一六、九四五 <sup>頭</sup>	一〇九	七六一、一八六 <sup>頭</sup>	一三五	七五七、八〇三 <sup>頭</sup>

朝鮮在來ノ豚種ハ體軀矮小ニシテ肉量少ク且晚熟ナルヲ以テ之ヲ改良ノ爲勸業模範場及道種苗場ニ於テ「ハークシヤ」種ヲ飼養シ純粹種又ハ朝鮮種トノ雜種ヲ一般配付用ニ供シ又恩賜授産費ヲ以テ同種豚ヲ購入シテ或ハ授産場又ハ普通學校等ニ於テ飼養シ雜種蕃殖ヲ爲シテ配付シタルニ依リ漸次各地ニ普及シツツアリ

緬羊ノ飼育ハ朝鮮ノ風土ニ適スヘキヲ以テ將來有利ナル農家ノ副業タルヘキヲ認メ明治四十二年「シユロツブシヤ」種二十一頭「メリイ」種二十頭ヲ内地ヨリ輸入シ爾來勸業模範場ニ於テ飼養試驗ヲ行ヒシモ寄生蟲病ノ爲ニ斃死スルモノ多ク其ノ成績不良ナルニ依リ大正元年蒙古羊九頭ヲ輸入シ同場ニ於テ之ヲ飼育シタルニ頗ル强健ニシテ發育良好ナルニ依リ大正三年四月滿洲ニ於テ五十頭更ニ八月理春地方ヨリ五十頭ヲ購入シタリ然ルニ輸送途中入仁川上陸後斃死シタルモノアリ尙洗浦牧場到着後斃死スルモノアルニ依

リ其ノ病源ヲ調査セシニ胃腸寄生蟲ノ患害ニ基因スルヲ確メタルヲ以テ之  
 カ驅除豫防法ニ關シ目下研究中ナリ將來洗浦牧場ニ於ケル蒙古羊飼養蕃殖  
 ノ成績良好ナルニ於テハ之ヲ農家ニ配付シ飼育セシメ又該牧場ニ於テ蒙古  
 羊他種トノ雜種蕃殖ヲ試ミ強建ニシテ且利用ニ富メル雜種ヲ產出シ之カ飼  
 養ヲ獎勵セムトス  
 養鶏ハ農家ノ副業トシテ從來到ル處ニ行ハレ近年ニ至リ著シク其ノ數ヲ增  
 殖セリ即チ左表ノ如シ

羽數	明治四十三年	同・四十四年	大正元年	同二年	同三年
明治四十三年チ二百ト シ毎年指數	二、七九六、二九五 <sub>五</sub>	三、四二一、三二一 <sub>五</sub>	三、九三一、六三二 <sub>五</sub>	四、二〇三、六一六 <sub>五</sub>	四、一一〇、二三四 <sub>五</sub>
	一〇〇	一二二	一四一	一五〇	一四七

朝鮮在來鶏ハ矮軀小卵ナルヲ以テ之カ改良ノ爲ブリマスロツク種名古屋コ  
 ーチン種及白色レグホーン種ノ種鶏及種卵ヲ配付セシニ希望者頗ル多ク又  
 改良鶏ノ飼養ハ内地人間ニ盛ニ行ハレ其ノ種鶏種卵ヲ鮮人ニ頒ツテ以テ近  
 時改良鶏及雜種鶏ヲ飼養スル者著シク増加セリ



蜜蜂ノ飼養ハ古來朝鮮ニ行ハルル所ナルカ最近ノ狀況ハ大略次表ノ如シ

飼養戸數	巢箱數	蜂蜜產額	同上價額	蜜蠟產額	同上價額
四六、八九七 <sup>戸</sup>	九四、八〇七 <sup>箱</sup>	六四二、三三四 <sup>斤</sup>	一五四、七七一 <sup>圓</sup>	九六、五四五 <sup>斤</sup>	二九、四三八 <sup>圓</sup>

(備考) 本表飼養戸數・巢箱數ハ大正三年十二月末日現在數ニシテ蜂蜜並蜜蠟ノ産額及價額ハ同年中ノ産額及價額トス

近時洋種蜜蜂ヲ飼養スル者アリト雖在來種ハ氣候風土ニ對スル抵抗力ニ富ミ且粗雜ナル飼養管理ニ堪フルニ依リ朝鮮農家ニ普ク飼養セシムルニハ在來種ヲ以テ現狀ニ適當ナルモノト認メ依テ將來益在來種ヲ飼養セシメ其ノ飼養管理上ニ注意ヲ加ヘ採蜜ノ量ヲ増加セシムトス

## 第八節 農家ノ副業

從來農家ノ副業トシテハ前記ノ畜産蠶業・果樹栽培ノ外ハ・苧繩等ノ葦細工蠶籠蠶網等ノ蠶具製造・製麻製絲機業・莞莖製造等ヲ獎勵セリ殊ニ叭及莖ハ米穀乾燥調製上之ヲ用井シムルノ必要アルニ依リ製造用具ヲ配付スルト共ニ製

造法ノ傳習ヲ行ヒ一面稻ノ品種改良ト稻扱器ノ普及トニ依リ之カ原料タル  
 藁ノ品質ヲ良好ナラシメ且稜又ハ組合等ヲ設立セシメ或ハ金融組合ヲシテ  
 製作品ノ共同販賣ヲ爲サシムル等勉メテ此等農具ノ製造獎勵ニ意ヲ用井タ  
 リ今左ニ大正三年ニ於ケル藁、葦、及繩ノ製造高ヲ表示ス

藁、葦、及繩製造高 自大正二年十一月一箇年間  
至同三年十月

種	計	自		販	賣
		家	用		
吹	一、二八六、三四四 <small>枚</small>	一一九、七六八 <small>枚</small>			一、一六六、五七六 <small>枚</small>
葦	一、三〇五、四七九 <small>斤</small>	一〇四、三二七 <small>斤</small>			二六二、一五二 <small>斤</small>
繩	九九、七七六、五〇八 <small>斤</small>	九二、八七一、二六〇 <small>斤</small>			六、九〇五、三四八 <small>斤</small>

### 第九節 獸疫及病蟲害ノ驅除豫防

朝鮮ニ於テ發生スル獸疫ノ種類中被害ノ劇烈ナルハ牛疫及炭疽トス而シテ  
 牛疫ノ病源地ハ支那間島及瑋春地方ナルヲ以テ支那地ト接壤セル平安北道  
 及咸鏡南北道ハ時時其ノ侵襲ヲ受ケ多少ノ流行ヲ來セリ依テ之カ豫防ノ爲  
 國境地方樞要ノ地點ニ技術官ヲ駐在セシメ警察官ト協力シテ豫防注射ヲ施

行シ且消毒交通遮斷病獸撲殺等ノ處置ヲ嚴行シ幸ニ甚シキ損害ヲ見スシテ  
 終熄セシメタリ  
 炭疽ハ各道ニ散發シ其ノ被害鮮少ナラサルヲ以テ之カ豫防ノ爲消毒ト豫防  
 接種トヲ行ヒシニ其ノ效果頗ル顯著ナリ今牛疫及炭疽ノ發生數及其ノ豫防  
 注射數ヲ舉クレハ左ノ如シ

獸疫發生數

牛疫	炭疽	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
九二 <small>五</small>	六〇四	八七六	二二五 <small>五</small>	一、三三二	一、三三七三	一、七五四

獸疫豫防注射頭數

牛疫	炭疽	明治四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
一一、一七〇 <small>五</small>	九八八一	四、七九九 <small>五</small>	一、〇〇一三	一、一〇四	一一、一〇四	二二、九四〇

(備考) 牛疫豫防注射ハ明治四十一年ヨリ小規模ニ之ヲ行ヒシカ大計畫ヲ

以テ施行シタルハ大正元年ヨリトス

牛疫血清注射ノ效果ハ極メテ良好ナルヲ以テ更ニ其ノ供給ヲ迅速ナラシムル爲大正二年及三年度ニ於テ平安北道及咸鏡南北道ニ各二箇所ツツノ血清貯藏庫ヲ建設シタリ炭疽豫防注射ノ成績モ亦良好ニシテ之ヲ行ヒタル地方ハ全ク本病ノ發生ヲ絶チ又ハ大ニ其ノ數ヲ減少セシムルニ至レリ

農作物ノ病蟲害驅除豫防ニ付テハ從來注意ヲ怠ラサル所ナルカ大正二年ニ於テ害蟲驅除豫防規則ヲ公布スルト共ニ輸移入果樹・櫻樹ニ對シ消毒ヲ行ヒ之カ實施ヲ督勵セル結果農民モ其ノ效果ノ大ナルヲ知り稻ノ浮塵子・螟蟲・粟陸稻ノ夜盜蟲・苹果ノ綿蟲・介殼蟲等ノ驅除ハ敏速ニ行ハルルニ至レリ而シテ麥ノ黑穗病・粟ノ白髮病・苹果ノ腐爛病其ノ他ノ病害ニ付テモ漸次驅除ノ方法ヲ實行スル者多キ加ヘタリ

## 第十節 肥料

從來朝鮮農民ハ肥料ヲ重要視セザルノ弊風アリ反當施肥量甚少キヲ以テ先ツ堆肥ノ製造・綠肥ノ栽培ヲ獎勵シ人糞尿ノ取扱ヲ集約ナラシムル等自家ニ

於テ生産シ得ヘキ肥料ヲ多量ニ施用セシムルコトニ意ヲ用井タリ而シテ販賣肥料ニ就テハ貧弱ナル農家ニハ其ノ購入困難ナルヲ以テ農業ニ關スル團體若ハ地方金融機關ヲ利用セシメ一面ニ於テハ地主ヲ勸誘シテ販賣肥料供給ノ途ヲ講セシメ先ツ大豆・大豆粕・荏粕等ノ如キ使用容易ナルモノヨリシテ漸次獎勵セリ其ノ結果近時農民漸ク肥料ヲ重要視スルニ至リ堆肥ノ製造ヲ行フ者次第ニ加ハリ綠肥栽培反別モ亦著シク増加ノ趨勢ヲ示スニ至レリ左ニ綠肥栽培反別及收穫高増加ノ狀況ヲ示ス

年	作付反別	大正元年ヲ一百分シ毎年作付反別指數	收穫高	大正元年ヲ一百分シ毎年收穫高指數
大正元年	四一三・四	一〇〇	七〇一、三九九	一〇〇
同二年	一、五二九・五	三七〇	二、三四〇、二七四	三三四
同三年	三、三五九・七	八一三	四、八九三、二四一	六九八

## 第十一節 農具

朝鮮ノ農民ハ一般ニ牛ヲ使役シテ犁ヲ使用スルニ巧ミナレトモ犁ノ構造ニ付テハ改良ノ餘地少カラス其ノ他ノ農具モ多クハ極メテ幼稚ノ域ニ在リ是

ナ以テ先年來地方ノ狀況ニ應シ耕鋤器トシテ犁・鋤・シヨベル・萬能ノ類手入用具トシテ鎌・八反摺蟹爪肥桶肥杓ノ類灌漑用具トシテ踏車・調製用具トシテ稻扱器・扱摺臼・唐箕・扱篩・萬石通ノ類・養蠶製絲用具トシテ蠶箔・蠶網・製蔴器・座繰器・揚返器ノ類畜産用具トシテ剥皮刀ノ類ヲ配付シ以テ是等農具ノ使用ヲ獎勵シ一面蠶籠・蠶網ノ如キ萩・蜀黍・程菫草等ヲ以テ簡易ニ製造シ得ラルル類ハ成ルヘク之ヲ自家ニテ製造セシメ又扱摺臼ノ製造傳習會農具修理傳習會等ヲ開催シ内地ヨリ移入シツツアル器具モ成ル可ク朝鮮内各地方ニ於テ製造又ハ修理スルコトヲ獎勵セリ其ノ結果農民漸ク改良農具ノ便ナルヲ知り之ヲ使用スル者漸次多ク加ヘ又前記農具ノ製造及修理モ多少見ルヘキモノアルニ至レリ

## 第十一節 國有未墾地ノ利用

朝鮮ニ於テハ由來未墾地頗ル多キモ其ノ所在並實地ノ狀況不明ナルノミナラス之ニ對スル權利關係モ亦頗ル紛糾セルニ依リ明治四十五年國民有區分標準ヲ定メ取扱ヲ一定シ各道廳ヲシテ其ノ所管内ニ於ケル河邊草生地ノ大

體ヲ調査セシメタルニ其ノ面積約十三萬町步ニシテ其ノ中四萬町步ハ國有ニ屬セリ此ノ外山麓傾斜地數十萬町步干潟二十萬町步ト稱ス河邊草生地並山麓傾斜地ノ大部ハ何レモ小面積地ナルニ依リ之カ開發ハ主トシテ地元小農民ニ俟ツヘク山麓傾斜地ノ一部並干潟中利用可能ト認ムル十萬町步ハ耕地並牧場ニ利用スヘク共ニ相當資力ヲ擁スル者ノ經營ニ適セリ大面積地ニ付テハ豫メ其ノ利用ノ能否計畫ノ概要ヲ知ルヲ便トシ明治四十四年臨時調査班ヲ組織セリ爾來調査シタル面積三萬六千町步ナリ

前記ノ未墾地中從來貸付ヲ許可シタル面積ハ山麓及河邊ノ草生地九千餘町步干潟二萬町步合計二萬九千餘町步ナリ而シ從來貸付ノ出願ニ對シテハ資力信用相當ニシテ誠實ニ事業ヲ經營スルモノト認ムルモノニ限り之ヲ許可シ且成ルヘク小面積地ノ出願者ヲ獎勵シ其ノ貸付處分ヲ容易ナラシムルノ方針ヲ採リタリ然レトモ地形其ノ他企業ノ方法ニ依リ大面積地ノ貸付ヲ必要トスルモノ少カラサルヲ以テ此等ニ對シテハ公益的負擔トシテ内地移民又ハ火田整理ニ伴フ失業者若ハ東洋拓殖株式會社ノ所屬地ニ於ケル在來ノ小作人中他ニ移植ヲ要スヘキ者等ヲ之ニ收容セシムムカ爲小作人ノ墾已立

移植ニ付テハ豫メ計畫ヲ定メ認可ヲ受クヘキコトヲ命セリ貸付地ニ對スル  
取締監督ハ毎年三月一年間ノ事業成績ヲ徵スルニ止マリ未タ實地ニ就キ指  
導監督ヲ加フルノ機ニ達セス從來ノ成績ヲ見ルニ既ニ事業成功ヲ告ケ貸付  
地ヲ付與シタルモノ一千四百餘町歩ナリ



# 第十四章 商工業

## 第一節 會社令ノ施行

併合ノ事行ハルルヤ企業熟ノ勃興ニ伴ヒ會社組織ヲ以テ各種ノ事業ヲ營マムトスル者漸ク多ク加ヘ基礎確實ナラサル會社ノ濫設ヲ見ルノ傾向アリタルヲ以テ朝鮮産業ノ健全ナル發達ヲ期スル爲會社ノ設立ニ關シ許可主義ヲ探ルコトニ定メ明治四十三年十二月制令ヲ以テ會社令ヲ公布シ翌四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行シタリ當時或ハ本令ヲ以テ嚴酷ナル干涉ヲ實業上加ヘ朝鮮ノ企業ヲ抑壓スルモノナリトシテ非難ヲ加フル者アリシモ本來泡沫的會社ノ取締ヲ主眼トスルモノナルヲ以テ其ノ施行ニ際シテハ努メテ些末ノ干涉ヲ避クルノ方針ヲ採リ會社ノ設立支店設置申請ニ對シテモ大體ニ於テ事業ノ目的及計畫者ノ適否ヲ審査スルニ止メ最處分ノ敏速ヲ期シタリ本令施行以來會社企業ノ計畫年ヲ逐ウテ健實ニ向ヒ殊ニ不正利得ヲ目的トスルモノノ如キ殆ト其ノ跡ヲ絶タムトスルニ至レリ又大正二年十一月更ニ手續ヲ簡捷ナラシメムカ爲從來許可ヲ要シタル事項中若干ノ事項ハ届出ヲ

以テ足ルコトトシ同時ニ届出事項ニ關スル違反者ニ對シテハ體刑ヲ廢シ全刑ノミニ止メ又舊規定ノ不備ヲ補フカ爲朝鮮ニ支店ヲ設置スル朝鮮外設立會社ノ朝鮮ニ於ケル代表者ヲ届出テシムルコトトセリ今本令施行後大正三年十二月末日迄ニ於ケル會社ノ設立等ヲ許可シタルモノヲ舉クレハ別表ノ通ニシテ會社設立一百一十一件其ノ資本總額一千七百九十八萬二千二百二十圓内地若ハ外國ニ於テ設シタル會社ノ本店設置七件其ノ資本總額二百三十四萬一千五百圓ニシテ内地若ハ外國ニ於テ設立シタル會社ノ支店設置二十八件ナリトス

設立ヲ許可シタル會社社數及資本額

自明治四十一年一月  
至大正三年十一月

業	合		資		式		計	
	社數	資本額	社數	資本額	社數	資本額	社數	資本額
農業及林業	二	一三六、〇〇〇	三	一〇五、〇〇〇	二	四〇〇、〇〇〇	七	六四一、〇〇〇
内地人設立	四	一五七、〇〇〇	一三	三四一、〇〇〇	一四	一、五七二、〇〇〇	三一	二、〇七〇、〇〇〇
朝鮮人設立	一	二〇〇、〇〇〇	七	一、〇〇二、〇〇〇	五	一、一七五、〇〇〇	一三	一、五三五、五二〇
朝鮮人合同設立	一	一〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	六	二、〇三〇、〇〇〇	六	二、〇三〇、〇〇〇
内鮮人合同設立	一	一〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇
計	五	三、五七〇、〇〇〇	二〇	五、〇一五、二〇〇	二五	四、七七七、〇〇〇	五〇	五、六三五、五二〇

合 計	内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		内 地 人 設 立		
	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	内 地 人 設 立	
一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六四九、七〇〇	二、三〇、二〇〇	四一九、五〇〇	三二、〇〇〇	二六、五〇〇	四、五〇〇	二一、七〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、七〇〇
三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八二八、五二〇	三五、〇〇〇	六一八、〇〇〇	六二、〇〇〇	三五、〇〇〇	二七、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四、五、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
六三二、六一、五一四、〇〇〇	一九	三五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六、九二〇、〇〇〇	一、三八〇、〇〇〇	八、二四、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	三、四七五、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	五、三四〇、〇〇〇	四、五五、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇	五、三四〇、〇〇〇	四、五五、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇	五、三四〇、〇〇〇	四、五五、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇	五、三四〇、〇〇〇	四、五五、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇
一一二、一七、九八二、二二〇	二〇	七〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六、九五五、〇〇〇	一、七七五、七二〇	九、二五一、五〇〇	四六〇、〇〇〇	三、八三八、〇〇〇	一、二七〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	五、五一五、七〇〇	四、五九、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五、五一五、七〇〇	四、五九、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五、五一五、七〇〇	四、五九、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五、五一五、七〇〇	四、五九、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

〔備考〕 本表ニハ設立許可失効ニ歸シタルモノ立設ノ許可ヲ受ケタル後計  
 畫ヲ廢止シ又ハ成立後解散シタルモノハ之ヲ計上セス

		本店設置ヲ許可シタル會社社數及資本額		自明治三十四年十一月		至大正三十年十二月	
業種	社數	合 計		株式		株式	
		資本額	社數	資本額	社數	資本額	社數
農業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
商業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
續業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
合計	3	3	13,500	3	13,500	3	13,500
農業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
商業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
續業	1	1	4,500	1	4,500	1	4,500
合計	3	3	13,500	3	13,500	3	13,500

		支店設置ヲ許可シタル會社社數及資本額		自明治三十四年十一月		至大正三十年十二月	
業種	社數	合 計		株式		株式	
		資本額	社數	資本額	社數	資本額	社數
農業	1	1	50,000	1	50,000	1	50,000
商業	1	1	11,000	1	11,000	1	11,000
續業	1	1	11,000	1	11,000	1	11,000
合計	3	3	72,000	3	72,000	3	72,000
農業	1	1	50,000	1	50,000	1	50,000
商業	1	1	11,000	1	11,000	1	11,000
續業	1	1	11,000	1	11,000	1	11,000
合計	3	3	72,000	3	72,000	3	72,000

合	計	内地	會社	一	三	五五八、五〇〇	一	二	五〇〇、〇〇〇	一	九	一、一八五、〇〇〇	一	五	〇、〇〇〇、〇〇〇	一	三	一、七二四、五〇〇	
計	外國	會社	一	三	五五八、五〇〇	一	二	一、二〇〇、〇〇〇	四	三、九九四、〇〇〇	一	五	〇、〇〇〇、〇〇〇	一	五	〇、〇〇〇、〇〇〇	一	五	三、九五六、〇〇〇
計	外國	會社	一	三	五五八、五〇〇	一	二	一、二〇〇、〇〇〇	四	三、九九四、〇〇〇	一	五	〇、〇〇〇、〇〇〇	一	五	〇、〇〇〇、〇〇〇	一	五	三、九五六、〇〇〇

(備考) 本表ニハ支店設置許可失效ニ歸シタルモノ朝鮮ニ本店ヲ有スル會社ノ支店又ハ内地若ハ外國ニ本店ヲ有スル會社ニシテ既ニ朝鮮ニ支店ヲ有スルモノノ支店ノ追加設置及本令ニ依リ支店設置ノ許可後之ヲ本店ニ引直シタルモノノ支店ハ之ヲ計上セス

## 第二節 工業

朝鮮ノ工業ハ永年衰退シテ振ハス今日ニ於テハ纔ニ機業窯業製紙業金屬製品業等ノ極メテ小規模ノ工業各地ニ其ノ跡ヲ留ムルモ而カモ其ノ技術幼稚器具粗笨ニシテ製品粗惡産額亦多カラズ卑近ナル日常生活資料モ其ノ大部分ハ之ヲ輸入ニ待タサルヘカラサル狀況ニ在リ是ヲ以テ既ニ素地アル工業ハ勿論前途有望ノ事業ニ付テハ其ノ改良發達ヲ促進スルノ必要ヲ認メ各地ニ於テ篤志者ノ企畫セル各種ノ工業傳習事業或ハ有望ナル工業ニシテ創業ノ際收支償ヲ能ハサルモノニ對シテハ別表ニ示スカ如ク各多少ノ金品ヲ補助シ或ハ時ニ技術者ヲ派遣シ指導ヲ爲サシムル等其ノ獎勵ニ努メツ



第十四章 商工業

台 計	成 鏡 北 道	成 鏡 南 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 南 道	黃 海 道	慶 尙 南 道	慶 尙 北 道	全 羅 南 道	全 羅 北 道
織機五臺			織機二臺 附織造	織機三臺	織機五臺		織機附屬 製造	織機三臺 製紙業、 織造		
織機六臺			織機一臺 附織造	織機三臺 機業、 窯業	織機一臺 機業	織機附屬 製造	織機、 製紙業、 金木器、 繩叭製	織機附屬 製紙業		
織機六臺				織機一臺 機業、 窯業	織機四臺 機業		織機、 製紙業、 金木器、 繩叭製	織機、 製紙業、 製紙、 織造		織機九臺 製紙業
計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	織計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	織計地圖
一、七〇〇	一、一〇〇	七〇〇	一、八〇〇	二、六〇〇	三、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	六、一〇〇	三、九〇〇	一、三〇〇
麻布改良	麻布改良	機業、 玉石細工	機業	機業、 窯業	機業、 窯業	木器製造	機業、 製紙業、 金木器製造	機業、 窯業、 製紙	製紙業、 機業、 竹	製紙業
計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖	計地圖
二、六〇〇	一、一〇〇	七〇〇	一、六〇〇	二、六〇〇	四、九〇〇	二、〇〇〇	一、七〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
麻布改良	麻布改良	機業、 玉石細工	機業	機業、 窯業	機業、 窯業	木器製造	機業、 製紙業、 金木器製造	機業、 製紙業	機業、 製紙業、 竹	窯業、 製紙業、 漆







工 産 額

和紙	編組物 及刺繡		織物					單位	數量	金額	
	刺繡	其他編組物	手織	交織	絹	苧	麻				綿
點	點	點	打	卷反	卷反	卷反	卷反	卷反	數量	金額	
調	調	調	調	調	調	調	調	調	明 治 四 十 四 年	數 量	金 額
查	查	查	查	查	查	查	查	查	大 正 元 年	數 量	金 額
缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	同 二 年	數 量	金 額
調	調	調	調	調	調	調	調	調	同 三 年	數 量	金 額
查	查	查	查	查	查	查	查	查			
缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺			
調	調	調	調	調	調	調	調	調			
查	查	查	查	查	查	查	查	查			
缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺			
調	調	調	調	調	調	調	調	調			
查	查	查	查	查	查	查	查	查			
缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺			









## 一 商業調査及商品販路ノ斡旋

商業上ノ調査ニ付テハ釜山・元山・京城・仁川ノ各地ヲ中心トシ其ノ商勢範圍地域ノ商工業調査ヲ主トシ隨時箇箇ノ事件ニ付或ハ道廳ニ命シ或ハ本府ニ於テ直接各地ノ狀況統計ヲ調査シ以テ執務上並當業者ノ參考ニ資セリ又各種産業ノ進歩ト共ニ販路未タ定ラサル特種物産ノ産出セラルルモノ漸次増加スルニ件ヒ之ヲシテ適當ナル販路ヲ得セシムルハ最必要ノ事ニ屬スルヲ以テ或ハ道廳ヲ指導シ或ハ本府直接ニ生産者ト商人ノ聯絡ヲ斡旋シ或ハ商品陳列館附屬賣店ニ販賣セシメテ其ノ販路ヲ求ムル等種種ナル方法ノ下ニ最努ムル所アリタリ

## 二 商品ノ改良

朝鮮ノ物産力總テノ種類ヲ通シ品位品質頗ル亂雜ニシテ統一ヲ缺キ商品トシテ常ニ甚シキ不利益ノ待遇ヲ甘受セサルヘカラサルハ頗ル遺憾トスル所ナルヲ以テ諸種ノ方面ヨリノ力改良ヲ圖リツツアリ例ヘハ主要物産タル米ノ如キ調製法ノ粗雜ナルニ加フルニ商人ノ不正手段ノ加味セラルルアリテ取引上多大ノ損害アルヲ以テ農家ニ於ケル調製改良ノ獎勵ト相待チテ輸移

出米ノ改良品位ノ統一ヲ圖ル爲大正二年以來主要產地ヲ管轄スル各道長官ニ通牒シ商業會議所又ハ穀物同業組合等ノ團體ヲシテ其ノ検査ヲ行ハシムルコトトシ釜山・仁川・鎮南浦ハ商業會議所ニ於テ又鐵道沿線ノ主要ナル米穀集散地タル京畿道・平澤・慶尙・北道・大邱・金泉・倭館・清道・慶山ハ穀物同業組合ニ於テ其ノ検査ヲ實施シ漸次好成績ヲ示シタルカ尙遺憾ナク検査ヲ施行シテ普ク鮮米改良ノ實ヲ舉クルノ必要ナルヲ認メタルヲ以テ更ニ大正四年三月米穀検査規則ヲ發布シ検査ハ之ヲ道長官ノ權限ニ委シ道長官ハ地方廳ノ事業トシテ之ヲ行ヒ又ハ商業會議所穀物同業組合等ノ團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノトシ管内ヨリ又ハ管内ヲ經由シテ輸移出セララルル玄米ニ對シ乾燥ノ程度・石・粳・粹米其ノ他夾雜物ノ混入・包裝ノ適否ニ付検査ヲ施シ一定ノ標準ニ合格セルモノヲ上格トシ否サルモノヲ下格トシ又石ノ混入一升十粒以内ニ精選セラレタル上格米ハ特ニ優良品トシテ取扱フコトトシ下格米ニ對シテハ必要ニ應シ之カ輸移出ヲ制限シ得ヘク又規則ノ違反者ニ對シテハ相當ノ制裁ヲ規定シ検査厲行上遺憾ナキヲ期セリ曰下主要米穀產地ヲ管轄スル各道長官ニ於テ本規則ノ趣旨ニ基キ夫夫其ノ實施準備ヲ進メツツ



アリ又忠清南道ノ苧布ノ如キハ或ハ技術者ヲ配置シ或ハ金品ノ補助ヲ與ヘ  
或ハ製品ノ販賣原料購入上ノ便宜ヲ圖リ又大正三年九月關係三郡ニ同業組  
合ヲ設ケシメ更ニ各組合ノ聯絡ヲ圖ル爲忠南苧布組合聯合會ヲ設ケシメ以  
テ産額ノ増加製品ノ改良統一ヲ圖リタルニ其ノ成績頗ル見ルヘキモノアリ  
其ノ他各所ニ産出セラルル各種ノ織物紙等ニ付テモ同様ノ改良ヲ必要トス  
ルモノアリ順次其ノ實行ヲ進メムトス

## 二 特種商業ノ監督

### (一) 取引所

從來朝鮮ニ於ケル取引所ハ明治三十二年六月仁川ニ於テ米豆賣買ノ目的ヲ  
以テ領事ノ認可ヲ得テ設立シタル資本金四萬五千圓ノ株式組織ノ取引所ア  
ルニ過キス大正元年十月其ノ定款ヲ改正シ不備ノ點ヲ補ハシメ同時ニ取引  
所ノ業務計算及仲買人ノ業務身元保證金等ニ關シ會社令ニ基キ詳細ナル命  
令ヲ發シ取締上遺漏ナキヲ期セリ

京城釜山及群山ニ於テモ米穀又ハ有價證券等ノ賣買ヲ目的トスル株式組織  
ノ取引所設立ノ申請アリタルモ未タ取引所ヲ必要トスル時期ニ達セサルヲ

以テ何レモ不許可ノ處分ヲ爲シタリ且從來內地ニ於テ見ルカ如ク取引所ニシテ營利會社ノ經營ニ係ルトキハ會社カ取引高ノ大ナラムコトヲ欲スルト會社ニ於テ仲買人ノ賣買履行ノ責任ヲ擔保スルトニ因リ實際ノ需要供給以上ノ賣買高ニ達シ純然タル投機賣買大部分ヲ占メ貨物ノ需要供給ヲ圓滑ニシ物價ノ調節ニ資スルヨリモ寧ロ市場ヲ攪亂スル弊甚シキモノアリ殊ニ朝鮮ノ如キ幼稚ナル實業界ニ在リテハ此ノ點ニ付慎重ナル考量ヲ要スルヲ以テ目下研究中ナリ

## (二) 保 險 業

朝鮮ニ於テハ保險事業ニ付未タ取締ノ法規存セス唯內地會社ニシテ朝鮮ニ支店ヲ設ケテ其ノ事業ヲ營メルモノハ會社令ノ適用ニ於テ一定ノ命令條件ヲ附シ保險業法ニ準シ詳細ナル業務報告ヲ徵セルモ單ニ派出所又ハ代理店ニ依リテ營業セルモノニ對シテ其ノ權力及ハス便宜時統計的報告ヲ徵スルニ止マレリ然レトモ朝鮮ニ於ケル保險事業ハ其ノ數漸次多ヲ加ヘ業務ノ範圍亦益擴大セムトスルニ至レルヲ以テ相當取締ノ必要ヲ認メ目下關係法令ノ制定ニ付審議中ナリ

最近ニ於テ朝鮮ニ於ケル有力ナル内鮮人發起人トナリ内地又ハ外國ノ保險會社カ資力乏シキ朝鮮ヨリ少カラサル保險料金ヲ徵收シ去ルヲ遺憾トシ會社ノ資本金及徵收スル保險料ハ總テ朝鮮ニ於テ之ヲ利用スル主旨ヲ以テ純朝鮮本位ノ保險會社ヲ企畫シ既ニ其ノ設立許可ヲ得タリ許可ニ際シテハ會社令ニ基キ詳細ナル命令條件ヲ附シ業務監督上遺憾ナキヲ期セリ

### (三) 市場

從來朝鮮内各地ニ於ケル商業ハ主トシテ市場ニ於テ行ハレ其ノ數大正三年末ニ於テハ一千二百二十餘ニ上リ一箇年ノ取引高四千三百四十餘萬圓ノ巨額ニ達セリ斯ノ如ク市場ハ朝鮮ノ商業上重要ノ機關タルヲ以テ其ノ新設變更ハ地方經濟ニ影響スル所尠カラサルニ依リ舊來ノ慣例ニ基キ其ノ新設變更ニハ總テ道長官ノ許可ヲ受ケシメ來リシカ其ノ經營管理ノ方法一定セス種種ノ弊害ヲ醸生スルノ虞アルヲ以テ大正三年九月市場規則ヲ發布シ市場ハ原則トシテ府又ハ面ノ如キ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノニ非サレハ之ヲ經營スルコトヲ得サルコトトシ營利的ニ市場ヲ濫設シ種種ノ弊竇ヲ生スルカ如キコトナキヲ期シタリ只本規則發布ノ際現ニ存在スル市場ハ其ノ既

得ノ權利ヲ認メ又水産市場ハ公共團體ニ於テ直ニ之カ經營ヲ爲ス能ハサル事情ナキニ非サルヲ以テ期限ヲ附シテ私人ノ經營ヲ容スコトトセリ市場ノ監督ニ付テハ專ラ道長官ヲシテ之ニ當ラシメ其ノ新設移轉廢止其ノ他主要ナル事項ハ總テ道長官ノ許可ヲ受ケシメ又公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ道長官ヲシテ市場許可ノ取消移轉等適宜ノ措置ヲ執ラシムルコトトセリ目下各道長官ハ本規則ニ基キ夫夫管内ノ市場ニ付位置管理方法・開市日等ヲ明カナラシメ從來ノ弊竇ヲ一掃シテ其ノ機能ヲ完ウセシムルニ努メツツアリ明治四十二年以降各道別ノ市場數及取引高ハ左ノ如シ

市場數及取引高

右方ハ市場數  
左方ハ取引高

道	明治四十二年	同四十三年	同四十四年	大正元年	同二年	同三年
京 畿 道	九二 一、〇九四、〇〇〇	九八 一、三七〇、六四四	一〇〇 一、七四二、一八二	一〇五 一、九五三、四四〇	一〇五 七、四五七、七四八	一一二 七、一四一、七三一
忠 清 北 道	八〇 二八六、四〇〇	四九 四四八、六八八	五五 七一一、四五九	五四 八八二、三二二	五一 一、二〇七、六一四	五一 一、三七七、三〇六
忠 清 南 道	八〇 五六二、八〇〇	八二 八五四、七六二	八三 一、〇九三、六〇五	八二 一、二一三、七八〇	八八 五、八九一、一四一	九三 四、五一三、五八九
全 羅 北 道	七三 六〇四、四〇〇	七七 六五〇、九五四	八三 八五六、八五八	八八 九九二、三九四	八一 二、二八三、八〇三	六八 二、〇五〇、五四三

全羅南道	八三二、〇〇〇	一〇〇二	六五四、九〇三	八四一、〇三五	九二一、九三〇	一、九一五、九六三	二、〇三九、三一七
嶺南北道	一、四五九、六〇〇	一一二	二、〇五九、四五五	二、四八六、八二二	三、一一四、五六四	四、二五〇、八七八	四、三九四、〇一一
慶尙南道	九三五、二〇〇	九七	一、三〇〇、六七八	一、六〇八、六二四	一、七二五、七九〇	三、〇七〇、〇九〇	七、二二六、六一〇
黃海道	一五五、二〇〇	九四	七六二、八一二	一、〇三五、四六二	一、二三九、七五一	四、一二九、二二五	三、一〇八、八一八
平安南道	一九三、二〇〇	六五	八七八、八四二	一、三五九、二五四	一、七三六、五六五	六、〇二九、四四〇	三、九〇〇、二九七
平安北道	四二八、〇〇〇	四一	四八五、九三二	七二六、一八九	一、一三四、九七五	四、四七四、七六四	一、四二二、二四七
江原道	二六二、〇〇〇	六一	三七五、六七八	四〇九、六二八	六八九、七三三	一、四三二、五四〇	三、七三四、八一七
咸鏡南道	不詳	五五	五六〇、五七六	七八九、六九九	一、〇四〇、五七八	二、三九五、八二九	一、五一六、二〇〇
咸鏡北道	不詳	同上	同上	同上	同上	八五八、六一五	九九一、六六二
合計	六、四三三、九三〇	九三〇	一〇、四〇三、九七三	一三、六六二、八〇五	一六、六四五、八〇一	四五、三二七、六五〇	四三、四一七、一六八

(備考) 取引高ハ大正元年迄ハ市場税ニ依リ推算シ大正二年以降ハ各道ノ  
報告ニ依ル

#### 第四節 商工業ニ關スル公益團體

内地人商業會議所ハ領事官又ハ領事官ノ認可ヲ受ケテ設立シ爾後定款ノ變更其ノ他重要ナル事項ハ總テ認可ヲ受ケ來レリ其ノ定款ハ何レモ内地ノ商業會議所法ニ準シ其ノ業務ハ内地商業會議所ト大差ナク附帶ノ事業トシテ仁川釜山鎮南浦群山木浦元山等ニ於テハ米穀或ハ棉花干鰯繩呔等ノ検査ヲ爲シ又釜山鎮南浦木浦元山等ニ於テハ倉庫若ハ商品陳列館ヲ經營セリ從來此等商業會議所ニ關シテハ別ニ據ルヘキ法規ナク舊來ノ慣例ニ從ヒ其ノ成立ヲ公認シ道長官ヲシテ監督ノ任ニ當ラシメ定款中地區事務權限議員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル規定ノ變更其ノ他重要ナル事項ハ總督ニ經伺ノ上處理セシメ來リタリシカ大正四年七月制令第四號ヲ以テ朝鮮商業會議所令ヲ同八月同令施行規則ヲ發布シ十月一日ヨリ之ヲ施行シ本團體ノ組織權限及監督ニ關スル詳細ノ規定ヲ設ケ内鮮人相共同シテ會議所ヲ設立セシメ有効ニ其ノ機能ヲ發揮セシムルト共ニ諸般弊害ノ防止ヲ期セシメタリ

朝鮮人ノ設立ニ係ル商業會議所ハ舊韓國時代ニ於テ農商工部大臣觀察使又ハ府尹ノ認可ヲ受ケタル等其ノ取扱區區ニ涉リシカ其ノ組織ハ概ネ内地人商業會議所ニ模倣シ業務トシテハ未タ見ルヘキモノ少シ各商業會議所經費

及事務ノ概況ハ左表ノ如シ

商業會議所概況

大正二年

場所	議所	經費		調査發表	委任ニヨリ調査シタルモノ	官廳ニ對シテ照答申シタルモノ	紛議仲裁	商品検査	營造物管理	其ノ他
		賦課額	徴收額							
京城	日本人商業會議所	八、六〇七	五、一三八	年月報	六八一	二五〇	一	米	店員表彰會設置	
仁川	日本人商業會議所	四、九八〇	七二五	年月報	一〇	一八	一	米		
水原	朝鮮人商業會議所	六、二一九	四六四	月刊報	二三〇	四八	一	米		
開城	朝鮮人商業會議所	七〇五	六一〇	月刊報	一	二	一	米		
群山	朝鮮人商業會議所	一、三八〇	一、三三〇	月刊報	五	二二	一	米		
釜山	日本人商業會議所	九六五	九六五	月刊報	四	七	一	米		
水浦	日本人商業會議所	一、二二六	八三	月刊報	一一	一〇七	一	米		
馬山	日本人商業會議所	四、七八一	四、四一	月刊報	七二六	三六	一	米	商標陳列館	
大邱	日本人商業會議所	一、八〇六	一、三七一	月刊報	一〇三	五	一	米、棉花、牛皮、干酪	土地、建物、倉庫、貸付	
平壤	朝鮮人商業會議所	二、六九八	二、六四五	月刊報	二五九	七二	一	米、棉花、牛皮、干酪	土地、倉庫、貸付、商工研究會、店員表彰會設置	
		一、五一二	一、〇〇五	月刊報	九三四	二七九	三			
		三、〇三七	二、四六四	月刊報	一六一	三八	四			
		三六〇	二七九	月刊報	七	一〇				
		一、〇四〇	一、〇四〇	月刊報	四二	一〇				
		四八三	四八三	月刊報	三	三			倉庫貸付	

第十四章 商工業

		經 費		事 務		概 況				
		課 額	徵 收 額	調 査 發 表	委 託 二 對 照 調 査 シ タ ル	官 廳 二 對 照 申 告 答 申 シ タ ル	紛 議 仲 裁	商 品 檢 査	香 造 物 管 理	其 他
嶺南道	日本人商業會 議所 三和朝鮮人商 業會議所	三、〇〇〇 <small>圓</small>	二、六一一 <small>圓</small>	月報 物價月報 二六 二六	二八八 <small>圓</small>	四七五	二	米	共同寄場 商品陳列所	共進會開催
元山	日本人商業會 議所 朝鮮人商議所	三、二七三	二、二六八	月報、年報 東物詳情 一、四	一一九	五二	四	大豆、打綿 繩、干綿		建物貸付
清津	日本人商業會 議所	八九九	七二八	刊行物ナシ 一、四	三	一〇				土地、倉庫 貸付
		一、一五九	一一、二二三	報	七四	六六				

(備考) 本表經費ハ大正二年度分ニシテ大正三年五月末現在ノ調査ニ係ル  
 同業組合ハ概ネ内地ニ於ケル重要物産同業組合法ニ準シ領事理事官等ノ認  
 可ヲ受ケ設立シタルモノニシテ二三組合ヲ除クノ外未タ成績ノ觀ルヘキモ  
 ノ少シ之カ取締ニ關シテハ從來ノ慣例ニ基キ道長官ヲシテ其ノ監督ニ當ラ  
 シメ組合ノ設立定款中目的業務地區經費ノ賦課徵收營業品ノ検査又ハ仲裁  
 判斷ニ關スル規定其ノ他重要ナル事項ノ變更ハ總督ニ經伺ノ上處理セシメ  
 來リシカ大正四年七月制令第三號ヲ以テ朝鮮重要物産同業組合令ヲ同八月  
 同令施行規則ヲ發布シ同十月一日ヨリ之ヲ施行シ以テ組合ノ組織權限監督  
 ニ關シ詳細ノ規定ヲ設ケ其ノ機能ヲ有效ニ發揮セシメ諸種弊害防止ノ實ヲ



舉ケシメムコトヲ期セリ其ノ業種別組合數ハ左表ノ如シ

總計	同業組合數									
	併合					併合				
	工業	商業	計	工業	商業	計	農業	果樹	計	合計
京 德 道		一六	一六		一	一五	二		二三	三九
忠 清 道					一	一			一	一
忠 清 南 道					六	一			七	一
全 羅 北 道		三	三			三			三	七
全 羅 南 道		一	二		三	一			四	六
慶 尙 北 道	四	一	一七		三	三		一	四	七
慶 尙 南 道		三	三		一	三	果樹		四	三
黃 海 道					一	一			一	一
江 原 道					五	四			九	一
平 安 南 道		三	三		二	二			四	二
平 安 北 道		一	一		一	一			二	二
咸 鏡 南 道										二
咸 鏡 北 道										二
總計	四	三七	四一	二五	四二	三		六九	二〇	

同業組合業態別

大正三年十二月末日現在

大正三年十二月末日現在

合 計	商					工					併 合 前	併 合 後	併 合 計	
	各種 販賣商 計	海 產物 商	貿 易 商	米 穀 商	其 計 他	其 計 他	煙 草 製 造 業	釀 造 業	製 紙 業	織 物 業				
四二	三七	三一	二	二	二	四	二	一	一	一				
六六	四二	二七	二	三	九	二五	六	一	三	三	一三			
一〇七	七八	五八	四	五	一一	二九	八	一	四	三	一三			

(備考) 以上ノ外果樹栽培者ヨリ成ルモノ三組合アリ

### 第五節 商品陳列館

朝鮮ニ於テハ從來整備セル陳列館ノ設備ヲ缺キ産業開發上遺憾尠カラサリ  
 シヲ以テ明治四十五年十一月京城ニ官設商品陳列館ヲ設置シ大體左記ノ方

針ヲ以テ之ヲ經營セリ

一 朝鮮ノ産業狀況ヲ明カニスルト共ニ朝鮮產物利用ノ途ヲ圖ルコト

二 朝鮮向内地產商品ヲ蒐集シテ商工業者ノ參考ニ資スルト共ニ内地產商品ノ販路擴張ニ資スルコト

三 朝鮮ニ輸入セラルル外國產商品ヲ蒐集シテ内地及朝鮮ニ於ケル商工業者ノ參考ニ資スルコト

陳列品ハ朝鮮產三千六百九十八點、内地產五千一百五十二點、外國產一百二十三點、總計八千九百七十三點、大正四年三月末日現在ヲ蒐集シ其ノ他各般ノ統計・圖表等ヲ展示シ以テ公衆ノ觀覽ニ供セリ、開館以來大正四年三月末日迄ノ觀覽人ハ内地人六萬八千四百六十二人、朝鮮人二十六萬九千三百四十八人、外國人九百七十七人、合計三十三萬八千七百八十八人、一日平均四百七十六人ヲ算シ産業開發上效果大ナルモノアリト信ス

## 第六節 博覽會及共進會

新領土ノ狀態ヲ母國ニ紹介スルハ朝鮮開發上最必要ノ事ナルヲ以テ内地主

要地ニ於テ博覽會共進會等ノ開催ニ際シテハ成ルヘク之ニ賛同シ朝鮮ノ實情ヲ周知セシムルコトトシ明治四十三年九月群馬縣ノ主催ニ係ル一府十四縣聯合共進會明治四十四年四月京都市ニ於テ京都博覽協會ノ主催ニ係ル同協會四十週年記念全國製產品博覽會及明治四十五年四月同協會主催第八回全國製產品博覽會大正元年十月東京市ニ於ケル拓殖博覽會大正二年三月大阪市ニ於ケル明治記念拓殖博覽會大正三年三月東京大正博覽會ニ賛同シ其ノ規模ニ應シ朝鮮地理模型朝鮮ノ物產產業其ノ他各般ノ施設一斑ヲ示スヘキ模型及統計諸報告並各種ノ參考資料ヲ出陳シテ一般ノ觀覽ニ供シ尙朝鮮ノ狀況ヲ簡明ニ記述シタル冊子ヲ重ナル觀覽者ニ配付スル等朝鮮ノ紹介ニ努ムル所アリシカ何レモ一般ノ注意ヲ喚起シ能ク所期ノ目的ヲ達スルヲ得タリ又大正四年ハ恰モ總督府設置以來滿五週年ニ相當スルヲ以テ之ヲ記念スル爲同年九月十一日ヨリ十月三十一日迄京城府景福宮内ニ始政五年記念朝鮮物產共進會ヲ開催シ普ク朝鮮各地ノ物產ヲ蒐集陳列シ諸般ノ施設狀況ヲ展示シ且新舊施設ノ比較對照ヲ明カニシ以テ一面ニ於テハ生産品竝生産事業ノ優劣得失ヲ審査考覈シテ當業者ヲ鼓舞振作シ他面ニ於テハ朝鮮民衆

チシテ新政ノ惠澤ヲ自覺セシムルニ努メ尙此ノ機會ニ於テ成ルヘク多數ノ内地人ヲ招致シテ朝鮮ノ實情ヲ視察セシムルノ途ヲ講シ朝鮮向後ノ開發ニ資セムトス其ノ計畫概略左ノ如シ

一 總經費約五十萬圓ヲ以テ六棟三千四百四十七坪ノ建物ヲ新設シテ出品ノ主要陳列場ニ充テ式場・貴賓館・審査室其ノ他事務所ハ在來建築物ヲ利用シ建物總面積五千二百二十六坪ノ見込ナリ

二 本會ノ施設ハ華奢ヲ去リ質實ヲ旨トシ共進會ノ實ヲ沒却スルカ如キコトナキヲ期スルコト

三 出品ハ單ニ朝鮮ノ物産ノミナラス産業・教育・衛生・土木・交通經濟等ニ關スル施設及統計ヲモ網羅シ産業其ノ他文物ニ關スル實況及其ノ改善進歩ノ狀ヲ描寫スルニ努ムルコト

四 出品ハ部類ヲ分チ尙其ノ部類中ノ種別ニ從ヒ道毎ニ出品ヲ區分シ其ノ對照ヲ明カナラシムルト共ニ別ニ道全體トシテ其ノ狀勢及施設ノ狀況ヲ對照比較シ得ル出品ヲ爲スコト

五 内地生産品ノ出品ハ朝鮮ノ生産業ニ必要ナリト認ムルモノ及外國輸入

品ニ對シ販路擴張ノ必要アリト認ムル日用必需ノ物品ニ限り本會ノ承認ヲ經テ出品ヲ許可スルコト

六 本會ノ趣旨ヲ達スル爲成ルヘク多數ノ朝鮮人及内地人ノ觀覽人ヲ誘致スルハ極メテ必要ノ事ナルヲ以テ汽車・汽船ノ運賃ヲ特ニ低減シテ一般觀覽者ノ便ヲ圖ルコト

七 餘興・飲食店等ハ風教ヲ害セサル程度ニ於テ本會ノ承認ヲ經テ場内ニ其ノ設置ヲ許可スルコト

概要右ノ計畫ヲ定ムルヤ先ツ共進會事務章程共進會規則ヲ制定シ同時ニ職員ヲ任命シ委員組織ヲ以テ會務ヲ處理スルコトトシ目下各般ノ事項ニ亘リ施行準備中ナリ

## 第七節 度量衡

從來朝鮮ニ於テ使用シタル度量衡器ハ亂雜不規律ニシテ物貨計量ノ標準ト爲スニ足ラス取引ノ圓滿正確ヲ期スル能ハサル狀況ナリシヲ以テ之ヲ改善統一シ且内地ト共通ノ度量衡制度ヲ布クノ必要ヲ認メ明治四十二年九月度

量衡法ヲ改定シ内地度量衡ト全ク同一ナル名稱・命位ヲ採用シ同年十一月ヨリ順次地域ヲ定メテ主要ノ地ヨリ同法ヲ施行シ明治四十五年六月ヲ以テ朝鮮全上ニ同法ノ施行ヲ完了セリ

度量衡法ノ改正ハ實ニ習俗ノ改變ニ屬スルヲ以テ其ノ改善ノ實ヲ舉クルハ容易ノ業ニ非サルニ依リ同法實施ノ際ハ勿論其ノ後ニ於テモ時時各地ニ吏員ヲ派シ度量衡法ノ主旨・新舊度量衡器ノ利害得失・計量比較並新度量衡器ノ使用方法等ニ付詳細ノ講話ヲ爲サシメ同時ニ其ノ概要ヲ記述シタル印刷物ヲ配布シ以テ法ノ趣旨ヲ徹底セシムルニ努メタリ

度量衡ノ檢定取締ニ付テハ時時技術員ヲ地方ニ派遣シ順次各地ノ巡回檢定ヲ爲サシメツツアル外大正二年十一月便宜道廳及府廳在勤ノ官吏十九名ヲシテ必要ナル技術及事務ヲ講習シ各其ノ地方ニ於テ隨時必要ナル檢定事務ニ服セシムルコトト爲セリ尙秤量ノ正確ヲ期シ且一定統一シタル器物ヲ配給スルノ必要上度量衡器ノ製作販賣ハ之ヲ政府專屬ノ事業ト爲シ唯醫療用學術用並測量用等ノ特種度量衡器ハ内地官廳ノ檢定ヲ經タル器物ニ限り信用確實ナル商人ニ其ノ移入販賣ヲ特許スルコトトセリ

度量衡法施行以來大正三年十一月迄ニ販賣シタル度量衡器各年別販賣高ハ  
左表ノ如シ

	度量衡器		秤		器		計	
	箇數	金額	箇數	金額	箇數	金額	箇數	金額
自明治四十年九月 至同十二年十二月	二八、八五九	一、九五二	三三、八一八	二二、一〇五	五、九一七	一〇、五六五	六八、五九四	三四、六二一
同十四年	一九九、一一七	一三、〇四九	一五〇、三四八	九二、五一三	二九、九八五	五七、五二一	三七九、四五〇	一六三、〇八三
大正元年	二三〇、七七二	一九九六二	一六〇、八三五	九二、八八五	二九、〇〇〇	五八、六〇三	四二〇、六〇七	一七一、四四九
同二年	二二〇、〇七四	二四、一二八	一九〇、〇七三	一〇三、八〇九	三〇、一八八	六五、一五九	四四〇、三三五	一九三、〇九六
同三年	二〇三、〇〇九	二〇、四六七	一一八、八一七	六八、四八二	二二、九五六	五四、五七二	三五四、七八二	一四三、五二一
計	八八一、八三二	七九、六五六	六六三、八九一	三七九、八九四	二八、〇四六	二四六、四二〇	一、六六三、七六八	七〇五、七七〇



# 第十五章 林業

## 第一節 森林山野ノ整理

朝鮮ノ森林山野ニハ國有私有ノ區分明カナラサルモノ少カラスト雖大體ニ於テ全上ヲ通シ約一千六百萬町歩ノ林野中國有ニ屬スルモノ八分ノ七ヲ占ムルヲ以テ其ノ内國有トシテ存置ヲ要スルモノト否トヲ區分シ存置ヲ要セサルモノハ漸次民有ニ移スノ必要アルヲ認メ明治四十四年十一月中要存林野選定ノ標準ヲ定メ不要存林野ハ漸次之ヲ處分シテ私有ニ移スコトト爲セリ又明治四十一年舊韓國政府ノ發布セル森林法ニ於テ森林山野ノ所有者ハ同法施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ其ノ位置地籍及面積ヲ農商工部大臣ニ届出ツヘク此ノ期間内ニ届出ナキモノハ總テ國有ト看做スヘキコトヲ規定セルモ如何ナル性質ノ土地ヲ私有ト認ムルヤニ就テハ一定ノ標準ナカリシヲ以テ明治四十五年五月古來ノ法令舊慣ヲ考查シ國有私有區分ノ標準ヲ一定セリ尙不要存林野ノ内從來地元鮮人ニ於テ禁養其ノ他ノ緣故關係ヲ有スルモノ尠カラサルヲ以テ此等ノ林野ニ對シテハ其ノ緣故者ニ優先權ヲ與フルコ

ト及私有林野竝縁故林野ヲ併スモ尙一戸平均約二町步ニ足ラサル地元部落ニ對シテハ縁故者ヲ有セサル不要存林野中ヨリ其ノ不足分ニ相當スル面積ヲ部落林豫定地トシテ區別シ置クコトト爲セリ

## 第二節 林野ノ調査

林野整理上最急要ナルハ要存豫定林野及不要存林野中何人ニモ處分シ得ヘキモノ所謂第一種不要存林野ノ區分調査ナリトス其ノ中營林廠所屬要存豫定林野約二百二十萬町步ハ大正二年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十箇年間ニ同廠ノ事業トシテ調査セシメ其ノ他ノ要存豫定林野約三百八十萬町步ト第一種不要存林野概算三百三十萬町步トノ調査ハ本府ノ事業トシテ明治四十四年度ヨリ開始シ主トシテ權利關係ノ複雜ナル地域荒廢甚シクシテ民間造林ノ急施ヲ要スル地域及河川水源地ニシテ保護上重要ナル地域ヨリ施行シ來レリ而シテ其ノ實施ノ方法ハ要存豫定林野ニ對シテハ境界ヲ定メ標識ヲ設ケ五萬分一見取圖及調書ヲ作製シ其ノ複本ヲ關係道府郡保護區又ハ警察官署ニ送付シ第一種不要存林野ニ對シテハ查了後直ニ造林貸付等ノ處分ヲ

要スルヲ以テ各箇所毎ニ境界ヲ查定シ標識ヲ設ケタル上簡易ナル實測ヲ行ヒ六千分一地圖及調書ヲ作製シ其ノ複本ヲ關係道・府・郡ニ送付ス調査班一組ノ組織ハ内地人技手一人・雇員内鮮人各一人トシ調査班七組ニ對シ監督技師一人内業屬一人雇員内地人二人・鮮人一人ヲ置ケリ調査開始以來大正三年十二月迄ノ成績ハ左ノ如シ

調査組數	調査了		積
	要存豫定林野	第一種不要存林野	
明治四十四年度	二	一、七五七	二、一〇四
大正元年度	三	一〇、四九八	一二、八六四
同二年度	七	一九四、三二五	二一三、三六二
同三年度(十二月迄)	一五	五二八、三三八	二六二、九九九
計	二七	七三四、九〇八	七〇〇、〇三〇
		二五三、五七七	九八八、四八五

尙將來ハ財政ノ許ス限り其ノ功程ヲ進メ大正六年度迄ニ京畿・江原以南ノ八道ヲ爾後大正九年度迄ニ其ノ餘ノ全部ヲ查了セムトス

私有林野及不要存林野中緣故者アルモノ又ハ部落林豫定地トシテ區別シ置クヘキモノ即チ所謂第二種不要存林野ノ查定ハ財政ノ許ス限り成ル可ク速

ニ開始シ前記區分調査及臨時土地調査局ノ調査ノ終了セル箇所ニ隣接セル部分ヨリ調査セムトス

又未調査地域ニ對シ林野ノ貸付・賣却又ハ讓與ノ出願アル場合ニ於テハ地方廳又ハ本府ニ於テ臨時ノ調査ヲ行フ之カ爲大正元年度以降調査班三組ヲ置キ大正三年度ニ至リ之ヲ四組ト爲シ調査セシメツツアリ其ノ調査ノ結果ハ左ノ如シ

	造林貸付	大學演習林貸付	永年養森林讓與	林野賣却	林產物賣却	計
明治四十四年度	一、三三二四町	一町	一町	一町	一町	二、三三三四町
大正元年度	二〇、三八五	一〇、一〇〇〇	二四七	一	三一、一〇〇	一、三三、六三三町本
同二年度	四七、六三五	二五八八二	一	九二二	一	三、一〇〇本
同三年度(十二月迄)	二〇、七九七	一	一	一	一	七四、〇二九町本
計	九二、一三二	一二七、八八二	二四七	五二二	三一、一〇〇	二、一九、七七二町本 三、一〇〇本

### 第三節 林野ノ處分

林野整理ノ爲ニ行フ處分ハ讓與・賣却及貸付ノ三種ナリ讓與ハ地方費及面樽

範林學校林及共同墓地用等公益事業ノ爲ニスルモノト人民ノ永年禁養ニ係ルモノトノ二種アリ之ニ關スル調査ハ大部分地方廳ニ於テ行ハシメ面積三町步ヲ起工サル共同墓地ニ付テハ其ノ處分ヲモ道長官ニ委任セリ大正三年度十二月迄ニ讓與處分ヲ爲シタルモノノ件數及面積ハ左ノ如シ

地方費模範林 面模範林 學校林 共同墓地 永年禁養林 其ノ他	明治四十四年度		大正元年度		同二年度		同三年度(十二月迄)		計
	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	
地方費模範林	四	一四八	七	九六九	八	五八一	一、一〇	二六	二、八〇八
面模範林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
學校林	三二	二二六	四五	三七〇	九八	九一三	二一	二一	一九〇
共同墓地	—	二六	三	九一〇、五八二	七、一八六	四、七〇三	—	—	六五六
永年禁養林	—	—	二五	五六四	一、九二九	五、一九五	三、六四五	八、四五二	二、二二一
其ノ他	—	—	一	一八	七	五三	—	—	一五、二八九
計	三六	三九〇	三〇七	一九三〇	一一六、六二四	一三、九二八	八、四四八	一一、五二八	二一、四一五
									二八、七七六

不要存林野中相當林相ヲ爲スモ其ノ育成者ナキモノ及市街地附近ノ如ク造林以外ノ用途ニ適スル箇所ハ競争入札ニ依リ之ヲ賣却シ公用又ハ公益事業ノ爲其ノ他一定ノ條件ニ該當スルモノハ特ニ隨意契約ニテ賣却スルモノトス今日迄ハ此ノ處分ヲ爲シタル件數及面積極メテ少キモ將來ニ於テハ林野

調査ノ結果不要存ト決定シタル成林地ハ悉ク官ノ保護管理ニ依ルコト困難ナルヲ以テ必要アルモノハ保安林ニ編入シ若ハ營林方法ヲ指定シ成ルヘク賣却處分ヲ爲サシムル方針ナリ

讓與及賣却處分ニ附スヘキ特殊ノ林野ヲ除キタル一般ノ不要存林野ハ造林ノ目的ヲ以テ貸付シ事業成功シタル場合ハ之ヲ讓與スルヲ得ルコトトセリ其ノ内緣故者ヲ有スル林野ニシテ禁養ノ事實アルモ讓與ノ程度ニ達セサルモノニ對シテハ無料ヲ以テ貸付ケ禁養ノ事實ナキモノニ對シテハ緣故者ニ優先權ヲ與ヘ有料貸付シ緣故者ナキ林野ニ付テハ地元住民ニ對シテ優先權ヲ與ヘ又部落林豫定地ハ成ルヘク其ノ部落全體ノ共同貸付ト爲シ殘餘ノ第一種不要存林野ハ何人ニ對シテモ貸付ヲ爲スコトトシ主トシテ事業遂行ノ見込如何ニ重シ置ケリ此ノ造林貸付ノ制ヲ設ケタル以來地元民ハ勿論會社等ニ於テ大規模ノ貸付ヲ出願スルモノ比年増加セリ其ノ成績大要左ノ如シ

件數 (作)	明治四十二年度		同四十二年度		同四十三年度		同四十四年度		大正元年度		同二年度		同三年度 (十二月迄)		計
	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	面積 (町)	件數	
一一一	一一六	九	一八八	一四	八五〇	一、〇二〇	一一、七一一	四二、九〇六	六九、四八九	一一七、二九二	一五、一八一	七、六三六	四、三三三	一一七、二九二	

尙木表ノ外大學演習林トシテ大正元年度ニ於テ東京京都九州ノ三大學ニ面積十萬二千町步大正二年度ニ於テ東北大學ニ面積二萬五千八百八十二町步ノ無料貸付ヲ爲セリ又舊森林法ニ依リ許可シタル部分林十六件三千八百一十町步アリ將來林野ノ調査完了スルニ至ラハ不要存林野ノ大部分ハ之ヲ處理スルヲ得ヘク朝鮮ノ林野モ茲ニ始メテ整理ノ實ヲ舉クルヲ得ム

#### 第四節 造林

要存豫定林野ハ治水上ノ關係最大ナルヲ以テ第一ニ造林ヲ完成スルノ必要アリ而シテ其ノ全面積約六百萬町步ノ内半ハ成林地ナルヲ以テ此ノ部分ニ對シテハ單ニ過伐ヲ戒メ保護更新ニ努ムレハ可ナルモ殘餘ノ部分ハ大抵稚樹發生地ナルカ故ニ此ノ部分ニ對シテハ天然稚樹ヲ保護シ第一次ノ造林ヲ遂クルコトトシ京城附近ノ無立本地約五千町步ニ限り人工造林ヲ行フコトトセリ此ノ人工造林ノ成績左ノ如シ

計	普通植栽		砂防植栽		計		活着歩合
	面積	本數	面積	本數	面積	本數	
明治四十年	九町	四〇、六九六	五町	三一、五八八	一四町	七二、二八四	六〇%
春同四十一年	二二九	九八四、一九六	五	一三、〇〇〇	二二四	九九七、一九六	四八
春同四十二年	一一九	七、九三八九	一三〇	二七七、〇〇〇	二四九	九九六、三八九	五五
春同四十三年	一二二	三、四〇二五	四〇九	五〇二、四〇六	五三一	八七六、四三一	七一
春同四十四年	(補植)	一九、三三〇	九六	七五八、七三〇	九六	七七八、〇五〇	九一
大正元年	五一八	一、三九、八五九	二〇	一四九、五八二	五三八	一、八九、四四一	九二
春同二年	四五	五八〇、〇四〇	五九	四三四、八二八	一〇四	一、〇一四、八六八	九一
春同三年	九八	一、〇五三、二三九	三七	三二四、四六二	一三五	一、三七七、七〇一	未詳
計	一、一三〇、四八一〇、七六四		七六一二、四九一、五九六		一、八九一、七三〇、二、三六〇		

而シテ今日迄ノ經驗ニ徴スレハ朝鮮ノ山野ハ内地ノ如ク土砂ノ崩壊流出甚シカラサルヲ以テ今後ハ多費ヲ要スル砂防工植栽ヲ減シ普通植栽ヲ増加シ以テ造林費ノ増額ヲ行ハスシテ造林力ヲ増加シ得ヘキ方法ヲ執ラムトス

第一種不要存林野ハ其ノ面積約三百三十萬町歩ノ内成林地約十萬町歩稚樹地約一百七十萬町歩ニシテ殘餘ノ一百五十萬町歩ハ無立木地ノ見込ナリ此等ハ既ニ前節ニ述ヘタルカ如ク資産家ノ企業ニ委シ造林ノ目的ヲ達セムト



ス此等受貸者多クハ直ニ天然稚樹ノ保育ニ着手シ又無立木地及疎生地ニ對シテハ或ハ自ラ苗木ヲ育成シ或ハ之ヲ購入シテ盛ニ造林ニ從事セリ又造林企業者ト地元鮮人トノ間ハ從來往意志ノ疏通ヲ缺キ中ニハ紛議ヲ惹起セルモノモ之アリシカ漸次圓滿ニ進ミツツアリ又第二種不要存林野ハ其ノ面積約四百七十萬町歩ノ内成林地約六十萬町歩稚樹地約三百八十萬町歩ニシテ人工造林ヲ要スル無立木地ハ約三十萬町歩ニ過キス此等ハ緣故者又ハ地元部落民ニ讓與若ハ貸付處分ヲ行ヒ種苗木下付シ造林方法ヲ指導獎勵セリ而シテ今日迄ニ有料貸付セル五町歩以上ノ林野(多クハ第一種不要存林野)ハ

件數	明治四十一年度		同四十二年度		同四十三年度		同四十四年度		大正元年度		同二年度		同三年度		計
	面	積	面	積	面	積	面	積	面	積	面	積	面	積	
二二件	一一七町	一一七町	二二件	一一七町	一八件	一一七町	一一件	三三八町	三〇五町	四六三町	七二六町	一、三六一町	九〇、〇三三町		
一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	

ニシテ無料貸付及五町歩未滿ノ有料貸付林野(多クハ第二種不要存林野)ハ

件數	明治四十二年度		同四十三年度		同四十四年度		大正元年度		同二年度		同三年度		計
	面	積	面	積	面	積	面	積	面	積	面	積	
一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町
一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町	一一七町

ナリ

私有林野ハ其ノ全面積約二百萬町歩ノ内成林地約一百三十萬町歩稚樹地約五十萬町歩ニシテ人工造林ヲ要スル無立木地ハ約二十萬町歩ニ過キス此等無立木地ノ人工造林ニ對シテハ生長早キ種苗ヲ下付シ漸次植樹ノ進捗ヲ期セシメツツアリ

今民間人工造林ノ實績ヲ表示スレハ左ノ如シ

	明治四十三年春	同 四十四年春	大正元年春	同 二年春	同 三年春	計
植 栽 面 積	五〇四町	三、四八一町	七、一九四町	一、二、一六六町	二、四、三八〇町	四七、七二五町
植 栽 本 數	一、九四七、〇〇〇本	一、〇、六三三、〇〇〇本	二、一、五八二、〇〇〇本	三、八、三五五、〇〇〇本	九、三、八六四、〇〇〇本	一、六六、三八〇、〇〇〇本

又私營苗圃ニ於ケル年年ノ生産成苗數ハ左ノ如シ

	明治四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度	計
生産成苗數	二、五八〇、〇〇〇	五、〇四一、〇〇〇	一、一、七二四、〇〇〇	二、四、八二四、〇〇〇	三、八、六八九、〇〇〇	八二、八五八、〇〇〇

即チ植栽事業ニ於テモ亦養苗事業ニ於テモ漸次進歩セルヲ見ルヘシ然レトモ朝鮮人ハ由來殖林ニ關スル智識經驗ニ乏シキヲ以テ種苗及技術上

ノ補助ヲ與ヘ且實地ニ就キ之ヲ指導シ以テ殖林ノ端緒ヲ開ク必要アリ依テ  
 地方費及恩賜授産金ヲ以テ各地ニ多數ノ苗圃ヲ設ケシメ地方民ニ養苗ノ方  
 法ヲ教フルト共ニ生産苗木ヲ下付シテ植樹ヲ促サシメ或ハ記念植樹ヲ行ヒ  
 或ハ道面及學校ヲシテ模範林若ハ實習林ヲ設置セシメ或ハ林業ニ關スル講  
 習講話若ハ實地ノ指導ヲ行ヒテ愛林ノ思想ヲ喚起シ殖林ノ知識ヲ與ヘシメ  
 ツツアリ

大正二年迄ノ地方費及恩賜金苗圃ハ左ノ如シ

年度	地方費苗圃		恩賜金苗圃		計	
	箇所數	生産成苗數	箇所數	生産成苗數	箇所數	生産成苗數
明治四十三年度	五	七六、〇〇〇 <sup>本</sup>	—	—	五	七六、〇〇〇 <sup>本</sup>
同四十四年度	七六	八二、〇〇〇	四四	—	一二〇	一、〇四九、〇〇〇
大正元年度	二六〇	七、九九四、〇〇〇	四八	一、六八四、〇〇〇	三〇八	九、六七八、〇〇〇
同二年度	七六	一三、三四九、〇〇〇	四二	一、六七七、〇〇〇	一一八	一五、〇二六、〇〇〇

種苗ノ下付數ハ左ノ如シ

年度	種子下付數
明治四十二年度	二四 <sup>石</sup>
同四十三年度	三三二 <sup>石</sup>
同四十四年度	二四九 <sup>石</sup>
大正元年度	一九三 <sup>石</sup>
同二年度	一二九 <sup>石</sup>

又記念植樹數ハ左ノ如シ

苗木下付數	明治四十一年度	同 四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度
	五〇、二、〇〇〇 <small>本</small>	一、〇八四、〇〇〇	四、九〇五、〇〇〇 <small>本</small>	八、九〇〇、〇〇〇 <small>本</small>	一四、八八五、〇〇〇 <small>本</small>	一四、五七六、〇〇〇 <small>本</small>

植樹數	明治四十四年春	大正元年春	同 二年春	同 三年春	同 四年春
	四、六五二、〇〇〇 <small>本</small>	一〇、一六五、〇〇〇 <small>本</small>	一一、四三十一、〇〇〇 <small>本</small>	一三、五六七、〇〇〇 <small>本</small>	一五、三八〇、〇〇〇 <small>本</small>

將來ニ於テハ地方費苗圃養生ノ苗木ハ成ルヘク治山上必要ナル種類ヲ擇ハシメ且私營苗圃ヲ獎勵援助シ植栽本數ノ多カラムヨリモ其ノ成績ノ善良ナラムコトニ重ヲ置キ以テ健全ナル發達ヲ期セシメムトス

現在朝鮮ノ樹木三百餘種ノ内林木トシテ價値アル喬木約五十種ニ上ルヲ以テ此等固有ノ天然稚樹ヲ保護スルハ將來ノ林政上殊ニ有益ナルヲ認メ稚樹發生地ニ於テハ先ツ之ヲ保育シテ第一次造林ヲ行ハシム而シテ天然稚樹ヲ保育セムトスレハ之ニ代ルヘキ温突燃料ノ供給ヲ圖ルヲ必要トスルカ故ニ石炭煉炭等ノ使用ヲ獎勵スルノ外宅地周圍路傍河邊墳墓地等比較的の地味肥沃ナル箇所ニ生長神速ナル樹苗ヲ植エシムルコト必要ナリ現二三セアカシ

ヤ「ポブラ」ノ如キハ大部分其ノ目的ニ供用セラルルモノトス又今後獎勵スヘキ特殊樹種ノ研究ノ爲大正二年ヨリ林業試験及植物調査ヲ開始シ朝鮮ニ於ケル重要植樹ハ勿論内地滿洲及諸外國ニ産スル有望樹種ニ付養苗及造林上ノ試験ニ従事シツツアリ

## 第五節 森林ノ保護

森林ノ保護ハ造林ト兩立シテ治山上最緊要ナル事項ナルヲ以テ明治四十五年府令ヲ以テ國有森林山野保護規則ヲ定メ地方長官ヲシテ一般國有林野ノ保護ヲ爲サシムルコトトシ尋テ大正元年十一月訓令ヲ以テ警察官吏ヲシテ地方長官ノ指示ニ從ヒ一般林野ノ保護ニ務メシムルコトトセルモ經費其ノ他ノ關係上容易ノ事ニ非ス就中要存林野ハ治水其ノ他ノ關係上最保護ノ周到キ期スルノ要アルヲ以テ經費ノ許ス限リ漸次重要ナル箇所ヨリ着手シ森林保護區山林監守所及巡查出張所ヲ置キ又舊陵園墓所屬ノ森林ニハ便宜朝鮮人囑託及山林監守補ヲ置キ其ノ他ノ林野ニ對シテハ普通警務官憲ヲシテ地方長官ノ命ヲ奉シ保護ヲ行ハシメツツアリ尙區分調査ノ進行ニ伴ヒ地元

人民ヲシテ森林令第十條ニ依リ保護ノ責ヲ負ハシムルニ至ラハ其ノ實ヲ舉クルヲ得ム

大正四年三月末日現在ノ保護機關及其ノ所管國有林野ハ左ノ如シ

森林保護區	箇所數	保護面積	一箇所平均面積
山林監視所	二〇	二八〇、〇〇〇 <sup>町</sup>	一四、〇〇〇 <sup>町</sup>
巡査出張所	一四	一八〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
舊陵、岡、窪所屬森林保護區	二一	一〇、〇〇〇	二、五〇〇
計	五七	四七三、〇〇〇	八、三〇〇

尙區分調査ノ進捗ニ伴ヒ保護區又ハ監視所ヲ増設シ此等森林保護上遺憾ナカラシムコトヲ期ス

森林保護區内ニ存スル不要存林野ニ對シテハ當該保護吏ヲシテ保護ヲ爲サシメ造林貸付地及部分林ニ對シテハ地方長官監督ノ下ニ各造林者ヲシテ保護ノ任ニ當ラシメツツアリ

私有林野ノ保護ニ關シテハ森林令ニ於テ特ニ森林犯罪ニ關スル罰則ヲ設ケ

一方稜其ノ他ノ保護組合ヲ設ケシメ共同保護ヲ勸奨シ尙火災蟲害等ノ保護ニ關シテハ地方官憲ヲシテ監督取締ノ任ニ當ラシメ必要ノ場合ニハ強制シテ此等ノ保護ニ從事セシメツツアリ古來林野ノ所有關係甚曖昧ニシテ愛昧ノ思想發達セサリシカ近來調査處分ノ進捗ニ伴ヒ漸次權利關係ノ確定ヲ見ルニ至リ加フルニ當該官憲ノ獎勵指導其ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ一般森林ノ保護保有ハ其ノ面目ヲ一新セリ

保安林ノ編入ハ必要已ムヲ得サルモノニ限ルコトトシ普通ノ措置トシテハ經濟的ニ林業ヲ經營シ濫伐暴採ニ陥ラサル程度ニ於テ保安ノ目的ヲ達スルコトヲ期シ禁止制限ハ成ルヘク寛大ノ方針ヲ執ルコトトセリ明治四十一年度以降保安林編入ヲ行ヒタルモノ左ノ如シ

編入箇所 編入面積	明治四十一年度	同四十二年度	同四十三年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度	計
保安林	七九	七八	—	六	一六	六三	六七	九一三
編入面積	二、二七九 <sup>町</sup>	七〇八 <sup>町</sup>	—	三八八 <sup>町</sup>	二、七七四 <sup>町</sup>	二、〇九八 <sup>町</sup>	一六、九四四 <sup>町</sup>	三一、五七〇

## 第六節 火田整理及松姑蠲驅除

朝鮮ノ森林ヲ荒廢セシメ且殖林ヲ妨碍スル大敵ハ火災ヲ以テ第一トス現ニ大正三年ノ如キハ一百餘萬圓ノ立木ヲ燒損枯死セシメタルノミナラス十餘萬町歩ノ稚樹及葉葉朽土等ヲ全滅セシメ容易ニ恢復シ得サル大損害ヲ與ヘタリ而シテ林野火災ノ原因明カナルモノノ内過半ハ火田火入ノ延燒ナルカ故ニ火田ノ整理ハ目下ノ急務ナリトス然レトモ此ノ事ハ鮮人古來ノ慣習ニシテ俄ニ之ヲ制止スルトキハ忽チ活路ヲ失フ者多カルヘキヲ以テ從來ノ方針トシテハ危險地ノ火入ヲ許ササルヲ主義トシ森林令ニ於テ警察官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ森林又ハ之ニ接近スル土地ニ火入ヲ爲シ得サルコトヲ規定シ各地ノ事情ニ應シテ適宜制限ヲ加ヘシメツツアルモ其ノ成績未タ見ルヘキモノナキハ遺憾トスル所ナリ依テ一層其ノ取締方法ヲ嚴密ナラシムル爲目下講究中ニ屬ス

火災ニ次ク森林ノ大敵ハ松蛄蠲ナリ現ニ毎年數十萬人ノ夫役ヲ使役シ數萬石ノ害蟲ヲ捕殺シツツアルモ大正三年ノ如キハ其ノ蔓延特ニ甚シク之カ驅除ノ爲一萬二千餘圓ノ國費ヲ支出セリ驅除ノ成績ハ左ノ如シ



幼蟲捕殺數量	大正元年度	同二年度	同三年度	計
捕殺數量	一六〇〇〇 <sub>五</sub> 四〇〇	一九九九七 <sub>五</sub> 一〇五三	六三、二七七 <sub>五</sub> 七〇〇	九九、二七四 <sub>五</sub> 一、一五三

尙大正三年度ノ松蛄蠶蔓延地タル忠清南北道京畿道平安南道及慶尙南道ニ於テハ森林令第十五條ニ依リ驅除及豫防ニ付道令ヲ發布シ強制的ニ勵行セリ而シテ將來ニ於テハ豫防方法トシテハ「アカマツ」偏重ノ慣習ヲ改メ成ルヘク針濶混濬林ヲ造成セシメ衰勢「アカマツ」林ハ漸次之ヲ伐除シテ他ノ樹種ニ改メシメ廣大ナル松林ニハ地形ニ應シテ若干ノ防蟲線ヲ設ケ其ノ線内ノ松樹ハ之ヲ伐採シテ代フルニ他ノ適樹ヲ以テセシメ又一般ノ松林ニ對シテハ從來ノ弊風タル落葉ノ採取ト過度ノ切枝トヲ制限セシムル等ノ方法ニ依ラムトス尙害蟲ノ習性其ノ他ニ付テモ研究調査スヘキ點尠カラサルヲ以テ相當ノ方法ヲ講スヘシ

# 第十六章 鑛業

三四四

## 第一節 鑛業法ノ制定及施行後ノ狀況

往時ノ朝鮮ニ於テハ鑛業行政ニ關シ何等準據スヘキ法規ナク鑛業ノ許否ヲ爲ス職司亦明確ナラスシテ中央又ハ地方官憲ハ任意ニ鑛業ノ許可ヲ與ヘ爲ニ同一ノ鑛產地ニ對シ前後數人ノ權利者ヲ生シタル事例稀ナリトセス又其ノ事業ニ對シ濫ニ課稅シ又ハ恣ニ許可ヲ取消ス等ノ爲鑛業經營者ノ權利極メテ不安固ニシテ到底堅實ナル事業ノ發展ヲ望ムヘカラサル狀態ニ在リタリ而シテ外國人ニハ鑛業ニ關係スルコトヲ許サス國民若外國人ト鑛業上ニ付契約ヲ爲スカ如キコトアレハ忽チ其ノ許可ヲ取消シ且嚴罰ヲ加ヘタリシカ日清戰役ノ後各外國人ノ要請ニ應シ日英米獨ノ各國民ニ一箇所宛ノ鑛山採掘ヲ特許シ後佛伊兩國人ニモ之ヲ豫約シタリ統監府設置後伊藤統監ハ朝鮮ノ鑛業ヲ發展セシムルニハ先ツ鑛業行政ノ刷新ヲ急務ト認ムルト同時ニ外國人特許鑛業者ノ專橫ヲ制シ且多數外國人カ前例ヲ引キテ特許ヲ要請スルヲ防止セムカ爲舊韓國政府ニ勸告シテ明治三十九年七月新ニ鑛業ニ關ス

ル法令ヲ發布シ同年九月十五日ヨリ之ヲ施行セシメ且内地人官吏ヲ招聘シテ其ノ局ニ當ラシメタリ該鑛業法ニ依リ鑛業ノ許否ハ總テ舊農商工部ノ管掌ニ歸シ許可ハ出願願ニ依ルヲ原則トシ只舊宮内府所屬鑛山ニ付テノミ例外ヲ設ケ又許可ヲ取消シ得ヘキ場合ヲ限定シテ處分ノ公平ヲ期シ且鑛業權ヲ以テ讓渡抵當ノ目的物タルコトヲ得セシメ資金融通ノ途ヲ開キ尙内外人ニ對シ均シク鑛業權享有ノ能力ヲ付與シ資金輸入・技術利用ノ機會ヲ與ヘ鑛業稅ニ關スル規定ヲ設ケテ稅率ヲ一定シ以テ從來ノ弊風ヲ一洗シタリ

日清戰役後舊韓國宮内府ハ頻ニ有望ナル鑛山地方ヲ選擇シテ帝室ノ所屬ト爲シ其ノ數五十一郡ノ多ニ達セシカ徒ニ將來ノ收入ヲ夢想シテ之ヲ採掘利用スル途ヲ講セス適奸譎ノ徒アリテ巧言ヲ進ムルトキハ容易ニ之ヲ聽キテ濫ニ廣大ナル特權ヲ付與シ他年ノ禍根ヲ貽スヲ悟ラサル狀態ニ在リタリ是ヲ以テ統監府ハ鑛業法制定ト同時ニ舊宮内府所屬鑛山ヲ全部國有ニ移サシメムト圖リシモ當時ノ事情直ニ之ヲ實行シ難カリシヲ以テ其ノ半ヲ國有トシ二十六郡ノ鑛山地方ハ暫ク舊ニ依リ舊宮内府所屬タルコトヲ容認シタルモ其ノ内舊宮内府ニ於テ直營セサル鑛山ハ一般請願者ニ之ヲ許可スルコト

ト爲シ其ノ許可ノ職權ハ舊農商工部大臣ニ保留シ以テ宮中ノ專恣ナル處分ヲ制限シ而シテ許可シタル鑛山ニ對シ賦課スル上納金ハ鑛業稅ト同一率ニ定メ舊農商工部ヲ經由シテ舊宮内府ニ上納スヘキコトヲ定メタリシカ明治四十年八月ニ至リ遂ニ全部ヲ國有ニ移屬セシメタリ  
 今鑛業法施行後大正三年迄ノ出願許可休業又ハ稼行鑛山及鑛産額ヲ表示スレハ左ノ如シ

(一) 出 願 數

年 代	業			採 取 業			合 計		
	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
明治三十九年	一五五	一五	一五	一八五	一七	—	二二二	三二	一五
同 四十年	一七二	二四	—	二〇八	三九	—	二四四	六三	—
同 四十一年	一四二	二九	四	一七五	一六	—	一八五	四五	四
同 四十二年	二二〇	一五八	一四	三九二	五七	—	二六三	二一五	—
同 四十三年	三四一	三八六	三〇	七五七	一七四	—	四三六	五六〇	—
同 四十四年	三〇九	一九五	二一	五二五	九六	二	四三六	五六〇	三五
大正元年	三三四	一五二	一三	四九九	六三	—	三九七	二〇七	二九
同 二年	三五五	一七八	五	五三八	三五	—	三八五	二一五	一〇
同 三年	三三二	一三二	四	四七〇	二六	—	三五八	一八〇	四
計									
	一八五	七二	七四	二二二	三二	一五	二五九	三一九	二三四
	二〇八	七二	—	二八〇	六三	—	三四三	一二	—
	一七五	一六	—	一九一	四五	—	二四〇	四	—
	三九二	五七	—	四四九	一〇〇	—	五四九	一四	—
	七五七	一七四	—	九三一	二七四	—	一二〇五	三五	—
	五二五	九六	二	六二一	一六七	—	七八八	二九一	—
	四九九	六三	—	五六二	三五	—	六一九	二〇七	—
	五三八	三五	—	六三三	三五	—	七一九	二〇七	—
	四七〇	二六	—	四九六	二六	—	五二二	二〇	—



總計	外國人		朝鮮人		內地人		金銀鐵	銅	鐵	鐵	黑鉛	石炭	雜	砂	鐵	合
	休	稼	休	稼	休	稼										
三五七	一三九	一一	一三九	四三	二〇七	九四										
一九	一	三	一	四	一	一										
九一	一六				八二	一六										
八九	一四	六		一	六六	一三										
五八	一一				四七	一一										
六五	一三	一		六	五八	一三										
二〇四	四一	四		一	二〇	九										
八八三	二三五	二五		一五	二八四	一五六										

(四) 稼行及休業鑛區數

大正三年十二月末日現在

合計	砂		雜		石		黑		鐵		鐵		內地人	朝鮮人	外國人	計
	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵	鐵				
七三〇	一一	七一	五八	七九	九八	一二										
三三八	一一八	六	一一	一八	九	四										
四〇	一六	一	六	四												
一一八	二四五	七八	六九	一〇三	一〇七	二〇										

(五) 鑛產額

年次	金銀鑛	銅鑛	鐵鑛	黑鉛	石灰	雜	砂金	計
明治四十年	三,五〇八,一九七	九,〇四一	七,二〇〇	一五,五一八	一三,一七八	四,四二八	八四,五四九	二,六三三,〇八〇
同四十二年	二,五七四,四六一	二,七二七	三七五,〇九二	一五,二七八	二二,三三八	七三九	二四三,五七〇	三,五六九,〇七六
同四十四年	三,三三三,八六八	二,四八八	三二七,六一三	一八,一七四	二五,五八六	—	五二六,九六四	五,八七,六一五
同四十四年	四,二六一,一三五	—	四二一,四六二	一五,三四七	三,八八,七八一	—	八二一,六〇九	六,〇八七,九五二
同四十四年	四,八二二,〇四三	六,八四一	—	一六,九八八	五,三九,四九七	—	六三三,五九一	六,一八六,一八五,九五八
大正元年	五,一四三,三三五	六,六四一	二〇一,八四五	二三四,七九九	五五七,八〇一	—	六七〇,六九三	六,八一五,一二三
同二年	六,六一三,三六六	三,七三三	二二三,九七四	二五二,八六三	五七〇,一五七	—	九七〇,二〇五	八,一九七,五二一
同三年	六,六九三,五三三	一,七〇五	二六七,六〇六	一一二,一七八	七三九,七九一	—	五七五,三五〇	八,四〇二,六四九

(六) 大三年鑛產額內鮮人及外國人別

地域	金銀鑛	銅鑛	鐵鑛	黑鉛	石灰	雜	砂金	計
內地人	二二五,二〇三	一一一	二六七,六〇六	一一七,七一八	七三九,七九一	二,四八六	三,五,五七五	六,六八八,四九〇
朝鮮人	二二七,二一六	—	—	四,四六〇	—	—	七八,八八三	三一〇,五五九
外國人	六,六九三,五三三	一,五九四	—	—	—	—	一八〇,八九二	四,二二三,六〇〇
總計	六,六九三,五三三	一,七〇五	二六七,六〇六	一二二,一七八	七三九,七九一	二,四八六	五七五,三五〇	八,四〇二,六四九

鑛産物ハ朝鮮ニ於テ消費セラルルモノ極メテ僅少ニシテ多クハ輸移出セラ  
 ルル現状ナリ今輸移出價額ヲ見ルニ明治四十年即チ鑛業法施行ノ翌年中主  
 要鑛物タル金銀銅鐵黑鉛及石炭ノ輸移出價額ハ四百八十餘萬圓ニ過キサリ  
 シモノ八年後ノ大正三年ニ至リテハ一千一百三十餘萬圓ニ達セリ累年ノ統  
 計ヲ掲クレハ左ノ如シ

	金	銀	鑛	鐵	鑛	黑	鉛	石	炭	計
明治四十年	四、六八三、六四四	六〇、一〇七	五、一七五	六	一九、三八九	一五、九六八	四、八三〇、八六六			
同 四十一年	四、九七一、八九五	七四、七七二	一六二、八八三		九六、九三五	四五、三二六	五、三五一、八一〇			
同 四十二年	六、四四一、六一三	六四、一八一	二四九、〇六四		一五〇、九七五	二二三、三九五	七、一二八、七九〇			
同 四十三年	九、九二九、七八六	六、三五七	三三九、八八一		一一四、二〇六	三八二、四一九	一〇、三五二、六二九			
同 四十四年	九、三六九、一五四	七八八	二七八、六九二		一三二、二九九	三七六、四二七	一〇、一五七、五六〇			
大正元年	九、四四八、四六四	三、〇七九	三一一、六八八		一六五、二七九	三三四、三八一	一〇、二六二、七八七			
同 二年	一〇、三七八、八一四	一	三四八、五九二		二四八、八五八	三九七、七九七	一一、五三四、〇六一			
同 三年	一〇、二四四、九二八	一	四一八、四四四		一九二、一八七	四五八、二八四	一一、三一五、七〇三			

前記鑛産届出額ト輸移出額トノ間ニ毎年著シキ差異アルハ主トシテ金銀ノ  
 産出額ニ關スルモノニシテ其ノ主因ハ密採取及届出ノ不正確ニ依ルモノト  
 認メラルルカ取締ノ普及ニ伴ヒ逐年差異遞減ノ趨勢ヲ示セリ



## 第二節 鑛床調査及試掘

朝鮮ニ於ケル鑛床賦存ノ状態ヲ明カニシ鑛業ノ開發ニ資スル目的ヲ以テ明治四十四年度ヨリ毎年臨時ニ鑛床調査ヲ施行シ大正三年末迄四箇年間ニ於テ左ノ地方ヲ調査シ終リタリ

平安北道平安南道黃海道咸鏡北道咸鏡南道京畿道及江原道一圓

忠清北道永同郡及堤川郡ノ一部

忠清南道青陽郡洪城郡及舒川郡ノ一部

慶尙北道尙州郡ノ一部

慶尙南道昌原郡及咸安郡ノ一部

全羅北道全州郡

如上調査ノ結果各地方ニ於テ幾多重要ナル鑛床ノ賦存スルヲ認メタルモ其ノ大部分ハ未タ採鑛ニ著手セス又ハ鮮人ノ姑息幼稚ナル操業ニ委セリ鑛種ハ金銀ヲ最主要ナルモノトシ鐵無煙炭銅鉛亞鉛黑鉛褐炭硫化鐵之ニ亞キ尙重石水鉛水銀錫鑛石綿雲母滑石等アリ又裝飾用材トシテハ朝鮮玉大理石等

アリ主要ナル鑛産地方ヲ舉クレハ金銀ハ平安北道ニ於テ義州朔州昌城宣川  
龜城雲山寧邊ノ各郡平安南道ニ於テ平原順川ノ兩郡黃海道ニ於テ遂安延白  
ノ兩郡咸鏡南道ニ於テ新興安邊永興ノ各郡慶尙北道尙州郡京畿道ニ於テ楊  
平驪州ノ兩郡忠清北道永同郡忠清南道ニ於テ青陽洪城ノ兩郡等著シク鐵ハ  
平安南道价川郡黃海道ニ於テ安岳殷栗載寧海州黃州ノ各郡江原道ニ於テ旌  
善三陟ノ兩郡ヲ主要地方トシ其ノ鑛量頗ル多大ナリ無煙炭ハ平安南道ニ於  
テ大同价川順川德川孟山ノ各郡ニ敷延スルモノヲ以テ主ナルモノトシ尙江  
原道三陟郡ニ於テ稍大ナル地域ヲ占ムルモノ之ニ次キ前途大ニ望ヲ囑スル  
ニ足ルヘシ銅ハ咸鏡南道甲山郡咸鏡北道會寧郡慶尙南道昌原郡平安北道厚  
昌郡等ニ於テ見ルノミナリト雖甲山郡ノ鑛床ハ其ノ品位竝鑛量ニ於テ朝鮮  
銅山中ノ白眉タルヘシ鉛及亞鉛ハ平安北道寧邊郡咸鏡南道端川郡等ニ於ケ  
ルモノ囑望スヘク黑鉛ハ平安北道ニ布衍セル結晶質黑鉛及咸鏡南道永興郡  
及定平郡忠清北道沃川郡慶尙北道尙州郡江原道江陵郡ニ於ケル土狀黑鉛ヲ  
以テ主要ナルモノトス褐炭ハ平安南道安州郡及朝鮮東海岸ニ沿ヒ處處ニ散  
在セルモノアリ其ノ質良好ナリト謂フヲ得スト雖鑛量ノ多大ナルト運搬ノ

便利ナルトハ之ヲ償ウテ餘アルヘシ硫化鐵ノ著シキモノハ黃海道黃州郡平安北道龍川郡咸鏡南道文川郡ニ在リ尙稀金屬ノ鑛物ニ就テハ重石鑛ノ江原道金剛山附近及忠清南道青陽郡ニ存スルモノ望ヲ囑スヘク其ノ他發見セラレタルモノ少カラス水鉛鑛モ重石鑛ト共生スルモノ處處ニ發見セラレタリ又咸鏡南道端川郡ハ雲母及朝鮮玉ノ主要ナル產地ニシテ雲母ハ將來漸次利用セララルルニ至ルヘク玉ハ其ノ美觀ヲ呈スルト大材ノ得易キトニ依リ技術ノ進歩ト共ニ益其ノ事業ノ振興ヲ見ルニ至ルヘシ明治四十四年鑛床調査開始以來調査ノ結果ハ時時印刷ニ付シ之ヲ發表セリ

鑛床調査ノ結果有望ト認メ大正二年三月十二日日本府告示第五十九號ヲ以テ官ニ保留シタル鑛山地域ニ於テ鑛床ノ良否多寡ヲ確知シ以テ經營方法ヲ定メムカ爲先ツ二箇年間金鑛床ノ試掘ヲ行フニ決シ尙州義州及新興ノ三箇所ニ鑛務課出張所ヲ設ケ大正三年六月ヨリ之カ試掘ニ着手セリ尙州試掘區域ハ約二十五方里ニ亘リ大正三年末迄ニ地表探鑛ヲ了ヘタル鑛脈一百二十八條其ノ總延長二十三萬九千六百六十尺坑道掘進總延長一千五百二十八尺ニ達セリ義州試掘區域ハ約三十四方里ニ亘リ大正三年末迄ニ發見セル鑛脈一

百餘條坑道掘進ニ依リ地下探鑛ヲ行ヘルモノ五十七條其ノ坑道總延長三千五百九十八尺地表探鑛ニ依リ掘割ヲ施セルモノ二十九萬六千六百六十六立方尺ニ達セリ新興試掘區域ハ咸興郡及新興郡ニ跨リ最長距離東西十二里半南北十七里ニシテ其ノ面積約一百四十方里ニ達ス大正三年末迄ニ發見シタル鑛脈ノ露頭ハ約六百箇所其ノ内試掘ニ値スル鑛脈約五十條試掘坑道ノ掘進ハ一千七百三十三尺ナリ

### 第三節 主要鑛山ノ概況

朝鮮ハ金鑛山最多ク無煙炭鐵及黑鉛鑛山之二次ク金鑛山ノ最タルモノハ米國會社東洋金鑛會社ニ屬スル平安北道雲山之二次クモノハ同シク米國會社漢城鑛業會社ニテ經營セル黃海道遂安鑛山ニシテ朝鮮產金總額ノ約五割ハ此ノ兩鑛山ノ產出ニ係ル佛國人ノ昌城鑛山及米國會社所屬稷山鑛山モ亦將ニ大規模ノ操業ニ移ラムトセリ又現時試掘中ナル古河合名會社ノ龜城鑛山モ將來相當ノ規模ヲ有スル主要鑛山タルニ至ルヘシ無煙炭ハ朝鮮ニ於ケル主要且特有鑛產物ノ一二屬シ其ノ優良ナル品質ト豐富ナル炭量ト相俟チテ

將來莫大ナル需用ヲ増加シ朝鮮各種工業ノ發展ヲ促進スルニ至ルヘシ平壤無煙炭田ハ朝鮮總督府平壤鑛業所ノ經營ニ屬シ現時採掘額ノ九割ハ之ヲ德山海軍煉炭所ニ送給セリ此ノ外無煙炭田ハ价川順川德川孟山ノ諸郡ニ布衍セリ鐵ハ三井鑛山株式會社所屬平安南道价川鐵山三菱合資會社所屬黃海道載寧及黃州鐵山農商務省所屬黃海道殷栗及載寧鐵山麻生鑛業合資會社所屬安岳鐵山ヲ最著名トス現在ニ於テハ唯載寧殷栗及安岳鐵山ヨリ約十六七萬噸ヲ八幡製鐵所ニ供給スルニ過キサレトモ以上鑛山ノ外海州利原北靑及江西等ニモ有望ナル鐵鑛散在セルヲ以テ兼二浦三菱製鐵所本溪湖製鐵所等ノ需用アルニ至ラハ產額著シク増加スヘシ黑鉛ハ平安北道ニ布衍セル結晶質黑鉛及咸鏡南道永興定平ノ二郡忠清北道沃川郡慶尙北道尙州郡ニ於ケル土狀黑鉛ヲ以テ主要ノモノトス主トシテ内地ノ鑛業家ニ依リ採掘セラレ結晶質黑鉛ハ全部内地ノ需用ニ供シ土狀黑鉛ハ主トシテ海外ニ輸出ス銅ハ甲山銅山ノ外現時ニ於テハ未タ望ヲ囑スヘキモノヲ見ス亞鉛ハ藤田組ノ經營ニ屬スル寧邊郡蘇民黑鉛鑛山ヲ最トシ諸處ニ發見セラレ内地亞鉛製鍊所ノ需用ヲ充タシテ餘アリ金銀銅鉛及亞鉛ノ混合鑛ハ現時稼行セラルルモノ極メ

テ稀ナリト雖南鮮地方ニハ多ク賦存スルカ故ニ朝鮮ニ於ケル乾式製鍊ノ發  
達ト共ニ之カ開發ヲ見ル遠キニ非サルヘシ

# 第十七章 水 産 業

## 第一節 施設ノ大要

朝鮮ハ沿海線ノ延長六千餘海里ニ達シ其ノ間魚介海藻ニ富ムト雖水産業ハ尙幼稚ノ域ヲ脱セサルヲ以テ總督府設置以來其ノ發達ヲ圖ラムカ爲先ツ漁業ノ秩序ヲ維持シ水産物ノ蕃殖保護ヲ圖ル目的ヲ以テ必要ノ法規ヲ設ケ之ト同時ニ漁具漁船及漁法ノ改良進歩ヲ圖リ漁業者ノ知識技能ヲ發達セシメ水産ニ關スル調査及試験ヲ行フテ遺利ノ開發ニ努メ内地人漁業者ノ移住・内鮮人漁業者間ノ統一融和及漁村ノ維持發達ヲ圖リ水産業者ノ共同利益ヲ増進シ更ニ漁船避難所ヲ修築シテ漁業ノ安全ヲ期シ水産物ノ處理販賣方法ノ改善ト關係機關ノ普及發達トヲ圖リ且漁業者ノ副業及貯蓄ヲ獎勵スル等諸般ノ施設經營ニ力ヲ盡シタリ而シテ今日迄實施セル所ハ前記事項中主トシテ消極的施設ニシテ積極的經營ニ至テハ未タ十分ナラサルモノアリト雖尙其ノ效果著シキモノアリ

## 第二節 漁業法令ノ制定

三五八

明治四十二年舊韓國政府時代ニ於テ統監府指導ノ下ニ漁業法及附屬法規ヲ制定實施セシカ不備ノ點猶尠カラサルヲ以テ明治四十四年六月制令第六號ヲ以テ新ニ漁業令ヲ制定公布シ同時ニ府令ヲ以テ漁業令施行規則其ノ他ノ附屬法規ヲ發布シ同四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行シタリ新法令ニ於テハ免許漁業中特ニ水面專用免許ノ制ヲ設ケテ漁村ノ維持經營ノ資ニ供セシメ又免許漁場ノ隣接水面ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ禁止又ハ制限シ漁業ノ秩序及公益ヲ一層確實ニ保持シ又許可漁業中特定ノ種類ヲ除クノ外ハ總テ其ノ處理ヲ地方長官ノ權限ニ移シ以テ漁政ノ運用ヲ便ナラシメタリ免許漁業ノ出願處分ハ獨リ漁業者ノ利害休戚ニ關スルノミナラス公益上至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ特ニ慎重ノ審議ヲ重ネ左ノ方針ヲ以テ處分シ來レリ

一 專ラ慣行ヲ重シ從來占用セル漁場ハ其ノ慣行者ニ免許スルコト

二 土着漁民ノ生計及授産上將來必要ト認ムル漁場ハ專ラ當該漁民ニ免許



シ或ハ之ヲ留保シ漫ニ他ノ出願者ニ免許セサルコト

三 個人獨占ノ弊ヲ生セサラシメムカ爲同一人ノ出願ニ係ル數多ノ漁場ハ慣行又ハ既得權利ヲ有スルモノノ外ハ之ヲ免許セサルコト

四 慣行ナキ漁場ニシテ數多ノ競願者アル場合ニ在リテハ競願者中資格ノ優越ナル者ニ免許スルカ又ハ合同若ハ使用ノ順序ヲ定ムル等將來ノ紛爭ヲ避クルニ適切ナル方法ヲ定メ之ヲ處分スルコト

五 内地ノ府縣水産組合其ノ他ノ團體的組織ニ依ルモノノ出願ト個人出願トノ競願アル場合ノ如キハ團體的組織者ヲ以テ優越ト認ムルコト

六 從來村民共同シテ從事セル漁業又ハ海藻採收ノ如キハ其ノ地元漁民一同ニ免許スルノ趣旨ヲ採リ一部漁民ノ獨占ヲ排スルコト

七 慣行ナキ漁場ニ對スル出願ニシテ他ニ競願者ナク且其ノ資格適當ナリト認ムル場合ニハ他ノ事業若ハ公益ニ障害ヲ及ホササル限り之ニ免許ヲ與フルコト

明治四十二年舊漁業法施行當初ニ於テハ内鮮人漁業出願者ノ多クハ漁業權ノ獲得ニ專ニシテ自營ノ觀念ニ乏シク一般ニ投機的傾向ヲ示セシト雖爾後

其ノ處分ヲ前記方針ノ下ニ實行シタル以來不著實ナル出願者八年ト共ニ減少シ漁業ノ經營漸次著實トナレリ

明治四十二年以降ノ漁業免許出願及處分件數ハ左ノ如シ

年	出願件數		免許件數		計
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	
明治四十二年	三二七	二二八九	五〇	三四	一六四
同四十三年	一〇七二	二、一六一	二〇二	三一六	五七〇
同四十四年	三八五	七四二	三一一	八二一	一一五三
大正元年	五九〇	七九三	四六〇	五九三	一、〇七八
同二年	五〇〇	一、三八五	四二五	一、四九九	一、九六三
同三年	四二四	一、〇九五	一八五	五九九	八一六
合計	六、二四二	八、四六五	一、〇七四	三、八六二	五、七四四

水産物ノ蕃殖保護ニ付テハ漁業令ト同時ニ府令ヲ以テ漁業取締規則ヲ發布シ濫獲酷漁ニ涉ル漁具漁法ヲ禁止シ重要漁獲物ニ付漁場漁期及其ノ體長ニ一定ノ制限ヲ加ヘタリ又有毒物爆發物ヲ使用スル漁業ハ漁族ノ蕃殖ニ慘害ヲ及ホスコト甚シキヲ以テ明治四十四年海上警備機關ヲ擴張シ翌四十五年

漁業取締規則ヲ改正シ違反者ノ制裁ヲ重クシ更ニ大正三年一月重ネテ之ヲ改正シ一層其ノ制裁ヲ重クセリ

「トロール」漁業ハ朝鮮内ニ於テハ一切之ヲ許可セサルノ方針ヲ採レルモ農商務省ノ許可ヲ受ケタル「トロール」漁船中朝鮮ノ禁止區域ヲ侵シ沿岸漁民ノ操業ヲ妨クルノミナラス漁業ヲ攪亂シ産卵蕃殖ヲ害スルモノアルヲ以テ大正元年及大正二年ニ於テ漁業取締規則ヲ改正シテ禁止區域ヲ擴張變更シ一方ニ於テ農商務省ト交渉シ從來同省ニ於テ許可シタル「トロール」船ニ對シ操業區域中朝鮮海ヲ削除シ尙同省ノ取締船ヲ以テ主トシテ朝鮮海ノ監視ニ當ラシムルコトトセリ又一時捕鯨會社ノ増設ニ伴ヒ漸ク濫獲ノ弊ヲ馴致セシニ由リ明治四十年舊韓國政府ニ於テ捕鯨業管理法ヲ發布シ漁期根據地漁法等ヲ制限セシカ未タ完カラサル所アルヲ以テ漁業令及漁業取締規則中特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケ且捕鯨船數ヲ制限シ既許可當業者ノ外新ニ之ヲ許可セサルノ方針ヲ採レリ現在捕鯨業ヲ許可セルハ東洋捕鯨株式會社及日韓捕鯨株式會社ノ二會社ニシテ其ノ根據地ハ五箇所捕鯨船數ハ十二隻ナリ尙舊韓國政府時代支那密漁船朝鮮西海岸ニ出沒シ蝦鱒・石首魚・太刀魚等ノ密漁ヲ事

トシ朝鮮漁業者ノ利權ヲ侵害スルコト尠カラサリシカ明治四十三年以來警戒取締ヲ厲行セシ結果殆ト其ノ跡ヲ絶ツニ至レリ又近時内地人漁業者ニシテ名ヲ支那漁夫ノ雇傭ニ藉リ支那密漁船ヲ朝鮮沿海ニ誘致シ不正ノ利ヲ貪ラムトスル者ナキニ非サルヲ以テ嚴ニ戒飾ヲ加ヘツツアリ

### 第三節 漁具漁船及漁法ノ改良

#### 竝水産調査及試験

漁具漁船及漁法ノ改良進步ヲ圖リ漁業者ノ知識技能ヲ增進セシムルハ水産業ノ發達ヲ圖ル爲最主要ノ施設ナルヲ以テ沿海各道ヲシテ地方費及臨時恩賜金ノ事業トシテ其ノ改良獎勵ニ努メシメ地方費ニ對シテハ毎年國庫補助金ヲ交付シタリ之ニ依リ關係各道ハ事業ノ種類ヲ定メ延繩一本釣・鮫・鰈・網・流網・刺網・手繰網ノ如キ簡易ニシテ且有利ナル漁具ニ依ル漁法及是等漁具ノ製作、海苔ノ養殖又ハ製造、魚類ノ鹽藏又ハ乾製方法等ノ傳習ヲ行ヒ又一般水産ニ關スル臨時ノ講習講話簡易ナル學術教授若ハ水産養殖改良漁法ノ試験ヲ實施シ尙改良漁具・漁船購入者ニ對スル補助金ノ交付若ハ是等現品又ハ製作

材料ノ無償交付、海苔輸出向鹽鯖又ハ罐詰等ノ製造業者ニ對スル補助金ノ交付等ヲ施行シ又水産傳習終了者ニ對シテハ漁具・漁船ノ購入費ヲ補助シ若ハ漁具・漁船又ハ其ノ製作用具ヲ給付シ以テ地方斯業者ノ模範タルヲ期セシメタリ之カ爲朝鮮人漁業者中内地式漁具・漁法ニ依ル者年ト共ニ増加シ隨テ漸次其ノ所得ヲ加ヘ南鮮一部ノ地方ノ如キハ其ノ漁獲成績内地人漁夫ニ比シ多ク遜色ヲ見サルニ至レリ尙將來適當ノ時機ニ於テ簡易ナル常設水産講習所ヲ設ケ漁撈製造及養殖ノ實地作業ヲ教工兼ネテ水産ニ關スル學術的知識ノ大要ヲ修得セシメムトス

今各道地方費及臨時恩賜金ノ歳出豫算及朝鮮人漁業者ノ使用セル内地式漁具・漁船ノ種類數量ヲ示セハ左ノ如シ

明治四十四年度 大正元年度 同二年度 同三年度	地方費及臨時恩賜金水産改良獎勵事業費豫算		計	地方費ニ對スル國庫補助金
	地方費豫算額	恩賜金豫算額		
同三年度	四〇,二六七	三一,八四五	七二,一二二	一〇,〇〇〇
同二年度	三四,四四五	二八,九二四	六三,三六九	一〇,〇〇〇
大正元年度	三六,二〇九	三三,五〇六	五九,七一五	八,七〇〇
明治四十四年度	二六,二七七	二九,〇〇三	五五,二八〇	一〇,七五〇



鴨綠江ニ至ル一帶ノ沿海ニ於ケル同一調査ヲ行ヒ又農商務省水産講習所ト聯絡シ大正元年十二月ヨリ大正二年三月ニ亘リ釜山近海ニ於ケル海洋ト朝鮮海ノ重要水産物タル鱈ノ移動トノ關係ニ付調査ヲ施行シ共ニ發明スル所尠カラス水産試験ハ漁撈製造及養殖ノ三部ニ分チテ施行セリ漁撈ニ付テハ西海岸ニ於テハ蝦蟇石首魚太刀魚東海岸ニ於テハ蟹鱚柔魚夏鯨南海岸ニ於テハ大鰻ノ漁場ノ探檢及漁法ノ試験ヲ行ヒ製造ニ付テハ寒天製造ヲ主トシ其ノ他玉珧貝ノ煮乾乾蝦及鱈ノ製造ヲ研究シ養殖ニ付テハ鮭ノ人工孵化試験ヲ行ヒタリ今其ノ施行方法及成績ヲ詳述スレハ左ノ如シ

#### 一 漁撈試験

(一) 蝦漁撈試験 蝦族ハ朝鮮西海岸ニ饒産スルモ内鮮人共ニ其ノ漁場及漁法ニ精シカラス加之同沿岸ニ於テ嘗テ支那密漁者ノ使用シタル支那式漁法ハ徒ニ多大ノ勞力ヲ要シ到底内鮮人漁業者ノ操作ニ適セサルヲ以テ其ノ主要産地タル西朝鮮灣内ニ於ケル清川江大同江及鴨綠江ノ河口沿岸及其ノ沖合ニ於テ新式漁具ヲ用井大正元年度及大正二年度ノ二箇年度間漁場ノ探檢及漁法ノ試験ヲ行ヒ數多ノ好漁場ヲ發見スルト共ニ鮫鱓網ヲ用

ウル新漁法カ支那式漁法ニ比シ遙ニ有利ナルヲ實驗シ斯業者ニ好模範ヲ示シタル結果トシテ大正二年ノ漁期ニハ此ノ新漁法ニ依リ出漁スルモノ三十餘艘大正三年ノ漁期ニハ更ニ七十餘艘ニ増加シ將來益該漁業發達ノ趨勢ヲ示セルヲ以テ該方面ノ試驗ハ大正二年度限り打切り大正三年度以降ハ黃海道以南全羅南道木浦附近ニ於ケル一帯ノ沿海ニ於テ他ノ漁撈試驗ヲ兼テ前年度來ノ試驗ヲ續行ス

(二) 鯛・石首魚・太刀魚漁撈試驗 鯛モ亦西海岸ニ多産スルモ嘗テ支那人ノ密漁セルモノアルノ外内鮮人共ニ其ノ漁場及漁法ヲ熟知セサルヲ以テ之ヲ明カニシテ該漁業ノ開發ヲ圖リ又石首魚及太刀魚ハ現ニ西海岸ニ於ケル重要水産物タルモ現在ノ漁場以外尙好漁場少カラサル見込アルヲ以テ之ヲ開拓シテ其ノ産額ヲ増大ナラシムトシ蝦ノ試驗ト共ニ黃海道以南木浦附近ニ至ル一帯ノ沿海ニ於テ大正三年度ヨリ該魚族ノ漁場探檢漁法ノ試驗ヲ行ヒ鯛ニ付テハ略其ノ回游去來ノ狀況・漁期及漁法ヲ明カニスルヲ得又京畿道沖合長峰水道及牙山灣等ニ於テ石首魚・鮠・太刀魚・鰈等ノ好漁場ヲ發見シ又蘇魚ノ將來有望ナル漁獲物ノ一タルコトヲ併セテ發見セリ



(三) 蟹漁撈試驗 罐詰トシテ貿易品中重要視セララルル「タラバ」蟹ハ東海岸ニ  
棲息スルモ其ノ漁場及漁獲數量等未タ不明ニ屬スルヲ以テ同方面ニ於ケ  
ル該魚族棲息狀態ヲ詳カニセムトシ先ツ慶尙南道ノ一部・慶尙北道及江原  
道ノ沿海ヨリ漸次北鮮沿海ニ及ホサムトシ大正二年度以降本試驗ヲ施行  
ス而シテ過去兩年度ノ試驗ニ依リ該方面ニ於ケル蟹ノ去來ノ方向ニ付略  
之ヲ認知スルヲ得タルモ未タ顯著ナル事績ヲ舉クルニ至ラス

(四) 鱈手釣法試驗 東海岸ニ於ケル現在ノ鱈漁法ハ擬餌釣ニ依ル曳繩釣ニ  
シテ朝夕二回ノ短時間ノ操業ニ限レルヲ以テ日中手釣法ヲ行ヒ同一漁場  
ヲ有利ニ使用セシムトシ大正二年度ニ於テ蟹漁撈試驗ノ傍本試驗ヲ行  
ヒ地方漁業者ヲシテ有利ナル一種ノ漁法ノ存在スルコトヲ認知セシムル  
ヲ得タリ

(五) 柔魚釣試驗 慶尙北道及江原道近海ニ於テハ夏秋ノ交漁業少ク同方面  
ニ於ケル漁業者ノ苦慮スル所タリ然ルニ八九月ノ頃同近海ニ柔魚ノ來游  
ヲ認メタルヲ以テ鬱陵島ニ於テハ毎年十萬圓以上ノ漁獲アリ該魚族ノ漁  
利ヲ明カニシ有利ナル新漁業ヲ起サムカ爲ニ大正三年度中本試驗ヲ施行

セリ漁獲物ハ直ニ鰯ニ製造シ範ヲ實地ニ示シタルニ其ノ成績良好ナリシヲ以テ地方漁民ノ注意ヲ喚起シ新ニ該漁業ヲ試ムル者アルニ至レリ

(六) 夏鯧ノ接息探檢 鯧ハ慶尙北道沿海ニ於テ冬季盛ニ漁獲セラレ東海岸ニ於ケル重要水産物ノ一タリ而シテ該道沖合ニハ夏季尙之カ接息ヲ認ムルヲ以テ其ノ状態ヲ明カニスルノ必要ヲ認メ大正三年度ヨリ夏鯧ノ接息探檢ニ著手ス同年度ノ成績ニ於テハ該沿海沖合ニ於ケル接息ノ位置ヲ知ルヲ得タリシモ其ノ疎密及分布ノ區域等ニ至リテハ未タ之ヲ詳カニスルヲ得ス

(七) 大鯧接息探檢 大鯧ハ近ク山口縣及對州ニ多産シ朝鮮ニモ移入セラル然ルニ朝鮮ニ於テハ小鯧ノミ饒産シ大鯧ニ至テハ從來其ノ漁獲ヲ見サリシカ近來慶尙南道沖合ニ於テ該魚族ノ他ノ魚族ト共ニ混漁セララルモノアルヲ以テ大正三年度ヨリ之カ接息探檢ニ著手ス同年度ノ試驗ニ於テハ未タ成績ノ見ルヘキモノナシ

## 二 製造試驗

(一) 寒天製造試驗 寒天製造原料タル石花菜ハ朝鮮ニ於ケル重要海産物ノ

一ナルニ拘ラス從來原藻ノ儘悉ク内地ニ移出セラレ絶エテ寒天ノ製造ニ著手シタル者ナキヲ以テ朝鮮ニ於テ之ヲ製造シ製品トシテ支那及歐洲ニ輸出スルノ途ヲ講スルハ朝鮮産業ノ開發ニ資スル所大ナルヘキヲ認メ大正元年慶尙北道大邱府管内ニ寒天製造試驗場ヲ設置シ同年度ニ於テ試製品七百二十五斤ヲ得之ヲ大阪市場ニ送致試賣シタルニ其ノ品質價格内地製品ニ比シテ遜色ナキコトヲ認メ大正二年度ニ於テ更ニ全羅南道長城郡管内ニ試驗場一箇所ヲ増設シ前年度ヨリ一層優良ナル寒天ヲ製造シ朝鮮ノ氣候力寒天ノ製造ニ好適シ又其ノ水質力原藻ノ漂白ニ決シテ不適當ナラサルコトヲ一般ニ確認セシメ既ニ大正二年ニハ民間實業家ニ於テ慶尙南道密陽ニ大規模ノ寒天製造所ヲ起シ相當ノ成績ヲ收メ大正三年度ニ於テハ更ニ慶尙南道梁山及馬山ノ二箇所ニ於テ寒天製造所ノ民間起業ヲ見ルニ至レルヲ以テ本府ノ試驗ハ同年限り之ヲ廢止シ民間ノ事業ニ移セリ

(二) 玉珧貝ノ製造試驗 玉珧貝ハ全羅南道麗水海峽ニ饒産シ其ノ貝柱ノ乾製品ハ支那輸出品トシテ有望ナルニ拘ラス從來製法完カラス利用ノ途不十分ナルヲ以テ大正三年煖乾製造ヲ試ミ好成績ヲ收メ之ヲ當業者ニ傳ヘ

完全ナル製品ノ産出ヲ見需要地ニ於ケル價格ヲ高メ需要ヲ増加セシムルヲ得タリ

(三) 鰻製造試験 柔魚ノ漁撈試験ニ件ヒ行フ支那輸出向適當品ヲ製造スルヲ目的トス

(四) 水産試験製品需用調査 上記水産試験製品中寒天及玉珧貝ニ付外務省ヲ經テ奉天・天津・芝罘・上海・廣東・香港及福州ニ於ケル在帝國總領事又ハ領事ニ委託シ(一)現品ニ對スル見込價格(二)形態其ノ他製造方法ノ適否(三)適當ナル容器及荷造方法(四)嗜好上ノ批判(五)主要ナル需用地需用期節及消費見込數量(六)最簡便ナル販賣取引方法等ニ付調査シ滿洲及支那輸出ノ有望ナルコトヲ確メ得タリ又鰻ニ付テハ支那人ノ嗜好ノ適否其ノ他略上記ト同様ノ事項ニ付京城・平壤・安東縣・奉天等ニ於ケル需用調査ヲ爲シ製造法ノ改良資料トセリ

### 三 養殖試験

鮭人工孵化試験 朝鮮東海岸一帶ハ鮭ノ棲息ニ適スルニ拘ラス積年ノ酷漁濫獲ト山林ノ荒廢ニ基ク河流ノ變態トニ因リ種族ノ減滅ヲ來シ現時ニ

於テ相當ノ漁獲アルハ僅ニ圖們江及龍興江ノ一部ニ止マリ而モ逐年漁獲高チ減少スルノ傾向アルヲ以テ其ノ蕃殖ヲ保護スルト同時ニ一面人工ニ依リテ増殖ヲ圖ルノ必要アルヲ認メ咸鏡南道沿岸ニ於テ鮭人工孵化試験場ヲ設ケ大正元年度ヨリ孵化試験ヲ行フ種卵ノ孵化・稚兒ノ成育共ニ成績良好ナルノミナラス水産業改良施設ニ對スル地方民心ニ多大ノ好影響ヲ與ヘタリ其ノ年度別成績左ノ如シ

年 度	採 卵 數	孵 化 稚 魚 數	稚 魚 放 流 數
大 正 元 年 度	一、〇〇四、一〇〇 <small>股</small>	八八四、一〇九 <small>股</small>	八七三、七〇〇 <small>股</small>
同 二 年 度	三、六六〇、〇〇〇	二、七五三、二六一	二、六九〇、〇〇〇
同 三 年 度	二、三〇五、二〇〇	二、〇五〇、八七四	一、九七九、五九七

尙各地ニテ地方費經營事業トシテ海苔ノリ・蠣カキ・蛸タコ等ノ養殖試験ヲ爲セルアリ又民間ニ於テモ海藻・魚介・鱈・鯉・金魚等ノ養殖ヲ爲セリ

#### 第四節 漁業組合及水産組合

漁業者協同ノ力ニ依テ相互ノ利益ヲ増進シ漁村ノ經營維持ヲ全カラシムル

爲漁業令ヲ以テ一定ノ地區内ニ居住スル漁業者ヲシテ法人タル漁業組合ヲ設立スルコトヲ得セシメ更ニ漁業組合規則ヲ發布シテ其ノ設立管理監督其ノ他必要ノ事項ニ關スル詳細ノ規定ヲ設ケタリ而シテ組合ノ設立ハ其ノ成功ヲ期シ得ヘキ望アルモノ又ハ漁業免許若ハ生業付與ノ必要上特ニ設立ヲ要スル漁村ニ限り之ヲ許可シ堅實穩健ナル發達ヲ遂ケシムルノ方針ヲ採リ豫メ濫設ノ弊ナカラムコトヲ期セリ又農工銀行ヲシテ漁業組合ニ對シ二十年以内ノ年賦償還及五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付ヲ爲スコトヲ得セシメ以テ金融ノ途ヲ開ケリ大正四年三月末現在漁業組合設立許可總數ハ四十二箇所ナリ尙將來ニ於テハ漁業組合設立ノ際之ニ對シ漁業權ヲ付與シ又組合事業トシテハ漁獲物ノ販賣處理漁具ノ購入遭難者ノ救濟副業ノ經營及貯蓄等ヲ共同的行ハシムル豫定ナリ又水產業者ノ共同利益ノ増進ヲ企圖セシムルノ目的ヲ以テ漁業令中漁業者又ハ水產物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ヲシテ法人タル水產組合ヲ設クルコトヲ得セシメ更ニ水產組合規則ヲ發布シテ其ノ設立監督其ノ他必要ナル事項ヲ定メタリ是ヨリ先キ朝鮮一國ヲ組合區域トセル朝鮮海水產組合ナルモノアリ本部ヲ釜山ニ支部

又ハ出張所ヲ沿海樞要ノ地ニ置キ必要ノ箇所ニ巡邏船ヲ配置シ朝鮮各地ニ於ケル水産業ノ改良發達ヲ期圖スルノ外政府ノ補助及命令ニ依リ内鮮人漁業者ニ對シ均シク漁業上ノ保護便宜ヲ與ヘ來リシカ元來同組合ハ外國領海水産組合法ニ依リ内地人ノミニテ組織シタル組合ナリシヲ以テ漁業令及水産組合同規則ノ實施ニ伴ヒ大正元年七月其ノ定款ヲ改正セシメ名稱ヲ朝鮮水産組合ト改メ朝鮮人漁業者ヲモ組合員ト爲シ其ノ取扱ヲ内地人漁業者ト同一ナラシムルト共ニ支部ヲ各道ニ置キ且出張所ヲ増設シテ業務ノ刷新擴張ヲ圖ラシメタリ爾來同組合ハ各地水産業ノ改良發達内鮮人漁業者ノ保護取締災害ノ救濟相互ノ融和漁業者移住ノ獎勵等ニ力ヲ盡シ成績見ルヘキモノアリ之ニ對シ總督府ハ従前ノ例ニ依リ毎年四萬圓ノ補助金ヲ交付シ來レリ前記漁業者ノ組織セル水産組合ノ外ニ大正三年七月木浦海藻水産組合ノ設立ヲ許可セリ本組合ハ木浦ニ於ケル海藻販賣業者ヲ以テ組織シ斯業ノ改良發達海藻ノ蕃殖保護其ノ他海藻販賣業ニ關シ組合員共同ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスルモノナリ

## 第五節 漁船避難場

漁船ノ避難場ヲ修築シテ其ノ出入碇繋ヲ便ナラシメ漁業者ノ生業ヲ安全ナラシムルハ水産業助長上必要ナルヲ認メ各地方ノ計畫ニ對シ緩急ヲ計リ補助ヲ與フルコトトシ大正元年度以降毎年二千五百圓ヲ支出セリ(大正二年度及同三年度ニ於テ修築セル箇所及補助金交付額左ノ如シ)

### 一 全羅北道於青島

元忠清南道ノ管轄ニ屬シ該道地方費ヲ以テ修築ス補助費ハ大正元年度ニ二千五百圓・大正二年度ニ一千圓合計三千五百圓ヲ交付シ大正二年度ニ於テ工事完成セリ

### 二 慶尙北道盈德郡江口港

當初地方有志者ノ計畫スル所タリシモ後慶尙北道地方費ノ事業トシテ施行ス大正二年度及同三年度ノ繼續事業トシテ本府ノ補助金ハ大正二年度ニ於テ一千五百圓・同三年度ニ於テ二千五百圓ヲ交付ス

## 第六節 水産物ノ處理及販賣



水産物ノ處理・販賣ノ方法ヲ改良セムカ爲ニ爲セル施設ハ輸移出海藻ノ検査  
魚市場ノ取締・諸種製造試驗地方費水産事業中海苔其ノ他ノ水産物製造傳習  
及水産物製造業者ニ對スル補助等ナリ輸移出海藻ノ検査ハ大正二年ヨリ施  
行ス元來石花菜海蘿銀杏草等ノ海藻ハ重要輸出海産物トシテ其ノ品質内地  
及臺灣ニ比シ決シテ遜色ナキニ拘ラス從來採取業者及販賣業者ノ調理不良  
ノ結果需要地ニ於ケル取引價格ハ内地又ハ臺灣産ニ比シ常ニ四割乃至六割  
ノ下位ニ在リシヲ以テ當業者間ノ弊習ヲ矯正シ需要地ニ於ケル聲價ヲ昂騰  
セシノムカ爲大正二年五月海藻検査規則ヲ發布シ同年七月一日ヨリ釜山及  
元山税關竝木浦税關支署ニ於テ之ヲ實施セリ其ノ結果此等移出品ハ需要地  
ニ於ケル價格二割乃至四割ヲ増加シ取引モ亦圓滿敏活ナルヲ得ルニ至リ輸  
移出業者ハ一層検査所ノ増設ヲ希望シ本府ニ於テモ亦其ノ必要ヲ認メタル  
ヲ以テ大正三年四月仁川税關ヲ加ヘ當業者ノ利便ヲ圖レリ又鮎ノ搾粕・乾鮎  
其ノ他海産肥料ノ大正三年輸移出額ハ一千六百七十萬一千餘斤其ノ價額三  
十萬餘圓ニ達シ輸移出海産物中重要ノ地位ヲ占ムルニ拘ラス年年粗製濫造  
ニ流レ需要地ニ於ケル聲價ヲ低下セルヲ以テ弊害ノ矯正及製法ノ改善ヲ獎

勵シツツアリ

水産物ノ販賣機關中最重要ナルハ魚市場ニシテ其ノ開設ニハ許可ヲ要スルコトトセルモ從來ノ取引慣習ハ動モスレハ弊害ヲ醸出スルノ虞アルヲ以テ營業ノ取締ヲ嚴ニシ取引ノ改善ト同時ニ其ノ設置ノ普及ヲ圖ラムトシ大正三年九月市場規則ヲ制定施行セリ尙僻陬ノ島嶼又ハ販賣市場ヨリ隔レル土地ニ在ル漁業者ニ對シテハ共同販賣又ハ共同製造ヲ獎勵シ及フ限り漁業組合ニ於テ該事業ヲ經營セシムル方針ヲ採レリ

## 第七節 漁業者ノ副業及貯蓄

漁民ノ生計ニシテ専ラ漁業ノミニ依頼スルトキハ一朝不漁ノ際ハ忽チ悲境ニ陥ルヲ以テ之ニ備フル爲適當ナル副業ヲ營ムヲ必要トス就中農業ハ副業トシテ最適當ナルヲ以テ漁村ハ成ルヘク半漁半農タラシメムコトニ努メ内地人漁業者ニハ特ニ其ノ必要アルヲ認メ漁村附近ノ國有未墾地又ハ林野ヲ貸付ク農耕造林ヲ獎勵セリ農業以外ノ副業トシテハ編網釣具ノ製作水産物ノ製造介穀ノ利用繩綯・吟・莖・アンヘラ・精麻・麻絲ノ製造等ヲ推スヘク地方費

及臨時恩賜金授産事業トシテ之ヲ獎勵シツツアリ由來漁業者ハ内鮮人共ニ貯蓄心ニ乏シキヲ以テ貯蓄實行方法トシテ内地人ニ在リテハ日掛講又ハ頼母子講ヲ設ケ若ハ魚市場ニ於テ賣上代金支拂ノ幾分ヲ積立金ト爲サシメ朝鮮人ニ在リテハ稷又ハ組合ヲ組織セシメ又改良漁船漁具ノ給與若ハ其ノ經費補助ニ貯蓄ヲ條件ト爲シ水産傳習生ニ強制貯金ヲ爲サシムル等種種ノ方法ヲ採レリ而シテ鮮人漁業者中成績ノ最顯著ナルハ江原道ニシテ稷又ハ組合ノ數二百五十七人員一萬一千六百三十三人金額四千七十二圓ニ達シ其ノ他京畿忠南兩道ニ於テ稷又ハ獎勵會ヲ組織セシメ慶南ニ於テ巨濟嶋外四箇所ノ漁業組合ニテ其ノ剩餘金百分ノ五十乃至六十ヲ積立金トシ全南ニテハ漁業者ヲ各郡ノ納稅組合ニ加入セシメ平北ニテハ面事務規程ヲ以テ各面ニ稷又ハ組合ヲ組織セシメ市日又ハ定日ニ於テ一戸毎月十錢以上ノ貯蓄ヲ爲サシメツツアリ

## 第八節 内地漁業者ノ移住

日露戰役後朝鮮海ニ於ケル漁業ノ有望ナルコト内地人斯業者間ニ喧傳セラ

レ各府縣ハ競ウテ南鮮沿岸ニ漁村ヲ經營シ管内漁業者ノ移住獎勵ニ努メタルモ往往移住地又ハ移住者及移住監督者ノ不適當ナル等ノ爲所期ノ成績ヲ收ムルヲ得ス維持困難ニ至レルモノナキニ非サリシモ内地漁業者ノ定著移住ハ漸次其ノ數ヲ加ヘ殊ニ漁業令及附屬法規ノ施行及朝鮮水産組合ノ設備ノ發展ト共ニ益増進シ大正三年十二月末ニ於ケル移住内地漁業者概數ハ戶數二千二百六十二戶・人口七千七百六十五人ニシテ其ノ明治四十二年以降ノ増加ノ趨勢及各道分布ノ狀況ハ左ノ如シ

		移住内地漁業者年別戶數			
年	戶數	人	口	備	考
明治四十二年	一、三二〇	四、九四九			
同 四十四年	一、六五六	六、二七七			
同 四十四年	二、四八六	九、二三六			
大正元年	二、六一八	七、一〇〇			
同 二年	二、一〇九	七、八六二			
同 三年	二、二六二	七、七四一			

前年ニ比シ人口ノ減少セルハ漁期ヲ逐七轉住スル者ヲ控除シ定著移住者ノミヲ掲記セルニ依ル

内地漁業者各道移住状況

大正三年十二月末日現在

		戸		口		戸		口	
		數	人	口		數	人	口	
京	畿	七四	三二〇	三	二二	三九	七二		
忠	南	一〇	三八						
全	北	四九	一七八			六	二〇	八三	
全	南	二七三	八三七			四五	一九六		
全	道	四六八	一六五四			七三	三六五		
慶	北	一一五九	三、七九五			四四	一九一		
慶	南								
成	北								
成	南								
江	原								
平	北								
平	南								
黄	海								

内地人漁業者ヲ移住セシメ朝鮮人漁業者ヲシテ其ノ進歩セル漁法ヲ實際ニ目撃又ハ習熟セシムルハ朝鮮人ノ水産業改良上效果尠カラサルヲ以テ將來ニ於テモ沿海各道必要ノ地ニ内地人漁業者ノ移住ヲ獎勵セムトス

併合前ニ在テハ内鮮漁業者間ノ關係動モスレハ相疎隔スルヲ免レサリシカ併合後ハ僻陬ノ漁村ニ至ル迄克ク新政ノ趣旨ヲ了解シ内鮮漁業者漸次相接近融和スル傾向ヲ示スニ至リ殊ニ新漁業法令ノ施行朝鮮水産組合ノ組織變更等ニ依リ直接兩者ノ聯結提携ヲ促進セルハ喜フヘキ現象ナリトス



大正元年	一〇、五〇二	一六〇、八〇九	九八九、三七五	五、六五二	二二、四九〇	七、〇七三	〇、二九一	一三、〇六二	四、〇四四	五七〇、二一七	三三
同二年	一三、三五二	一八七、一七三	六、一八七、五三八	六、〇一一	二五、五四〇	五、九三四	六、五四四	一一、二二二	一、九二二	四六三	九二〇
同三年	一七、四〇六	二八二、七一一	六、二〇一、四三一	五、九五四	二四、四七三	六、八〇一	五、四八二	一三、〇〇二	二、九七九	三五六、〇九七	九七

(備考) 本表平均一船漁獲高ヲ控除シ算出セリ而シテ大正三年ニ於ケル捕鯨高ハ二十七萬三百五十四圓ニシテ前年ノ四十萬四千二百六十一圓ニ比シ十三萬餘圓ノ減少ヲ示セリ

水産物製造業ハ漁業ノ發展ニ随伴スヘキハ言ヲ俟タス其ノ統計的調査ハ明治四十四年前ハ之ヲ缺クテ以テ詳カニスルヲ得スト雖同年以降ニ於ケル水産物製造高ハ著シク増進シ過去四年間ニ其ノ額ノ二倍以上ニ達セルヲ見ル

		水産物製造高		
		朝鮮人	内地人	計
明治四十四年	同	一、五三五、六〇九	一、一一九、三六五	二、六五四、九七四
大正元年	同	三、一一八、一五四	一、四八八、二三七	四、六〇六、三九一
同二年	同	三、二四九、七三六	二、一八〇、七〇八	五、四三〇、四四四
同三年	同	三、一一一、五二二	三、八一五、四四三	六、九二六、九六四

更ニ水産物ノ輸移出ノ狀況ヲ見ルニ明治四十二年ニ於ケル輸移出額ハ一百八萬二千餘圓ナリシモ大正三年ニハ二百六十七萬八千餘圓ニ達セリ  
 斯ノ如ク朝鮮ノ水産業ハ過去數年間ニ於テ著シキ發達ヲ遂ケタリト雖之ヲ内地ノ水産業ニ比較スルトキハ左記統計表ノ示スカ如ク尙甚シキ逕庭アルヲ見ル

朝鮮漁業比較

朝鮮内地	沿海線延長	漁業者數	漁船數	漁獲高	平均一海里ニ付		
	六、〇〇〇 <small>里</small>	三〇七、一八四 <small>人</small>	二二、三六〇 <small>隻</small>	一三、〇〇二、九七九 <small>圓</small>	漁業者數	漁船數	漁獲高
	一四、六一〇	一、七四〇、七七〇	四一九、一六六	九四、二七九、二〇九	一一九・二	二八・七	六、四五三・三
					五・〇二	三・〇九	二、一六七・二

(備考) 内地ノ統計ハ大正三年三月刊行農商務省水産局水産統計年鑑ニ依ル

以上ノ狀況ハ朝鮮海ニ於ケル水産物ノ寡少ナルカ爲ニ非スシテ全ク漁業ノ幼稚ニ基クハ言ヲ俟タス例ヘハ現在朝鮮人ノ使用スル漁船ハ舊朝鮮型ノモノ一萬二千餘隻ニ對シ内地型ノモノハ僅僅二千餘隻ニ過キササルカ如キ將來



斯業改良發達ノ餘地多大ナルヲ示スモノナリ  
朝鮮ノ水産物ハ内地人ノ増加ト朝鮮人生活狀態ノ上進トニ由リ益朝鮮内ノ  
需要ヲ増加スヘキノミナラス鄰國支那ニハ無限ノ需要アリテ直接支那ニ輸  
出セルモノノ外内地移出品中乾鹹魚乾貝乾蝦蟻鱧及海蔘等ハ大部分内地ヲ  
經由シ支那ニ輸出セルモノニシテ此等支那向移出品ノ移出總額ハ一百十萬  
二千餘圓ニ達セリ而シテ獨リ支那ノミニ止マラス歐米ニ輸出スルニ適スル  
モノ亦尠カラス就中海蔘寒天鰯乾貝類乾鹹魚貝類罐詰蝦罐詰等ハ將來有望  
ナル輸出品タルヲ疑ハス

# 第十八章 土木

## 第一節 道路

道路行政ハ舊韓國時代ニ在リテハ明治四十年ニ於テ始メテ改修計畫ヲ定メ六箇年ノ繼續費トシテ一百四十九萬六千圓ノ豫算ヲ計上シ主要路線ノ改修ニ着手シ更ニ同二年一百萬圓同三年一百四十六萬圓ヲ追加シテ繼續年限ヲ四箇年ニ短縮シタルモ朝鮮總督府ノ設置以前ニ改修シタル道路ハ僅ニ二十ニ線二百五里ニ過キス而シテ前記改修計畫ハ朝鮮全土ニ亘ル大體計畫ヲ基礎トシタルモノニ非サリシヲ以テ總督府ハ更ニ研究審議ヲ盡シ明治四十四年ノ初全土ニ亘ル道路網ヲ確定シ道路規則及道路築造標準ヲ制定シ道路ヲ分チテ一・二・三等及等外道路ノ四種ト爲シ一等道路ハ(一)京城ヨリ道廳所在地樞要ナル開港又ハ鐵道停車場ニ至ル道路(二)軍事上重要ナル道路(三)經濟上特ニ重要ナル道路トシ二等道路ハ(一)隣接道廳所在地ヲ聯結スル道路(二)道廳所在地ヨリ其ノ管轄府廳又ハ郡廳所在地ニ達スル道路(三)道廳所在地ヨリ道内樞要ナル地點・港津又ハ鐵道停車場ニ達スル道路(四)道内樞要ナル地點・港津鐵

道停車場又ハ道路相互ヲ連結スル道路(五)隣接道内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ聯結スル道路トシ三等道路ハ(一)隣接府廳又ハ郡廳所在地ヨリ府郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ聯結スル道路(二)府廳又ハ郡廳所在地ヨリ府郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ聯結スル道路(三)府郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ聯結スル道路(四)隣接府郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ聯結スル道路トシ以上各等ニ屬セサル道路ヲ等外道路トス其ノ築造ノ標準ハ一等道路ニ在リテハ有效幅員四間以上、勾配三十分ノ一、曲線ノ中心半徑八間以上トシ二等道路ニ在リテハ有效幅員三間以上、勾配二十五分ノ一、曲線ノ中心半徑八間以上、三等道路ニ在リテハ有效幅員二間以上、勾配二十分ノ一、曲線ノ中心半徑六間以上トシ一等道路及二等道路ノ築造及維持修繕ハ國費ヲ以テ之ヲ施行スルヲ原則トシ慣行アルモノハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ地方廳ヲシテ負擔セシムルコトトシ三等道路ノ築造及維持修繕ハ地方廳ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ノ一部ハ必要ニ依リ國庫ヨリ之ヲ補助スルコトトシ等外道路ハ慣行ニ依リ關係部落之ヲ行ヒ其ノ費用ノ一部ヲ必要ニ依リ地方廳ニ於テ補助スルコトトセリ

前記規則ノ施行ト同時ニ全國ニ於ケル一・二等道路ノ指定ヲ爲シタルモノノ一等道路十七路線七百八十里・二等道路七十五路線二千六百三十四里合計三千四百十四里ニシテ爾來實地ノ研究ヲ重ネタル結果幾分ノ改正ヲ要スヘキ點アルヲ認メ大正三年其ノ一部修正ヲ告示シ一等道路十七路線七百七十四里・二等道路七十八路線二千二百九十八里合計三千七十二里ニ改メ又三等道路八大正元年各道長官之ヲ指定シ其ノ總延長ヲ三千四百三十一里ト定メタリ道路改修計畫ハ明治四十四年度ヨリ大正六年度末ニ至ル七箇年ヲ第一期トシ其ノ繼續事業費ヲ一千萬圓ト定メタリ改修工事ノ施行ハ一・二等道路ニ在リテハ當初ヨリ本府直轄方法ヲ執リ各地ニ出張所ヲ置キ出張所ノ下ニ工營所ヲ置キ關係技術員ヲ配置シテ之ニ當ラシム蓋シ地方廳ニ於テハ未タ充分ナル技術員ノ配置ナキノミナラス一・二等道路ハ軍事上經濟上主トシテ國家的見地ヲ以テ選定セラレタルモノナルヲ以テ之ヲ地方廳ノ施設ニ委セムカ其ノ管轄ノ區域ノ開發ニ熱心ナル結果地方的情實ニ因ハレ往往ニシテ輕重緩急ヲ誤ルノ虞ナシトセス是レ本府直轄ノ方針ヲ採リタル所以ナリ

地方費ヲ以テスル道路改修ハ專ラ主力ヲ三等道路ニ注キ一・二等道路ハ擧ケ

テ國費ノ改修ニ待ツモノナルコト前述ノ如シト雖一・二等道路ノ中ニテ地方ノ交通關係上一日モ忽ニスヘカラサル路線ハ地方費資力ノ許ス限り一時ノ假改修ヲ施サシムルコトトセリ

以上ノ方針ヲ以テ大正三年度末迄ニ改修ヲ了シタルモノ一等道路四百四十三里・二等道路一千十五里・三等道路一千九百二十三里ニシテ之ヲ道路網ノ總延長ニ比較スルニ一等道路五割七分・二等道路四割四分・三等道路五割六分・總計ニ於テ約五割強ナリトス而シテ所定計畫第一期間即チ大正六年度末迄ニ至ル間ハ前記各項ノ方針ハ之ヲ變更セサルモノトシ大正六年度末迄ニ一等道路五百八十二里・二等道路一千三百八十五里・總計一千九百六十七里即チ道路網總延長ノ約六割四分ノ改修ヲ了セムトス

大正七年度以降第二期間ニ改修スヘキ道路ハ一等道路一百九十二里・二等道路九百十三里・合計一千一百五里即チ道路網總延長ノ約三割五分ニシテ之ニ第一期改修工事ト同一程度ノ改修ヲ施シ尙地方費假改修ノモノヲ完成セムトセハ總工費約七千萬圓ヲ要スル計算ナルモ北境江岸竝山間ノ二等道路ノ如キ或ハ釜山新義州間ノ鐵道ト重複セル一等道路ノ如キハ經濟上軍事上急

速ノ改修ヲ要スルモノニ非ス且一面財政上ノ關係アルヲ以テ大正七年度以降第二期ニ於テハ前記路線中ノ最急要ナルモノヲ選擇シテ改修ヲ施行シ併セテ第一期ニ於テ改修ヲ了シタル路線中ノ主要ナル橋梁架設工事ヲ施スコトトシ之ニ要スル工費概算ヲ一千萬圓ト豫定セリ而シテ之カ財源ヲ事業公債ニ仰クトセハ五箇年ノ繼續事業タラシムヘク若又普通財源ニ求ムトセハ毎年度約一百萬圓ノ豫算ヲ以テ十箇年ニ繼續施行スルノ見込ナリ

地方道路改修ニ對スル第一期間ノ國庫補助ハ年額三十萬圓ナルモ第二期ニ至リテハ之ヲ十萬圓ニ減額スヘシ蓋シ一二等道路ノ改修ハ第一期ニ於テ略其ノ要急ノ路線ヲ完成スヘク之ニ伴フヘキ三等道路モ亦年ヲ逐ウテ増進スヘキ地方費ノ資力ヲ以テ漸次其ノ改修ヲ完成スルノ域ニ達スヘキヲ以テナリ第三期ハ第二期迄ニ改修ヲ爲ス能ハサル殘餘路線ノ改修及地方費ヲ以テセル假改修ノ仕上工事ヲ施行スルモノニシテ甚急施ヲ要スルモノニ非サルヲ以テ財政ノ餘裕ヲ待テ徐ロニ其ノ改修ヲ期セムトス

一二等道路ノ維持修繕ハ初メ本府ニ於テ直轄施行スルコトトシ其ノ經費豫算ヲ十三萬圓ト定メタリシカ爾後改修道路ノ延長ハ年年累進スルニ拘ラス

修繕費豫算ハ之ニ件ウテ増額スルヲ得サルヲ以テ沿道部落ノ夫役ヲ利用スルノ必要ヲ認メ大正元年各道ニ對シ修繕費豫算ノ配付ヲ爲シ次テ同二年道路維持修繕規定ヲ制定シ主トシテ地方廳ヲシテ之カ任ニ當ラシメ只技術上並經費上施行ノ困難ナルモノニ限り本府ニ於テ施行スルコトトシ各道ニ於テハ沿道部落ニ道路修繕ノ區域ヲ割當テ木標ヲ以テ其ノ分界ヲ明カニシ大正四年度以降ニ於テハ沿道部落ノ洞里長ヲ以テ修路委員ニ充テ其ノ住民ヲ督役シテ擔當區域ノ修繕ヲ施行セシメ主要ナル路線ニ對シテハ別ニ五里毎ニ修路工夫ヲ配置シ尙改修全線ニ涉リ四十里毎ニ監視員ヲ配置シ相互ニ聯絡督勵シテ各分擔區域ノ巡視並小修繕ノ施行ヲ周密ナラシムルノ計畫ナリ而シテ之ニ對スル費用ハ大正四年度ニ於テ十一萬餘圓同七年度ニ於テ十六萬餘圓ヲ要スヘク其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助シ地方費事業トシテ道長官ヲシテ之カ實施ノ任ニ膺ラシム又大破修繕及橋梁ノ定期架換ニ對シテハ一里當一百五十圓ノ修繕費ヲ豫定シ國費ヲ以テ施行スル計畫ニシテ大正四年度ニ於テハ十三萬圓同七年度ニ於テハ二十萬圓ヲ要スヘシ之ニ前記ノ補助費ヲ合スレハ約三十五萬圓ノ經費ヲ要スルヲ以テ大正六年度以降ニ於テハ道路

改修ニ對スル補助費三十萬圓ヲ十萬圓ニ減シ其ノ差額二十萬圓ヲ以テ前記修繕費ノ補助及國費豫算ノ増額ニ充當セムトス

## 第二節 市區改正

京城ノ市街ハ朝鮮ノ通弊トシテ街路概ネ狹隘不規則ナルヲ以テ明治四十四五兩年度ニ於テ治道費豫算ノ一部ヲ割キ二三街路ノ改修ヲ施行シタルモ更ニ市街全般ニ亘ル統一的ノ經營計畫ヲ定ムルノ必要ヲ認メ大正元年ノ末二十九街路ノ改修線ヲ選定シテ之ヲ告示シ其ノ内第一期事業トシテ大正二年度以降五箇年繼續事業トシテ工費總額二百三十萬圓ヲ以テ南大門通外十路線ノ改修ニ着手セリ而シテ此ノ費額ニ充ツル爲京城市内ニ散在スル不用官有財産ヲ賣却スルコトトシ大正二年度ニ於テハ土地建物ヲ競賣シ二十九萬餘圓ヲ收入シタルモ大正四年度以降ハ官有財産賣却ニ依ル經費支辨ノ方針ヲ廢止シ一般財源ニ依リ之カ遂行ヲ期セムトス而シテ所定ノ計畫ニ依ルトキハ大正四年度以降三箇年度ニ於テ總額一百五十七萬餘圓即チ年額五十餘萬圓ノ豫定ナリシモ財政ノ都合上更ニ其ノ年限ヲ延長シテ大正八年度ニ至



ル五箇年ニ改メ一箇年ノ年割額ヲ約三十萬圓ニ減少スルコトトセリ

### 第三節 河 川

河川治水工事ハ未タ施行シタルモノ殆ト之ナシ只元山赤田川ノ改修ハ緊急ノ必要アリタルヲ以テ舊韓國政府ノ計畫ニ基キ明治四十四五兩年度中工費約十萬圓ヲ以テ延長二千三百間ノ河身付換ヲ爲シタリ

一般河川ノ調査モ亦未タ進捗セズ明治四十四年度以降今日迄ニ於テ漢江錦江洛東江南江ノ局部踏査及水位觀測竝萬頃江ノ局部實測ヲ了シタルニ過キス元來水利事業ハ其ノ規模區域ノ小ナルモノト雖尙河川ノ性質現況雨量洪水位等各種ノ條件ト調和ヲ保タサレハ往往不測ノ災害ヲ免レサルヲ以テ其ノ經營ニ付テハ比較的多大ノ經費ト専門的智識トヲ要ス依テ準備的調査トシテ第一期豫定事業地域ヲ選定シ大正四年度ニ於テハ經費年額約四萬圓ヲ以テ大同江漢江臨津江錦江榮山江洛東江清川江蟾津江禮成江載寧江大寧江城川江龍興江竝其ノ附近耕地ノ水利地點ノ調査ヲ行フ見込ナリ

### 第四節 港 灣

釜山ノ築港ハ明治四十四年度以降四箇年繼續事業トシテ工費三百八十二萬四千餘圓ヲ以テ起工シ大正二年中更ニ事業年期二箇年ヲ延長シ大正五年度完了ノ豫定ニシテ其ノ設計ノ大要ハ左ノ如シ

第一棧橋ハ關釜聯絡船ヲ繫留セシムヘキ鐵造片棧橋トシ延長九百六呎幅員七十六呎餘面積一千九百五十六坪前面干潮面下深サ二十四尺三千噸級汽船二隻ヲ繫留セシムルモノニシテ既ニ竣工セリ突堤ハ前項棧橋ニ沿ウテ築造シ延長二百九間餘幅員十八間餘其ノ上ニ釜山停車場ヨリ鐵道複線ヲ延長シ船車ノ聯絡ヲ爲ス更ニ突堤ノ上ニ梁行十間半桁行一百五十二間ノ平家建鐵骨上家ヲ建設シ其ノ内部ニ鐵道及稅關ノ事務室旅客待合所貨物藏置場等ヲ施設シ以テ船車聯絡ノ便ヲ計レリ海底浚渫ハ港口及港内ニ亘リ總面積約三十三萬坪ヲ平均干潮面下三十七尺二十七尺及二十四尺ニ浚渫スルモノニシテ第一棧橋前ハ既ニ之ヲ竣工シ且下第二棧橋前ノ浚渫中ナリ既濟總面積ハ二十三萬餘坪ニシテ全工程ノ七歩ニ當ル第二棧橋ハ約一百十五間ノ間隔ヲ以テ第一棧橋ト竝行シテ築造スルモノニシテ延長二百間幅員二十一間ヲ有シ兩側ニ二萬噸ノ汽船及七千噸ノ汽船各二隻ヲ繫留セシムヘク且下其ノ鐵

柱組立工事中ニ屬ス尙本棧橋ノ基部ニ於テ海面約一萬六千餘坪ノ埋築ヲ施シ鐵道引込線・倉庫荷物場等ノ用地ニ充ツルノ計畫ニシテ埋築ハ既ニ其ノ竣工ヲ告ケタリ船溜波除堤ハ釜山鎮方面ニ於テ一百九十間及四百三十六間ノ二條ヲ築造シ水面積十五萬四千坪ノ船溜ヲ得ルノ計畫ニシテ目下其ノ工程七步ヲ進ム以上既定計畫中大正四年度以降更ニ施設スヘキモノハ(一)第二棧橋上ニ於ケル鐵道引込及之ニ件フ上家ノ建築(二)浚渫區域ノ擴張即チ釜山鎮方面及草梁貨物停車場前面ノ浚渫(三)港口ニ於ケル防波堤ノ築造トス而シテ(二)及(三)釜山港ノ發展ニ件ヒ急施ヲ要スルヲ以テ大正五年度中ニ之ヲ施工シ港口ニ於ケル防波堤ハ他日財政ノ許ス時機ニ於テ之カ實施ヲ計ラムトス仁川ノ築港ハ明治四十四年度以降六箇年繼續事業トシテ工費三百四十八萬二千餘圓ヲ以テ起工シ大正二年中更ニ其ノ繼續年限一箇年ヲ延長シ大正六年度完成ノ計畫ニシテ其ノ設計ノ大要ハ左ノ如シ

開門船渠ハ面積三萬坪ヲ有スル複門式ニシテ四千五百噸以下ノ船舶三隻ヲ渠内ノ岸壁ニ繫留シ小型船舶及舢舨船ハ對岸ノ荷揚場石垣ニ於テ荷役ヲ行ハシムルノ計畫トス目下其ノ岸壁根掘工事中ニシテ此ノ工事施行ノ爲必要ナ

ル潮止締切堤延長一千一百二十九間ハ既ニ竣工シタリ水路浚渫ハ外海ヨリ  
閘門ニ通スル航路ヲ干潮面下十四尺ニ浚渫スルモノニシテ總土量二十四萬  
坪ノ内目下約九萬坪ヲ了セリ馴導堤ハ船渠ヨリ航路ニ沿フ延長三百四十五  
間ノ石垣ニシテ目下工程八歩ヲ進ム陸上設備トシテハ岸壁上ニ可動起重機  
三臺ヲ設置シ以テ荷役ノ敏捷ヲ計リ背面ニハ上屋一千四百坪ヲ建設シテ貨  
物選別ノ便ニ供ス叙上計畫ノ外外海ヨリ閘門ニ通スル水路ニ當リ海底ニ岩  
盤ヲ露出スルアリ之ヲ除却スルニ非サレハ航路ノ安全ヲ期シ難キヲ以テ更  
ニ大正三年度ヨリ同六年度ニ至ル四箇年繼續事業トシテ工費四十三萬一千  
餘圓ヲ以テ岩盤ノ破碎除却中ナリ前記施設ノ外尙(一)馴導堤ノ延長(三百二十  
間)工費二十七萬五千圓(三)閘門前浚渫區域ノ擴張(二十八萬坪)工費四十九萬圓  
(三)尾島仁川市街間ノ締切突堤五百九十間工費三十九萬圓ヲ必要トスルモ  
此等ハ將來財政ノ許ス時機ニ於テ漸次之ヲ施行スルノ豫定ナリ  
鎮南浦ノ築港ハ明治四十四年度ヨリ大正二年度ニ至ル三箇年繼續費八十三  
萬五千圓ヲ以テ起工シ後期間一箇年ヲ延長シ大正三年度ニ至リ竣工セリ其  
ノ計畫ノ大要ハ左ノ如シ

開船渠ハ面積二萬一千坪ヲ有シ一面ニハ延長一百四十間ニ亘ル直立岸壁ヲ設ケ三千噸級以下ノ船舶二隻ヲ繫留セシメ一面ニハ延長三百十間ノ物揚場護岸ヲ築造シ周圍三萬二千坪ノ土地ヲ以テ貨客ノ取扱ニ充テ船渠ノ大同江ニ通スル航路ヲ干潮面下十八尺ニ浚渫ス陸揚場設備ノ爲船渠ノ東方飛瀨島ヲ隔テテ約二萬四千坪ヲ埋立テ此ノ間ニ幅三十六間ノ船入場ヲ開設シ其ノ兩岸竝埋立水際ニ物揚場及護岸石垣六百四十餘間ヲ築造スルモノトス尙陸上設備トシテ築港地區ニ通スル道路ノ築造舊來滯筋ノ埋立稅關監視課廳舍及上家ノ設備鐵道引込線ノ敷設船渠前面ノ浚渫ヲ計畫シ目下施工中ナリ平壤ノ築港ハ明治四十四年度以降二箇年繼續事業トシテ工費十二萬九千圓餘ヲ以テ(一)大同江烏灘淺瀨ノ浚渫(二)稅關廳舍ノ新築(三)平壤停車場ヨリ稅關ニ至ル鐵道ノ引込(四)江岸ニ延長三百間ノ物揚場築造竝起重機据付等ヲ施行シ全部竣工ヲ告ケタリ

元山ノ築港ハ大正四年度以降五箇年ノ繼續事業トシテ工費一百五十六萬圓ヲ以テ之ヲ施行スルモノニシテ其ノ計畫ノ大要ハ(一)浚渫(二)埋築及護岸ノ築造(三)繫船岸壁ノ築造(四)防波堤ノ築造等トス其ノ他ノ防波堤ノ新設浚渫區域

ノ擴張埋築地區ノ擴張及棧橋ノ築造等ノ如キハ更ニ第二期事業トシテ之ヲ施行セムトス

朝鮮ノ重要ナル港灣ニ對スル施設經營ハ上來述フル所ノ如シ其ノ他ノ商港及漁港ニ對シテハ地方經濟ノ發展利用程度ノ大小稅關設備ノ存否トニ鑑ミ港灣ヲ三種ニ區分シ一等港ハ國費ヲ以テ對外貿易ニ關スル設備ヲ施シ二等港ハ國費若ハ地方費ヲ以テ之ヲ施シ三等港ハ地方資力ヲ以テ經營スルヲ原則トシ必要ニ應シ國費ヨリ其ノ工費ノ幾分ヲ補助スルコトトセリ即チ一等港トハ釜山仁川鎮南浦及元山ノ如キヲ云ヒ二等港トハ平壤新義州木浦群山清津城津行巖馬山麻浦(龍山)ノ如キヲ云ヒ其ノ他ノ諸港ハ之ヲ三等港ト爲ス前記ノ中群山木浦ハ港灣維持施設ノ急要ナルヲ認メ大正四年度ヨリ之ヲ實行セリ又三等港中雄基注文津江口港浦項統營麗水及苴浦ハ改良施設ノ急施ヲ必要トスルモノアリ依テ江口港ニ對シテハ大正二・三兩年度ニ於テ國費三千五百圓ヲ補助シ浦項ハ大正三年度ヨリ地方費事業トシテ改良工事ニ著手シ苴浦ハ設計既ニ完了シ雄基注文津ハ目下國費補助ノ詮議中ニ屬ス

# 第五節 水道

## 一 官營水道

官營水道ハ給水中ノモノ京城仁川平壤鎮南浦ノ四箇所ニシテ左表ノ如シ

京 城	仁 川	平 壤	鎮 南 浦
買收價額 二、九二六、三四五 (四十二年八月竣工)	工費 二、三三九、〇〇〇	工費 一、一四〇、一三一	工費 四二〇、〇〇〇
明治四十四年四月買收 (四十二年八月竣工)	明治四十三年十二月竣工	明治四十三年七月竣工	大正四年三月竣工
四二三、〇一二			
八七、〇〇〇 <small>人</small>	九、六〇〇	一八、二七六	……
二二六、四九三 <small>圓</small>	四八、二二八	四九、四一七	九二貯水式
「ポンプ」式	同	同	
一三〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二二、〇〇〇
給水確定人口			

京城水道改良費ノ主要ナルモノハ水源地豫備蒸汽鐘増設豫備配水池新設、取水口新設送水「ポンプ」増設瀘過池新設給水鐵管増設等ニシテ概ネ竣工セリ尙京城水道ハ此等擴張工事ヲ施セルニ拘ラス人口増加ノ爲常ニ水量ノ不足ヲ告クルヲ以テ大正四年度ニ於テ經費約十萬圓ヲ以テ仁川水道ヨリ分水ノ設備ヲ爲シ之ニ依リ當面ノ急ヲ濟フ計畫ナリ是レ仁川水道水源地ノ設備ハ元

七萬人ニ給水スヘキ計畫ナルニ現在ノ給水人口ハ約一萬人ニ過キサルヲ以テ近キ將來ニ於ケル仁川人口ノ増加ヲ豫想スルモ尙裕ニ三四萬人ニ對スル餘力ヲ存スルノミナラス其ノ水源地ノ位置ハ京城ニ近邇セルカ故ニ之ヲ京城ニ聯絡スルコトハ甚困難ナラサルヲ以テナリ然レトモ京城人口ノ増加ハ今後益大ナルモノアルヘキヲ以テ今日三萬人ノ給水力ヲ増ストスルモ三四年ノ後ニハ再水量ノ不足ヲ訴フルニ至ルヘキヲ以テ數年後ニ至ラハ約三萬圓ノ工費ヲ以テ別ニ水源地ノ設備ヲ新設スヘキ計畫ナリ

元來朝鮮ニ於ケル水道ノ或ハ之ヲ官營トシ或ハ之ヲ公共團體ノ經營トシ場所ニ依リテ其ノ主體ヲ異ニセルハ主トシテ舊韓國政府時代ノ沿革ニ基クモノニシテ相當ノ時機ニ於テ之ヲ統一整理スルノ要アリ而シテ水道事業ノ本質ヨリ見ルトキハ之ヲ當該地ノ公共團體ノ經營トスルヲ至當ナリトスルカ故ニ現今ノ官營水道ハ將來適當ノ時機ニ至ラハ總テ之ヲ當該府ニ引繼キ經營セシムル豫定ナリ

## 二 公共團體經營ノ水道

釜山水浦會寧羅南ハ給水中ニシテ元山大邱群山ハ工事中ニ屬ス即チ左表ノ



如シ

縣	大	元	木	群	會	縣
山	山	山	浦	山	山	山
府	府	府	府	府	府	府
九五六、三五一	四一五、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	擴張工事 一二三、五〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
出資金 三五〇、〇〇〇	補助 二〇七、五〇〇	同 一九〇、〇〇〇	同 三〇、〇〇〇	同 一一七、五〇〇	同 一五〇、〇〇〇	同 九、〇〇〇
明治四十三年九月	豫定 大正七年三月	同 大正五年三月	明治四十三年三月	豫定 大正五年三月	大正四年三月	大正四年三月
一三、七〇〇	—	—	七、〇〇〇	—	二、三〇〇	—
貯水式	自然流入式	同	貯水式	同	自然流入式	同
給水豫定人口 五五、〇〇〇	同 三〇、〇〇〇	同 二〇、〇〇〇	同 六、〇〇〇	同 一、一〇、〇〇〇	共用栓 一〇、〇〇〇	共用栓 一〇、〇〇〇
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

義州ハ補助二萬圓總額約三萬圓ヲ以テ施行ノ計畫中ニ屬ス清州及晋州ニハ現ニ小設備ノ給水方法アリ其ノ他各都邑ニ於テ此ノ種ノ計畫續出スヘク此等ニ對シテハ工事上成ル可ク簡易輕便ノ方法ヲ取ラシムルト同時ニ年年一定ノ補助額ヲ計上シ其ノ範圍内ニ於テ工費ノ一部ヲ補償セムトス

## 第六節 土木監督行政

舊韓國政府時代ニ於ケル多年秕政ノ結果ハ道路河川等公用物ノ荒廢甚シク庶民モ亦從テ此等公用物ヲ庇護保全スルノ念慮ニ乏シク或ハ濫ニ道路堤防等ノ敷地ヲ冒耕シ河水ノ引用・水車其ノ他ノ施設ヲ擅行シ或ハ許可ヲ受ケスシテ水面ノ埋築使用等ヲ敢テシテ憚ラス而シテ之ニ對スル地方官憲ノ監督放慢ニ流レ其ノ取扱方區區一定セス是ニ於テ一般的規則ヲ制定シ官民ヲシテ其ノ據ル所ヲ知ラシムルノ最急務ニ屬スルヲ認メ明治四十五年以來調査研究ヲ重ネ道路取締規則河川取締規則港灣取締規則水面埋築規則建築規則荷車取締規則ヲ發布セリ尙下水規則ニ付テハ目下審査中ナリ

## 第七節 營繕工事

朝鮮ニ於ケル在來ノ諸官衙ハ概ネ狹隘ナル舊式ノ構造ニシテ加フルニ朝鮮建ノ家屋大部分ヲ占メ執務ニ便ナラサルモノ多ク近者各般ノ政務整頓ヲ告クルニ伴ヒ是等建物ノ新營及改築ハ益焦眉ノ急ヲ告クルニ至レリ依テ併合

以來廳舎・學校・監獄其ノ他ヲ通シ最急要ナルモノニ付工事ヲ進行ヲ企劃シ爲  
 明治四十四年度以降大正三年度迄ニ計上セシ本府直轄營繕費ノ豫算總計  
 ハ三百八十八萬圓ニ達セリ然レトモ是レ單ニ當面應急ノ施設ノミニシテ全  
 般ノ工事計畫ニ對比スルトキハ固ヨリ一小部分ニ過キス而シテ將來ノ所要  
 工事ノ梗概ヲ豫算スルニ既設各廳ノ廳舎及官舎建築等一般工事ノ總工費約  
 九百三十三萬圓ヲ要シ之ヲ六箇年計畫（併合ノ翌年ヨリ起算シ十箇年計畫ト假  
 定シ既往四箇年ヲ控除シタル年數）  
 ト假定スレハ年額一百五十五萬圓ノ豫定ニシテ此ノ外毎年ノ新規計畫ニ屬  
 スル工事費及既設建物ノ擴張又ハ補充ニ要スル工事費ヲ合算スルトキハ本  
 府直轄營繕費毎年少クトモ一百八十萬圓ノ新營費ヲ要ス然リト雖斯ノ如キ  
 巨額ノ經費ハ到底財政ノ容ササル所ナルヲ以テ將來一般工事計畫ノ基礎ヲ  
 確實ニスル爲當分ノ固其ノ營繕費豫算年額ヲ一定シテ毎年八十萬圓トシ工  
 事計畫ハ既定事業ノ擴充ニ必要ナルモノヲ首位トシ既設建物ノ改良工事及  
 官舎建築工事ハ之ニ次クモノトシ廳舎ハ成ルヘク在來ノ建物ヲ利用シテ増  
 築又ハ改修ヲ加ヘ官舎ハ僻陋不便ノ土地ヲ主トシ概要ナル市街地ニシテ民  
 屋ノ供給ニ依ルコトヲ得ル地方ニハ之ヲ新築セス建築ハ買棄ヲ旨トシ特別

ノ必要ニ由ルモノノ外ハ成ルヘタ木造ト爲ス方針ナリ但シ新規計畫ニ屬スル工事費又ハ收入ヲ目的トスル官營事業ノ擴張ニ要スル工事費又ハ特別ノ事由ニ依ルモノ若ハ特別會計竝調査事業ニ伴フ工事費ハ前記豫定額ノ外ナリトス

尙各廳舍及官舎ノ工事費計畫大正三年度迄ハ左ノ如シ

(右方ハ廳舍現在数チ、左方ハ新築濟ノ廳舍ヲ充用シタルモノ及當該廳舍トシテ新築シタルモノヲ示ス)

道廳	府廳	郡廳	高等法院	覆審及地方法院	地方法院	同支廳	
京畿	二二	七〇	一一	一一	一一	一四	
忠北	一一	三〇	一一	一一	一一	二二	
忠南	一一	五四	一一	一一	一一	四五	
全北	一一	二四	一一	一一	一一	三五	
全南	一一	二三	一一	一一	一一	二四	
慶北	一一	四三	一一	一一	一一	一六	
慶南	一一	四九	一一	一一	一一	一六	
黃海	一一	四七	一一	一一	一一	二三	
平南	一一	一四	一一	一一	一一	二三	
平北	一一	三九	一一	一一	一一	一五	
江原	一一	二二	一一	一一	一一	一五	
咸南	一一	三六	一一	一一	一一	一三	
咸北	一一	二二	一一	一一	一一	二四	
計	一一六三	二二九〇	一一一一	三三三	五五五	二二五	
差引新築ヲ要スルモノ	七	一八一				三三	







書記長	奏任列檢事	勅任列檢事	同財務主任	郡庶務主任	郡守	同財務主任	同庶務主任	同事務官	府尹	同會計主任	同庶務主任	同技師	同事務官	
	二〇	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	京畿
	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	忠北
	五九	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	忠南
	二三	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	全北
	五三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	全南
	九六	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	慶北
	六〇	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	慶南
	四五	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	黃海
	九四	二二	二四	二四	二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	平南
	二三	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	平北
	一七	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	江原
	八四	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	咸南
	二六	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	咸北
	五四	四四	二九	二九	二九	八一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	計
	一五八	二九	二九	二九	二九	三	三	三	三	三	三	三	三	要引新築ノ



第十八章

土

木

四〇七

觀測所長	同首席書記	同舍監	官立學校長	同歌醫官	港務醫官	同(醫部)	警察署長(警視)	各道警視	各道警務部長	看守	分監長	看守長	典獄	監督書記
						四七	二二			五〇	一二	三	一一	四
						一六			一	五				二
						五七	一	一	一	〇		三	一	七
						四六	一	一	一		三			四
						二七	一	一	一	一五	一	三	一	七
						三一	一	一	一	〇		三	一	八
						五八	二三	一	一	〇	二	三三	一	八
						二七		一	一	〇		三	一	五
						五三	二	一	一	〇	一	三	一	五
						一三六	一	一	一	五	一			一六
						五六		一	一	五	一			五
						一三五	一	一	一	〇	一	三	一	五
						四四	一	一	一	五	一			一五
						四八三	一	二	二	二五	一	三	四	七二
						四六三	九四	三	二	二五	一	三	四	四八
						三七	五	二		二〇	二	二	四	六九

同 出 張 所 長	同 支 署 長	同 監 視 官	同 事 務 官	税 關 長	
					京畿
					忠北
					忠南
					全北
					全南
					慶北
					慶南
					黃海
					平南
					平北
					江原
					咸南
					咸北
					計
					差引新築ヲ要スルモノ

(備考) 京城府内ノ官舎及紅蔘製造所製塩場平壤鑛業所金鑛採掘所印刷所

煉瓦製造所土管製造所等ノ收入ヲ目的トスル事業及特別會計ニ屬スル

モノハ之ヲ除ク

# 第十九章 鐵道

## 第一節 沿革

朝鮮ニ於ケル鐵道ハ明治二十九年米國人「ジー・アール・モールス」カ舊韓國政府ヨリ京城仁川間鐵道敷設ノ特許ヲ得タルヲ始トシ其ノ工事進行中同三十二年一月邦人ヲ以テ組織セル京仁鐵道引受組合之ヲ引受ケ同年五月組合組織ヲ變更シテ京仁鐵道合資會社トシ同年九月仁川鷺梁津間二十哩餘ノ運轉ヲ開始シ續テ同三十三年七月鷺梁津西大門間五哩餘ノ工事竣成シ茲ニ京仁間全線ノ開通ヲ見タリ又京釜線ハ明治二十七年八月日韓兩國間ニ協定セシ暫定條約及同三十一年九月締結ノ京釜鐵道契約ニ基キ京釜鐵道株式會社ニ於テ同三十四年八月起工シ同三十八年一月ヨリ全線二百六十七哩餘ノ運輸營業ヲ開始セリ而シテ同會社ハ又一面ニ於テ明治三十六年十月京仁鐵道ヲ買收シタリ京義線及馬山線ハ明治三十七年二月日露戰役開始後臨時軍用鐵道監部ノ敷設ニ係リ前者ハ同三十九年三月後者ハ同三十八年五月全部開通シ同四十一年四月ニ至リ兩線共一般ノ運輸營業ヲ開始セリ明治三十九年鐵道

國有ノ議決スルヤ帝國政府ハ同年七月ヲ以テ京釜及京仁線二百九十三哩六分ヲ買收シ同時ニ統監府鐵道管理局ヲ設ケ九月京義線三百二十二哩九分及馬山線二十五哩ヲモ其ノ管理ニ移シタリ後明治四十二年十二月朝鮮ノ鐵道ハ一旦鐵道院ノ管理ニ移リシモ更ニ同四十二年十月朝鮮總督府鐵道局ノ所管ニ歸シ以テ今日ニ至レリ願フニ朝鮮ノ鐵道ハ初メ我カ商權扶植ノ方法トシテ企畫セラレ中頃軍用ノ急需ニ應シ一氣呵成半島ヲ縱貫シテ國境ニ達シ且軍需品輸送上必要ナル港灣ニ通スル二三ノ支線ヲ設ケシモ要スルニ當面ノ急ニ應シタルニ過キサリシカ其ノ後鴨綠江ノ架橋成リ安奉線ノ改築ト相俟チ南滿洲鐵道線ヲ經テ東清鐵道線ニ聯絡スルヤ一躍シテ歐亞交通ノ要衝ニ當リ世界的重要ナル地步ヲ占ムルニ至レリ尋テ地方ノ開發ニ資スル爲湖南京元及平南ノ三線合計三百四十八哩三分ヲ竣成シ目下咸鏡線三百七十三哩餘ノ内一部ノ敷設工事中ニ屬ス斯ノ如クニシテ朝鮮ノ鐵道ハ一面ニ於テ世界的優秀完備ノ設備ヲ要スルト同時ニ他方ニ於テハ殖民地ニ於ケル産業鐵道トシテ實用簡易ヲ主トセサルヘカラサル點アリ從來ト雖此ノ兩箇ノ目的ニ適應スルノ方針ヲ以テ經營シ來リシカ將來ニ於テハ一層此ノ點ニ注意

ンテ施設スル所アラムトス

## 第二節 運輸及營業

一 列車運轉 明治三十九年統監府鐵道管理局ニ於テ朝鮮ノ鐵道ヲ統轄スルニ至リタル當時ニ在リテハ線路其ノ他ノ設備未タ完カラサリシヲ以テ豫期ノ輸送能率ヲ發揮スル能ハサリシモ漸次線路ノ改良及設備ノ整頓ト共ニ同四十一年四月一日ヨリ釜山新義州間直通旅客列車ノ運轉ヲ開始シ尙京仁線其ノ他ノ支線ニ急行又ハ直通列車ヲ運轉セシムルノ外數次各線列車時刻ノ改正及列車ノ増發ヲ施行セリ總督府設置後諸般ノ事物刷新ノ機運ニ件ヒ併合當時ハ區間列車ノ外京釜京義兩線ニ於テ各晝行一回ノ急行列車ト京釜線ニ隔日ノ夜行列車ヲ運轉スルニ止マリシヲ鴨綠江橋梁ノ架設及安奉線改築ノ竣成ト共ニ之ヲ改メテ明治四十四年十一月京城長春間ニ一週三回ノ鮮滿直通急行列車ヲ運轉シ同時ニ各列車ヲ安東驛ニ着發セシムルコトトセリ加フルニ鮮滿直通運輸ノ開始ハ延イテ關釜聯絡船ノ運航ヲ促進セシメ同年十二月鐵道院ニ於テ同區間晝行聯絡船ノ隔日運航

ナリシヲ毎日運航ニ改ムルト同時ニ朝鮮鐵道ニ於テモ釜山京城間夜行列車ノ隔日運轉ヲ毎日運轉ニ改メ京義線晝行急行列車ト接續シテ釜山安東間直通運轉トセリ越エテ明治四十五年六月其ノ運轉時刻ヲ著シク短縮セシメ京城長春間直通列車ヲ釜山長春間ニ延長シ當時落成セル釜山埠頭新棧橋ニ發着セシメ以テ船車接續ノ實ヲ舉ケタリ又内鮮間ノ交通運輸ノ發達ヲ期スル爲鐵道院ニ於テハ關釜聯絡船ノ運航時間ヲ改メ且下關新橋間ニ特別急行列車ヲ開始シ朝鮮鐵道ハ大正二年五月第五及第六列車ヲ安東釜山間運轉ニ改メ京城安東間ニ夜行列車ヲ創始セリ又大正三年五月鮮滿直通急行列車運轉時刻ノ改正ト同時ニ南滿安奉線ニ於テ朝鮮鐵道第一及第二列車ニ接續スヘキ夜行列車ノ運轉ヲ開始セリ本年三月末日現在朝鮮鐵道各線別主要列車運轉回數ヲ舉クレハ左ノ如シ

京釜本線

六回

京仁線

一二回

京義本線

六回

京元線

二回

湖南線

二回

二 車輛 機關車ニ在リテハ「テンホ井ール・テンダー」過熱蒸汽機關車(重量一百十二噸)ヲ最新トシ其ノ他「テンダー・エンジン」四種「タンク・エンジン」三種ヲ

使用ス客車ニ在リテハ全部貫通式四輪「ボギー」車ニシテ蒸汽煖房器空氣制動機ベスチビュール電燈及電扇等ノ裝置ヲ爲シ其ノ定員ノ最大ナルモノ一百四人ナリ又貴賓ノ乗車トシテハ特ニ展望室寢室食堂浴室等ヲ併セ備ヘ裝飾ノ最美ヲ盡シタル特別車ヲ使用ス貨車ニ在リテハ工事專用車四輪車ヲ除クノ外總テ四輪「ボギー」車ニシテ其ノ大部分ハ空氣制動機又ハ列車管ヲ具ヘ其ノ積載重量ハ工事專用車ニ在リテハ十噸其ノ他ニ在リテハ十二噸ヨリ二十六噸ニ至ル本年三月末日現在車輛左ノ如シ

九四輛

機關車

「タ」  
「ク」  
「テン」  
「ダー」

七一

計

一六五

客車  
ボギー

三三五

五六一

貨車  
有蓋  
無蓋

一〇四一

一六〇二

三 營業哩及列車走行哩數 現在總營業哩數ハ一千六哩五分ニシテ之ヲ明

治三十九年度ノ哩數ニ比較スレハ三百六十八哩六分ヲ増加セリ是レ京元  
 湖南平南ノ各新設線路ノ増加及威鏡線一部ノ開通ト改良工事竣成ノ爲哩  
 程ノ變更シタルモノアルニ由ル又大正三年度ニ於ケル列車走行哩數ハ三  
 百四十六萬一千餘哩ニシテ之ヲ明治四十年年度ニ比較スレハ一百七十三萬  
 六千餘哩ヲ増加セリ以テ朝鮮ニ於ケル鐵道發達ノ程度ヲ知ルニ足ラム今  
 兩者ノ累年比較表ヲ示セハ左ノ如シ

營業哩	明治三十九年度 (編有也)	同 四十年年度	同 四十一年年度	同 四十二年年度	同 四十三年年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度	同 三年度
營業哩	2,359,900	2,450,000	2,540,000	2,630,000	2,720,000	2,810,000	2,900,000	2,990,000	3,080,000
列車走行哩	1,665,500	1,755,500	1,845,500	1,935,500	2,025,500	2,115,500	2,205,500	2,295,500	2,385,500

四 列車設備 長距離乘客ニ對スル旅行中ノ無聊ヲ慰シ且諸般ノ便宜ヲ圖

ルカ爲ニハ經費ノ許ス限リ成ルヘク其ノ設備ニ努メタリ即チ明治四十一年  
 四月以降京釜京義線晝行急行列車ニ食堂車ヲ聯結シ民間料理業者ヲシ  
 テ其ノ經營ニ當ラシメ一二等乘客ノ需要ニ應セシメタルカ尙其ノ設備ヲ  
 改善シ旅客ニ満足ヲ與フル爲大正二年度ヨリハ之ヲ直營ト爲セリ食堂車  
 ノ聯結ト同時ニ同車内ニ碁將棋ライチングヘーバー等ヲ設備シ乘客ヲシ



テ隨意使用セシメ特ニ京釜京義兩線ノ各急行列車ニハ客扱事務車掌及列車給仕ヲ乗務セシメタリ又列車内ニ於テ發生シタル傷病者ニ對シ鐵道醫ヲ待ツノ暇ナキ應急救治ノ用ニ供スル爲前記急行列車ノ外鮮滿直通急行列車内ニ救急函ヲ設備シ更ニ嚴寒酷暑ニ對スル設備トシテ夏季ニ於テハ各列車一・二等車ニ飲用水・電扇等ヲ使用シ冬季ニ於テハ蒸汽煖房器又ハ煖爐ヲ設備セリ其ノ他京釜線夜行列車一・二等寢臺旅客ノ取扱ヲ開始シ又同線直通列車及京仁線各列車ニ電燈ヲ裝置セリ

##### 五

旅客賃率 明治三十年京釜京義兩線併有當時ニ於ケル朝鮮鐵道旅客賃金ハ京義線ニ在リテハ元臨時軍用鐵道監部ニ於テ制定シタル一哩三錢比例法ヲ以テ便乗ヲ許可シ京釜線ニ在リテハ元京釜鐵道株式會社ノ制定シタル一哩一錢八厘ヲ基礎トセル遞減法ヲ適用シタリシカスノ如キハ統一經營ノ主旨ニ反スルヲ以テ明治四十一年四月全線ヲ通シ一哩三錢ヲ基礎トセル遞減法ヲ採用シ併合後更ニ朝鮮ノ民度ニ適合セシムル爲幾分收入ノ減少ヲ豫期シ現行一哩二錢ノ比例賃金ニ改正シ以テ近距離旅客交通ノ便ヲ圖レリ

旅客賃率ハ上記ノ如クナルモ營業政策上竝特殊ノ事情ニ依リ別ニ或條件ノ下ニ賃金ヲ輕減スルノ必要アリ現行諸種ノ割引中重大ナルモノヲ舉クレハ團體乘車券回数乘車券及定期乘車券ノ外軍人軍屬警察官吏等ニ對シテハ(赴任旅行ノ場合ニ在リテハ其ノ家族ニ對シテモ)普通賃金ノ五割引トシ小學校竝普通學校生徒ノ通學乘車ハ特ニ無賃トスルノ外中學程度以上ノ學校職員生徒竝小學校及普通學校職員ニシテ冬期及夏期休業期間ヲ利用シ見學其ノ他ノ用務ノ爲旅行スルモノニ對シテハ其ノ乘車等級三等ニ限リ所定賃金ノ五割ヲ低減シ且朝鮮及滿洲農業移民獎勵ノ爲此等移住者ニ對シ是亦三等ニ限り五割ヲ減セリ更ニ停車場附近ニ開催スル市場行旅客ニ便スル爲特別割引往復乘車券ヲ發賣スルト共ニ其ノ携帶手荷物ニ對シテハ極メテ簡易ノ取扱ヲ爲シ其ノ他主要驛ニ於テハ六箇月通用回数入場券ヲ發賣セリ又京元線ノ開通ニ依リ露領沿海州行山東地方支那人苦力ノ輸送ヲ吸收シ得ヘキヲ認メ朝鮮郵船株式會社其ノ他ノ汽船會社ト結ヒ破格ノ割引ヲ以テ試驗的ニ其ノ輸送ヲ開始セリ

乘車券類ノ委託發賣ハ主トシテ外國人漫遊客ノ便宜ヲ圖ルニ出テタルモ

ノニシテ發賣乗車券ノ種類ハ朝鮮鐵道局乗車券急行座席券鐵道院線連帶  
乗車券及南滿洲鐵道線連帶急行座席券等ニシテ發賣者ハ「トーマスクック・  
アンド・ソン」商會萬國寢臺車會社及「ノルデイスクレゼビユーロー」及「ジャバ  
ンツールリスト・ビユーロー」ノ四者トス

六 旅客輸送上ノ施設 一般鮮人生活程度ノ上進ニ伴ヒ旅行趣味ノ普及シ  
タルト朝鮮ノ事情漸ク内外ニ知悉セラルルトニ依リ内鮮人及諸外國人ノ  
組織セル觀光團體ノ來往多ヲ加フルニ至リタルヲ以テ是等ノ輸送ニ關シ  
テハ特ニ便宜ヲ供與シ又新聞社等ニ於テ舉行セル汽車巡回博覽會等ノ計  
畫ニ對シテハ補助獎勵ヲ與ヘテ其ノ實行ヲ容易ナラシメ時ニ觀櫻觀桃等  
ノ爲臨時列車ヲ運轉シ以テ地方名勝ノ紹介ニ力メタリ軍事輸送ニ關シテ  
ハ常ニ其ノ計畫ヲ整齊シテ以テ有事ノ日ニ備ヘ從來施行セル數次ノ鮮滿  
駐在軍隊ノ輸送ニ當リテモ大體ニ於テ良好ノ成績ヲ收ムルヲ得タリ又旅  
客ノ傷病ヲ治療スルト從事員ノ衛生狀態ヲ良好ナラシムルトノ目的ヲ以  
テ京釜線龍山・大田及草梁ニ鐵道病院ヲ設置シ其ノ他各主要地ニ鐵道醫ヲ  
駐在セシメタリ又運輸ノ發展ニ伴ヒ内外各地トノ間ニ聯絡運輸ヲ開始ス

ルノ必要ヲ認メ各關係運輸業者ト協定ヲ遂ケ之ヲ實施セリ詳細ハ別ニ項  
ヲ分チテ記述ス今累年ノ旅客輸送人員ヲ擧クレハ左ノ如シ

	旅客輸送人員		旅客輸送人員		旅客輸送人員
明治三十九年度 (國有線) 同 四十年 同 四十一年度	一、五五〇、〇四七 二、六二五、七七二 二、一七二、七四一	明治四十二年 同 四十三年 同 四十四年度	一、九三〇、四四二 二、〇二四、四九〇 二、四二九、六八七	大正元年 同 二年 同 三年度	四、三九九、〇三二 四、九九五、四四一 四、七六八、二五一

七 貨物賃率 大貨物ノ賃金ハ元貨物ノ種類ニ依リ運賃ヲ區別セス單ニ取

扱ヲ斤扱噸扱ノ二種ニ分チ遠距離遞減法ヲ適用シタリシカ爾來經濟狀態  
ノ推移ニ鑑ミ一般消費者ノ利便ヲ圖リ多額ノ減收ヲ犠牲トシテ明治四十  
五年七月現行大貨物賃金ヲ定メ之ヲ斷行セリ此ノ改正ニ依ル利便ハ左ノ  
如シ

ト (一) 貨物ノ種類ニ從ヒ運賃ノ等級ヲ設ケ各品運賃ノ權衡ヲ得セシメタルコ

(二) 新ニ車扱ノ制ヲ設ケ大小貨物運送ノ便ヲ圖リ從來ノ噸扱ヨリ二割乃至  
四割ヲ低減シタルコト

(二) 噸扱ハ從來ヨリ一割乃至二割又斤扱(小口貨物)ハ距離又ハ品種ニ依リ相違アルモ最高四割ノ低減ヲ爲シタルコト

(四) 牛馬類ノ運賃ハ從來ヨリ二割ヲ低減シタルコト

(五) 發着手敷料ハ從來ヨリ約三割ヲ低減シ車扱ニ對シテハ一層低廉ナラシメタルコト

(六) 從來十哩未滿ノ運送ニ對シテ八十哩分ノ運賃ヲ徵シタル制ヲ廢止シ近距離貨物ノ運送ヲ便ナラシメタルコト

(七) 遠距離低減率ハ二百哩迄ニ止メシテ三百哩迄延長シ遠距離行貨物運賃ヲ低廉ナラシメタルコト

(八) 輕量ナル嵩高品ノ才積扱ヲ廢止シタルコト

八 貨物輸送上ノ施設 朝鮮ニ於ケル一般經濟力ノ發達ニ從ヒ朝鮮内ハ勿論日鮮滿間相互ノ貨物輸送數量増進セルヲ以テ其ノ輸送ニ關シテハ隨時適當ノ施設ヲ爲スノ必要アリ今既往ニ於ケル施設事項ノ主ナルモノヲ舉クレハ南大門外數驛ニ保稅扱ヲ開始シ内地線發ノ荷物ニシテ前記各地ニ到着スルモノニ對シテハ草梁ニ於ケル通關手續ヲ省略スルコトトシ殊ニ

大正二年六月ヨリ安東ニ於ケル支那關稅三分ノ一減稅ノ實施竝線布・綿糸其ノ他主要ナル貨物ノ運賃低減以來朝鮮鐵道經由ノ貨物大ニ増加セルニ鑑ミ安東ニ新義州荷扱所員ヲ常派シ聯絡荷物ノ授受及通關上ノ迅速且確實ヲ期セリ又明治四十五年十二月貨物ノ運送中止返還及著驛變更ニ關スル取扱方ヲ制定シ貨物託送後荷送人又ハ荷物引換證所持人ノ請求ニ依リ之ニ應スルコトトセリ尙穀類移出獎勵ノ爲各驛ヨリ釜山草梁群山・仁川鎮南浦木浦元山ノ各驛及新義州荷扱所ニ仕向ケ發送スル穀類ノ車扱運賃ヲ低減セリ累年ノ貨物輸送噸數ヲ擧クレハ左ノ如シ

年度	貨物輸送噸數	年度	貨物輸送噸數	年度	貨物輸送噸數
明治三十九年度	二二一、三七三	明治四十二年度	七二二、一三七	大正元年度	一、〇五、三六二
(國有後)				二年度	一、三八、八九一
四十年	三九一、七五〇	四十三年度	八八八、七二三	三年度	一、三八、六六一
四十一年度	七三七、六九三	四十四年度	一、〇六三、一一一		

九 聯絡運輸 明治四十四年十月鮮滿間ノ交通聯絡完備シ朝鮮鐵道ハ歐亞

交通ノ最捷徑路トナリタルヲ以テ同年末日滿日滿露及西歐聯絡ニ加入ノ希望ヲ提議シ日滿旅客貨物聯絡ハ大正元年十一月露都ニ開催セル會議ニ

於テ之ニ加入スルニ確定シ旅客聯絡ハ同二年五月ヨリ、貨物聯絡ハ同三年一月ヨリ之ヲ實施スルニ至リ又日滿露旅客ハ大正元年十一月露都ニ於ケル露國各鐵道ノ會議ニテ之ニ加入スルニ確定シ同三年十一月ヨリ之ヲ實施セリ西伯利亞經由國際旅客交通西伯利亞及蘇士經由周遊竝加奈陀及西伯利亞經由世界周遊交通ノ三交通ニ付テハ明治四十五年六月伯林ニ開催セル會議ニ於テ朝鮮鐵道ノ本交通ニ加入スルコトヲ主義トシテ承認セラレ大正二年六月莫斯科ニ開催セル會議ニ於テ之ニ加入スルニ確定シ目下實施ノ準備中ニ在リスノ如ク西歐諸國トノ交通ニハ之ニ加入シタリト雖通商交通上最密接ノ關係ヲ有スル日支兩國間ニハ未タ聯絡運輸ノ協定ナカリシヲ以テ先ツ以テ京奉鐵道ト朝鮮徑路ノ聯絡ヲ開始セムト欲シ大正二年三月東京ニ於テ關係運輸機關代表者ノ會議ヲ開催シ同二年十月ヨリ之ヲ實施シ越エテ大正三年三月第二回會議ヲ東京ニ開キ更ニ聯絡交通ヲ京漢・京張・津浦・滬寧ノ各鐵道線ニ擴張シ大正四年一月ヨリ實施セリ又内朝滿間ノ交通ニ關シテハ夙ニ鐵道院及南滿洲鐵道株式會社ト聯絡シテ直通運輸ノ途ヲ開キ其ノ他各汽船會社又ハ朝鮮ニ於ケル私設輕便鐵道會社ト

ノ間ニ年ヲ逐ウテ旅客貨物ノ聯絡運輸ヲ協定擴張セリ

十 倉庫 鐵道局ニ於テ倉庫營業ヲ開始スルハ獨リ鐵道輸送貨物ヲ増加スル利アルノミナラス一般經濟界ニ及ホス利便亦尠カラサルヘキヲ認メ大正二年七月以降慶山外十數箇所ニ其ノ營業ヲ開始セリ由來朝鮮ニ於ケル倉庫業ハ幼稚ニシテ一ニ地方ヲ除クノ外完備セル倉庫ナキヲ以テ産業ノ發達ヲ阻止スルコト尠カラサリシカ本營業ノ開始ニ依リ一般貨主ハ勿論地方在住商人ハ金融ノ途ヲ得ルニ至リ漸次利用増進ノ趨勢ヲ示シ大正三年中寄託貨物取扱件數一千三百六十八件ニ對シ倉荷證券ヲ發行シタルモノ七百六十一通ニ及ヒ内銀行業者等ニ依リ金融ニ資シタルモノ約六割ヲ占ムルニ徴スルモ其ノ好況ヲ窺フニ足ルヘシ寄託貨物ノ種類ハ穀類金巾木綿繩<sup>・</sup>臥<sup>・</sup>蓆<sup>・</sup>干魚<sup>・</sup>煙草<sup>・</sup>等ヲ主ナルモノトシ總噸數一萬一千六百七十六噸ヲ算セリ現在ニ於ケル營業箇所ハ左ノ如シ

慶山<sup>・</sup>大邱<sup>・</sup>倭館<sup>・</sup>金泉<sup>・</sup>大田<sup>・</sup>鳥致院<sup>・</sup>天安<sup>・</sup>鳥山<sup>・</sup>金郊<sup>・</sup>汗浦<sup>・</sup>漣川<sup>・</sup>鐵原<sup>・</sup>元山<sup>・</sup>裡里<sup>・</sup>木浦<sup>・</sup>西水庫

十一 鐵道旅館 今ヤ朝鮮鐵道ハ歐亞交通ノ最捷路タルノ位置ヲ占メ來往



ノ旅客漸ク頻繁ナラムトスルニ當リ此等旅行者ニ不便ナカラシム爲釜山・新義州・京城ノ三箇所ニ旅館ヲ開設セリ釜山及新義州ハ何レモ停車場樓上ヲ以テ之ニ充テ各種ノ設備ヲ爲シ京城ハ大規模ノ洋式旅館ヲ建築シ前者ハ大正元年後者ハ大正三年ヨリ營業ヲ開始セリ而シテ其ノ成績ハ日尙淺キヲ以テ未タ見ルヘキモノナシト雖漸次良好ノ成績ヲ呈スルニ至ルヘシ今大正三年度中(京城朝鮮ホテ)ニ於ケル成績ヲ示セハ左ノ如シ

投宿人員

二五九八八

食事客數

一〇、九二三

收入

四九七五〇圓

十二 事業ノ成績 明治三十九年九月朝鮮ニ於ケル鐵道ノ統一完キヲ得タルモ該年度ハ官私ノ經營錯綜セシヲ以テ國有鐵道トシテノ損益狀態ヲ見ムトセハ翌四十年度ヲ以テ基點ト爲ササルヘカラス即チ同年度以降損益計算ヲ示セハ左表ノ如クニシテ明治四十及四十一兩年度ハ損失ヲ來シ缺損補填ヲ受クルヲ免カレサリシモ漸次諸般ノ改良施設ト地方産業ノ發達トニ伴ヒ旅客貨物ノ輸送頻繁ヲ加ヘ營業費ノ節約ト相俟テ明治四十一年度ニ於テハ當初缺損補填豫算額四十三萬三千餘圓ニ對シ決算ニ於テハ十八萬一千餘圓ノ補填ニ止リ差引二十五萬二千餘圓ノ減少ヲ見ルニ至リ同

四十二年度ニ入りテハ一般經濟界不況ノ影響甚シク又國內暴徒ノ出沒、虎列拉病ノ發生稀有ノ酷寒等ニ依リ前年度ニ比シ旅客ニ於テ豫期ノ成績ヲ見ル能ハサリシモ尙且缺損補填ヲ受クルノ域ヲ脱シ幾分ノ益金ヲ見爾來年年累進シ大正二年度ニ於テハ湖南線ノ全通、京元線ノ一部開通等ニ依リ旅客貨物ノ輸送共ニ順潮ナル成績ヲ舉ケ前年度ニ比シ一躍殆ト二倍ニ垂ントスル利益ヲ舉クルニ至リタリ又大正三年度ニ於テハ諒闇ノ爲遊覽旅客ノ減少シタルト前年來經濟界ノ不振全ク恢復セス加フルニ歐洲戰亂等ノ爲交通運輸ニ及ホシタル影響甚大ニシテ豫期ノ成績ヲ得サリシモ京元線ノ全通等ニ依リ相當ノ收益ヲ舉クルコトヲ得タリ

	收 入		支 出		損益(△印ハ損)		收 入		支 出		損益(△印ハ損)
	入	支	出	損益(△印ハ損)			入	支	出	損益(△印ハ損)	
明治四十年度	三、五二二、七二二 <sup>四</sup>	三、五九九、七〇九 <sup>四</sup>	△ 七六、九八八 <sup>四</sup>	明治四十四年度	五、七五八、一八五、一二四、一六八 <sup>四</sup>	六、三三三、九五〇 <sup>四</sup>					
同四十一年度	四、五〇四、一九七	四、六八五、七七六	△ 一八一、五七九	大正元年度	六、八一七、二六三	五、九六四、三九六	八五二、八六七				
同四十二年度	四、二四四、二〇四	四、二〇四、二〇六	三九、九九八	同二年度	七、八五二、一八五	六、二八三、九五九	一、五六八、二二六				
同四十三年度	五、一四二、四四六	四、八〇四、〇六六	三三八、三八〇	同三年度	七、七三四、二六〇	六、五〇一、九三一	一、二三二、三二九				

而シテ一日一哩平均運輸收入ハ左表ノ如ク明治四十年度ニ於テ一日一哩

平均十三圓七十錢ナリシモノ大正三年度ニ於テハ十七圓八十三錢ニ進ミ時ニ消長ナキニ非サルモ漸次良好ノ成績ヲ示シツツアリ

一日一哩平均運輸 收入	明治四十年年度	同四十一年年度	同四十二年年度	同四十三年年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度
	一三・七〇	一六・四八	一五・六八	一八・一四	一八・八七	一九・八六	一九・〇九	一七・八三

### 第三節 工事

建築改良工事ニ關シ統監府鐵道管理局所管後ノ施設ヲ舉クレハ左ノ如シ  
京釜線ニ於テハ國有後直ニ釜山草梁間一哩ノ線路建設ニ着手シ明治四十一年四月竣工セリ

平南線ハ京義線平壤驛ヨリ分岐シ鎮南浦ニ達スル延長三十四哩三分ノ支線ニシテ明治四十二年七月速成ノ方針ヲ以テ建設ニ著手シ翌四十三年十月其ノ運輸營業ヲ開始セリ

京義線ニ於テハ明治四十二年八月國境鴨綠江橋梁ノ建設工事ニ著手シ同四十四年十月竣工セリ該橋梁ハ總延長三千九十八呎ニシテ朝鮮側ヨリ第九連

ノ鋼桁ヲ開閉式トシテ船舶ノ航行ニ便ナラシメ又橋梁ノ兩側ニ有效幅各八呎ノ步道ヲ設ケ通行ノ用ニ供セシム本橋梁ノ竣成ハ安奉線ノ開通ト相待チテ南滿洲鐵道ト朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ全ウシ以テ朝鮮鐵道縱貫線ヲシテ歐亞交通ノ一大幹線タラシムルニ至レリ

京元湖南ノ兩道ハ朝鮮開發ノ必要ニ基キ急速建設ノ要ヲ認メ前者ハ明治四十三年四月測量ニ著手シ大正三年八月全線一百三十八哩四分ノ線路ヲ開通ス後者ハ特ニ速成ノ方針ヲ以テ明治四十三年五月測量ニ著手シ大正三年一月ヲ以テ大田木浦間一百六十一三哩分及裡里ヨリ分岐シテ群山ニ至ル支線十四三哩分ヲ開通シ沿線地方ノ交通狀態ニ新紀元ヲ劃シ富源開發ニ資スル所大ナルモノアリ

咸鏡線ハ咸鏡南道元山ニ起リ咸鏡北道會寧ニ至ル三百七十三哩七分ノ幹線ト輪城附近ニ於テ分岐シ咸鏡北道清津ニ至ル五哩三分ノ支線トヲ併セ延長三百七十九哩ナルモ全線ノ急設ハ財政上許ササル所ナルヲ以テ先ツ元山ヨリ永興附近ニ至ル三十四哩八分及清津ヨリ會寧ニ至ル五十九哩六分ノ線路ヲ第一期トシ大正三年度ヨリ大正七年度迄ノ繼續事業トシテ該區間ニ於ケ

ル諸般ノ施設ハ差當リ必要ノ程度ニ止メ元山永興間ハ大正五年度中ニ清津會寧間ハ大正六年度中ニ其ノ營業ヲ開始スル計畫ヲ立テ大正三年四月ヨリ測量ヲ開始シ前者ハ其ノ全區間ニ亘リ後者ハ清津ヨリ全距里ニ至ル四十哩餘間ノ工事ニ著手セリ而シテ元山文川間十二哩五分ハ本年八月ヲ以テ開通シ朝鮮鐵道營業線路ハ茲ニ一千哩ヲ超ユルニ至レリ

以上新線建設ノ外既成線ニ於テハ京義馬山ノ兩線ハ孰レモ戰時ノ急ニ應シ特ニ速成セシモノナルヲ以テ概ネ天然ノ地形ヲ利用シ成ルヘク加工ヲ避ケ線路ノ迂回急勾配又ハ急曲線尠カラス依テ之ヲ改築シテ輸送力ノ増加ヲ圖ルノ必要ヲ認メ各線ニ改良工事ヲ施行セリ即チ京義本線ニ在リテハ明治三十八年十月臨時軍用鐵道監部ニ於テ著手シ爾來引續キ施工シ同四十四年十月大略完了シ同四十五年五月竣工シ其ノ結果全線ヲ通シテ最急勾配百分ノ一・曲線最小半徑二十鎖タルニ至レリ馬山線モ亦明治三十九年五月臨時軍用鐵道監部ニ於テ其ノ一部ノ改築ニ著手シ爾來引續キ施工シ同四十一年四月竣工セルモ猶最急勾配四十分ノ一・曲線最小半徑十四鎖ヲ存シ京釜本線トノ聯絡上不便尠カラサルカ故ニ之ヲ改築シテ最急勾配百分ノ一・曲線最小半徑

二十鎖タラシメム爲第二次改良工事トシテ之ヲ施行スル計畫ナリ

京仁線ハ當初米國人ノ設計ニ係リ線路ノ曲折甚シキモノアリシヲ以テ明治四十一年二月改築ニ著手シ同時ニ假橋梁ヲ本構造ニ改メ同四十二年三月其ノ工ヲ竣ヘタリ

平南及湖南線ハ何レモ速成方針ノ下ニ建設シ隧道及大土工ノ施設ハ成ルヘク之ヲ避ケ停車場ノ設備ヲ簡易ニシ橋梁ノ如キモ大部分ハ假構造トシ營業ヲ開始セルヲ以テ各線トモ速成後引續キ緩急ヲ圖リテ漸次改良工事ヲ施工シ前者ハ大正元年十一月ヲ以テ大略完成ヲ告ケ後者ハ大正四年二月迄ニ二十五哩四分ノ改築ヲ了シ目下延長二十七哩四分ニ亘リ工事中ナリ京元線ハ大體ニ於テ永久的構造ト爲シタルモ停車場ノ諸設備ニ至ツテハ一時的ノモノ尠カラス又土工及建物等ノ工事ニシテ未完ノモノアリ此等殘工事ハ引續キ施行中ナリ

京釜本線モ亦京義線ト同シク明治三十七八年戰役ノ際ノ速成ニ係リ其ノ最急勾配五十分ノ一最小曲線半徑十五鎖ニシテ現今歐亞聯絡最捷徑路トシテ直通列車運轉上及逐年發展セムトスル鮮滿及日支間貨物ノ輸送上多大ノ支

障アルヲ以テ線路停車場其ノ他ノ設備ニ改良ヲ要スルモノ多シ即チ清道大邱間ニ於ケル六十分ノ一勾配大邱芙江間ニ於ケル五十分ノ一勾配芙江天安間ニ於ケル八十分ノ一勾配ノ如キ何レモ最急勾配百分ノ一最小曲線半徑二十鎖ニ改築スルヲ要シ又京城附近ニ於テハ鮮滿直通列車ノ運轉ヲ見ル今日ニ於テハ南大門ヨリ直路水色ニ至ル線路ヲ設ケテ列車運轉ノ整理ト時間ノ短縮ヲ計ル外南大門及龍山停車場ノ如キ從來ノ設備ヲ以テシテハ到底時代ノ要求ニ應スル能ハス配線其ノ他ニ改良ノ必要アリ又旅客及貨物ノ激増運輪ノ發展ニ伴ヒ終端驛トシテノ釜山及草梁構内ニ於テ諸設備ノ擴張ヲ要スルモ其ノ餘地ナキヲ以テ釜山鎮埋築地ノ一部ヲ利用シ此等ノ設備ヲ爲シ其ノ結果同時ニ現在草梁工場ヲ他ニ移轉スル等ノ必要アリ然レトモ一時ニ此等全部ノ改良ヲ實行スルコトハ到底財政ノ許ササル所ナルヲ以テ先ツ第一次ノ計畫トシテ其ノ中最緊急ナル京釜線中ニ於ケル五十分ノ一勾配區間タル大邱及芙江間線路ノ改良並京城附近及草梁釜山鎮間ノ一部改良主トシテ之敷地ノ買収ノミヲ期シ該計畫ハ大正七年度迄ノ繼續事業トシ既ニ大正三年度ヨリ著手シ目下大邱芙江間改良區域中最緊急ヲ要スル大田芙江間約十三哩五

分及若木金泉間約二十哩四四分ノ土工其ノ他ノ工事中ニシテ若木金泉間ハ大正四年中ニ、大田茨江間ハ、大正五年度初期ニ於テ竣工ノ豫定ナリ今既往ニ於ケル鐵道投資額ヲ示セハ左ノ如シ

	明治三十九年度	同四十年度	同四十一年度	同四十二年度	同四十三年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度	合計
京釜鐵道買取費	三、五〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	三、五〇〇、〇〇〇
軍事費	三、三〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	三、三〇〇、〇〇〇
建設及改良費	—	一、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇七、〇〇〇	二、七〇四、〇〇〇	六、一三四、〇〇〇	八、四八六、〇〇〇	八、七三七、〇〇〇	八、四〇九、〇〇〇	七、五三二、〇〇〇	五、八二九、〇〇〇
水害復舊費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
災害費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵道用品資金	五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	五〇〇,〇〇〇
補充費	四九,〇〇〇	五七,〇〇〇	四六,〇〇〇	二一,〇〇〇	二九,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	六六,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
合計	六、六五六、〇〇〇	一〇,一五九,〇〇〇	七,七七八,〇〇〇	五,〇三九,〇〇〇	六,三三四,〇〇〇	九,三三四,〇〇〇	九,六六三,〇〇〇	八,六六三,〇〇〇	七,六三四,〇〇〇	三三,一〇六,〇〇〇

### 第四節 職員ニ對スル施設

一 救濟組合 朝鮮鐵道ニ於ケル職員救濟組合ハ明治四十三年四月鐵道院職員救濟組合ノ一部トシテ開始シタルモノナリシカ同年十月官制改正ノ



結果朝鮮鐵道ノ總督府鐵道局ノ所管ニ歸スルニ及ヒ別ニ一ノ組合ト爲シ  
從前ノ組合員ノ資格ヲ承繼セシメタリ大正二年末現在ノ組合員ハ五千四  
十四人ニシテ資金總額二十四萬餘圓ヲ有セリ而シテ既往五箇年間ニ支出  
シタル金額ハ傷痍救濟金三萬餘圓死亡救濟金五萬一千餘圓療養金二萬五  
千餘圓拂戻金二萬餘圓合計十三萬二千餘圓ナリ本組合ノ設定ハ幾多現業  
員ノ福祉ヲ増進シツツアルハ勿論彼等ヲシテ穩健著實ノ思想ト自治自營  
ノ觀念トヲ懷カシムル上ニ於テ好影響ヲ有スルヲ以テ大正四年度ヨリハ  
内地人ノミナラス朝鮮人ニモ此ノ制度ヲ及ホシ其ノ利便ニ均霑セシムル  
コトトセリ

### 第五節 輕便鐵道及軌道

舊韓國政府ノ許可ヲ得テ敷設シ總督府設置後鐵道局ノ監督ニ歸屬シタル輕  
便鐵道及軌道ハ左ノ如シ

京城府内電氣鐵道

既成

平壤市街人車鐵道

同

釜山鎮東萊間輕便鐵道 同

釜山市街及釜山鎮電氣鐵道 未成

黃澗得水里間手押輕便鐵道 同

然ルニ從來此等事業ノ監督上準據スヘキ法令ナカリシヲ以テ明治四十五年六月輕便鐵道令竝附屬法規ヲ制定シ又大正元年以降屢職員ヲ各地方ニ派遣シ將來敷設ヲ要スヘキ輕便鐵道豫定線路及朝鮮内ノ輿地ニ於ケル經濟狀況交通關係及鐵道幹線ト地方市場トノ聯絡等ヲ調査セシメ該調査ヲ基礎トシ地方交通ノ狀態ニ鑑ミテ敷設ノ緩急ヲ査定シ第一期線及第二期線ニ分チテ左ノ線路ヲ選定セムトス

第一期線

區 間	哩 程	建 設 費	區 間	哩 程	建 設 費	區 間	哩 程	建 設 費
大邱浦項間	六六	一、八四八、〇〇〇	長湖院忠州間	三七	八八八、〇〇〇	松汀里南原間	五五	一、五四〇、〇〇〇
慶州東萊間	五四	一、六二〇、〇〇〇	成歡綾川間	六九	一、五八七、〇〇〇	院村慶水間	六四	一、六六四、〇〇〇
蔚山長生浦間	七	二一〇、〇〇〇	烏致院公州間	一六	三六八、〇〇〇	沙里院海州間	四六	一、一〇四、〇〇〇
成歡長湖院間	四七	一、〇八一、〇〇〇	英江清州間	一五	三三〇、〇〇〇	孟中里北鎮間	五九	一、六五二、〇〇〇
長湖院驪州間	一四	三三三、〇〇〇	金泉安東間	七七	二、二三三、〇〇〇	計	六二六	一六、四四七、〇〇〇

第二期線

區間	哩程	區間	哩程	區間	哩程	區間	哩程
大邱三干浦間	一三九 <sup>哩</sup>	德山舊島間	四一 <sup>哩</sup>	新溪逢安間	二六 <sup>哩</sup>	永興滿浦鐵道間	二三五 <sup>哩</sup>
咸陽南原間	三五	關州江陵間	一二四	義寧安岳間	二〇	舊邑高瓦里間	一三七
安東寧海間	六〇	羅州春川間	八一	嶺南浦廣梁海間	一三	吉州惠山鐵道間	一二二
光州海南間	七九	倉洞麟蹄間	九九	平壤德川間	九三	富寧茂山間	四五
松汀里洪聖浦間	三三	鐵原金化間	二二	溫井楚山間	一〇八	會寧程城間	五三
裡里南原間	五七	鐵原新溪間	五〇	溫井立石站間	九五		
清州陰城間	三〇	新幕谷山間	四六	定州昌城間	八二	計	一、九二四

而シテ輕便鐵道ノ經營ハ成ルヘク民間ノ企業ニ委スルノ方針ヲ採リ企業獎勵ノ主旨ニ基キ大正三年度以降六分ヲ標準トシテ補助金ヲ交付スルコトトセリ總督府設置後今日迄ニ許可ヲ與ヘタル線路及既成現在線路ハ左ノ如シ

一般營業線路

區間	哩程	動力	區間	哩程	動力
大邱浦項間	一一五 <sup>哩</sup>	蒸	咸興西湖津間	八 <sup>哩</sup>	蒸
東萊長生浦間	一五 <sup>哩</sup>	同	清津羅南間	一一	電
裡里全州間	八 <sup>哩</sup>	同	後館洛東江間	〇七	手
光州松汀里間	八 <sup>哩</sup>	同			押

區	間	哩	數	動	力	區	間	哩	數	動	力
鏡城	船津	一三〇	同	押	計	金堤	東江	一八七	八〇	手	押
南	間	〇	同	間	計	東	江	四	二	間	間

專用線路

區	間	哩	數	動	力	區	間	哩	數	動	力
孟中里	東四里	四〇	四	手	押	兼三浦	李己井里	六〇	八	電	氣
東倉浦	安岳	五〇	四	同	計	釜山	佐川洞	〇	七	蒸	氣
土里	西水	五〇	八	同	新安州	价川	洞	一八	五	同	同
平安北道	東谷	〇	六	同	計	洞	洞	四二	二	同	同
橋洞	東谷	〇	六	同	計	洞	洞	四二	二	同	同

現在線路概況

區	間	哩	數	動	力	區	間	哩	數	動	力
朝鮮瓦斯電氣株式會社	全北	〇	〇	〇	〇	釜山	鍋東	五〇	八	蒸	汽
日韓瓦斯電氣株式會社	村井	〇	〇	〇	〇	釜山	全州	一五	五	同	同
松原	米吉	〇	〇	〇	〇	京城	府內	一六	〇	電	氣
威鏡北道	道廳	〇	〇	〇	〇	平壤	府內	一〇	二	手	押
計	計	四四	〇	二	〇	鏡城	羅南	五〇	〇	同	同

一般營業線路



合	計	經	營	者	區	間	延	長	動	力	軌	間
								二七・七				

即チ一般輕便鐵道及軌道哩數ハ開業線四十四哩二分、未開業線一百七十三哩二分ニシテ専用輕便鐵道及軌道ハ合計五十四哩三分、内既成線二十三哩二分ナリ

### 第六節 將來ノ方針

鐵道ノ建設及改良ニ付テハ既ニ述ヘタルカ如ク未設線永興附近ヨリ咸興、城津及鏡城ヲ經テ輪城ニ至ル二百八十五哩六分竝馬山線昌原ニ起リ鎮海ニ達スル延長十三哩ノ線路ハ財政上之ヲ第二期豫定線ニ繰延ヘタルカ現ニ著手中ノ咸鏡線一部線路ノ竣成(元永興間ハ大正五年度中清津會署間ハ大正六年度中營業開始ノ豫定)ノ上ハ成ルヘク速ニ其ノ建設ニ著手セムコトヲ期ス其ノ他朝鮮全土開發上將來敷設ノ必要アリト認ムル諸線ニ付テハ目下調査中ニ屬ス而シテ一方ニ於テハ著著既設線路ノ改良ニ努メ京釜本線及京城附近改良計畫ノ殘部、馬山線ノ勾配及曲線ノ

整理、京義本線各停車場ノ改良、平南線、馬山線ノ六十磅軌條ヲ七十五磅軌條ニ改ムルコト、兼二浦支線及寺洞炭坑線ノ改良、近ク落成セムトスル釜山第二棧橋基部ニ於ケル海陸聯絡ニ關スル施設及京釜京義線ニ於ケル道路改良等ハ孰レモ成ルヘク速ニ之ヲ遂行セムコトヲ期シ更ニ輸送能率ヲ進メムカ爲時機ヲ計リ京釜本支線及京義本線ニ複線敷設ノ計畫ヲ樹テムトス又以上既定計畫ノ遂行及今後ノ擴張改良ヲ圖ルノ外幹線ノ培養上地方的小鐵道ノ私營敷設ヲ保獲獎勵スルノ方針ナリ

運輸ニ關シテハ益事務ノ簡捷ト機關ノ充實トヲ期スルハ勿論一面國際急行列車ノ改善ヲ圖ルト共ニ他面ニ於テ朝鮮内地方列車ノ配置ヲ適切ナラシメ漸次車輛ヲ改良増備シ以テ運輸ノ迅速、安全確實ノ度ヲ高メモムトス急行列車時間ノ短縮ニ付テハ既ニ京釜京義兩幹線ニ就キ速度試験ニ著手セリ國際的運輸ニ在リテハ現今東清、烏蘇里鐵道トノ日滿聯絡ヲ除キ其ノ他ハ專ラ旅客及手荷物ノ輸送ニ限レルヲ以テ將來支那及歐洲諸國トノ聯絡運輸ヲ貨物ニ及ホシ以テ日支及歐亞貿易ノ發達ニ資スルト共ニ進テ米大陸橫斷各鐵道トノ旅客聯絡運輸ヲ開始セムトス附帶事業タル倉庫及旅館營業ハ開始後日尙

淺ク未タ充分ナル成績ヲ舉クルニ至ラスト雖將來益之カ利用ニ努メ倉庫ハ漸次必要ナル地點ニ増設シ旅館ハ京城ニ新設セル朝鮮「ホテル」ノ成績ニ徴シ釜山及平壤ニ於テモ漸次相當ノ施設ヲ試ミムトス



## 第二十章 遞 信

### 第一節 通 信 事 業

通信事業中最主要ノ地歩ヲ占ムル通信事業ハ其ノ本來ノ目的公衆ノ利便ヲ圖ルニ在リト雖其ノ經營上常ニ營業的收支ノ觀念ヲ離ルヘカラス隨テ人員及物品經濟ニ付テ十分ノ注意ヲ加ヘ事業永遠ノ基礎ヲ確立スルノ要アリ然ルニ本事業ハ政治經濟及軍事ニ直接重大ナル關係ヲ有シ特ニ朝鮮ノ如キ僅少ノ歲月間ニ急劇ナル變遷ヲ經タル地方ニ於テハ其ノ經營方法ニ付格段ノ考慮ヲ費ササルヲ得ス通信事業合同當時ニ於テハ從來ノ施設ニ對シ急速ニ改善ヲ加フルノ要アリ且當時國內一般ニ不安ノ狀態ニ在リタル爲之ニ對スル警備行動ニ策應シ他方ニ於テハ富源開發產業ノ振興ニ資スル爲益通信機關ノ整備擴張ニ努メサルヘカラサリシカ爲一時多大ノ經費ヲ要シタルハ四圍ノ事情寔ニ已ムヲ得サル所ナリトス併合後ニ至リテハ全道靜謐ニ歸シ本事業經營ノ方針モ亦常態ニ復スルヲ得タルヲ以テ各地民度ノ狀況及施政上ノ便宜ニ應シ適切ナル施設ヲ爲スト同時ニ經費ノ支出及人員物品ノ經濟上

常ニ節約ノ方法ヲ按シ而シテ其ノ節約シ得タルモノヲ他ノ有益ナル方面ニ利用スルニ努メタリ隨テ諸般ノ施設内地ニ比シテ頗ル不完全ナルヲ免レヌト雖朝鮮現時ノ民度及狀況ニ照シ先ツ以テ甚シキ不十分ヲ感セサルニ至リ之ト同時ニ其ノ收支勘定ニ於テモ明治四十三年度ニ於テ既ニ巨多ノ餘剩ヲ見ルノ狀態ニ達シタリ

明治三十八年日韓通信事業合同以來通信現業機關增加ノ狀況ヲ表示スレハ左ノ如シ

通信局所數	明治三十八年七月事業合同當時	同四十三年八月併合當時	大正四年三月末
	四四五	四九八	五九五

其ノ増加ノ計數ハ多カラサルカ如キモ郵便及電信ノ受取所取扱所及郵遞所ノ如キ設備及取扱事務ノ不完全ナル通信機關ヲ全廢シ之ヲ完全ナル郵便局郵便所ニ改定シタル等其ノ實質ニ於テ改善ヲ施シタルモノ尠カラス即チ取扱事務ノ狀況ニ依リ現業機關數ヲ表示スレハ左ノ如シ

通常郵便	小包郵便	爲替貯金	電	電	電話	國庫金
				交押及通話	通話	受拂

明治三十八年七月事業合同當時	四三五	一〇〇	一〇〇	四四	五	一	一五一
同 四十三年八月併合當時	四四〇	二九七	二九五	二七二	二四	一五一	一五一
大正四年三月末	五一一	五一一	五一一	五三五	四五	三九五	四四一

## 第二節 事業ノ施設

事業ノ施設ニ付テハ前述ノ經營方針ニ基キ遂行シタル結果明治三十九年度以降大正三年度ニ至ル過去九年間ニ於テ漸次其ノ經費ヲ増加セリ即チ事業ノ増進ニ對スルモノ四十七萬九千餘圓事業ノ改良擴張ニ要スルモノ二百四十六萬五千餘圓廳舎増設ノ爲固定シタル經費一百十九萬五千餘圓電信電話建設ノ爲固定シタル經費二百二十七萬三千餘圓ニ達セリ將來ノ施設ニ關シテ年年果シテ幾許ノ増加ヲ要スルヤニ付テハ精確ナル計數ヲ示スコト困難ナリト雖大體ニ於テ過去九年間ニ於ケル平均一年所要額ヲ超過スルコトナカルヘク而カモ事業ノ收入ハ漸次増進スヘキヲ以テ此ノ增收額中相當ノ金額ヲ以テ先ツ事業擴張ノ費途ニ充當スルノ方針ナリ

一 通常郵便物 郵便通信機關ノ擴張改善ト相俟テ其ノ主要機能タル郵便遞

送及郵便集配ノ敏活正確ヲ期スルノ要アリ即チ遞送ニ付テハ各地通信力ノ關係及道路等ノ狀況ヲ參酌シ夜中遞送ノ實施遞送速度ノ改定及遞送回數ノ増加ヲ行ヒ又鐵道及航路ノ利用ニ努メタル結果交通至難ノ島嶼ヲ除キ各郵便局所在地ニハ毎日少クトモ一回以上遞送郵便物ノ到着セサル所ナキニ至リ平均一日ノ遞送延里程ハ通常道路鐵道及水路ヲ合シ實ニ左表ノ如キ増進ヲ示シ之カ爲各地ニ至ル郵便送達日數ヲ短縮シタルコト著シキモノアリ

平均一日遞送延里程	明治三十八年七月事業合同當時	同四十三年八月併合當時	大正四年三月末
	四、七七六哩	六、二五六哩	九、七七三哩

又集配ニ付テハ地方ノ發展及通信力ノ増進ニ伴ヒ經費ノ許ス限リ區劃及集配回數ヲ増加シタル結果咸鏡南北道平安北道及江原道中極メテ僻遠ナル地方ノ外ハ交通不便ナル島嶼ヲ除キ少クトモ隔日集配ヲ爲ササル所ナキニ至リ其ノ他郵便函ヲ増設シ又ハ囑託集配ヲ直備集配ニ改定シタルノ外僻遠部落遞送集配人ノ服務途中郵便切手葉書ノ携帶賣捌及普通通常郵便物受託ノ

便法並市内速達郵便ヲ開始シタル等舊來ノ面目ヲ一新シ平均一日ノ集配延里程ハ實ニ左表ノ如キ増進ヲ示シ之カ爲通信ノ安固正確ヲ一層堅實ナラシムルヲ得タリ

平均一日集配延里程	明治三十九年九月末	同四十四年三月末	大正四年三月末
	九五〇 <sup>里</sup>	六六九 <sup>里</sup>	一五〇八 <sup>里</sup>

二郵便爲替 舊韓國政府經營時代ニ於テハ郵便爲替ノ制ナカリシカ明治三十八年七月事業合同ノ際郵遞所ヲ除クノ外各郵便局所ニ於テ總テ本事務ヲ取扱フコトト爲シ郵便ニ依ル送金ノ便法ヲ全道内ニ周布シ一般公衆ノ利便ヲ増進セリ尋テ同四十四年度中郵遞所ヲ全廢シ之ニ代ヘテ組織整備セル郵便所ヲ新設シ尙郵便爲替金ノ居宅拂交換拂及便宜拂ノ制ヲ開始スル等取扱上改善ヲ施シタル事項尠カラス此ノ郵便爲替制度カ朝鮮ノ農民及商人等ニ對シ多大ノ便益ヲ與ヘタルハ施行後幾許モナク各地ヨリ感謝狀ヲ送り來リタルモノ頻頻タリシニ依リ之ヲ知ルヘシ

三郵便貯金 郵便貯金モ亦明治三十八年七月事業合同ノ際一般ニ之ヲ開始

始シ各種ノ獎勵勸誘ノ方法ヲ講シ特ニ朝鮮人ニ對シテハ勤儉貯蓄ノ思想ヲ涵養スルノ必要上其ノ範ヲ示スノ實效多キヲ認メ官公衙ノ吏員傭人ヲシテ率先規約貯金ヲ厲行セシメタリ又利率ハ其ノ初内地ト同シク年四分二厘ナリシヲ大正元年十二月ヨリ五分四毛ニ引上ケ其ノ他貯金局待拂ノ開始、即時拂戻金額制限ノ撤廢、預入手續ノ簡便ヲ圖リタル等改善ヲ施シタル事項尠カラス

四 郵便振替貯金 郵便振替貯金ハ明治三十九年三月内地ニ於テ之ヲ開始セシ當初ヨリ朝鮮郵便官署ニ於テモ東京及大阪ニ於ケル振替口座ニ對スル受拂事務ヲ取扱ヒタル臺灣・福岡・大連等各地ノ口座ト相互聯絡呼應シ一般取引後開設セラレタル臺灣・福岡・大連等各地ノ口座ト相互聯絡呼應シ一般取引上多大ノ利便ヲ與ヘツツアルノミナラス今ヤ朝鮮内地ニ地方費徵稅上缺クヘカラサル必要ノ機關トナリ口座加入者及受拂高トモ漸次増加ノ趨勢ヲ呈セリ尙振替貯金ノ取扱ニ關シテハ集金郵便振替貯金拂込ノ制、住宅拂電信局待拂地方費賦課金收納郵便振替貯金特別取扱及振替貯金拂出證書交換拂ヲ開始シタル等改善ヲ施シタル事項尠カラス

五電信 交通不便ナル朝鮮内地ヲ開拓シ警備其ノ他諸般行政機能ノ活動ヲ期セムト欲セハ電氣通信機關ノ設備最急務ナルヲ認メ漸次主要ノ地點ニ電信事務ノ取扱ヲ開始シ尙其ノ利用ノ増進ヲ圖ル爲明治四十三年十一月電報料金ノ大體輕減ヲ斷行セリ又電信回線ノ設備ニ關シテハ常ニ地方ノ變遷ト通信力ノ關係トヲ調査シ或ハ中繼ヲ廢シテ直通線ヲ開設シ或ハ印字機通信ヲ音響機通信ニ改メ或ハ電信機ト電話機ヲ交互改装シ殊ニ朝鮮内地間多數電報ノ敏活疏通ヲ圖ル爲京城下關間・京城大阪間・京地東京間・釜山下關及元山松江間ニ直通回線ヲ設ケ自働二重電信機又ハ現波電信機ヲ裝置セリ就中京城東京間ハ陸上四百十四里海底一百十六哩ヲ有シ帝國電信回線中最長距離ノモノナルニ拘ラス其ノ通信成績ハ頗ル良好ニシテ電信ノ經置過時間ヲ短縮シタルコト顯著ナリトス尙電信ノ取扱ニ關シテ電報料金後納ノ制料金受信人拂外國新聞電報鐵道停車場揭示電報及時間外電報ノ取扱ヲ開始シタル等改善ヲ施シタル事項尠カラス通信事業合同以後電信取扱局所及電信線路ノ増加セル程度ハ左ノ如シ

電信取扱局所

取扱局所數	明治三十八年七月事業合同當時 四四	同四十三年八月併合當時 二七二	大正四年三月末 五三五
-------	----------------------	--------------------	----------------

電信線路里程

線路	明治三十九年三月末 一、一七七 <small>哩</small>	同四十三年八月併合當時 一、三七三 <small>哩</small>	大正四年三月末 一、七四八 <small>哩</small>
線路	二、四一五	三、一八五	四、七三四

六電話 各地商工業ノ發展ニ伴ヒ取引ノ敏活ヲ要スルコト益切ナルモノアルカ爲電信ト相並ヒテ電話ノ擴張普及ヲ圖ルノ急要ナルヲ認メタルモノ

面ニ於テ其ノ施設朝鮮一般ノ民度ト相伴ハサルトキハ徒ニ外觀ヲ飾ル具タルノ虞アルヲ以テ是等ノ點ヲモ酌量シ漸次主要ノ地點ニ之ヲ開設シ又警備其ノ他行政上密接ノ關係ヲ有スル須要ノ區間ニ對シテハ或ハ既設電信線路ニ専用電話線ヲ添架シ或ハ既設電信線ヲ利用シ電信電話双信法ヲ實施スル等特殊ノ方法ヲ講シ節約セル經費ヲ以テ實際ノ需要ヲ充サムコ



トニ努メタリ今通信事業合同以後電話取扱局所及電話線路増加セル程度ヲ示セハ左ノ如シ

電話取扱局所	
明治三十八年七月事業合同當時	同四十二年八月併合當時
大正四年三月末	
交換及通話	交換及通話
一五	二四
一	一五一
四五	三九五

電話線路里程	
明治三十九年三月末	同四十三年併合當時
大正四年三月末	
市内電話交換線路 線路 一八哩	八哩
市外電話線路 線路 二四一	二、八三五
線路 一四	一七
線路 九八	四七五
線路 一七五	二、六〇三

### 第三節 業務ノ成績

前節ニ述ルカ如ク一方ニ於テハ通信機關ノ整備ヲ圖ルト共ニ事業上諸般ノ



ク其ノ發展頗ル顯著ナルヲ見レ

	通常郵便物引受數	小包郵便物引受數	郵便貯金年度 本現在預人員	同上預金員	電報發信數	電話加入者數
明治四十二年度	七、六〇二、〇五五	一〇四、八三二	一九、四三六	一一七、二二七	二〇四、九四七	五〇八
大正三年度	一七、七〇九、三七〇	三四五、五三七	五四八、〇九〇	一、一三一、六八四	二六四、九〇〇	五八五

#### 第四節 事業ノ收支

日韓通信事務合同後ニ於ケル事業經營ノ狀況ヲ見ルニ過渡創業ニ際シテハ多額ノ失費ヲ免レサリシモ常ニ收支關係ニ注意ヲ怠ラサリシカ爲經常部ノ收支ハ左表ニ示スカ如ク年年順調ニ向ヒ僅ニ五年ヲ經過セル明治四十三年度ニ於テ既ニ收入ヲ以テ支出ヲ償ヒ尙若干ノ餘剩ヲ存スルニ至レリ

	通信事業經常部收支累年比較				
	歲入 (印紙收入ヲ除ク)	經常歲出	經常歲出ニ比シ歲入ノ過不足	歲入一百圓ニ對スル歲出ノ割合	
明治三十九年度	一、〇四四、四七一	一、四七九、九七四	不足	四三五、五〇三	一四一
同四十年 度	一、四九四、九九八	一、八三六、一三四	同	三三一、一三五	一二二
同四十一 年度	一、七一二、〇九一	二、〇一五、九六七	同	三〇三、八七五	一一七

明治四十二年度	明治四十三年度	明治四十四年度	大正元年度	同 二年度	同 三年度
歳入 (印紙取入ヲ除ク)	二、〇〇七、〇四四 <small>元</small>	二、五二〇、六九四	二、五九三、三一六	二、九六三、一〇六	三、一四〇、一二三
經常歳出	二、二二六、五九一 <small>元</small>	二、二七八、〇七四	二、二八五、一二四	二、五九二、三三四	二、七二五、一三五
經常歳出ニ比シ歳入ノ過下足	不足	過	同	同	同
收入一百圓ニ對スル歳出ノ割合	一一九、五四六 <small>元</small>	二四二、六一九	三〇八、一九二	三七〇、七七三	四一四、九八七
	一〇五 <small>元</small>	九〇	八八	八七	八六
					三〇、二一六
					九三

更ニ臨時部ヲ合算シタル收支狀況ヲ見ルニ事業創始ノ際電信電話ノ建設及廳舎ノ營繕等事業ノ資本ニ要スル臨時費額尠カラサルカ爲左表ニ示スカ如ク大正二年度ヲ除クノ外ハ年年多少ノ不足額ヲ見タリ

通信事業經常臨時部合計收支累年比較

期	歳入 (印紙取入ヲ除ク)	經常部	臨時部	計	總歳出ニ比シ歳入ノ過不足
明治三十九年度	一、〇四四、四七一 <small>元</small>	一、四七九、九七四 <small>元</small>	八一六、一〇二 <small>元</small>	二、二九六、〇七七 <small>元</small>	不足 一一五、一六〇 <small>元</small>
同 四十年度	一、四九四、九九八	一、八三六、一三四	三四七、五二九	二、一八三、六六三	同 六八八、六六四
同 四十一年度	一、七二二、〇九一	二、〇一五、九六七	二八七、七三六	二、三〇三、七〇三	同 五九一、六一二
同 四十二年度	二、〇〇二、〇四四	二、二二六、五九一	三〇三、五五八	二、四三〇、一四九	同 四二三、一〇四
同 四十三年度	二、五二〇、六九四	二、二七八、〇七四	二九五、六七二	二、五七三、七四七	同 五三〇、五三

同	四十四年度	二、五九三、三二六	二、二八五、一二四	四八八、一八一	二、七七三、三〇五	同	一七九、九八九
大	正元年度	二、九六三、一〇六	二、五九二、三三四	四四八、四五九	三、〇四〇、七九四	同	七七、六八七
同	二年度	三、一四〇、二二二	二、七二五、一三五	三九二、九五四	三、一一八、〇八九	過	三二、〇三二
同	三年度	三、一四九、五八八	二、九三九、三七二	二七三、六二六	三、二二二、九九八	不足	六三、四一〇

而シテ將來ニ對スル收支状態ニ付テハ固ヨリ一般經濟界ノ盛衰ニ伴フモノナルヲ以テ今遠ニ樂觀スルヲ得スト雖大體將來ニ於ケル施設ノ程度ヲ增收ノ限度ニ留ムルニ於テハ本事業經營ノ基礎ヲシテ危殆ナラシムルカ如キコトナカルヘキヲ疑ハス

### 第五節 帶附事業

一國庫金取扱事業 目下附帶事業トシテ現ニ經營スルモノノ中最主要ナルモノハ國庫金取扱事務ナリトス本事務ノ起原ハ明治三十九年十一月我カ郵便官署ニ於テ舊韓國政府ノ委託ヲ受ケ國庫金ノ受拂事務ヲ取扱ヒタルニ始マル是レ舊韓國政府側ニ在リテハ從來郡守等ニ於テ取扱ヒタル租稅ノ徵收其ノ他國庫金受拂事務ニ紀律節制ナク弊害百出シ國庫ノ收入ニ尠カラサル影響ヲ及ホシタルノミナラス金庫ノ設置國內ニ洽カラサリシカ

爲納稅其ノ他經費ノ支拂ニ不便多キヲ以テ全道各地ニ散在セル郵便官署ヲ利用シテ本事務ヲ取扱ハシムルノ便益ナルヲ認メタルト我カ通信官署ノ側ニ在リテハ當時通信機關ノ分布未タ十分ナラス郵遞所ノ如キ設備極メテ不十分ナル局所ヲ除クトキハ其ノ割合僅ニ約一百十五方里ニ付一局所ヲ有スルニ過キサリシカ故ニ此ノ事務ノ受託ニ對シ受クル所ノ報酬ヲ以テ通信機關増設費ノ一端ヲ補ハムトセシトニ因ル而シテ其ノ取扱局所ハ當初ハ金庫所在地外ノ郵便局及郵便取扱所ニ限り又其ノ取扱種目ヲ租稅受入金歳出金拂渡及歳出定額還入金ノ三種ニ限定シタリシモ明治四十二年四月ヨリハ郵遞所以外ノ郵便局ヲシテ國庫金中關稅金ノ出納保管事務ヲモ取扱フコトトシ尋テ同年十月以降ハ朝鮮總督府及所屬官署ニ屬スル總テノ歳入歳出金竝保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託ヲ要スル歳入歳出外現金ニモ之ヲ及ホシ又金庫所在地外ノ總テノ郵便局所ニ於テ取扱フコトトセリ

本事務取扱ノ成績ヲ見ルニ左表ニ示スカ如ク歳入金及歳出金トモ尠カラサル口數及金額ニ達セリ而シテ收納金ハ短少ノ期間内ニ中央金庫ニ振替拂込

マルルヲ以テ從來ニ比シ大ニ處理ノ敏速ヲ加ヘ拂渡金ニ付テハ決算ノ正確ヲ得ルニ至リ財政上顯著ナル效果ヲ得タルノミナラス其ノ取扱ニ當リ舊貨ヲ回收シ新貨ヲ流布シ貨幣整理上至大ノ援助ヲ與ヘ一般ノ金融ヲ調和シ延イテ殖産興業ノ發達ヲ援助シタルコト多大ナルハ疑ヲ容レサル所ナリ

明治四十年度		同四十三年度		大正三年度	
歳入金受入口	口數	歳入金受入口	口數	歳入金受入口	口數
四六、〇五二		二〇六、六九一		二〇五、八五〇	
四、七三六、二一五		七、九三三、二八三		一一、二四、八三六	
三七、八七〇		五七、一七八		九九、三七〇	
一九〇二、四八三		二、一〇五、六八七		七、二八四、二四九	

(備考) 本表中大正三年度歳入金受入口數ノ明治四十三年度ニ比シ減少セルハ併合以後收入印紙ヲ以テ小包郵便物輸出入税金ヲ納付セシムルコトニ改メタル結果明治四十三年度ニハ該税金受入口數ヲ包含スルモ大正三年度計數ニハ之ヲ包含セサルニ因ル

二年金恩給交付事務 本事務ハ國庫ノ支辨ニ屬スル年金恩給遺族扶助料及退隠料ヲ受給者ニ交付スルモノニシテ從來各府縣ニ於テ之ヲ處理シタルモ受給者ノ不便尠カラサリシヲ以テ明治四十三年四月以降全國各地ニ散在セル郵便官署ヲ利用シテ之カ支給ヲ取扱ハシムルコトトナリ朝鮮ニ於

アモ内地ト同シク同月以降各郵便局所ニ於テ本事務ノ取扱ヲ開始シタル  
 ニ左表ニ示スカ如ク其ノ成績良好ニシテ大ニ受給者ノ便利ヲ増進セリ

明 治 三 十 三 年 度	口	金	費
大 正 三 年 度	三、三五七	一、三六〇七四	七、五九一
		三、一〇、七七一	

三小口保險事業 目下我カ國ニ於ケル生命保險會社經營ノ實際ヲ見ルニ概  
 ネ中流以上ノ者ヲ以テ主タル目的ト爲シ保險ノ必要ヲ痛切ニ感スル中流以  
 下ノ者ニ在リテハ殆ト其ノ利便ニ浴スルコト能ハサルノ状態ニ在リ特ニ  
 朝鮮ノ如キ經濟程度ノ低キ地方ニ於テハ小口保險事業經營ノ最急要ナル  
 ヲ認ム此ノ保險ノ特色トスル所ハ保險金ノ少額ナルコト保險料金ノ拂込  
 度數頻繁ナル爲一回ノ拂込金極メテ少額ナルコト體格診査ヲ行ハサルコ  
 ト契約加入ノ手續極メテ簡易ニシテ汎ク多數下級者ヲ網羅シ得ルコト等  
 ニシテ其ノ經營ニハ勢ヒ多額ノ經費ヲ要スヘキニ由リ營利ヲ以テ目的ト  
 爲ス民營保險會社ノ到底克ク堪フル所ニ非サルハ論ヲ俟タス而シテ之ヲ  
 官營ト爲ス以上ハ郵便局所ヲ利用シ附帶事業トシテ其ノ經營ノ任ニ當ラシ  
 ムルコト最便益ナル方法ナリトス依テ之カ實行ノ方法ニ關シ目下講究中ナリ



## 第二十一章 海軍

### 第一節 施設ノ大要

舊韓國政府時代ニ於テハ航路標識ノ施設ニ關シ稍見ルヘキモノアリシモ一般海事ニ關シテハ法規ノ整備統一シタルモノナク隨テ船舶及海員ニ對スル監督十分ナラス航運事業亦不振ノ狀況ニ在リシモ總督府設置後必要ナル海事諸法規ヲ制定整備シテ在來ノ缺陷ヲ補足シ一面命令航路ノ整理統一ヲ遂ケ之カ保護督勵ニ努メ又須要ナル地點ニ路航標識ヲ増設シタル結果朝鮮ニ於ケル海路交通ハ漸次發展ノ機運ニ向ヒ船舶海員ノ數亦比年増進ノ趨勢ヲ呈シ來レリ

### 第二節 船舶海員ノ監督

朝鮮從來ノ海事ニ關スル法規トシテ見ルヘキモノハ僅ニ朝鮮船舶ニ對シ適用スヘキ海上衝突豫防船舶ノ登録及検査ニ關スル舊韓國法及在朝鮮内地人所有ノ日本船舶ニ對シ適用スヘキ船舶登録及検査ニ關スル統監府令竝是等

法規ニ關スル附屬命令ノ數者アリシニ過キスシテ海員ヲ取締ルヘキ船員船  
舶職員及海員懲戒ニ關スル法規竝海難ノ豫防ニ缺クヘカラサル船燈信號器  
救命具ノ取締及海難ノ場合ニ於ケル救護等ニ關スル制規ニ至リテハ全然之  
ヲ缺如セル爲船舶及海員ニ對シテ十分ナル監督保護ヲ施スコト頗ル困難ナ  
リシノミナラス前掲海事法規ハ朝鮮船舶及在朝鮮內地法人所有ノ日本船舶  
ニ對シ各別ニ適用セラレ其ノ間種種ノ不便ヲ生シ監督及保護ノ點ニ於テモ  
亦公平普遍ナルコトヲ得ス到底今日ノ時運ニ適應セサルヲ以テ大正三年度  
ニ於テ朝鮮船舶令朝鮮船舶積量測定令朝鮮船舶検査令朝鮮船員令朝鮮船舶  
職員令朝鮮海員懲戒令朝鮮水難救護令海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行スルノ  
件及朝鮮總督府海員審判所官制其ノ他附屬府令二十六件ヲ制定實施セリ斯  
ノ如ク海事法規ハ一先ツ完成ヲ告ケタリト雖內地及各殖民地トノ間ニ於ケ  
ル共通制度ヲ布キ其ノ取扱ヲ一樣ニ爲スヲ得ルニ至ラサレハ未タ以テ十分  
ナリト云フヲ得ス故ニ將來前記法令實施ノ成績ニ鑑ミ適當ノ時機ニ於テ內  
地及他ノ殖民地トノ聯絡共通ヲ圖リ以テ海事法規ノ運用上些ノ遺憾ナキヲ  
期セムトス

朝鮮在籍船舶及船員ノ數ハ海路交通ノ漸次發展スルニ伴ヒ年年増進ノ成績ヲ示スコト左表ノ如シ

		朝鮮在籍船舶數		大正四年三月末日	
		明治四十三年八月併合當時			數
		船數	噸數	船數	噸數
汽船	二〇	二、八三五噸	七六	一五、九〇八噸	
帆船	四	一三五噸	二四三	六、七五三噸	
石船	六	一、五六七噸	一一	二、六九〇噸	
合計	三〇	三、一二六噸	三三〇	二二、九三〇噸	

(備考) 合計噸數中ニハ積石數十石ヲ一噸ニ換算シテ算入ス。

		船員現在數		(大正四年三月末日)	
		職員	其ノ他ノ船員	計	
内地	四三四	五二二	九五六		
朝鮮	二二	五四五	五六六		
支那	一	八	八		

合	計	職	員	其ノ他ノ船員	計
			四五五	一〇七五	一、五三〇

### 第三節 命令航路

舊韓國政府時代ニ於ケル朝鮮沿岸補助航路ハ東沿岸、南沿岸及全羅沿岸一三航路アリシニ止マリ明治四十一年以降之ヲ開始シ其ノ成績概シテ不良ナラサリシモ各其ノ經營者ヲ異ニスルト且當初政府ニ於テ補助航路ニ對シ一定ノ方針ナク單ニ請願ヲ基礎トシテ順次ニ之ヲ採用シタリシ等ノ關係上相互航路間ニ聯絡統一ヲ缺キシヲ以テ同四十五年三月補助命令期間ノ滿了ヲ機トシ其ノ整理統一ヲ圖リ且之ヲ朝鮮全沿岸ニ擴充シ同時ニ河川ニ對スル航路補助ノ必要ヲ認メ同年四月新命令航路ヲ定ムルニ當リ大同江及錦江ノ兩航路ヲ加ヘ大正二年四月又沿岸航路中ニ二線ヲ追加シ更ニ同三年四月鴨綠江航路ヲ加ヘタリ

朝鮮ニ於ケル命令航路ハ前述ノ如ク逐次發展ノ機運ニ嚮ヒ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖對外航路ニ付テハ未タ何等ノ施設ヲ見サルノミナラス沿

岸及河川航路中尙整理改善ヲ要スルモノアルニ至リタルヲ以テ更ニ近海沿岸及河川ノ三航路ニ分チテ精査ヲ遂ケ大正三年度末命令期限ノ終了ヲ告クルヲ機トシ直ニ本調査ヲ實現スルノ計畫ナリシモ同四年度豫算ノ不成立トナリシカ爲差向前年ノ豫算ノ範圍内ニ於テ從來ノ命令航路ニ幾部ノ整理ヲ加ヘテ之ヲ繼續セシメタルカ其ノ後同年度追加豫算ノ成立ニ依リ沿岸航路ニ豫定ノ整理改廢ヲ加ヘ又一面ニ於テ近海航路タル元山浦潮斯德線ヲ新設シ同年六月ヨリ又河川航路ハ同年七月ヨリ何レモ同九年三月迄ヲ期間トシテ夫夫命令セリ今其ノ命令航路ノ大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 近海航路		二 沿岸航路	
線路	寄港地	線路	寄港地
元山浦潮斯德線	城津、清津、釜山、門司、長崎、大阪（臨時延長）	甲線 清津、國津、瀧大津、明川、城津、楸川、遠岬、新島、新浦、前津、西湖津、元山、釜山、外臨時寄港八箇所	乙線 甲線寄港地ノ外島崎、軒城、蕪陽、江陵、三陟、竹邊、丑山浦、浦項、蔚山、外臨時寄港同上
	航海度數 月同		航海度數 月同
	受命者 朝鮮郵船株式會社		受命者 朝鮮郵船株式會社
		各三	

線	路	寄	港	地	航 月 海 度 回 數	受 命 者
元	山 雄 基 路	西 湖 津、前 津、新 河、新 昌、遼 湖、柴 川、坂 津、明 川、大 良化、 漁 大 津、獨 津、清 津、製 津外 臨時寄 港六ヶ 所			六	同
釜	山 豐 陵 島 路	甘 小、九 龍浦、 沓 項、盈 德、寧 海、竹 邊外 臨時寄 港三ヶ 所			四	同
釜	山 浦 項 路	壽 山、方 魚津 外 臨時寄 港四ヶ 所			日 登	同
釜	山 瀨 水 路	行 殿、孫 馬山、 新馬 山、統 營、三 千浦、 船津、 景橋、 露雲 津 木浦 （臨時 延長 前、西 歸浦、 表善 里） 外、二 臨時寄 港二ヶ 所			二〇	同
釜	山 濟 州 島 路	長 承浦、 腰水、 巨文 島、城 山浦、 朝天、 山地、 翰林、 狹才 里、寧 忍 外、二 臨時寄 港二ヶ 所			一〇	同
木	浦 濟 州 島 路	所 安島、 山地、 初天、 金寧、 城山 浦、表 善里、 西歸 浦、寧 忍浦、 西總 才里、 翰林、 楸子 島、島 外、二 臨時寄 港二ヶ 所			各 四	同
木	浦 多 島 濱 路	東 迎三 回シ 但シ 順位ハ 反對 トス 外、二 臨時寄 港同上			三	同
仁	川 木 浦 路	箕 佐島、 牛瀨 島、大 黒山 島、梅 加島、 苦島、 黒山 島 外、二 臨時寄 港一ヶ 所			六	同
仁	川 海 州 路	壽 島、安 興、松 川、群 山、忍 浦、法 聖浦、 月三 回以上 寄港 以下皆 同シ、 古群 山島、 蝦島、 鞍馬 島、禊 子島 外、二 臨時寄 港四ヶ 所			二〇	同
仁	川 鎮 南 浦 路	江 華島、 喬桐島 外、二 臨時寄 港一ヶ 所			四	同

三 河 川 航 路



ノ航通上其ノ設備ノ急要ナルヲ感シ同二十八年中内地ヨリ技師ヲ派遣シ沿岸ノ測量調査ヲ爲シタルニ始マル同三十四年ニ至リ更ニ帝國政府ヨリ舊韓國政府ニ交渉勸告ノ結果内地ヨリ技師ヲ招聘シ漸ク之ヲ建設ニ著手シタルモ當時多額ノ經費ヲ支出スルコトヲ得サリシ爲同三十八年迄ニ於テ全沿岸ニ亘リテ航路標識ノ建設セラレタルモノハ日露戰役中帝國陸海軍ノ手ニ籍リテ建設シタルモノヲ併セ僅ニ十餘箇所ニ過キサリシカ同三十九年以降大正三年度ニ至ル過去九年間ニ於テ總工費一百三十八萬圓ヲ投シ樞要ナル地點ニ建設シタル結果左表ニ示スカ如ク長足ノ進歩ヲ爲セリ

	燈	標	燈	標	警	號	計
明治三十八年末	一〇	二	一〇〇	一	一六	一	一一二
同四十三年度末	五七	二	一〇〇	一	一六	一	一七三
大正三年度末	八一	二	一一九	一	一七	一	二一七

大正三年度末ニ於ケル燈標分布ノ密度ハ沿岸湊數一百四湊ニ付一基ヲ有スルニ過キササルノ割合ニ當リ之ヲ臺灣ノ四十湊内地ノ五十七湊ニ付各一基ヲ有スルノ割合ニ對比スレハ其ノ及ハサルコト尙頗ル遠キノミナラス朝鮮沿



岸ハ特ニ潮流ノ劇甚ナルコト、潮ノ漲落ノ差ノ大ナルコト、濃霧ノ頻發スルコト、航路ノ屈折多岐ナル等航海上危険不安ヲ感スルノ點多大ナルヲ以テ航路標識ノ普及ハ海運政策上最大急務ノ一ナリトス依テ將來國費ノ許ス限リ漸次樞要ノ地點ニ増設シ以テ航路ノ安全ヲ期セムトス

## 第二十一章 電 氣

### 第一節 電氣事業ノ監督

併合當時ニ於ケル電氣事業界ハ其ノ業務ヲ開始セルモノ僅ニ京城、仁川及釜山ノ三會社ニ過キサリシモ大正四年三月末ニ至リテハ其ノ數實ニ十七ニ達シ將來漸次増進ノ趨勢ヲ示セリ電氣事業ハ商工業ノ發展ニ密接ノ關係ヲ有シ又公共ノ利害安危ニ多大ノ影響アルヲ以テ斯業ノ健全ナル發達ヲ期圖セムニハ十分ナル監督及保護ノ途ヲ講スルノ要アリ依テ明治四十四年三月電氣事業取締規則ヲ制定公布シ電氣事業ノ經營ニ關シテハ許可主義ヲ採ルコトヲ明確ニシ且事業ノ危險防止等ニ關シ精細ナル事項ヲ規定セリ

電氣事業ノ出願ニ對シテハ從來地方ノ實狀ニ鑑ミ又其ノ需給ノ程度ヲ按シ企業地ニ對スル事業ノ要否、企業者ノ企業地ニ對スル關係、企業成立ノ確否及設計ノ適否竝企業者ノ人物、資産、信用ノ程度等ヲ精査シ適切穩健ナル企業ナリト認ムルモノニ限り之ヲ許可スルノ方針ヲ採リ來リタルカ將來ニ於テモ依然此ノ方針ニ則リ徒ニ私利ヲ貪ラムトスル投機者流ニ權利ヲ獲得セシメ

眞摯穩健ナル企業ノ成立ヲ遮止シ之カ爲延イテ地方人民ノ企業心ヲ萎靡挫折セシメ斯業ノ發達ヲ阻碍スルカ如キコトナキヲ期セムトス

電燈及電力料金ノ制ハ公共ノ利害ニ直接重大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ事業經營ノ狀況地方ノ經濟狀態物價勞銀ノ關係投資額ノ多寡設備ノ大小供給範圍ノ廣狹等ニ鑑ミ傍類似事業トノ權衡ヲ參酌シ各會社ヲシテ漸次料金ヲ低下セシメ以テ當業者ト公衆トノ利益ヲ調和節制スルニ努メツツアルモノヲ内地ニ比較スレハ尙未タ一般ニ高キニ過クルノ嫌アリ是レ主トシテ朝鮮ニ於ケル此等會社ノ多數カ創設日淺ク容易ニ豫期ノ成績ヲ收メ得サルニ因ルモノナルヲ以テ將來事業ノ漸次發展スルニ伴ヒ適宜料金ノ遞減ヲ行ハシメ以テ公衆ノ利益ヲ圖ラムトス

電氣事業ノ成績ハ左表ニ示スカ如シ

	事業開始會社數	拂込資本金(圓)	發電力(キワット)	供給電力(同)	電燈數(十燭光換算)	電 氣	鐵 道
						互 長 (哩)	延 長 (圓)
明治三十八年度末	二	二、一〇〇、〇〇〇	八六五	不詳	一	不詳	不詳
同 四十三年度末	三	三六、一五〇、〇〇〇	一、五七五	七一一	二二、七〇〇	一三	一六
大正三年度末	一	一七七、五二二、三五九	七、三六八	四、〇八六	一〇三、二八二	一六	二二

## 第二節 發電水力ノ調査

輓近電氣遠送方法ノ進歩ニ伴ヒ發電原動力トシテ水力ノ利用ヲ促進スルニ至リ現ニ内地ニ於テモ數年以前ヨリ發電水力調査事業ニ著手シタルカ由來燃料ニ乏シキ朝鮮ニ於テハ其ノ必要特ニ痛切ナルモノアルヲ以テ明治四十四年四月本調査ニ著手スルコトトシ同年九月初旬ヨリ著著作業ヲ開始シ先ツ豫定ノ水系ニ就キ實地ヲ踏查シテ水力地點ヲ選定シ次ニ河川ノ流域内必要ノ箇所ニ雨量觀測所ヲ配置シ又關係河川ニ量水標ヲ設備シ有望ナリト認メタル地點ニ對シテハ測量班ヲ派遣シテ實測ニ從事セシメ大正三年六月ヲ以テ外部ノ調査作業ヲ了レリ今其ノ調査成績ノ梗概ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 踏查 踏查ハ發電水力調査第一次ノ作業ニシテ先ツ水力電氣事業ノ經營ニ有望ナリト認ムル水系ノ流域及地勢ノ概畧ヲ豫メ地圖面上ニテ查察シ技師ヲシテ實地ニ就キ之ヲ踏查シ流量及河川ノ狀態等ヲ照查シ馬力數及豫定水路等ヲ概定シ水量十五箇水力二百馬力ヲ最小限度トシテ水力地點ヲ選定セシメタリ其ノ踏查ノ成績ハ左ノ如シ

水系 十二 水力地點數 八十 馬力數 七萬六千馬力

二實測 踏査ニ依リ選定シタル水力地點ノ中ニ就キ電氣事業經營上利便ニシテ且經濟上有利ニ電氣ヲ發生供給スルヲ得ハキ地點ト認ムルモノヨリ漸次實測作業ヲ施行スルノ方針ヲ以テ測量班ヲ派遣シ測地測水作業ニ當ラシメ大正三年六月ニ至リ主要地點三十九箇所ノ實測ヲ終了シ水力合計約三萬四千馬力ヲ得タリ今之ヲ水系別ニ掲レハ左ノ如シ

河名	水力地點數		馬力數	
	實測	踏査	實測	踏査
洛東江	六		二、八九三	一、四五六
錦江	四		一、七二二	八一五
漢江	一三		一一、三六四	二、三〇六
臨津江	五		六、一四一	四六五
大同江	五		六、七四七	三三、九〇九
合計				

以上ノ中ニ就キ晋州附近ノ洛東南江第一號、陝川附近ノ南汀江第一號、大田地方ノ錦江第一號、全州地方ノ蟾津江第一號、鐵原附近ノ臨津江第三號、華川附近ノ北漢江第一號、德川附近ノ北大同江第二號及奉川附近ノ大寧江第一號ハ水力利用上最モ注目ニ値スル地點ナリトス

三雨量觀測 雨量ノ多寡ハ流域ノ面積及殖林狀態等ト相待チ河川流量ノ大  
 小及其ノ變化ト最密接ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ其ノ觀測ハ水力調  
 査上重要ナル事項ニ屬スルト共ニ極メテ正確ヲ期セサルヘカラス依テ水  
 力地點ヲ有スル河川ノ流域内ニ少クトモ一箇所以上ノ雨量觀測所ヲ設置  
 シ郵便局警察署及憲兵隊等ニ觀測ヲ委囑シ其ノ觀測表ヲ蒐集セルコトト  
 セリ大正三年三月末ニ於ケル雨量觀測所數ハ合計七十五箇所ニシテ又同  
 二年中ニ於ケル降水量ヲ流域別ニ表示スレハ左ノ如シ

漢江	臨津江	大同江	清川江
自 九〇〇	至 一、一〇〇	自 九〇〇	自 七〇〇
自六月 至九月 七五〇	自六月 至九月 八五〇	自六月 至九月 六〇〇	自六月 至九月 五〇〇
大寧江	錦江	洛東江	贛津江
自 六〇〇	自 六〇〇	自 八〇〇	自 九〇〇
自六月 至九月 四〇〇	自六月 至九月 三五〇	自六月 至九月 三五〇	自六月 至九月 三〇〇

本表ニ依リテ之ヲ見レハ六月ヨリ九月ニ至ル四箇月間ハ朝鮮ニ於ケル多雨  
 季ニ屬シ本期間ノ降水量ハ殆ト年降水量ノ過半ニ達シ其ノ分布狀態ト略相  
 同シキヲ察知スルヲ得ヘシ而シテ本調査ハ獨リ發電水力調査ノ資料トシテ

必要ナルノミナラヌ一面水利計畫事業ノ資料トシテ裨益スル所亦鮮少ナラサルヘシト信ス

四水位觀測 水位ノ昇降ハ直ニ流域ノ増減ヲ來タシ隨テ水力地點ニ於ケル馬力數ヲ測定スル上ニ至大ノ關係ヲ繋クモノナルカ故ニ水力地點ノ豫定取入口放水口其ノ他測水地點ノ如キ主要ナル箇所ニ量水標ヲ設置シ各其ノ附近ニ於ケル信用アル者ヲ選ミテ水位ノ觀測ニ當ラシメタリ大正三年三月末ニ於ケル水位觀測所ノ數合計三十七ヲ數フ

朝鮮ニ於ケル河川流量ハ降水量少ク且蒸發量ノ強大ナルト森林狀態劣悪ナルトノ爲内地ニ比シ甚寡少ナリトス今明治四十五年ヨリ大正二年ニ至ル調査ノ結果ヲ綜合スルニ地方ニ依リ差異アルヲ免レスト雖漢江以北ノ河川ハ冬季ニ於テ水源結氷涸渴スルヲ以テ渴水期ハ冬季ニ於テ起リ其ノ渴水量ハ一平方里ニ付一箇乃至一箇半ニシテ又錦江以南ノ河川ハ冬季結氷スルコト少ク反テ夏季蒸發量ノ旺盛ナル時期ニ於テ渴水シ渴水量ハ一平方里ニ付〇六乃至一箇ナリトス

## 第二十三章 調查事項

### 第一節 土地調查

土地調査ハ土地ノ面積、境界ヲ測定シ地籍ヲ明カニシテ所有權ヲ確保シ地稅ノ負擔ヲ公平ニシ賣買、讓渡ヲ簡捷確實ニシ以テ土地ノ改良及利用ニ便シ且其ノ生産力ヲ増進セシムルヲ目的トス抑朝鮮ノ現行地稅制度ハ今尙數百年前ノ結制度ヲ襲用シ當ニ現今ノ經濟狀態ニ適應セサルノミナラス法規弛廢ノ結果到ル處所謂隱結ナルモノヲ生スル等課稅ノ公平ヲ失スル殆ト其ノ極ニ達セリ耕地面積ノ稱呼ハ從來ノ一斗落(一斗ノ種籽ヲ播下スル面積)或ハ一日耕人一人牛一頭一日間ニ耕ス面積ノ單位ヲ用井其ノ大小區區ニシテ實際ノ面積ヲ知ルヘカラス又土地ニ關スル權利證明ノ如キモ當事者間ニ於テ作成シタル不完全ナル文記ニ依ルカ否サレハ頗ル不整備ナル書類帳簿ニ基ケル郡守ノ證明ニ依ルノ外ナキヲ以テ常ニ詐欺的ノ賣買、典當行ハレタルニ依リ舊韓國政府ハ之カ矯正ノ一法トシテ明治三十九年中土地建物證明規則及土地建物典當執行規則ヲ制定公布シ以テ公簿登錄、權利公認ノ途ヲ開キ稍其



ノ面目ヲ改メタリト雖前述ノ如ク土地ノ面積ヲ示表スル單位頗ル不確實ナルノミナラス土地ノ農動不整理ニシテ地籍紛亂シ荒廢地ニシテ課稅ヲ受ケ既墾地ニシテ却テ免稅セラルルモノアリ此等ノ弊害ヲ一掃セムトセハ是非トモ全土ニ亘リ完全ナル土地調査ヲ遂行スルノ必要アリ舊韓國政府ハ明治三十一年中量地衙門ヲ設置シ内部、度支部、農商工部各大臣ヲ其ノ總裁トシ一米國人ヲ顧問トシテ土地調査ノ事務ヲ開始シ次テ明治三十四年中量地衙門ヲ改メ地契衙門ヲ設ケ(官制ヲ改メ總裁ヲ一人トス)事業ヲ繼續セリト雖該衙門ハ京城市街ヲ除クノ外ハ朝鮮在來ノ測量方法ヲ用井タルノミナラス其ノ經費ノ如キモ從事者ノ旅費、食料ニ至ル迄之ヲ直接人民ニ負擔セシメタルヲ以テ往往其ノ反抗ヲ招キ事業ノ進行上多大ノ支障ヲ生シ明治三十六年終ニ廢廳ノ止ムナキニ至レリ其ノ後舊度支部臨時財產整理局ニ於テ土地調査ノ準備ニ著手シ且主トシテ土地調査費ノ支辨ニ充ツルノ目的ヲ以テ明治四十二年末第二起業資金債ヲ起シ翌年三月臨時土地調查局ヲ設置シ實地測量ニ著手シタリシカ併合ノ結果土地調査ノ事業ハ朝鮮總督府臨時土地調查局ノ掌理スル所トナレリ同局ノ總裁ハ政務總監ヲ以テ之ニ充テ副總裁一人、書記官三人、事務官二人

監査官一人、技師四人、後五人ニ改ム。書記及技手通シテ五十人ノ定員ヲ置キ、更ニ必要ニ應シ豫算ノ範圍内ニ於テ監査官、書記及技手ヲ定員外ニ増置シ尙必要ト認ムル。地ニ支局又ハ出張所ヲ設置スルコトトセリ。臨時土地調査局ハ之ヲ庶務調査測量ノ三課ニ分チ調査課ニ在リテハ主トシテ土地ノ境界、所有主、地目及地位等級ヲ調査シテ其ノ調査書、土地臺帳及地券ヲ調製シ測量課ニ在リテハ大三角測量及一筆地測量ヲ爲シ且圖面ヲ作製ス其ノ後同局ハ行政整理ノ結果明治四十五年三月官制ヲ改正シ總裁、副總裁ヲ廢シテ局長ヲ置キタルト雖土地調査事業ハ方ニ擴張ノ時期ニ際シ漸次職員ヲ増員スルノ必要アルヲ以テ事務官專任二人ヲ五人ニ、技師專任五人ヲ七人ニ増員シ殊ニ下級從業員ノ如キハ事業ノ膨脹ニ伴ヒ著シク其ノ人員ヲ増加シ局務亦漸次複雑トナリタルヲ以テ明治四十五年六月庶務課ヲ總務課ニ改メ事業ノ一般監理及計畫ヲ分掌セシメ更ニ大正二年九月從來ノ三課ヲ廢シ總務、技術、調理、測地、製圖及整理ノ六課ニ分テリ

舊韓國政府ノ編成ニ係ル土地調査事業ノ豫算ハ明治四十三年以降八箇年ノ繼續事業トシテ總費額一千四百十二萬九千餘圓ヲ計上シタリシカ併合後ニ

至リ實地調査ノ結果ト時運ノ發展トニ鑑ミ及フ限リ事業ヲ速成スルノ必要ヲ認メ調査面積ヲ二百七十五萬五千町步ト看做シ其ノ繼續年限ヲ短縮シ明治四十三年二月事業開始當時ヨリ起算シ滿七箇年ヲ以テ完成スルノ計畫ヲ立テ其ノ總豫算額ヲ一千五百九十八萬六千餘圓ト定メタリ然ルニ更ニ調査ノ進捗スルニ從ヒ調査面積ノ割合當初ニ比シ増加シ且一般圖測量地形測量及異動地整理ノ新作業ヲ開始スルニ至リシ爲經費三百九十九萬三千餘圓ヲ增加シ大正七年度ヲ以テ完成スヘキ計畫ニ改メタリ又當初ニ於テハ土地調査ノ土地券ヲ發行スル計畫ナリシカ其ノ後不動産登記令ノ發布ヲ見ルニ至リシヲ以テ該計畫ハ中止スルコトナレリ

土地調査事業ハ大三角測量小三角測量及圖根測量ノ各測量作業ヲ順次施行シ更ニ一筆地測量ノ準備トシテ道府郡及面洞里ノ境界ヲ調査シ土地所有者ヨリ土地申告書ヲ取纏メ然ル後土地ノ境界所有主地目及地位等級ヲ調査シ測量ノ土地籍圖土地調査簿及土地臺帳ヲ調製シ更ニ調査後生シタル土地ノ異動ヲ整理スルモノニシテ此等ノ手續ヲ終了シタルトキハ土地ノ所有權及其ノ境界ニ付キ道地方土地調査委員會ニ諮問シタル後之ヲ査定シ尙其ノ決定ニ對シ不服アル者ハ高等土地調査委員會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得ヘク高

等土地調査委員會ハ更ニ周到ノ審査ヲ遂ケ最終ノ裁決ヲ與フルモノトス事業開始以來大正三年十二月迄ニ調査及測量ヲ終了シタルハ七十一郡舊郡ニ依ルトキハ一百四十八郡八百七十萬二千餘筆、市街地二十九箇所十一萬七千餘筆其ノ内土地臺帳等ノ調製完了シ既ニ査定公示ノ手續ヲ了シタルハ市街地全部及十二郡一百十二萬九千餘筆内高等土地調査委員會ニ不服申立ヲ爲シタル八百二十四件三千二百八十八筆及舊居留地ノ分三百十二筆ヲ除クノ外ハ總テ土地所有權及境界確定セリ又製圖積算及土地臺帳調製等ノ事務ニシテ大正三年十二月迄ノ既濟筆數ハ製圖五百七十二萬餘筆、積算四百四十七萬九千餘筆、土地調査簿二百七十二萬八千餘筆、土地臺帳二百三十五萬一千餘筆ナリ調査施行地方ノ順序ニ付テハ大體中部ヨリ漸次南部ニ及ヒ更ニ北部ニ及ホシ以テ本事業ヲ完結スルノ豫定ニシテ將來ニ於テ特別ノ事情發生セサル限り此ノ方針ヲ以テ進行スルノ豫定ナリ今一筆地測量ノ著手及完成豫定年度割ヲ舉クレハ左ノ如シ

著 手

完 成

京畿道

明治四十三年度

大正四年度

忠清北道	同四十五年度	同四年度
忠清南道	同四十五年度	同四年度
全羅北道	大正三年度	同五年度
全羅南道	同三年度	同五年度
慶尙北道	明治四十三年度	同四年度
慶尙南道	同四十四年度	同四年度
黃海道	大正三年度	同五年度
平安南道	同二年度	同五年度
平安北道	同四年度	同六年度
江原道	同四年度	同六年度
咸鏡南道	同四年度	同六年度
咸鏡北道	同四年度	同六年度

右ノ外一般圖測量ハ大正三年度ヨリ著手シ大正七年度中ニ完了スル豫定ナリ各道沿岸ニ散在スル島嶼ニ付テハ調査開始ニ當リ耕地宅地面積ノ割合、人口ノ多寡、交通ノ便否等ヲ稽ヘ其ノ都度調査實施ノ有無ヲ決定スルノ方針ヲ

採リ從來隔在セル小島嶼ニシテ耕地宅地面積ノ過少ナルモノハ其ノ必要ト  
經費トノ關係上此ノ際調査セサルコトトセリ將來ニ於テモ此ノ方針ヲ以テ  
進行セムトス尙本事業ハ從來ノ實蹟ニ徵スルニ其ノ功程及各作業ノ聯絡ニ  
於テ尙未タ豫期ニ適ハサルモノアルヲ以テ今後ハ一層各種作業ノ聯絡統一  
ヲ期スルコトニ努メ又特殊ノ給與及獎勵制度ヲ施行シ一層其ノ功程ヲ増進  
セシメ以テ既定ノ年限内ニ事業ノ完成ヲ期セムトス

土地臺帳、地稅名寄帳及地籍圖等ハ一府郡ノ査定公示ヲ終了スルト共ニ漸次  
府郡ニ之ヲ引繼クモノニシテ此等ノ簿書及土地調査簿、測量原圖及一般圖原  
圖ノ保管ニ付テハ特ニ注意ヲ要スルカ故ニ將來災害豫防ノ方法トシテ適當  
ノ倉庫ヲ作ルカ又ハ之ニ代ルヘキ防備方法ニ付適宜ノ措置ヲ講スルノ必要  
アリ又市街地ニ在リテハ土地臺帳引繼ト同時ニ不動産登記令ヲ施行シタル  
カ今後ハ郡部ニ在リテモ「總後直ニ登記令ヲ施行スルノ方針ヲ執ラムトス

## 第二節 制度及舊慣ノ調査

朝鮮ニハ李大王ノ二年ニ編纂シタル大典會通アリ李朝約五百年ニ亘ル主要

ナル法令ヲ輯集シタル法典ニシテ百般ノ制度皆之ニ則リ明治二十七年政務ノ改革ヲ行ヒシモ主トシテ官制ノ改正ニ止マリ殆ト其ノ他ニ及ハス又明治三十八年刑法大全ヲ編成セシモ民事ノ實體法ハ全ク備ハラス又裁判所構成法(光武三年公布)辯護士法(光武九年公布)民刑訴訟ニ關スル規程(開國五百四年公布)申訴事件處理規則、執行處分規則等裁判所ノ組織及訴訟手續ニ關スル法規アリシモ殆ト實行セラレス總テ從來ノ慣行ニ從ヘリ明治三十九年統監府ノ設置セララルヤ舊韓國政府ハ其ノ指導ニ依リ法制ノ整理ニ著手シ當時不動産權ニ關スル證明ノ方法ヲ缺キ僅ニ文記ト稱スル私文書ヲ以テ之カ證據ト爲シ權利ノ保障十分ナラス又土地家屋ヲ目的トスル擔保權ノ慣習アリシモ其ノ實行ノ手續確實ナラサリシヲ以テ特ニ不動産法調查會ヲ設ケ不動産權ニ關スル慣習ヲ調査シ之ヲ基礎トシテ土地家屋證明規則、土地家屋當執行情則及附屬法規ヲ制定セリ而シテ明治四十年民法、刑法、民刑事訴訟法及附屬法令等起案ノ目的ヲ以テ法典調查局ヲ設ケ先ツ刑法及民刑事訴訟法ノ起案、茲民法起案ノ材料タル慣習ノ調査ニ著手シ同年中民事訴訟法案ヲ脱稿シ一應ノ審査ヲ了リシモ再議ノ必要アリシカ爲定案ト爲スニ至ラス刑法大全

ニ修正ヲ加ヘ又舊來ノ法制及當時ノ慣習ヲ斟酌シ利息規例及民籍法ヲ制定シタリ而シテ慣習ノ調査ハ明治四十三年末ヲ以テ一應調査ヲ終リ民法ノ起案ニ著手スル豫定ナリシモ併合ノ爲之ヲ中止セリ

併合後ニ至リテハ從來ノ制度慣習ヲ調査スル必要一層緊切ナルモノアリ一面行政上各般ノ施設ニ資料ヲ供シ又司法上裁判ノ準則トナルヘキ慣習ヲ示スト同時ニ他ノ一面ニ於テハ朝鮮人ノ爲ニ制定スヘキ法制ノ基礎ヲ確立スル目的ヲ以テ一切ノ制度舊慣ヲ調査スルコトトシ朝鮮全土ニ亘リ各地ノ慣習ヲ調査シ又典籍ヲ涉獵シテ制度竝慣習ノ淵源ヲ究メ既ニ其ノ事業ノ大半ヲ了セリ而シテ明治四十五年民事令・刑事令・不動產登記令・不動產證明令等ノ制定アリ民事令ニ於テハ大體民法・商法及民事訴訟法ヲ適用シ能力親族相續等ニ關シテハ從來ノ慣習ヲ認メタリ能力ニ付テハ内地法ニ依ラシムルコト敢テ妨ナシト雖親族及相續ニ付テハ内地ト異レル慣習アルカ故ニ直ニ内地法ヲ適用スルコトヲ得サル事情アリ又強ヒテ内地法ヲ適用スルノ必要ナキヲ以テ將來親族相續ニ付テハ朝鮮在來ノ風俗習慣ヲ參酌シテ實情ニ適切ナル特別ノ法制ヲ設ケムトス



舊韓國政府カ奎章閣及江榮奉化平昌茂朱ノ各史庫ニ藏セシ李朝歷代ノ記錄竝一切ノ圖書ハ併合ノ結果之ヲ總督府ニ引繼キシカ明治四十四年中茂朱史庫ニ屬セシ圖書ヲ李王職ニ移シ爾餘ノ圖書ニ付大正二年六月迄ニ大體ノ調査ヲ遂ケタルヲ以テ同年七月新ニ整理方針ヲ定メ之ヲ朝鮮圖書及支那圖書ニ區分シ各別ニ番號ヲ附シテ書架ニ排列シ且特別取扱ヲ要スル圖書ハ之ヲ別所ニ收メ圖書臺帳部門別目錄等ヲ作成シ「カード」ヲ用井テ出納ニ便スルコトトシ既ニ朝鮮圖書大半ノ整理ヲ了レリ而シテ此ノ整理ハ大正四年末迄ニ略終了ノ見込ナルモ現在ノ書庫ハ元宗親府タリシ舊來ノ建物ニシテ到底書庫トシテ使用スルニ適セサルヲ以テ整理終了ノ時迄ニ書庫ヲ新築シテ之ヲ收藏シ引續キ圖書閱覽室及事務室ヲ新築シテ圖書館ト爲シ之ヲ一般ノ閱覽ニ供セムトス而シテ此ノ圖書館ニ於テハ朝鮮圖書ヲ完備シ以テ其ノ特色ヲ示ス必要アルヲ以テ本府所藏以外ノ朝鮮圖書ヲモ總テ之ヲ蒐集補充スル計畫ヲ立テ大正二年一月以來之ニ著手シ本府ニ於テ直接蒐集ヲ爲ス外各道ニ移牒シテ之カ蒐集ニ力メ現在圖書總數一萬九千四百九十七部十五萬二千一百五十九冊アリ

圖書ノ整理ト同時ニ舊韓國政府ヨリ引繼キタル冊板約一萬枚ハ既ニ之カ整理ヲ遂ケ各地ニ散在セル冊板ハ順次調査ヲ遂ケ必要アルモノハ本府ニ取寄セ否サルモノハ之ヲ地方廳ニ保管セシムル方針ニテ目下調査中ニ係レリ此ノ外韓國政府ヨリ引繼キタル活字六十餘萬アリ大正二年中之カ調査ヲ遂ケ其ノ種類ヲ區別シ在來ノ方式ニ依リ其ノ整理ヲ遂ケタリ

又朝鮮圖書ハ書目ニ依リ直ニ其ノ内容ヲ知ルコト難キヲ以テ之カ閱覽ニ便セムトシ明治四十四年中解題ノ作成ニ著手シ大正四年其ノ稿ヲ脱シ印刷ニ付セリ

史籍ノ散逸セル朝鮮ニ於テハ金石其ノ他ノ遺物ヲ以テ最貴重ナル考古ノ資料トセサルヘカラス而シテ此ノ種ノ資料ハ各地到ル處ニ殘存シ殊ニ國寶トシテ保存スヘキモノ亦尠カラス今ニ於テ之カ蒐集ヲ爲シ及保存ノ方法ヲ講スルニ非サレハ遂ニ湮滅シテ其ノ所在ヲ失ハムトス仍テ大正二年一月以來之カ調査蒐集ニ著手シ既ニ金石文拓本一千有餘點ヲ蒐集シ自下之カ整理中ナリ而シテ今後蒐集スヘキモノ尙尠カラサルヲ以テ其ノ完結ヲ待チ朝鮮金石總覽ヲ編纂シ拓本ハ參考品トシテ陳列シ又金石其ノ他ノ遺物ニシテ保存

ハ取寄ノ必要アルモノニ對シテハ各適當ナル處置ヲ取ラムトス  
朝鮮ニハ未タ固有ノ辭典ナク朝鮮ノ事物ヲ研究スル上ニ於テ不便尠カラス  
仍テ明治四十四年朝鮮語辭典ノ編纂ニ著手シ今ヤ其ノ業央ヲ過キ今後二年  
ヲ以テ之ヲ完成セムトス語數約十二萬朝鮮諺文ノ順序ニ依リテ排列シ漢字  
アル語辭ハ頭字ニ依リテ一所ニ集合シ諺文五十音漢字劃三樣ノ索引ヲ附シ  
又品詞專門語等ヲ示シ邦文ヲ以テ其ノ意義ヲ説明セリ而シテ專門語ニ付テ  
ハ特ニ學識アル者ヲ委員ト爲シ之ヲ審査セシメタリ

大正四年九月二十七日印刷  
大正四年十月一日發行

朝鮮總督府

京城府旭町二丁目十番地

印刷所 京城印刷所

